



* 0023131000 *

0023131-000

569-121

国際経済画報

大阪朝日新聞経済部・編

朝日新聞社

第1輯

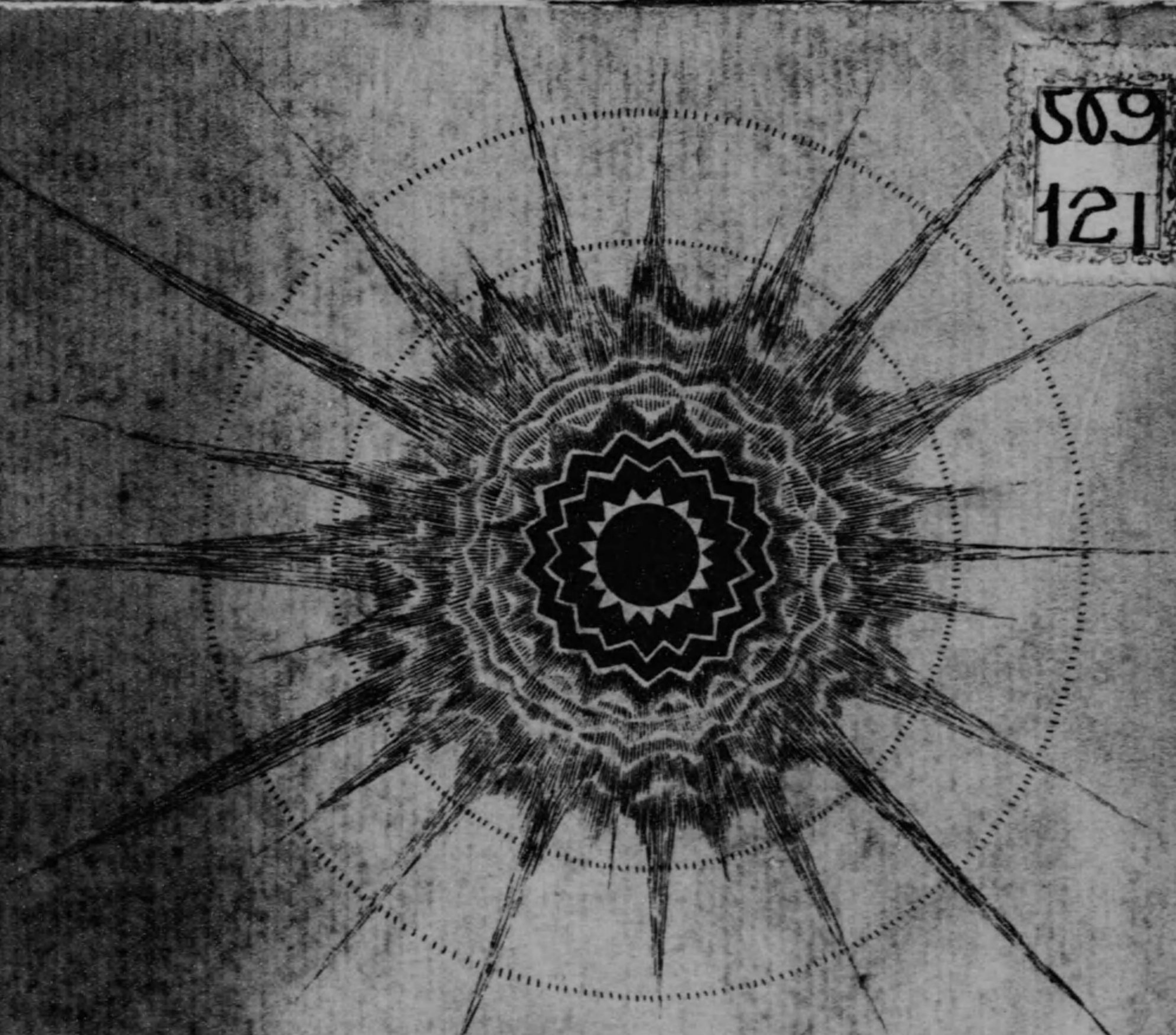
昭和3

ADD

569
121

編部済経聞新日朝阪大

509
121



國際經濟函報

餘志

編部濟經聞新日朝阪大



報 畫 濟 經 際 國



編部濟經聞新日朝阪大

序

運輸、通信を含む所製交通機關の飛躍的進歩は、吾等の経済活動の範圍を著しく擴大して、現代経済生活に「國際化」の特徴を烙印した。従来主として國內的、地方的に局限されてゐた我々經濟市場は、今や全世界を單位とする「國際市場」へと展開しつゝある。吾々の着る木綿の値段が米國や印度の棉花の作柄に關係をもつのは餘りにも明白である。瓜哇の豐凶は恐らく吾々の台所における砂糖の値段を上下させるであらう。資本の國際的移動はいはすもがな。凡そ如何なる國民、如何なる政府も、今日ではその好むと好まざるとに拘らず、「國際經濟」の影響から自由であり得ない。隨つて吾々個人の經濟活動も、またこの國際經濟の理解を出發點としなければならぬ時勢になつて來た。

吾々が昨年會以來、所謂「國際經濟」に關與しつゝある各國の主要な機關、人物、物産等の写真を集集し、一々説明を添えてこれを大阪朝日新聞紙上に連載し來つたのも、この經濟事情の劇變時代に當つて、我國民一般の興味をこの新趨勢の理解に向はしめんことを企圖したからに外ならぬ。今その既掲載分約二百葉の記事を増補し、數字的記録を出來得る限り新たにし、これに若干の新材料を加へて、こゝに本書第一輯を刊行するに際し、再び吾等の企圖を繰返しつゝ、この書を吾等と關心を同する人々に捧げたいと思ふ。

説明記事中の時日に關しては、なるべく具體的な年月を擧げたが、用語上「今日」「最近」等とある場合は、昭和二年（一九二八年）六七月を現在として考へて置き度い。なほ写真集集についで各種の便宜を與へられた同に對して感謝の意を表します。

昭和二年九月朔日

大阪朝日新聞經濟部同人誌


國際經濟叢報目次

一	國際經濟會議	2
二	英國銀行	4
三	佛蘭西銀行	6
四	獨乙帝國銀行	8
五	見えざる鐵壁	10
六	ロンドン證券取引所	12
七	ドイツエ・バンク	14
八	セルフリッチ百貨店	16
九	ベルリン取引所	18
一〇	ベルシアの油田	20
一一	パリ證券取引所	22
一二	ダラス棉花取引所	24
一三	マンチエスター運河	26
一四	巴里の百貨店	28
一五	滿洲大豆	30
一六	印度の日本紡績工場	32
一七	飛行機ミ木工	34
一八	ウエルトハイム百貨店	36
一九	シアズ・ローバック	38
二〇	フロリダの燐礦	40
二一	ロンドン造幣局	42
二二	英國炭坑夫聯合本部	44
二三	蘭領ボルネオのBPM	46
二四	ランカシアの織布業	48

二五	スイスのアルミ工場	50
二六	ロース化学工業	52
二七	ウイルソン・ダム	54
二八	フランスの財政	55
二九	電力時代	58
三〇	ル・クレデイ・リヨネ	60
三一	紐育株式取引所	62
三二	モルガン商會	64
三三	パリ商業會議所	66
三四	紐育の貯蓄銀行	68
三五	燐寸ミスエーデン	70
三六	ユー・エス・スチール	72
三七	ロンドンの鹽賣所	74
三八	日本を養ふ街	76
三九	通用せぬ國庫券	78
四〇	ゴムの需給	80
四一	ポールチック取引所	82
四二	クーン・ローブ商會	84
四三	ハノイの見本市	86
四四	映壽王國の宮殿	88
四五	ロシア電気共和國	90
四六	日綿ミ東アフリカ	92
四七	ベル・システム	94
四八	キューバミ砂糖	96
四九	ウルウオース均一店	98
五〇	來朝したラモント氏	100

五一	ウデホルム會社	102
五二	ノルウエーの漁業	104
五三	大西洋四日航路	106
五四	加奈陀の穀物倉庫	108
五五	ハバナの海墻工事	110
五六	フォード自動車	112
五七	アレクサンドリア棉花取引所	114
五八	シカゴの屠場	116
五九	シンガー・ミシン	118
六〇	アラスカの金山	120
六一	ブラーグの見本市	122
六二	漢洲聯邦銀行	124
六三	イーストマン・コダック	126
六四	カナダ・サン生命	128
六五	日支經濟斷交の產物	130
六六	ユ社の三頭政治	132
六七	インド帝國銀行	134
六八	ナイヤガラ發電所	136
六九	資本主義ホテル	138
七〇	ワナメーカー百貨店	140
七一	漢洲ミ羊毛	142
七二	スエズ運河	144
七三	イル・ド・フランス	146
七四	ナシヨナル・シチー銀行	148
七五	智利ミ硝石	150
七六	ブラナー・モンド會社	152

七七	ソヴィエツト農村	154
七八	ゼネラル・モーターズ	156
七九	金福鐵路公司	158
八〇	ボズナニの歳の市	160
八一	サザムプトンの埠頭	162
八二	合衆國分析局	164
八三	ダーバン・エピソード	166
八四	コントアル・デスコント銀行	168
八五	マガチ曹達湖	170
八六	獨逸の窒素工業	172
八七	シカゴの勸工場	174
八八	ドレスデン銀行	176
八九	山東苦力の滿洲移住	178
九〇	借金で港の裝飾	180
九一	カーブ・マーケット	182
九二	ダリ・バンク	184
九三	漢陽製鐵廠	186
九四	北洋材の積取り	188
九五	アイルランド銀行	190
九六	フィリップピンの米田	192
九七	ドンバス鐵區	194
九八	紐育棉花取引所	196
九九	スコットランド銀行	198
一〇〇	ゴスバンク	200
一〇一	蘭貢の日綿精米所	202
一〇二	ロイド組合	204



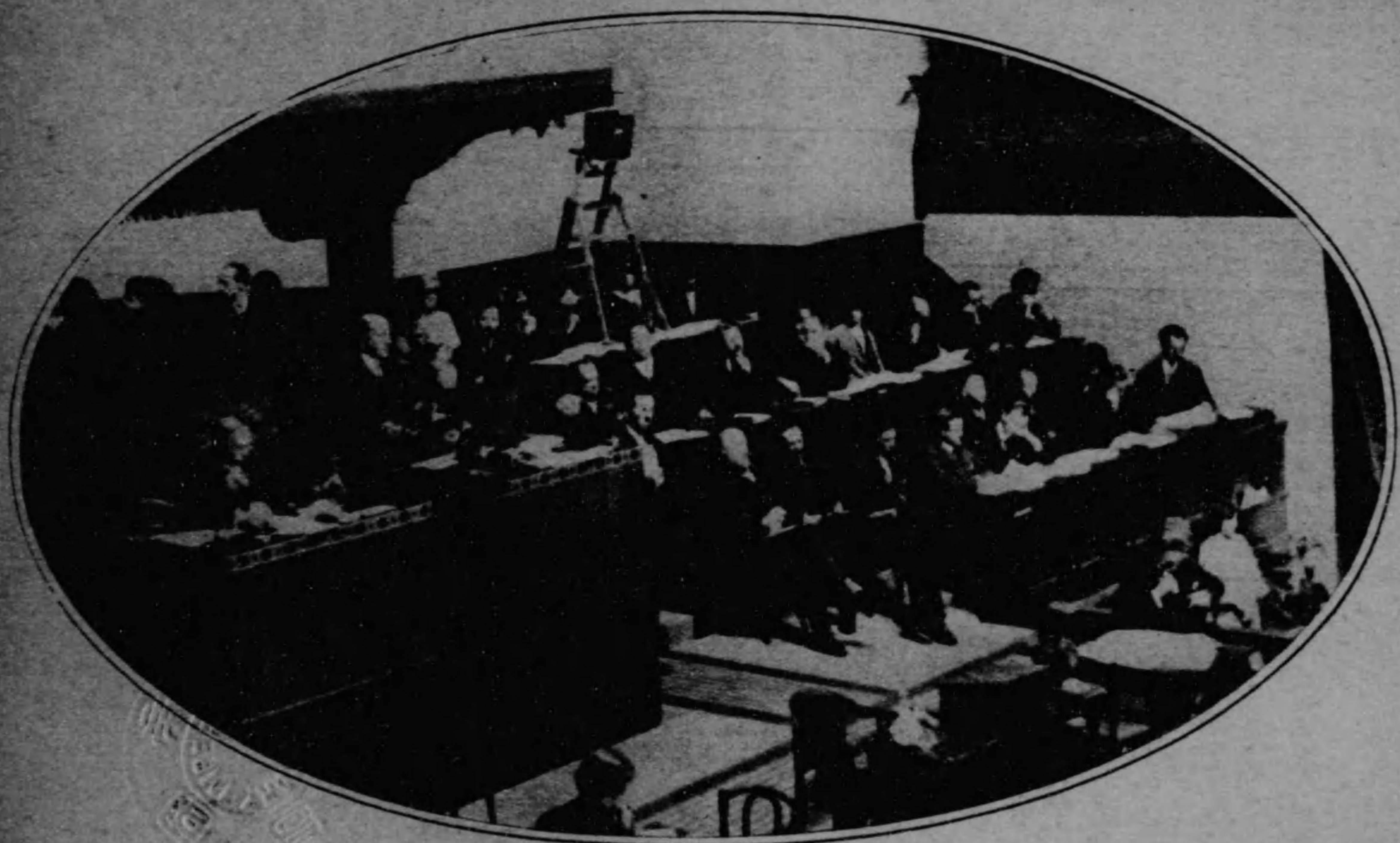
 報 書 濟 經 際 國

一一三	伯林の電車……………	246
一一三	米材ミその輸出……………	244
一一一	カニ工船……………	242
一一〇	ヴォルガ河……………	240
一一九	ニューヨークの長者街……………	238
一一八	英國の五大銀行(三)……………	236
一一七	英國の五大銀行(二)……………	234
一一六	英國の五大銀行(一)……………	232
一一五	水都ハンブルグ……………	230
一一四	漢口の泰安紡績……………	228
一一三	アルゼンチン国立銀行……………	226
一一二	首のすげ替え……………	224
一一一	紐育聯邦準備銀行……………	222
一一〇	ザンジバルの丁子……………	220
一〇九	鐵礦の露天掘り……………	218
一〇八	物價編定委員會……………	216
一〇七	馬來の錫……………	214
一〇六	ゼネラル・エレクトロリック……………	212
一〇五	南阿スタンダード銀行……………	210
一〇四	人絹興隆時代……………	208
一〇三	香港上海銀行……………	206

—(目次終)—

(1) 國際經濟會議

- ◇ 國際聯盟によつて招集された國際經濟會議は、一九二七年五月四日から二十三日まで、晩春の光まほゆきジュネーヴ湖畔に開かれた。加盟非加盟五十國から派遣されてこの會議に列席した各國代表は一九四名、隨行の専門家を加ふれば實に二五〇名の多數に上る。
- ◇ この會議の目的は當時「經濟上の軍縮會議」なる語をもつてあらはされた如く經濟關係の調和なる諒解を通じて國際平和を確保し、通商上の障害を撤廢して相互依存の本義を徹底せしむるにあつた。
- ◇ 開會後最初の四日間は極く一般的な報告討論に費され、それが終ると、會議を商工農の三委員會に分割し、各所屬の問題が、自由かつ詳細に討論された。これら委員會の経過や、そこで論議され最後に總會で承認された決議結論に關しては國際聯盟から詳しい報告書が出てゐるが、こゝには各委員會の議題となつた標榜事項の二三を挙げることを以て満足しやう。
- ◇ コリン氏(和蘭)を委員長とする商業委員會は更にこれを三部に分ち、第一部會は通商の自由、第二部會は關稅及び通商條約、第三部會では國內における商業及び航海の關稅保護の方法に關して研究し、工業委員會はホダック氏(チッコスロヴァキア)委員長となつて、工業の現狀その他一般問題、工業の合理化、工業協定、即ち國際トラストの問題、特許權等の順序で議を繰り論を進めた。更に工業委員會ではフランゲツシュ氏(ユーゴスラビヤ)を委員長とし、商業委員會同様第一を一般問題、第二農業組合、第三農業信用と三部會に分つて、それ／＼最善の結論を見出さうと勉めた。
- ◇ これら各委員會の議題として選ばれた問題は、流行に何れも國內經濟、國際經濟を通じて刻下の重大懸案であり、また委員會が決定したこれに對する諸方策もその實現性を疑はれる限り、大體當を得てゐるやうだ。一般經濟問題に關する始めての國際會議が、とにかくこれだけの獲りをつけ得たことは成功といはねばなるまい。
- ◇ 思ふに「世界經濟時代」はまだ黎明期にある。今後この種の會議は尙しば／＼催されるであらうが、何を重ぬる毎にその意義を増大し、やがて「經濟的人類救濟」の大理想への、信憑すべきマイル・ストーン(里程碑)たらんことを期待する。
- ◇ 寫眞は國際經濟會議開會の瞬間、中央起立せるは開會を宣しつゝある議長チユニス氏(白耳義)



(2) 英 蘭 銀 行

- ◇ 世界金融市場の大本山、英蘭銀行の姿をお目につけよう。「シチー」(商業區域)の中心スレッドニードル街、四英町といふ廣大な面積の上にドッシリと据ゑられた大きな建ち、古びた建築も二百餘年の歴史を包んで輝かせる光に輝くといふ。
- ◇ 現在の建物は一七八八年の竣工で、外観には趣がなく、すべての室は内庭から採光するといふ一種風変わりな建て方、日本銀行の建物もこの英蘭銀行に倣したものだ。しかしこの歴史的建築物も最近手狭を感じたのか目下改築中で、その工事はなほ八年間を要する見込だといふ。だが虎の子よりも傳統を大事がる英蘭民の氣分を傷けぬため、銀行當局は出来る限り原型の保存に勉めてゐるさうだ。
- ◇ 物事の安全さを日本では泰山の安きにたとへるが、英國では「英蘭銀行のごとく安全」といふ語を使ふ。それでも歐洲大戦勃發の報傳はるや、流石地着な大英國民も大いに慌はて、英蘭銀行券をば一刻も早く金貨に換へてしまはうと、これらの取付者が安全そのものだといはれた銀行の外廓に驚駭長蛇の列をつくつたといふから面白い。
- ◇ その當時英國政府はこの國際金融の中心市場に世界各地から集り來つた手形の決済不能に陥つたのを救済するために、英蘭銀行をして引受銀行に代つて割引させ、その代り英蘭銀行が蒙る損失は政府で補償してやるといふことになり、その結果英蘭銀行が割引した手形金額は一億二千萬ポンド(約十二億圓)に達したが戰後四年間にしてこれ等の手形の大部分は決済され、支拂不能となつたのは僅かに五百萬ポンド(約五千萬圓)に過ぎなかつた。
- ◇ 日本の英蘭銀行は、金融恐慌後の一ヶ年、五月八日(昭和三年)の期限までに貸付けた特別融通額が八億七千餘萬圓で、その回収が十年がかり、しかもその内五億圓は損失補償で取立無用、始めから口へで進上のつもりだから豪勢なものだたと平生からあまり重くもない財布の底をかすられる國民こそ好い面の皮。
- ◇ 因に英蘭銀行現在の資本金は一千四百五十五萬三千磅、一九二八年五月二日現在同行証券部における兌換券發行高一億七千九百萬磅、これに對する正當保有高は一億五千九百萬磅である。
- ◇ 寫眞はイングランド銀行と現總裁モンタギュー・ノルマン氏



(3) フランス銀行

◇ フランスの中央銀行バンク・ド・フランスは一八〇〇年に設立された。昔もナポレオン・ボナパルトがエジプト遠征から歸つて最高執政官の地位をかち得た翌年である。この新しい統治者は當時頗々として起つた經濟恐慌の原因が「割引制度の不完全に」ありと見、「政府の從屬物に非ざる」中央銀行の必要を認めて、これを國家の監督の下に私立會社とすることを主張したといはれてゐるが、當時の恐慌は主として打續く内亂外征の結果であり、中央銀行の設立は何よりもまづ國家の財政的緊乏の救ひの神であつたはずである。たゞ併しその眞意は如何にもあれフランス銀行の生誕が、ナポレオンの力に負ふところ大なりしは事實であらう。

◇ 一八五七年には九千二百五十萬フランの資本金を倍加して一億八千二百五十萬フランとした。この資本金額は現在まで据置かれてゐるが、一九二八年五月末現在における同行の紙幣流通高は五百九十一億九千四百萬フラン、正貨準備は金で(在外とも)四十一億四千萬フラン、銀で三億四千萬フラン、政府貸上金二百七十億フランである。

◇ フランス銀行の紙幣發行法は、我國のやうな州發行法でなく、最高額限額のみを定めたいはゞ自由發行法である。併し久しい間フランス銀行はその兌換準備の充實、正貨保有の高率を以て知られ歐洲の金庫と稱せられたものだ。恨むべし。乾坤一擲、國運を賭してこの四年の大戦に、フランス財界の基礎は根本的に崩れ、外には借金の上、内には物價の暴上り、その間を連絡する爲替相場は底知れぬ大暴落、戦ひに勝つてホツと一息吐く間もなく、今度は此のころどこかの國で唱えられる河童の屁の様な世迷ひ言でない正真正銘の「經濟困難」に直面して、國家的破産の憂の深かりし時、金融統制の重任を負ふフランス銀行の苦衷のほどが思ひやられる。

◇ 善哉々々、一世の賢相ボアンカレ、三色旗の誇は彼によつて取戻される、一九二八年六月二十四日、金の解禁と共に爲替も一億百二十四・二一フランと安定した。フランス銀行がその昔日の地位を回復するのも遠い將來ではあるまい。

◇ 眞實はフランス銀行。



(4) 獨逸帝國銀行

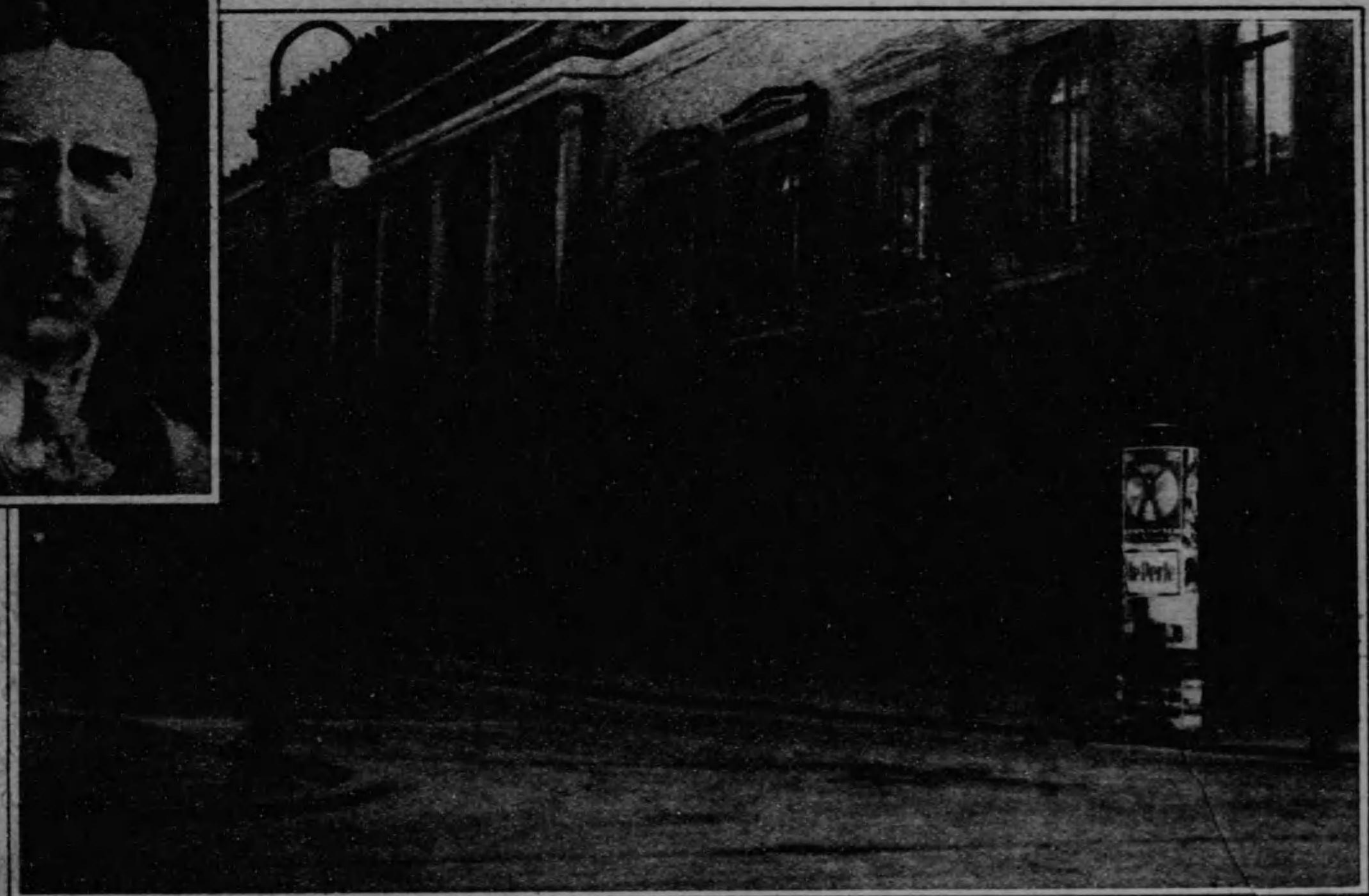
◇—ベルリンの金融中心エトガー街の一角に、ドツシリと構えてゐるドイツの中央銀行ライヒスバンク、ドイツ帝國統一後の貨幣改革、金本位採用の必要から、一八七五年、當時のプロシア銀行を引直したのがこのライヒスバンクである。

◇—大戦前のお話は暫くおく。戦中における軍國財政のやりくりもさることながら、戦後の賠償金問題のもつれから、佛軍のルール占領、特に一九三三年一月、巴黎會議(賠償金支拂に關する英、佛、白、伊四國間の會議)の不調を境として、馬克相場は約激落しの怪落、その年の十月ころには英鎊一ポンドにつき四十二兆五千億馬克、すなはち四二五の下に〇を十一もくつゝけた未曾有の相場を現出した。こんな数は地上で用ふるものでなく、すでに天文学などで用ふる數概念に到達したのである。そこで政府は窮餘の策としてレンテンバンクなる銀行を新設し、新にレンテ・馬克紙幣を發行して過渡的の施設を講ずる一方、例のドーズ案による八億金貨馬克の外債を基礎にしてライヒスバンクは改造され、こゝに新發券銀行として更生したのである。

◇—かくてライヒスバンクの發行する新馬克紙幣はライヒスマークと呼ばれこれは十分な正貨準備の下に發行されるいはゆる金馬克紙幣であるから、その相場ももちろんパー近くを保合つてゐる。そして舊馬克紙幣は新紙幣一馬克につき一兆馬克の割合で換算し整理された。かうして現在ではドイツの貨幣制度は全く確立し、國內産業、對外貿易も復興し、經濟界もスツカリ立直つて、通貨はダブ付き、金利は低下、通貨も縮少してインフレーション時代のことはまるで一朝の夢と化してしまつた。

◇—今年(一九二八年)五月末現在では、ライヒスバンクの保有金貨(在外及外國貨幣を除く)二十億四千萬馬克、爲替手形及び小切手二十億三千五百萬馬克、預金六億七千五百萬馬克、兌換券流通高二十八億二千萬馬克、資本金は三億馬克、内拂込済一億二千二百七十八萬八千百兩である。

◇—寫眞はライヒスバンク(獨逸帝國銀行)と總裁シャハト氏



(5) 見えざる鐵壁

◇——國內産業育生のために國民生活の不利不便を賭けて、貿易保護の政策をこるのが賢明か、世界經濟の大義に則り通商自由の襟度を見せるが果して無暴か、今俄かに斷じ難いが、「一日緩急」の嚇し文句で、軍國經濟本位の政策を立てるにすれば、理が非に勝つも時世時節で、何れもはや是非がない。

◇——かくて大戰以來歐洲の天地は表面如何にも平和のやうに見えるが、各國の經濟戰は以前にもまして激烈となり、その國境には關稅の鐵壁蜿蜒ミして盡くるところなく、いはゆる「經濟帝國主義」の脅威は、各國の爲政者を保護へ、保護へミ追ひつめてゆく。英誌エコノミスト主筆レイトン氏の計算によればこの世界の關稅障壁線は現在一萬一千キロメートルに亘るさうだ。

◇——寫眞はサー・クライブ・モリソン・ベルの考案になる歐洲關稅障壁の模型。



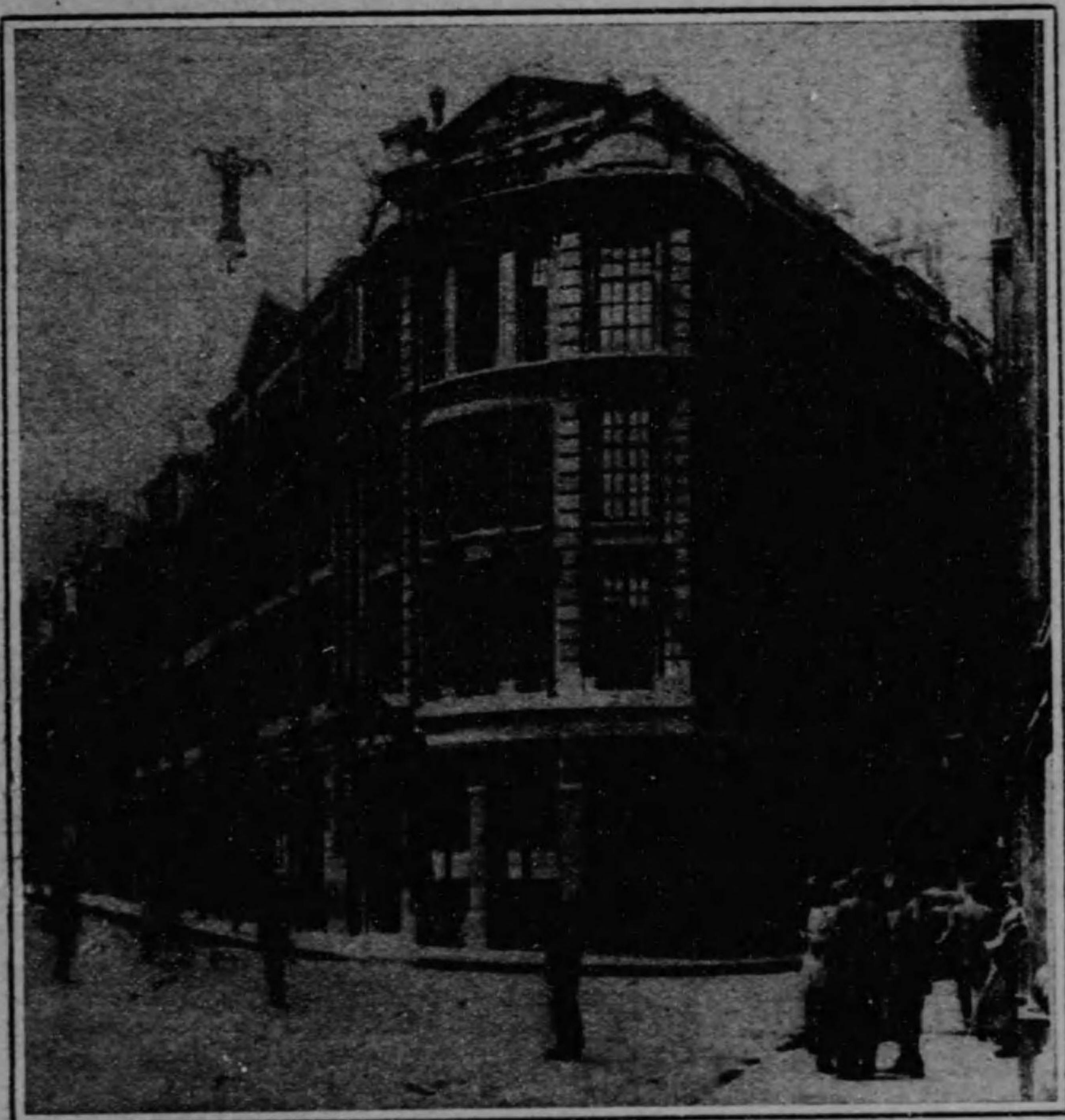
6) ロンドン証券取引所

◇—ロンドンの証券取引所は「シチー」(商業區域)では單に「ハリス」といふ名で通つてゐる。設立は一七七三年、現在は九百名の會員組織。その會員は「ジョッパ」(取引員)と呼ばれて、同士を相手として取引するだけ。その下にブローカーがゐて、これがジョッパと一般のお客さんとの仲働きをやる。米國の株式取引は翌日取引を原則とするのに、ロンドンでは二週間の延取引が原則で、整理公債だけは一ヶ月取引を許されてゐる。

◇—取引物件中の主なるものは國債社債、なかんづく諸外國の公債が中心となつてゐる。もちろん株券も盛んに取引されてゐるがむしろ第二で、これはロンドンが世界金融の中心地として立ち、世界各國がこゝで借金し、外債を発行する反映に外ならない。

◇—ロンドンとは限らぬが、一體歐米では金融界の國際的聯絡がよくとれてゐて、各都市間相互に密接な關係をもつてゐる。だから歐米を股にかけての取引、掛繋ぎ買賣が盛んに行はれてゐる。海底電信を通じて、ロンドンの取引所とニューヨークの取引所とは、少しく法條を吹けば、東株と大株との關係ぐらゐのもので、こん後無線電信電話が發達するに伴れ、所謂「資本に國境なし」の原則がますます實現することだらう。ロンドン取引所で變つてゐるのは、會員は絶対に廣告をしてはいけないといふ規則のあること、買方がブル(牡牛)、賣方はベア(熊)と呼ばれること、も一つ小僧サンまでが昔風のシルクハットをかぶつて威張つてゐることだ。

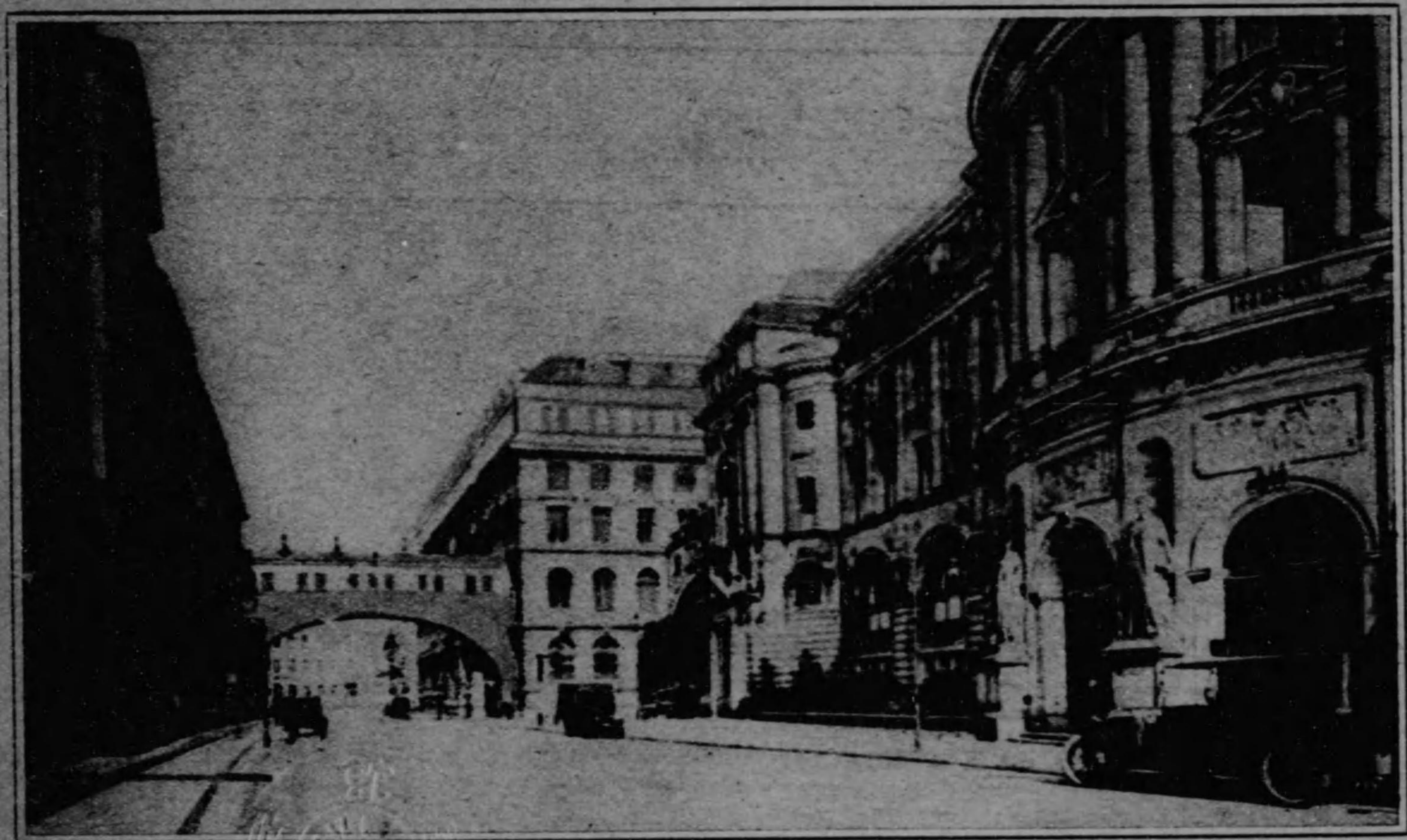
◇—寫眞はロンドンの証券取引所



(7) ドイツチエ・バンク

◇——ベルリンの金融街としてエーガー・ストラーセの名は内外にかくれなきところ、マウエル・ストラーセにたゞよう黄金の香の、なほエーガー・ストラーセに劣らざる事實に至つては知る人ぞ知る。エーガー・ストラーセを西して、このマウエル・ストラーセに歩み入る人々はその町角に宏壯なドイツチエ・バンクの建物を見出して足を止めるだらう。ドイツチエ・バンクはドイツ四大銀行(ドイツチエ・バンク、ドレスドナー・バンク、ハ八回参照—ダルムステッター・ウント・ナチヨナル・バンク、デイスコント・ゲゼルシャフト)の一、一八七〇年の創立にかゝり、ドイツが國際資本戦に乗り出すためにつくられた海外投資銀行たるところにその特色がある。現在資本金は一億五千萬ライヒスマーク、積立金七千萬、預金約三億五千各ライヒスマークである。

◇——宮眞はエーガー街ミマウエル街の交叉點から望んだドイツチエ・バンク、向つて右の前景が銀行の本部、同じく右の背景即ち陸橋のある建物が本銀行の眼目たるユーバーゼー・アツプタイルング(海外部)、向つて左の建物は同法律部、庶務部等



(8) セルフリツチ百貨店

◇ 萬能の大資本經營もこゝばかりはその機能を疑はれた小賣市場にも大資本の勢力は漸次浸潤して、都府人はネクタイ一本も三越へ、襪一帖も白木屋へと、時代がたてたモニュメントの二階から三階へ、七階から八階へと、吸込まれ押し上げられて行く。

◇ 働んだロンドンの町にもアメリカ式のデパートメント・ストアやチエイン・ストアが次第に人々の目を心を捕える様になつた。ウエスト・エンドのオックスフォード街の如きは、ショッパビング・クォーター(買物町)の中心でセルフリツチ、ピーター・ロビンソン、リバーテイ、ジェイ等この種のストアが立並んで、アメリカ風の雄大なウインドー・ショーを競つてゐるが、中でもセルフリツチは名實共に英國一の大白貨店。

◇ シカゴのマーシャル・フィールド百貨店に勤めてゐたゴールドン・セルフリツチといふ人が、一九一〇年頃ロンドンに移つて、そこで純アメリカ風の百貨店を始めた、そして成功した。一體百貨業の秘訣は資本の大ききさでもなく販賣組織の如何でもない。商品の雑多性や價格の高下などすら第二次的な問題で、全く主として販賣員の素質、殊にその客扱ひの巧拙如何によることを、これ等百貨店の經營者達はよく知つてゐるのであるが、セルフリツチは特にこれを理解してゐた。

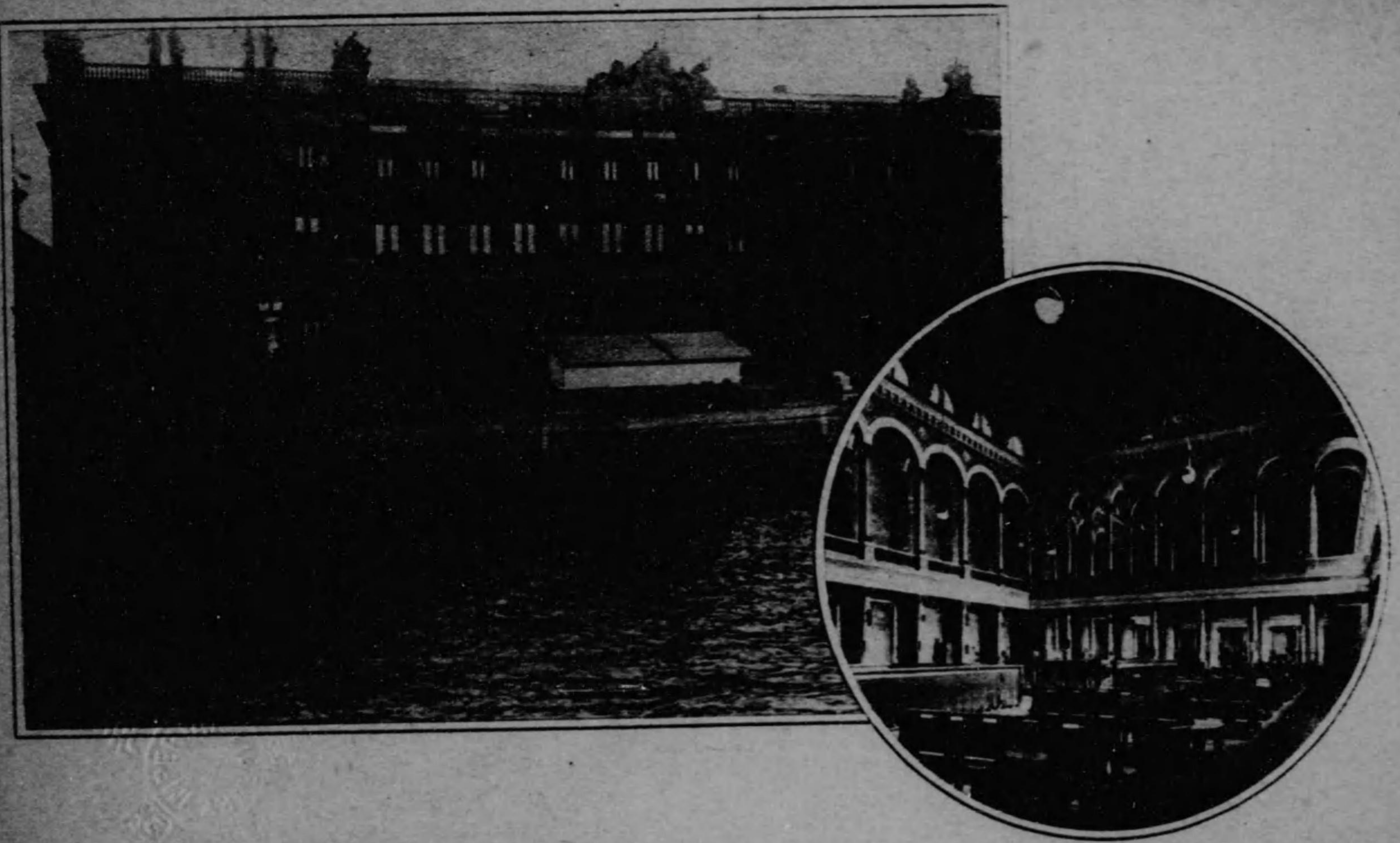
◇ そこには特別に教育部の設けがあつて、常に二百人餘の員習員が、こゝで充分に店の精神を吹き込まれ、さほりのよい立派な販賣員に仕上げられる。英國百貨店事業におけるセルフリツチの今日の地位は、主としてこの特別仕込みの販賣員の力によつて築き上げられたものであるとは一般に信ぜられるところである。併しその徹底したアメリカ式のためであらうロンドンにはあまりセルフリツチを好くはいはない。而もそれでゐて、不知不識のうちに行届いたサーヴィスに引きつけられ、日々セルフリツチに吸ひ込まれる顧客の數七萬を下らぬといふから面白い。

◇ 眞實はオックスフォード街の買物町、左の旗のあるのがセルフリツチ百貨店



(9) ベルリン取引所

- ◇ ウンテルデンリンデン街の裏手、スベリー河を隔て、ベルリン城内のドームと相對する古ぼけた建物がある、これが一六八五年大選舉侯フレデリキ・ウィルヘルムがたてたベルリン・ベツクホイザーの後身、現在のベルリン取引所、今の建物は一八六三年の建築にかゝる。
- ◇ 獨逸における取引所の形態は所によつて一律でない、取引所法の一般規定はあるが、組織上の細かい點になると取引所ごとにそれ／＼異つてゐる、が何れにせよ我國のやうに株式組織の取引所は勿論ない、さうかといつて英國などのやうな、いはゆる會員組織とも少し違ふ、ドイツでは取引所法に規定された一定の資格者を除く外、取引所理事會の許可を得れば、原則として一般商工業者は取引所に出入して賣買を行ふことが出来る。
- ◇ ベルリン取引所の直接監督權がベルリン商業會議所に屬してゐること、商業會議所といへばどこかの國のやうに年中懸にもつかぬ決議陳情に日を送るものとのみ考へてゐるそこらの方々には耳寄りであらう。ベルリン商業會議所はこの監督權によつて取引所理事の四分の一をその議員中から選任する。
- ◇ ベルリン取引所の立會は株式取引所部と普通取引所部（主として農産物）の二部に分れてゐる、いはゞ北濱と京島とを兼ねてゐるわけで、取引方法は現金取引と定期取引の二種、定期取引といつても最も普通なのはその月の末日を期日とする短期取引で、當中先の三限もなく、株式組織でないおかげで當所株を上げ下げして株價のつり上げに關係になるやうなものもない。
- ◇ 寫眞はベルリン取引所とその立會場



(10) ペルシアの油田

◇—西部ペルシアには、千百年の昔から、岩間をしみ出て沼の水面に漂ふ石油が土人の燃料となり、その産物はチグリス、ユーフラット河に浮ぶ小舟の目盛りに用ひられたものだといふ。しかしそれはそれだけの話し。率先この産物の開発に手をつけて今日ペルシア油田の名あらしめたものは、英人ウィリアム・ノックス・ダークリーの識見と努力であつた。

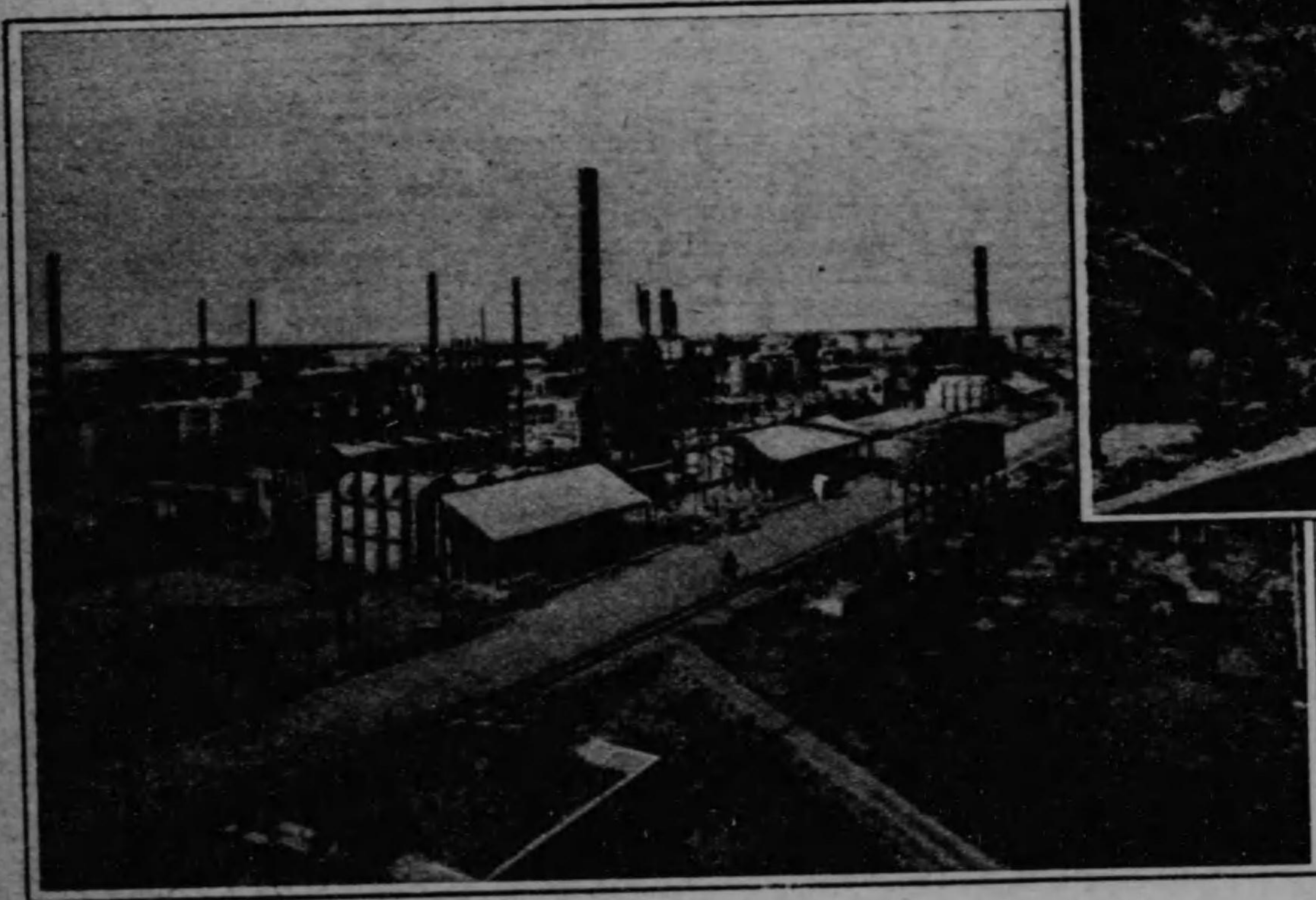
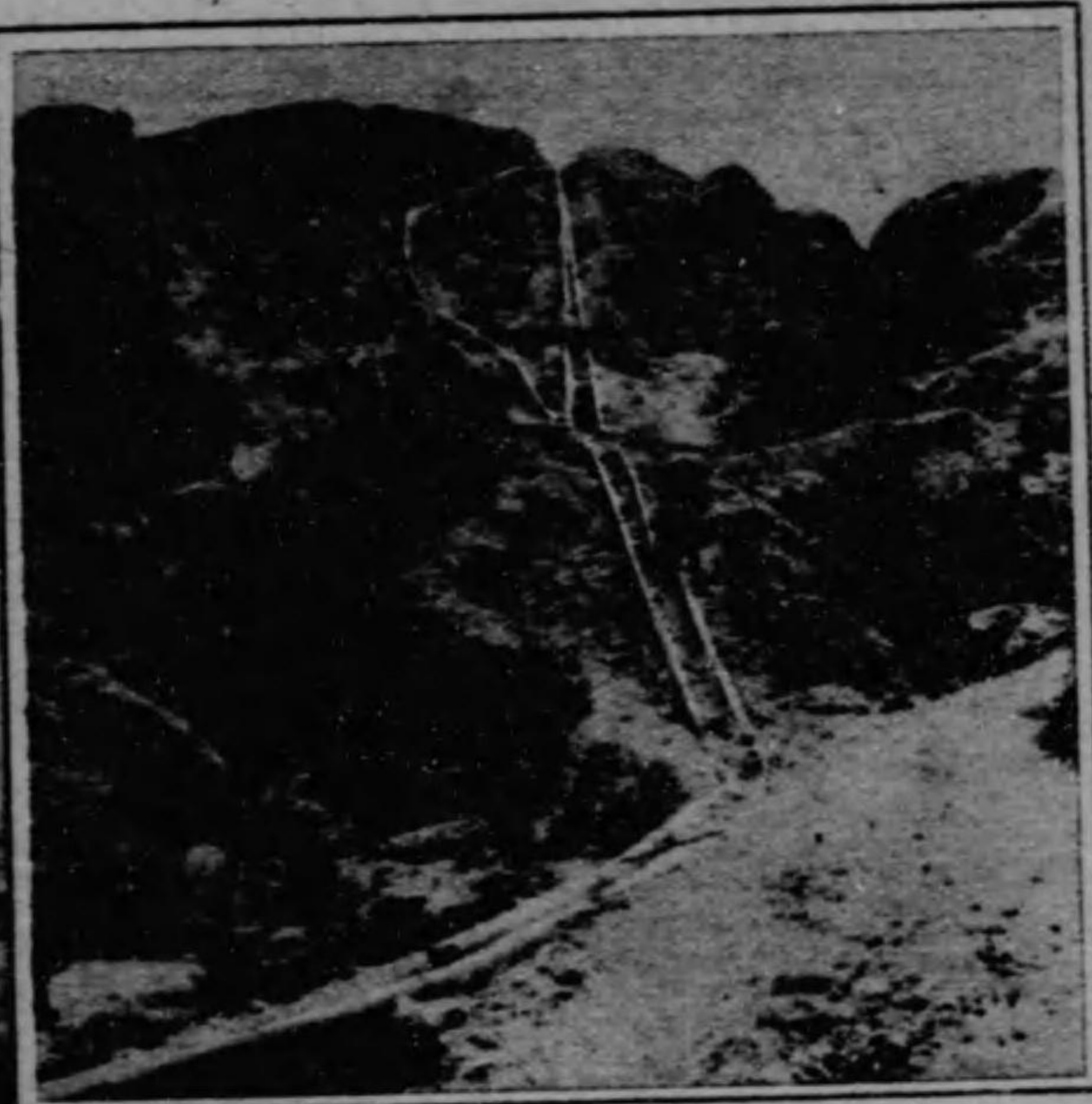
◇—一九〇一年彼ダークリーが始めてペルシアの石油事業に脚を突込んでから、一九〇三年までの三年間に上げた金は約三十萬ポンド、しかもその結果得たのは小さな油田が二つあり、第一、邊鄙な所で、有望だとは思つても試掘機械の運搬さへ思ふ様にゆかぬ。一九〇八年の春には遂にロンドンでも匙を投げて、作業中止の命令を殺するに至つた、が恰度その時だ、油井の一つからガスを交へた黒色の油流が、人々の歡聲を高く鳴き上げたのは。

◇—その翌年アングロ・ペルシアン・オイル・カンパニー(英波石油會社)が二百萬鎊の資本金を以て設立された(現在の資本金二千四百萬鎊)そして採掘事業と新油井の掘鑿に専心したが、これ等油井の多くは波斯灣から四百五十哩の内地にある關係上、その産物の輸送はいやでも鐵管送油によらねばならぬ、併し山越え谷越ゆる數百哩、遙々海岸まで鐵管を引くことは容易ならぬ事業であつて、殊にその資金の點においてこの計畫は行詰つてしまつた。

◇—そこで會社幹部は、この資金難解決の道として、海軍省の口説きにかゝつた、そして成功した。何しろ相手は石油の統制が如何に海軍の將來を左右するかを百も承知の英國海軍省だ、一九一四年八月十日、即ち歐州大戰勃發後六日にして、英國政府はアングロ・ペルシアン・オイル會社株の一部買収を決定してゐる。

◇—かくて資金難を解決して後の會社事業の發展はいふまでもあるまい。送油設備(鐵管總延長八百哩)も完成すれば、タンカー(送油船)も出来る、千五百の貯油タンクと五萬人の使用人、一九二七年度の産油量は四百八十萬噸であつたが、お望みならば年産八百萬噸にしてお目にかけると素晴らしい見込みである。

◇—寫眞は山を越ゆる送油管とアバデーの精油場(アングロ・ペルシアン・オイル會社)

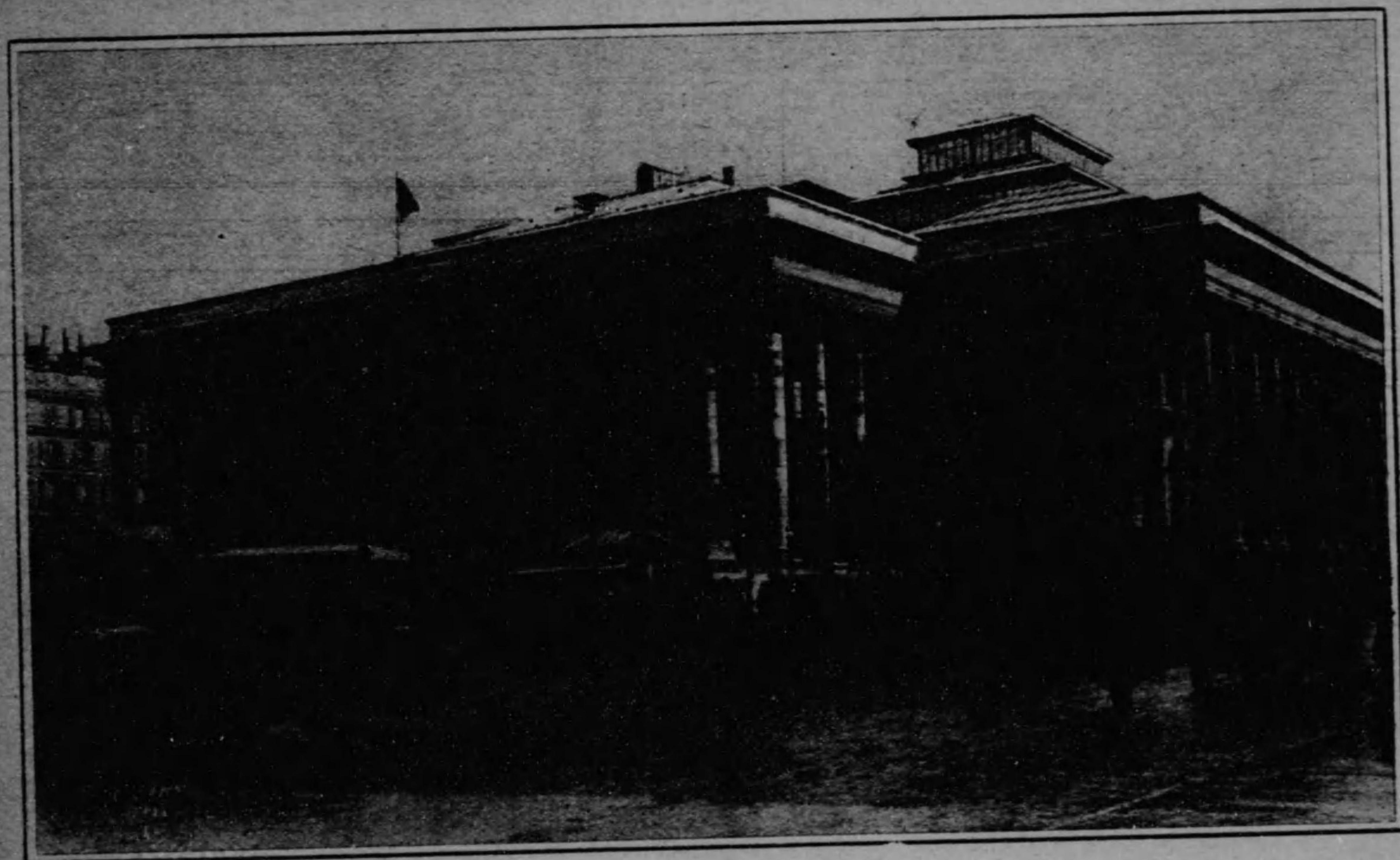


(11) パリ証券取引所

◇—寫眞はパリのブルス（取引所）である。なんぞ立派な取引所ではないか。ナポレオン一世の設立にかゝり建築美術からいつても有名なもの。商賣をしながら藝術を考へるフランス人の奥ゆかしさが現はれる。こんな所で半狂亂の手振りやチト似つかはしくあるまいこのぞいで見れば、取引員達がいさも静かに、小さい紙片へ目指す銘柄や相場を書きつけて交換してゐる。やつぱりお上品だ。それもそのはず、この取引員は大蔵大臣の推薦にもよづき、大統領の任命する堂々たる官吏なのだから。尤も官吏といつても、三等郵便局長、執達吏、公證人等と同類で月給はまらない。悪いことをすれば免官にもなる。

◇—取引所はこれらお役人たる取引員の會員組織で、現物取引も先物取引のあるところもかはらぬ。取引證券中には株式も相當にあり、殊に一流株になるに随分活潑な取引が行はれるが、何といつてもまだ公債の方が多く、その中心は佛國政府三分利附永遠公債である。以上の取引の外、では場外取引も許されてゐる、即ち紐育のカーブ・マーケット（九一回参照）に當るものであるが、規模は小さい廊下取引で、この方の取引員はお役人ではない、正式市場で取扱はない證券を取引するのが原則となつてゐる。こゝもカーブ・マーケットと同様であるが、佛國政府公債の定期取引だけは許してある。

◇—寫眞はパリ証券取引所

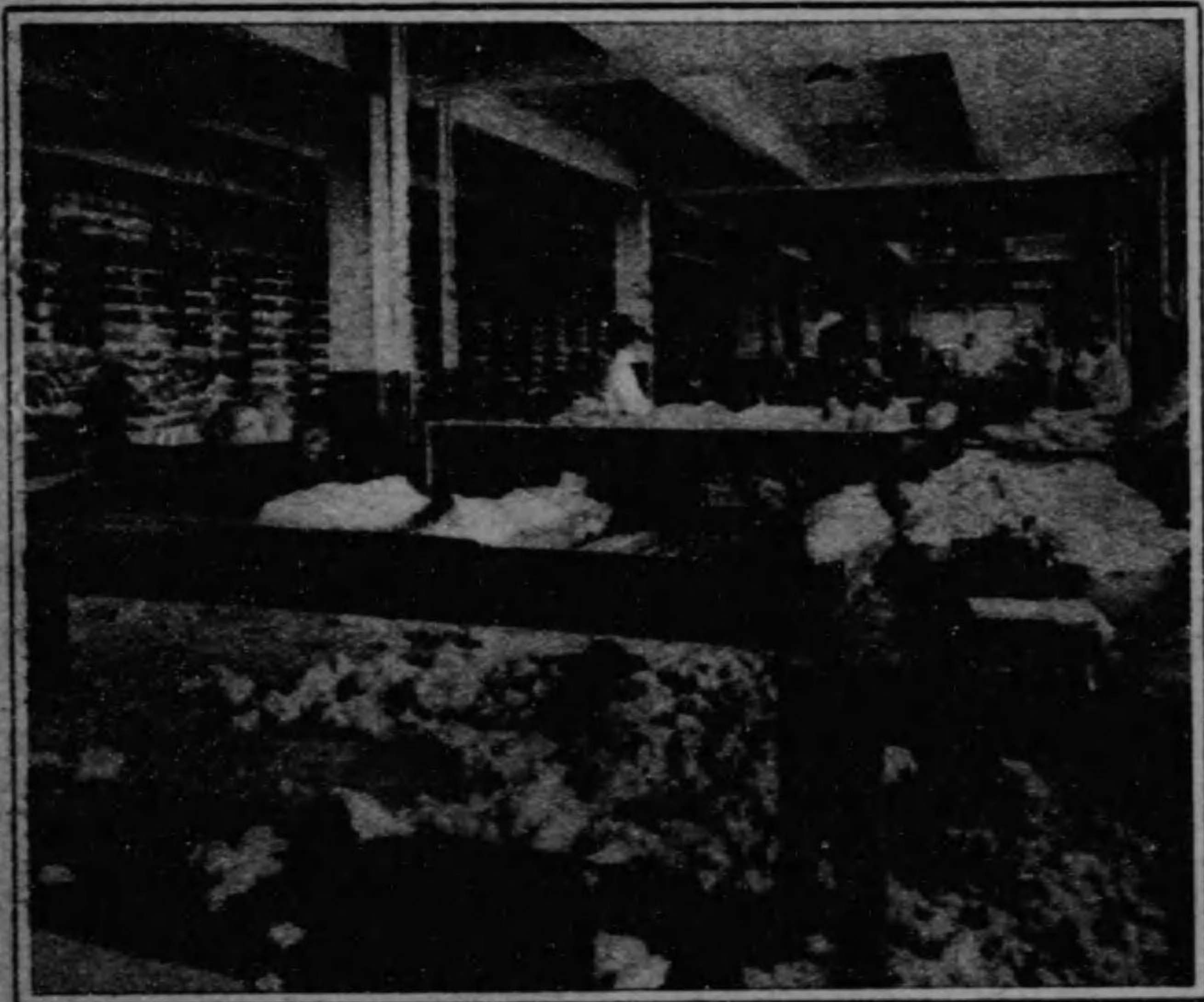
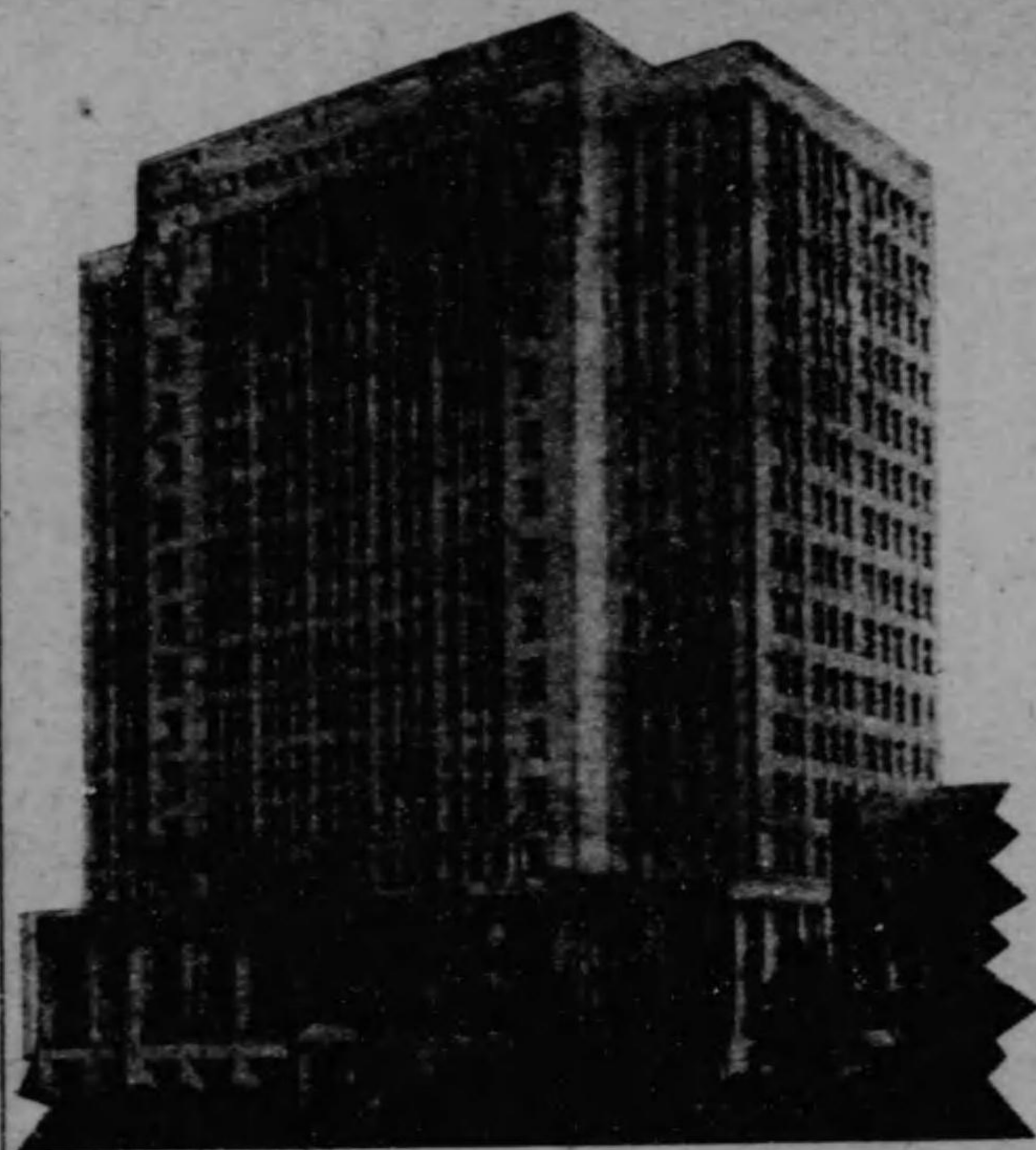


(12) ダラス棉花取引所

◇—ダラスは米國第一の棉花集散地である。同地のコットン・エクスチェンチ(棉花取引所)は一九二六年、十七階建の新築をして面目を一新した。一月に起工して同八月、僅か八ヶ月で竣工したところも全く米國式である。建物を半分に仕切つて裏半分は壁なしの總ガラスといふ珍らしいもので、これに面した部分はその十二分な採光を利用して検査室等に充てられ、建物の表半分は事務室で、そこへ我國の大手筋として日組と東福の兩雄が陣取つてゐる。少し離れたフォートウォオイスには江商の店もある。米國一の棉花商アンダーソンの事務所は、ダラスから南へ一百五十哩のヒューストンにあり、そこには又日組が一九二〇年に建設した大倉庫と荷造場とがあつて澤山のアメリカ人を使つて活躍してゐる。そしてその買付けた棉は日本のほか歐洲各國、支那、印度及アメリカ國內の紡績へさへも盛んに賣込んでゐる。日本の一流棉花會社が直ちに世界一流棉花商として認められてゐるのは痛快であり、またそれだけ日本の綿業が大きいといふことになる。

◇—棉花はなんといつても我國輸入品の大宗で、アメリカ棉だけでも一ヶ年の輸入高百五十萬俵以上、金額は相場によつて變るが昭和二年度は三億四千萬圓に上つてゐる。一時世界に覇を奪へた英國の綿業は頼に衰頽の兆あるに反し、わが綿業が益々發展して行くのは喜ばしい次第で、ダラスの棉花取引所などは何といつても米棉取引の中心、わが富業者の活躍に不足のない檯舞台である。

◇—寫眞はダラスの取引所とその選査場



13) マンチエスター運河

◇—陸運の輸送力が水運のそれに比して如何に貧弱であるかは、實際それがあがるまでの程度にまでは一般に了解されてゐないやうだ。地球の表面が陸地を以て覆はるゝことなく、陸と陸、島と島とが水を以て隔てられてゐることは單に交通移轉の自由のみからいつても得難き人類生活上の幸福である。

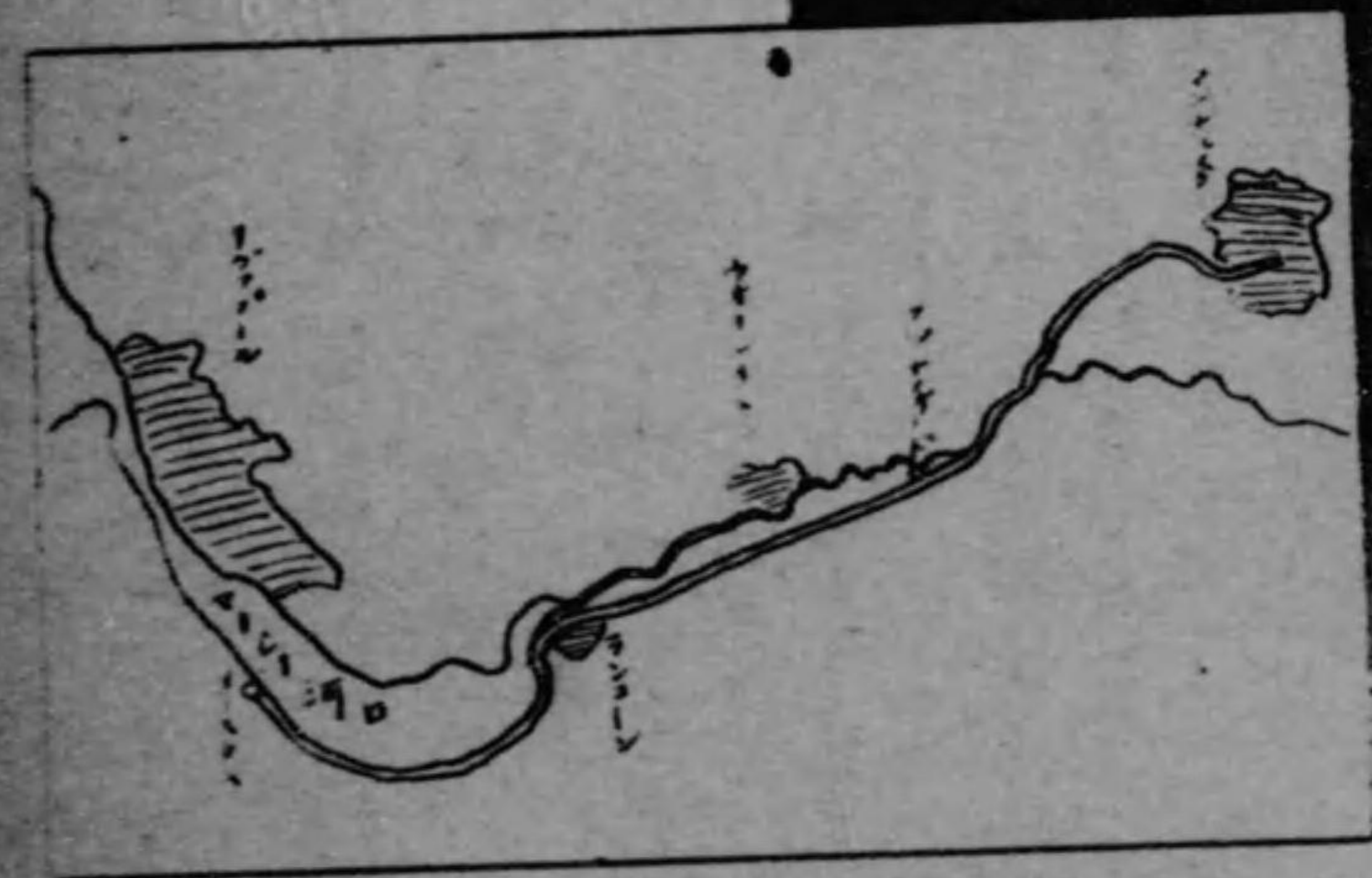
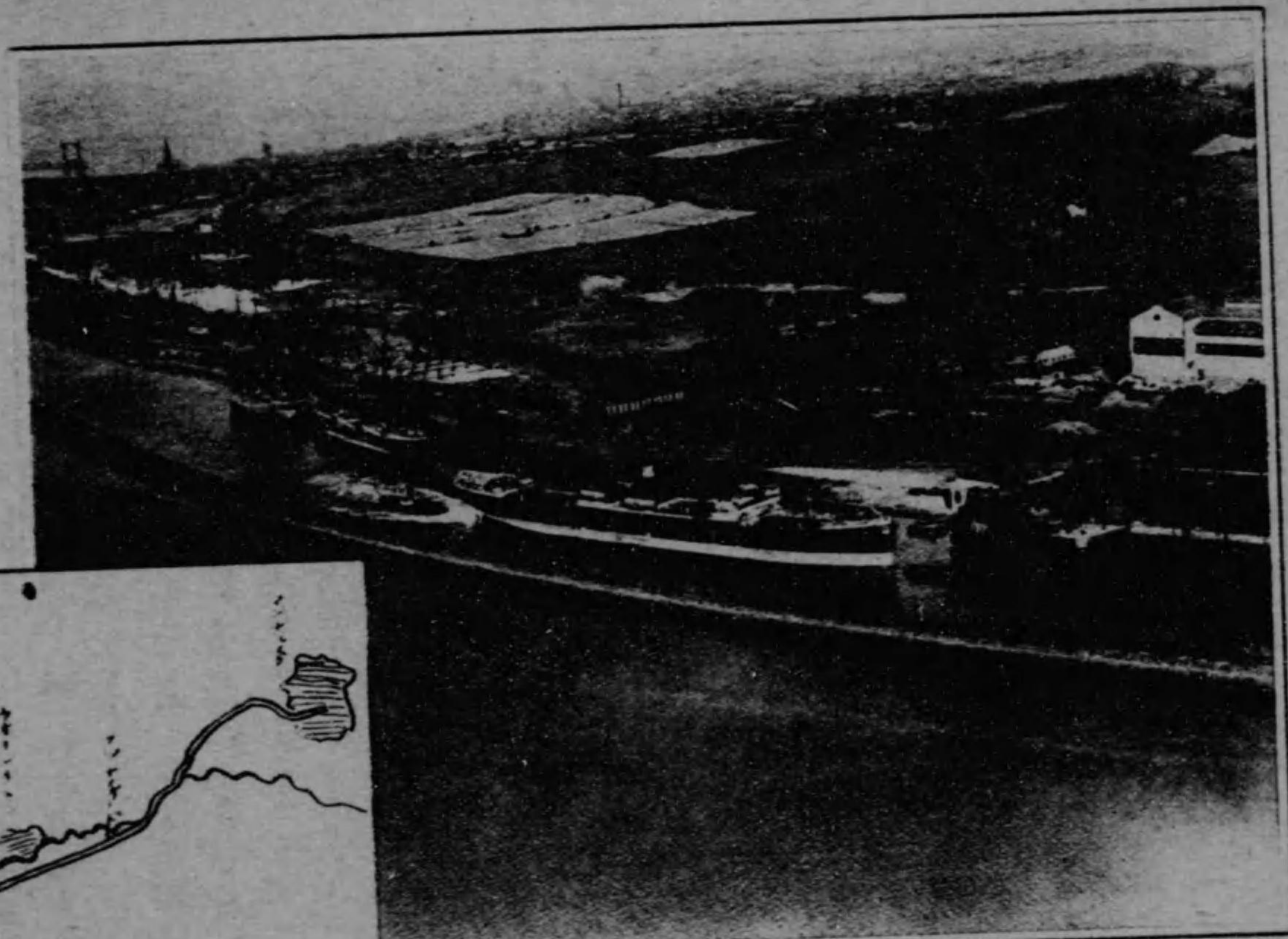
◇—それにも拘らず慾の上にも慾の皮のつゝばつた人間共が、かの森正無窮の遠大洋、千里沃野を瀕し百里巨船を容るゝていの大河川に満足せず、更に地を穿ち水を連ねてこれを運河といふ。

◇—「大阪は東洋のマンチエスターである」とは、使ひ古した骨董的啓蒙用語の一つである。たゞ大阪は、ちよつとの風にも波立ち騒いで義理にも良港とは申し兼ねるながら、とに角港と稱すべきものを持つてゐるが、マンチエスターの方は海を去る二十餘哩、北インダランド西工業の中心都市としてマシシ河の傳馬船くらひぢや時があかぬ、海水に接せぬ不利不便に堪えかねたこの「英國の大阪」が、いはゆる「マンチエスター運河」の開鑿にとりかゝつたのは一八八七年であつた。

◇—この運河は普通リヴァプールからマンチエスターまでと稱してゐるがその起點は正體にはマシシ河口の南岸イースタムで、河に接した運河の入口には三個の閘門を設け、漲潮になつて河口と運河の水面が等しくなると、これを開いて船を通ずる。イースタムからランコーンまでの十五哩は、運河は防壁を隔て、マシシ河口の岸に附ふ。ランコーンで河と別れてアウエル溪谷を上ること八哩、ラフチフォードに第二の閘門があり、マンチエスターに至る間に更に三組の閘門がある。

◇—運河の幅員は水面において一七二呎、底で一〇〇呎、深さ二八呎、延長三十五哩半の終點に並んだ大小十個のマンチエスター埠頭まで、七八千噸級の汽船なら平氣で通れる。一千五百萬磅の「車」も何のその、一八九四年の開通以來今日まで三十年間に、たゞにマンチエスターといはず全英國の工業の受けた利益は蓋し莫大なるものであらう。

◇—寫眞はマンチエスター運河



(14) 巴里の百貨店

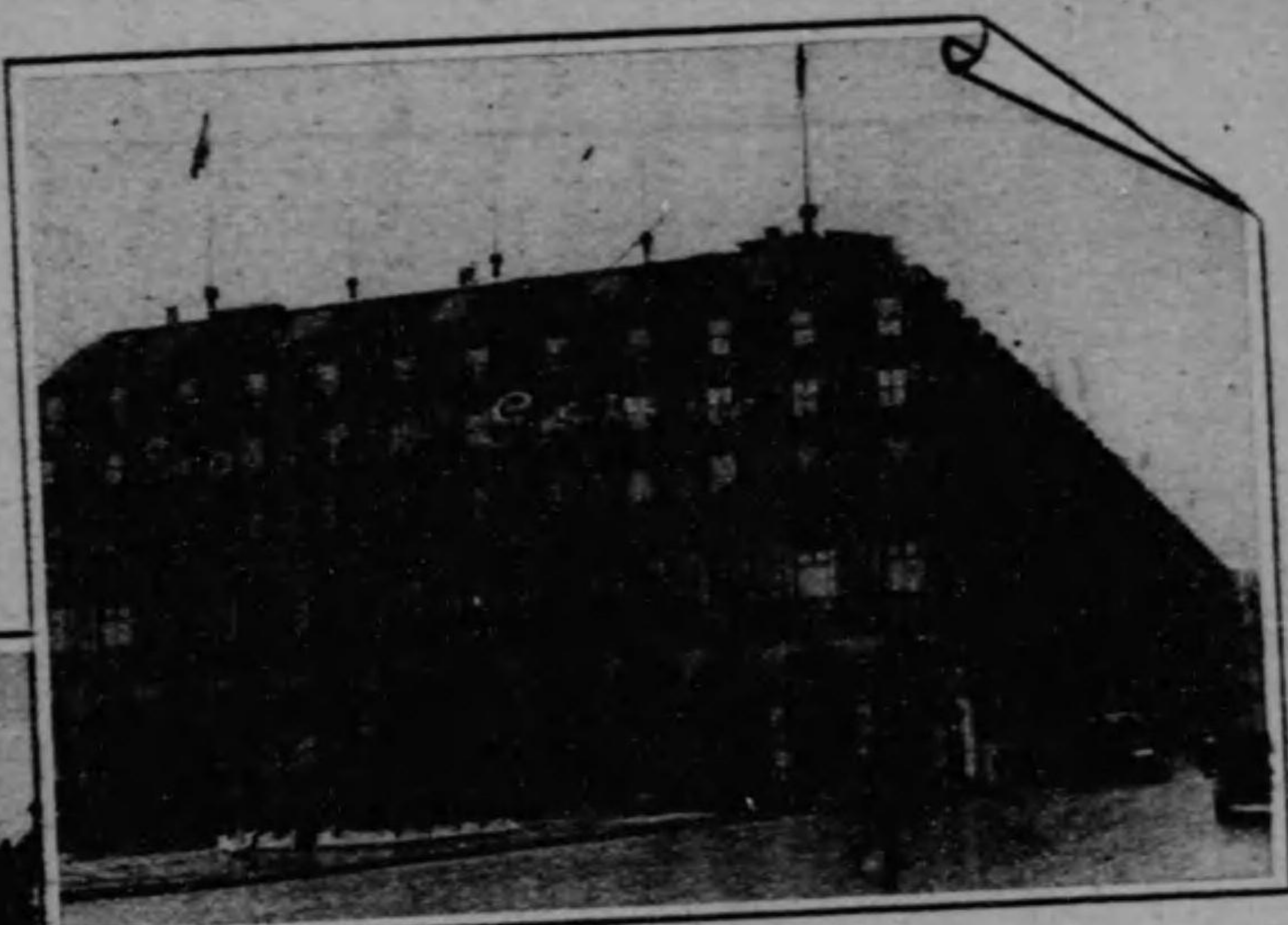
◇「巴里の百貨店の特徴とする所は寛容と非組織の二つである」とは、獨乙人の巴里百貨店観であるが、吾々日本人にとつても、これはル・ルーヴルの店頭に一歩をふみ入れて直ちに受ける印象であると、或る百貨店研究者はいふ。

◇「事實、ル・ルーヴルのみならず、ガレリエ・ラファイエット、ル・ブランタンその他の一流百貨店でも、無数の商品は秩序もなく系統もなく唯雑然と堆積され、組織的な陳列法に心を勞した跡方も見えない、そしてそれは建築や室内自身の壯麗さと著しい對照をなしてゐるのであるが、この雑然さのおかげで、客の方でも商品を見るのに一々販賣員を煩はす必要もなく、堆高く積まれた靴下、シャツの山から好きな品を勝手に掘出して、氣まゝに目品することが出来る。そこらの窓際に品物を引放して、そのまま立去つても文句をいふ者もなく、高引當習者のよりもつと薄氣味の悪いもつと下劣な監視人の眼にも出會はさない。

◇「一般にパリの百貨店は婦人用品、殊に流行品が主で、その他の商品は全くの附屬物と考へてゐるらしい。すべての百貨店が店前の道路で、格安品の露天賣りをやる。この流行品第一主義が恐らくはフランス式百貨店の「非組織」の原因に違ひない。

◇「とにかく、これらパリ百貨店の特徴に對する長短の解釋は、見る人の心々にまかせるとしても、それがパリ人の氣質や趣味を裏切つてゐないことは確かだ。だから將來、もしもパリ人の生き方が變るとしたら、百貨店もまたそれにつれて自ら變つてゆかう。尤もそれまでに、百貨店の經營者達が米國式のいはゆる「能率的」な經營法に誘惑され終るかも知れないけれども……。

◇「寫眞はパリの百貨店ル・ルーヴル(上)とガレリエ・ラファイエツト(下)



(15) 滿洲大豆

◆「渡れば廣漠」と歌はる、南北滿洲の平原を播して生ひ實る大豆の畝は、數字的にこれを算定するに由ないが、「特産物」と銘打つて年々大連、油鹽、營口、安東縣の四港から積出される滿洲大豆は、その額凡そ三四百萬屯（一九二六年度一九二六年十月より二七年九月まで）は四百三十萬屯、その仕向地は歐洲へ百六萬屯、残りの大部分は日本向けだが豆としては四十四萬屯ぐらひ、あとは豆粕としてはいつて來る。

◆滿洲にはメて四百ばかりの油房がある、歐洲大戦當時大豆油の高値につられて發生したものであるが、この頃では意欲先の歐洲でも大豆油が工業用から食用に昇格し、油を輸入するより一層大豆を輸入してこちらで製油しやうといふことになつて、大豆の歐洲輸出は急激に増加し、一九二六年度は前述の如く百六萬屯、二七年度は更に百五十萬屯に達しやうといふ。

◆それだけでなく、滿洲四百油房の總搾油能力は千萬屯以上で、肝心の大豆の總産額の二三倍に當り、原料の奪ひ合ひに浮身をやつさねばならず、従つて大豆はますます高くなる、ところへ、その不足かちの原料をかう歐洲へ持ち出されては、滿洲の油房も結局立ぐされの悲境に陥るものと、富業者は大分やきもきしてゐるらしい。

◆が、滿洲大豆の將來にかゝつてゐるものは、たゞに油房の生死のみではない。我が國にしても豆粕供給の減少ぐらひはまだよいとして、年々増加する食用油の消費を大豆油の供給を外にして如何にして充すか。ウツカリしてゐる内に「油（揚）を爲にさらはれ」て、今に豆腐さへ安くは食えぬ様になる心配する向きもある。

◆寫眞は（上）油房の搾油機、手押螺旋式壓搾機、と下、出廻大豆の野積



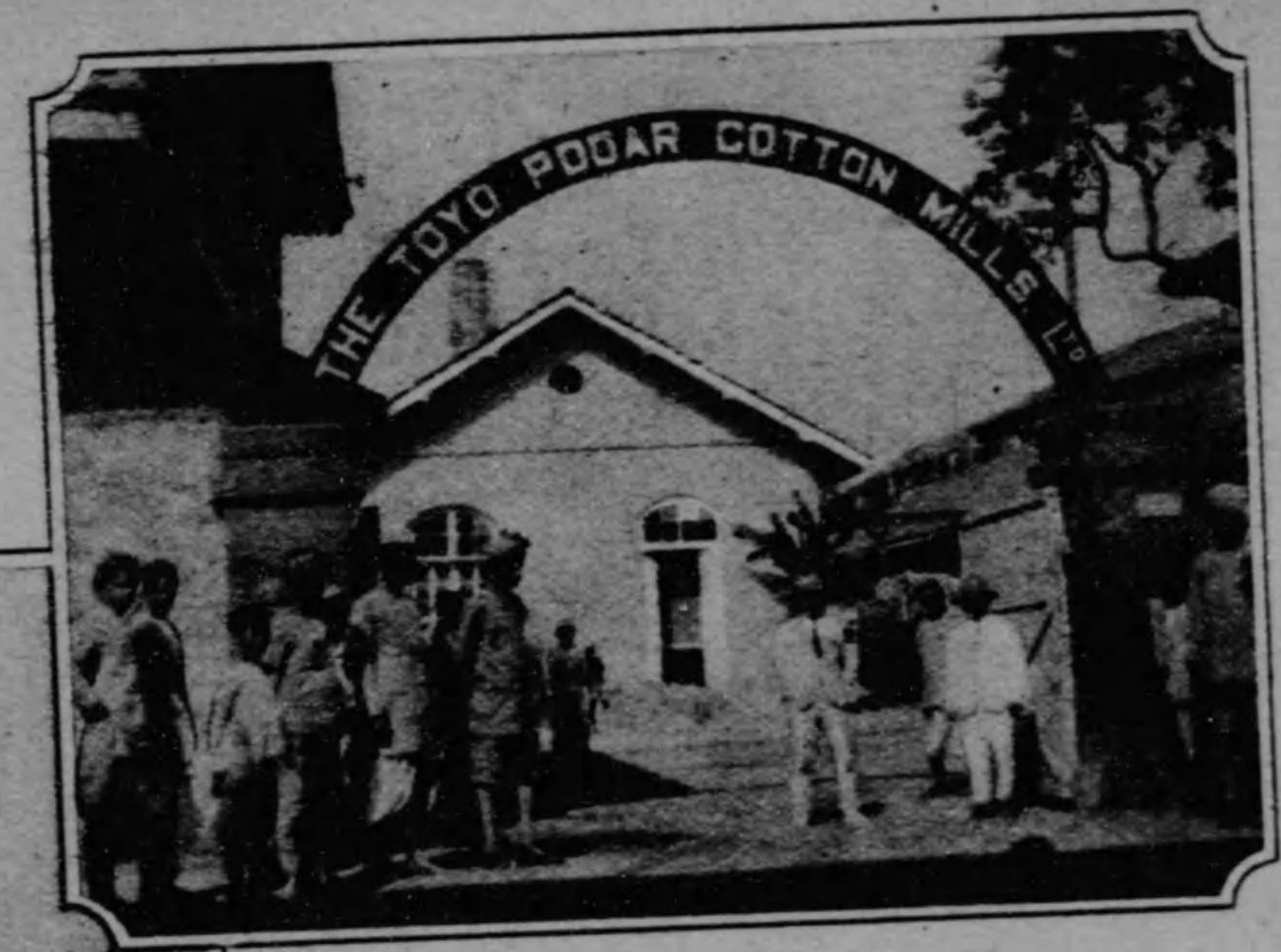
(16) 印度の日本紡績工場

◇ 印度政府が印度紡績保護のため日本製の綿糸布へ關稅の増徴を行ひはしまいかと（この内綿糸については昭和二年九月より實施）、日本の紡績屋サン達が躍起となつて反對運動の最中、大正十五年九月、率然と東洋棉花の印度紡績買収が傳へられた。我が紡績は支那には澤山の投資をしてゐるが、印度において日本人の手で紡績を経営したのはこれが最初である。

◇ ポンベイの近郊、チンチボトレイ停車場から僅々二分行程のところ、にダイヤモンド・ミルといふ印度人紡績工場があつた。東棉が買収してからは名も東洋ボツダー紡績と改め、機械や建物に修繕を加へ、資本金二百萬ルビの堂々たるものとなつた。敷地は七千三百七十九坪（内自由所有地二千三十三坪、永代借地五千三百四十六坪）で、昭和二年春、三分の一見當の運轉を開始したが、漸次設備も完成し同年六月以後は織機全部七百五十八台、紡機總錠數二萬四千五百餘錠の全運轉を見るに至つた、但し昭和三年四月上旬から職工のストライキに遭つて目下（二年六月）なほ休業を續けてゐる。

◇ 職工は印度人約九百名、事務員十八名で、製品は東棉支店で管理し、佐立技師が唯一の邦人として工務を見てゐる。これから印度でいかに紡績關稅や保護政策がやかましくなつたととしても、この工場だけは涼しい顔をしてやつて行けるわけである。

◇ 寫眞は東洋ボツダー・ミルの工場（下）と正門（上）。



(17) 飛行機と木工

◇ 飛行機製造における木工の地位は炭素鋼、アルミニウム、チニールミ
ン、その他各種合金鋼利用の研究進歩に伴つて、漸次その初期において有
せし重要性を失ひつゝあるかに見える、現に機體は勿論、平衡翼、昇降舵
方向舵等、いわゆる支翼と總稱せらるゝものは大部分金屬製となつた、プ
ロペラさへも金屬化の趨勢から免れさうにもなく、今や木製として殘され
たものは翼の骨組みと、時としてその被覆部分ぐらゐに過ぎない。

◇ ……さればといつて、將來木工が飛行機製造から全然排除されるものでな
く、強度に比して重量の少いことや、加工の自由さ、容易さなど金屬に對
する木材の有利な點も多々あるので、結局將來は重量を嫌ふ追撃機や小型
商用機等には、相變らず木材を使用する部分が多いであらうと、これが專
門家の意見たさうである。

◇ ……シアトルにボーイング・エアロプレーン・カンパニーといふのがあ
る、木工を特色とする飛行機製造會社で、大戦直後に生れたバシフィック・
エアロプレーン・プロダクツ・カンパニー(太平洋飛行機製作會社)とい
ふ小さな試験的工作場の後身だが、今では總建坪十五萬平方フィートに及
ぶ十二の工場に、五百人の男女工が、機重二三千磅の小型飛行機から十二
三トンの大型機まで各種の飛行機製造に従事し、殊にその専門とする追撃
機型の小飛行機では全米の指導的地位を占めてゐる。

◇ ……寫眞はボーイング會社の機體工場(下)と同社組立工場に並んだ十九台
の陸軍機(上)



(18) ウェルトハイム百貨店

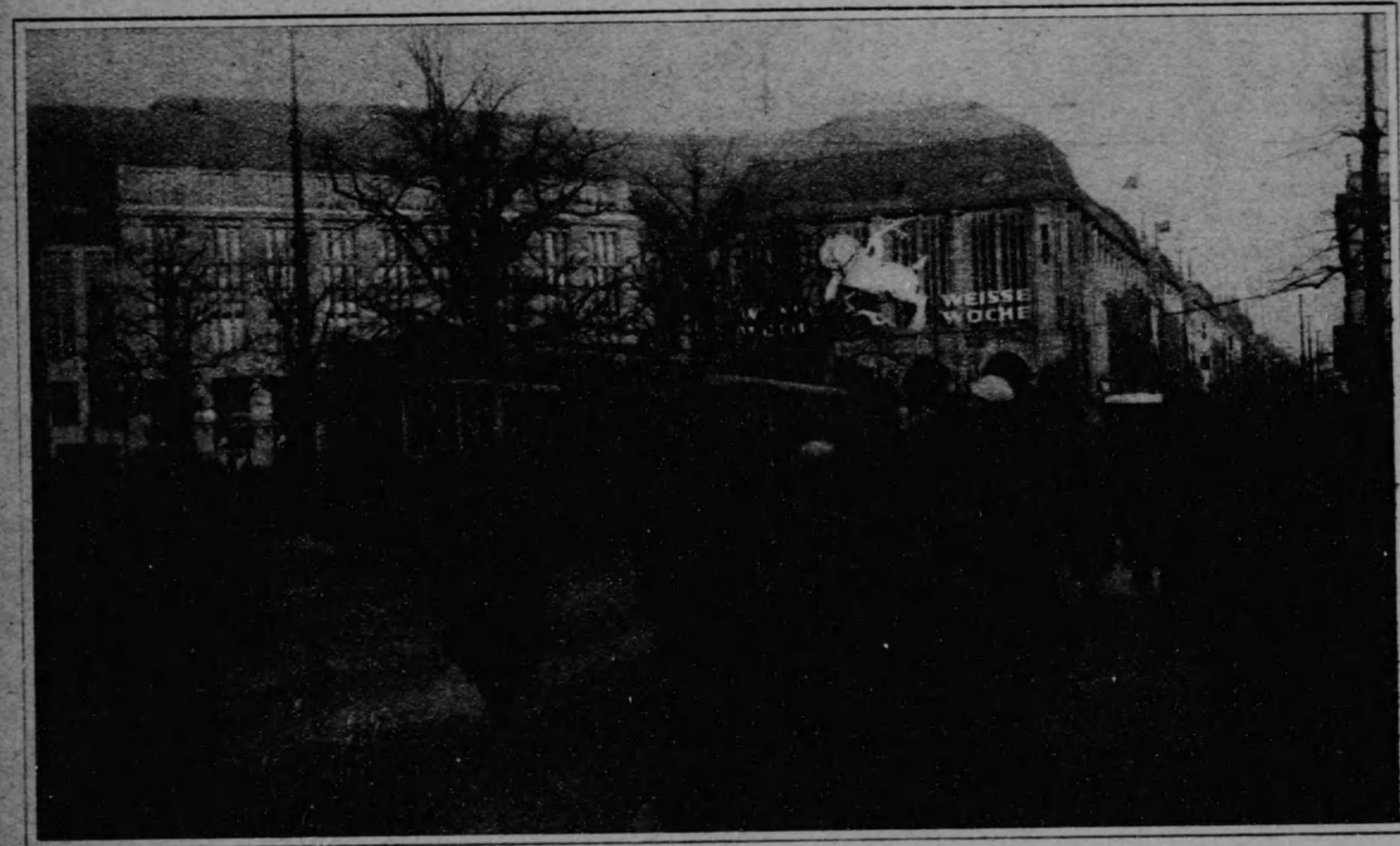
◇ ウェルトハイム百貨店は柏林名所の一つである。苟くも柏林に旅するもので、その城塞、その美術館、その博物館と共にウェルトハイム百貨店を訪れないとすれば、彼のプログラムにはそこぼくの空しさが残るに相違ない。

◇ 柏林市街を通貫する放射状大道路の中心、ライプツヒ廣場に面するこの大百貨店は、總坪二萬五千平方米、建物は有名なアルフレッド・メツセル教授の設計で、正面の獅子張りホールに配するに左には噴水、右には大理石像、通りすがりの人々にまで百貨店に相應しい印象を投げ與へる。

◇ 一體歐洲の百貨店は米國のそれの様にケバくしい裝飾や、齒の浮く様な廣告文句に身を入れる（日本の百貨店はこの點において米國の直系である）ことはしない、勿論裝飾はやる、やるどころか最善の努力を拂つてゐる。たゞ突飛なやり方を考へないだけだ、で例へばショー・ウインドーにせよ、陳列品とその周圍とは總て完全に調和が保たれ、更に藝術味と、殊に柏林においては賣益を兼ね具へてゐる。かくてこの調和と賣益とがウェルトハイムに惹きつける顧客若しくは顧客らしい顔をした柏林ツ子の數は日々七萬五千人平均に上るさうだ。

◇ 談話室、散步場、流行品陳列場等、凡そ百貨店に具はるべき施設にしてこのウェルトハイムに缺くるものなく、ベレビニュー街には直營の骨董品陳列所まで設けて、あらゆる奇什、珍品を集めてゐるが、この外に市内支店が二つ、従業員總數五千、ベルリン百貨店中の白眉である。

◇ 寫眞はウェルトハイム百貨店。



(19) シーアズ・ローバツク

◇ 生産から販賣まで商賣流通の縦斷的結合主宰、且つそれより多数の商賣にわたる點において、同時に所謂橫斷的集成でもあり、従つて又、これが組織要素たるべき恐らく巨大な資本の力、さては運輸通信機關の異常なる發達、人口の大都市集中等々、

◇ 此等の現代社會のあらゆる特徴を知的に唯一體に具現してゐるといふ意味で、かの時めくチエイン・ストア、連鎖店、セメイル・オーダー・ストア、通信販賣店、即ち所謂「大經營小賣業」ほど現代的なものは度なくあるまい。

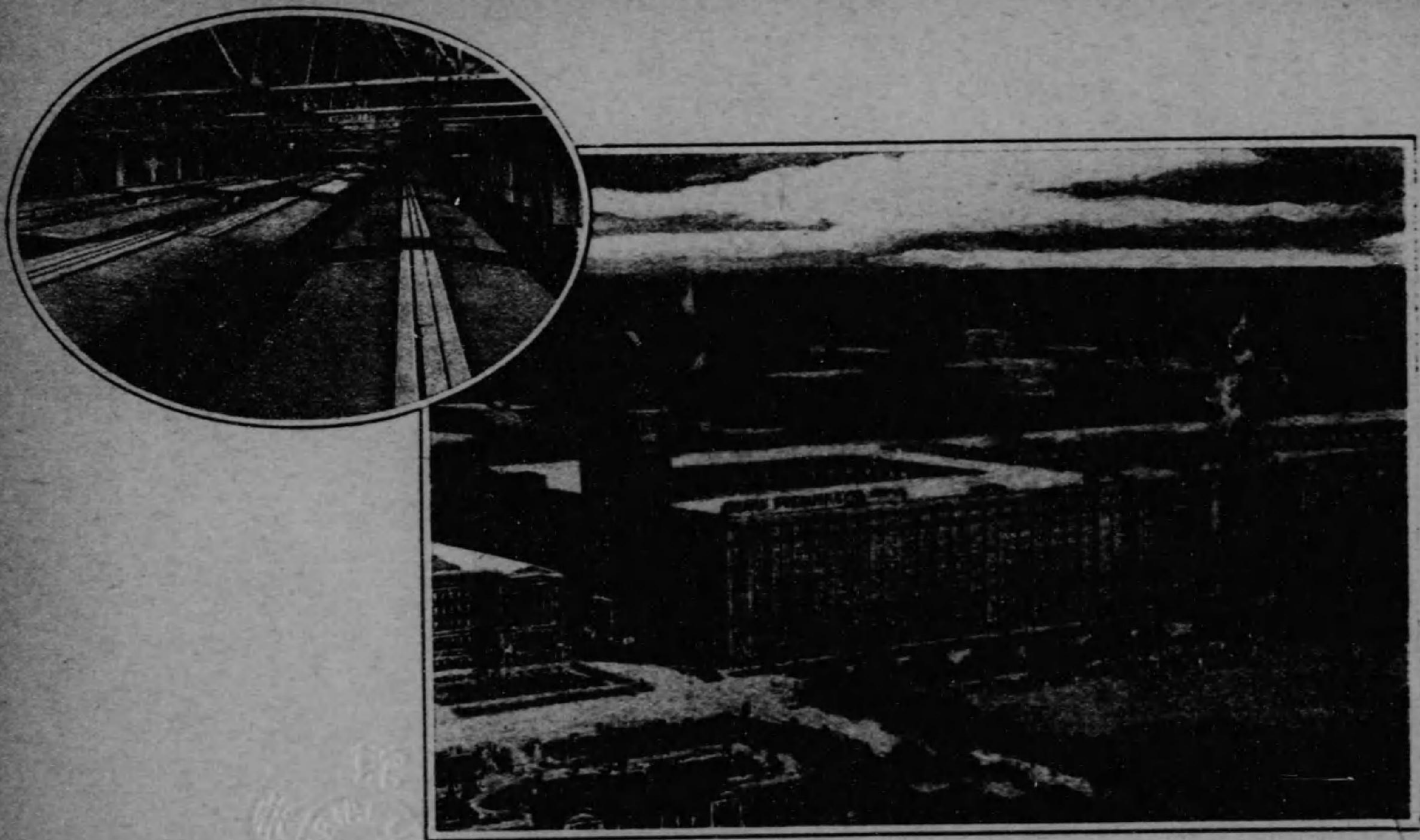
◇ シカゴのシーアズ・ローバツクはメイル・オーダー・ストアとして世界一の名がある、尤も「世界一」はヤンキー口癖で、一々とりあふのも大人げないやうなものだが、シーアズ・ローバツクの世界一などはやゝ信するに足る方で、

◇ 昨一九二七年度の全米三十の主要メイル・オーダー及びチエイン・ストア賣上總額はウールウオース均一店の説明の四九回でも述べた通り、十九億一千三百萬弗、その第一位は育にわがシーアズ・ローバツクで、二位七千萬弗のレコードを示し、次位のウールウオースのそれを凌ぐこと正に二千萬弗であつた。

◇ だが今日これだけの商賣をしてゐるシーアズ・ローバツクも元をたゞせばミネソタ州の田舎の或る停車場に勤めてゐたダブリユー・シーアズといふ職付が、一八八六年のころ、荷送人と荷受主とのゴタ／＼で宙に迷つてゐた時計の荷を引受け、暇にまかせて方々の知人へ手紙で時計の賣付を始めたに由來し、これはシーアズ・ローバツク（ローバツクは時計製造人で後にシーアズと共同した）のスタートであるのみならず、又通信販賣の濫觴であるといふ。

◇ 此の時計屋が後にすべての雜貨に手を延ばして今日のシーアズ・ローバツクと成長したのであるが、今ではシカゴを本店に、紐育、費府、アトランタその他の重要都市の六支店を初め、目ぼしい商賣の製造工場を經營し、その常顧客は僅に一千萬家族に上ると稱してゐる。

◇ 寫眞はシーアズ・ローバツクのシカゴ本店下と社文品發送のため同店構内に引こまれた貨車上。



(20) フロリダの燐礦

燐酸肥料原料としての燐礦石は、少くとも現在の生産状況からいって、概らく最も地理的偏在性を有する燐石原料の一つであらう。實に世界燐礦石總産額約九百萬噸（一九二六年度）の大凡半分がアルゼリア、チュニス、モロッコ等の佛蘭西アフリカからの供給で、次が米國、といつてもフロリダが主であるが約三割ぐらゐ、残り二割がその他の諸國の割前である。

尤もこの燐礦石を原料とする燐酸工業の分布となると、些か事情が違つて来て、アメリカ、フランスは原料供給の關係上、その隆盛は當然だがその外に獨、英、伊の諸國も相當に割り込んでゐる。

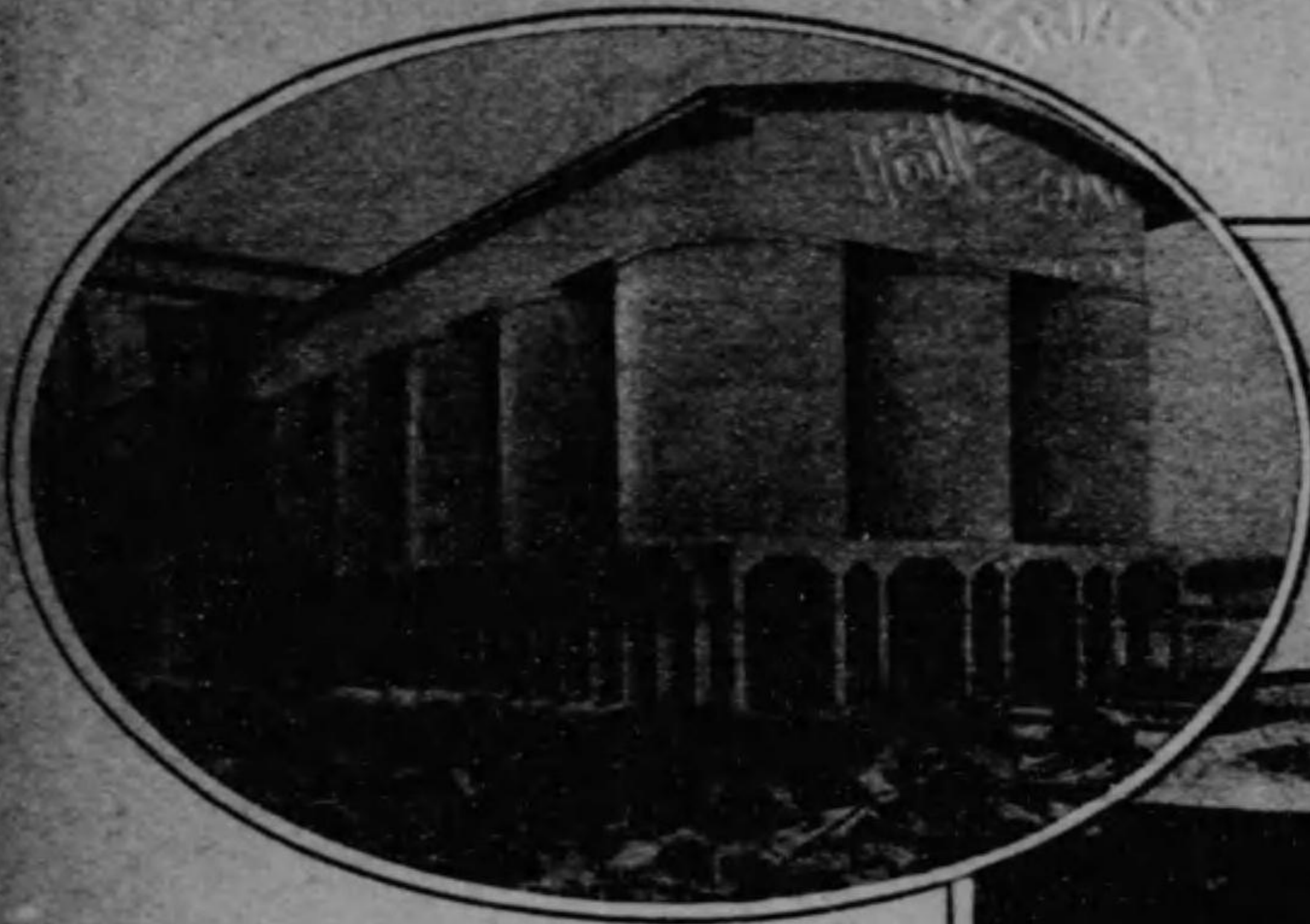
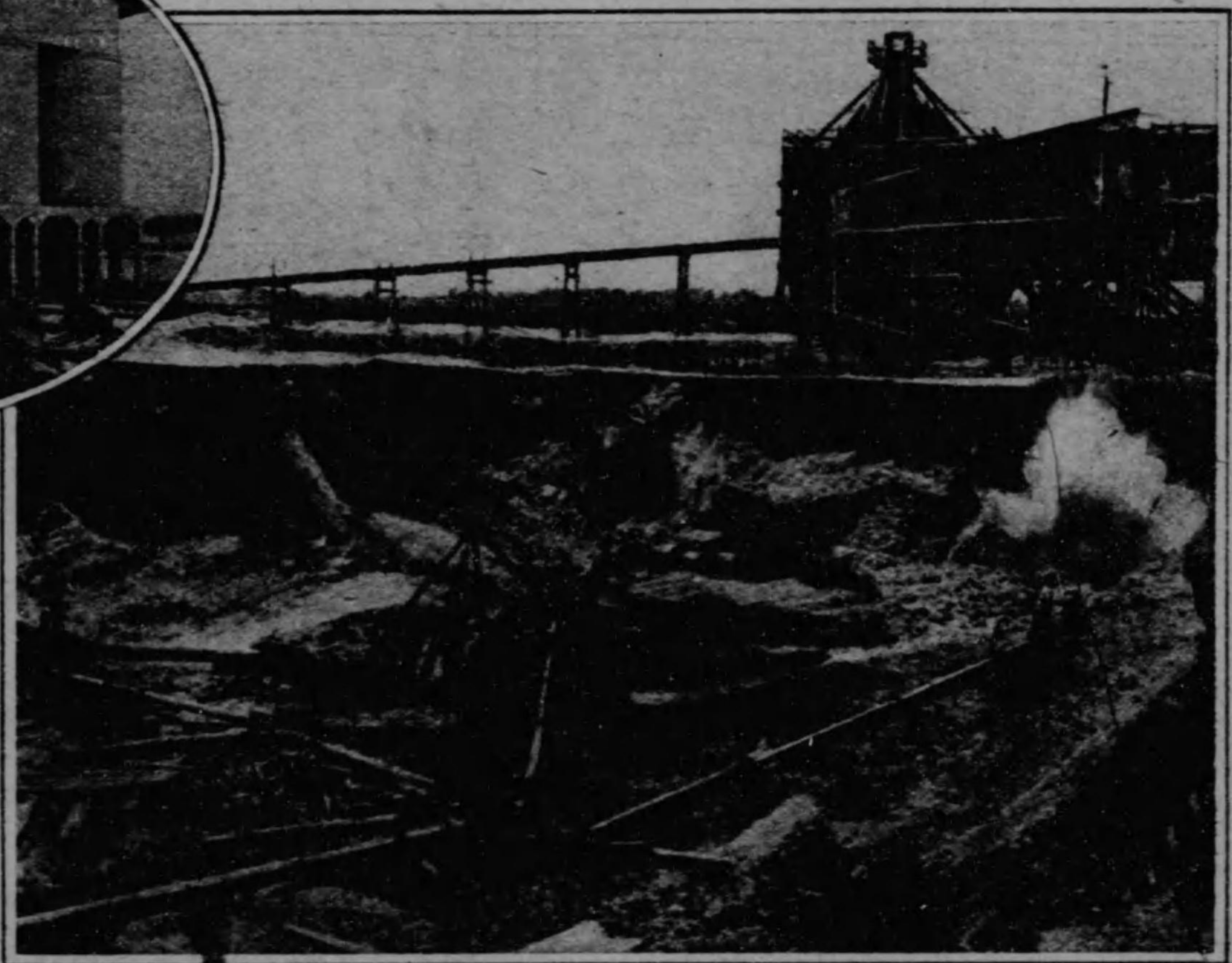
フロリダの燐礦石發見は一八八一年ころであるが、實際採掘に着手したのは一八八九年だといふことで、その燐石の燐分含有率が高いのと、埋藏區域の大部分が海岸から四十哩以内であり、従つて運送に便利なため、採掘事業は目覚しく發展し、

現在では中部及び西フロリダ一帯の松林や棕櫚の茂みをわけて、最新式を誇る採掘設備が時を得順にのさばりかへる。従來の辛氣くさい手掘りの方法に代はるその最新式の採掘設備といふのは、

ポンプの力を利用して一分間に十五萬ガロンも吹出す強壓の水を、燐床（フロリダの燐礦は主としてランド・ベツブルと稱する。標のものと、時にはその中からその生成を物語る蝸の鱗や屏の骨などが出て來ることもある）へ吹きつけて燐礦の泥を造り、更にこれを別のポンプで吸取する。それから水洗ひにかけて砂や粘土を除去して後乾燥するといふ順序で、

たゞそれだけといへばそれまでだが、なゝんだと思ふ人は何はともあれ是非一度フロリダを訪うて、菲漢二十二萬英町にわたる燐礦床とその採掘作業を直見して貰ひ度い。

寫眞はフロリダの燐礦採掘作業と燐礦貯蔵庫



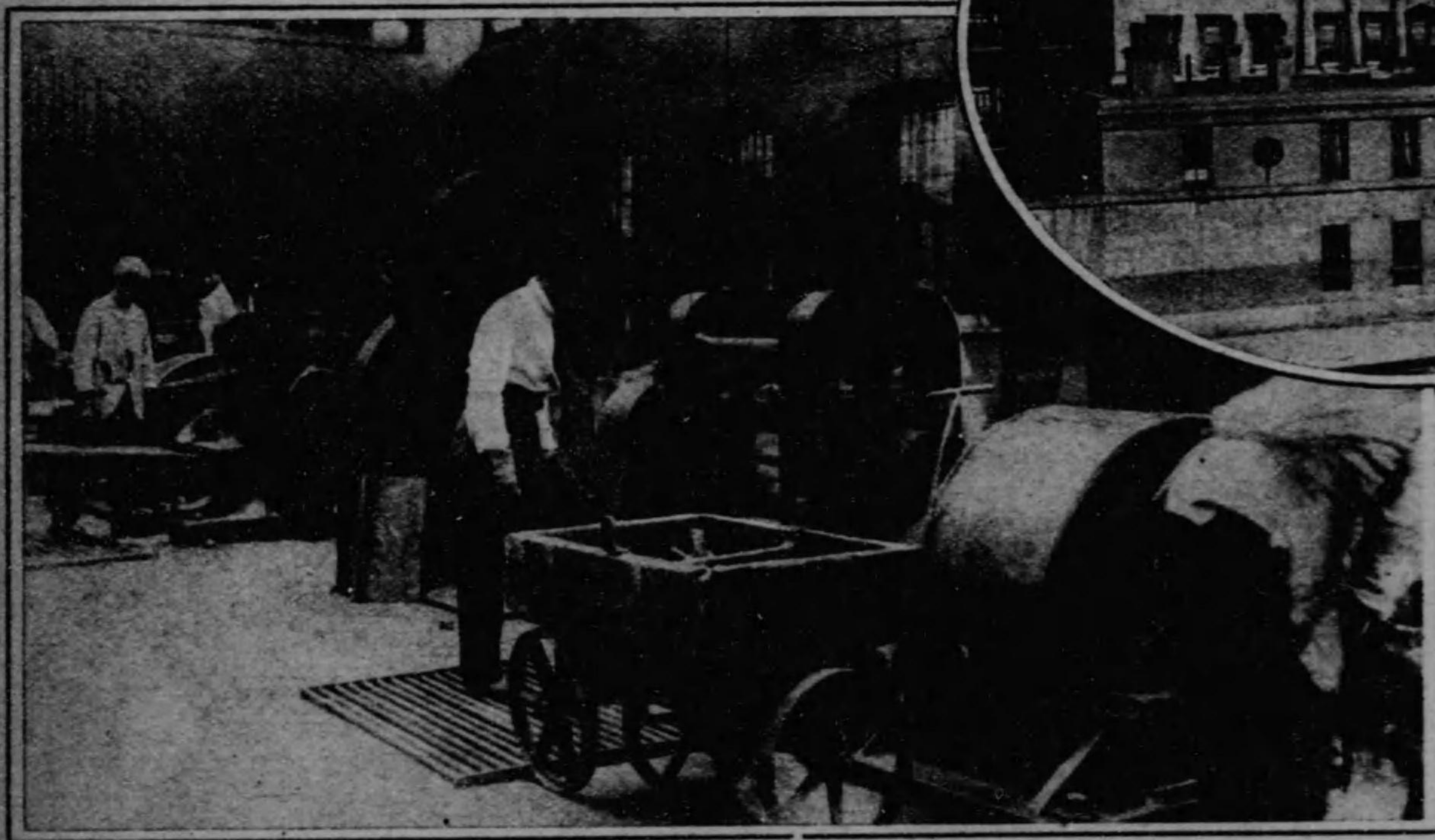
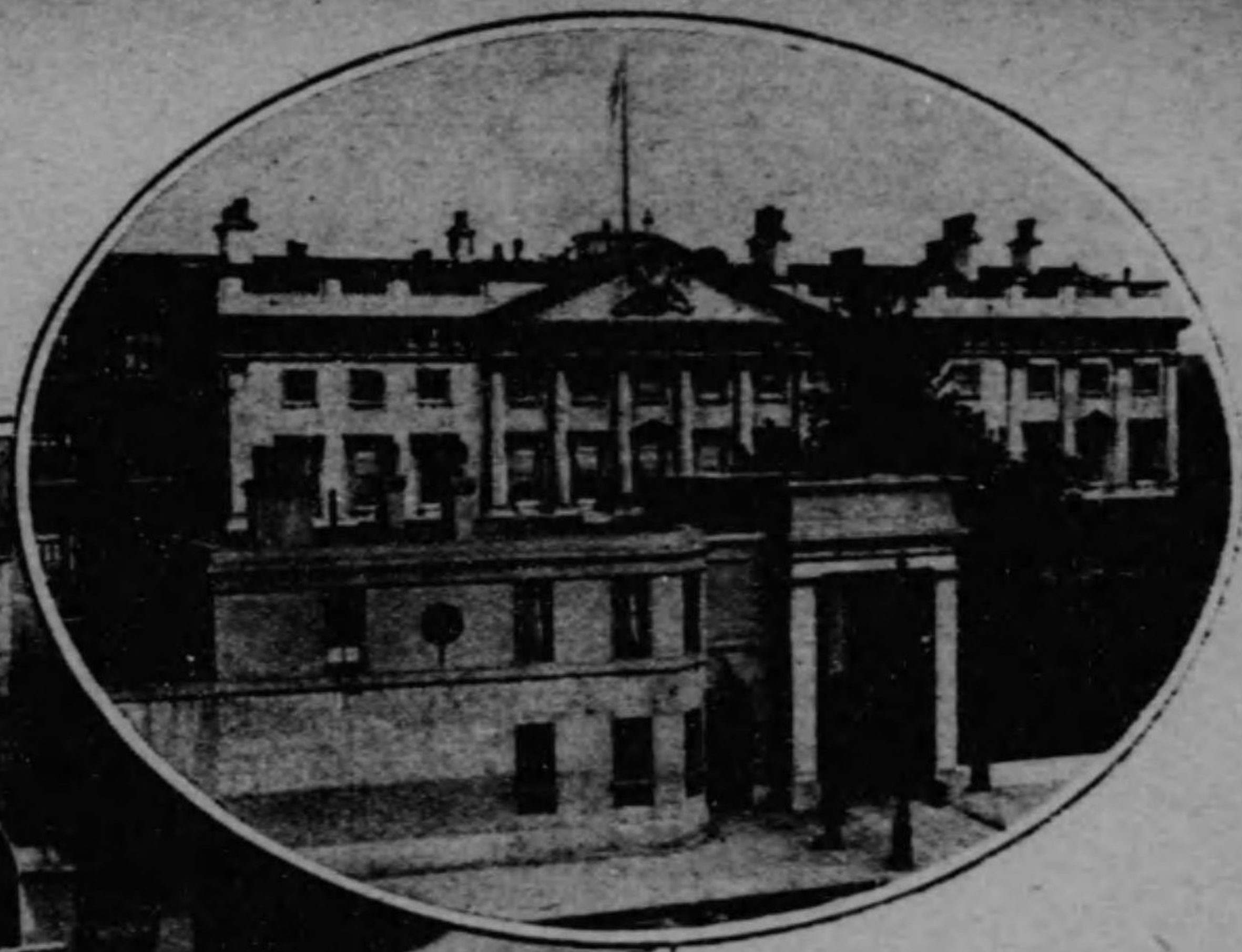
(21) ロンドン造幣局

◆——イーストのローア・ヒルにあるロンドン造幣局、一八一〇年の建設で、その當時工費二十五萬磅以上もかゝつたといふ。金銀貨をいはず、銅貨をいはず、すべての硬貨が此所で鑄造される。こゝに我大阪造幣局を變りはない。

◆——当初は造幣局長といふものがあり、最も古い局長はヘンリー一世の時代から名が知れてゐるが、一八七〇年の貨幣法で局長の職がなくなり、メリーバラ卿を最後にして大蔵大臣の兼任になつてしまつた。

◆——希望者には參觀を許して呉れるが、許可を得るまで二三週間もかゝるのでその積りで申込んでおく必要がある。

◆——寫眞はロンドン造幣局(上) 金の伸金を金貨の厚さに引伸ばす作業(下)



(22) 英國炭坑夫聯合本部

◇——一九二六年五月、坑主の炭坑夫ロックア
ウトに憤激した全英三百萬の勞働者が、未曾
有の總罷業を執行して英國内は勿論全世界を
驚倒させたことは、まだ記憶に新たなまころ
であるが、その主動たりしイギリス炭坑夫聯
合會本部はロンドン・ウエストのラツセルス
・スクエアにある、總罷業は旬餘にしてけり
がつき、炭坑罷業自身も結局は坑夫側の敗北
に終つたが、建物はなほ百二十萬組合員の隠
れたる力を表象する如く黙々立つてゐる、
聯合會幹事長エイ・ゼイ・クック氏は有名な
熱辯家、罷業當時の援助を感謝すべく同年末
から翌年正月にかけて勞農ロシアを訪問した
が息子ミ娘はロシアで教育するこいつた凝り
かたである。

◇——寫眞はイギリス炭坑夫聯合會本部の幹事
長クック氏



(23) 蘭領ボルネオのB.P.M

◇——米國系のスタンダードと相對立して世界の石油界を二分する英國系のローヤル・ダッチ・シェル・シンヂケートが成立したのは一九〇七年である。その時の條件の第一にローヤル・ダッチ及びシエルの兩會社は各自獨立の存在を有するがその資産をあげて新設會社に引繼ぐにあり、その結果出來た新會社の一つが即ち和蘭のバタフイツシエ・ペトロリウム・マスカツビー(B.P.M)で、いま一つが英國のアングロサクソン石油會社である。

◇——蘭領ボルネオの東岸マカツサ海峽を隔ててセレベス島に對する小港バリクババンは殆んこのB.P.Mの存在によつてのみその名を世界に知られてゐるといつてよい。この會社は産油及び製油事業のみを營みその製品の運搬、貯藏、販賣は全部これを姉妹會社のアングロサクソン石油に委ねてゐる。創立當時の資本金は一億四千萬ギルダだったがその後度々の増資で現在は三億ギルダを超えるこか。

◇——寫眞はバリクババンのB.P.M



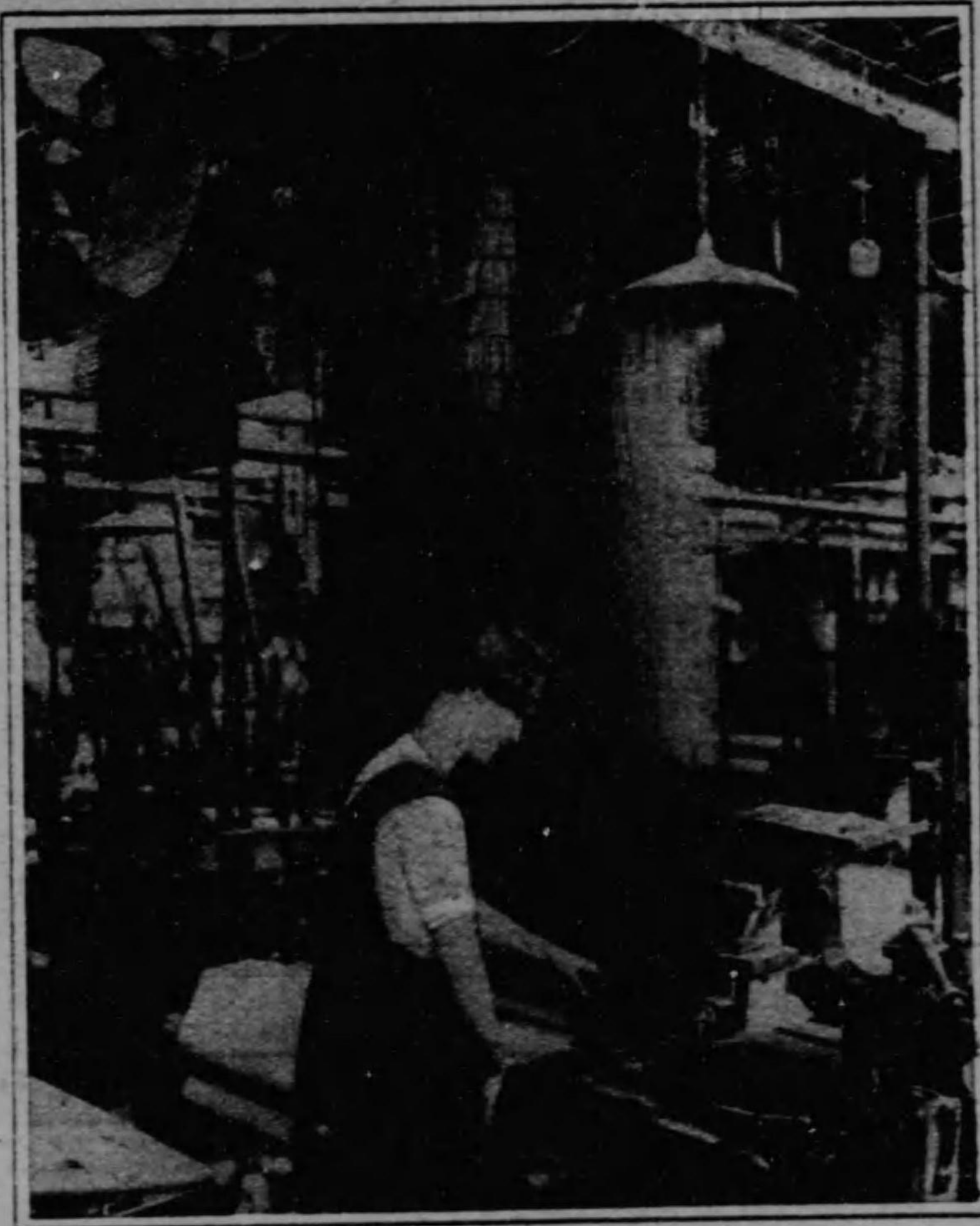
(24) ランカシアの織布業

◇——綿糸布は英國總輸出高の五分の一（一九二七年度輸出總額七億九百萬磅、内綿糸布一億四千八百萬磅）を占め、我が生絲と同様屹然大宗の地位を保つてゐるが、新業は殆んど全部ランカシア一州に集中せる觀があり、その内織布業は東、北ランカシア一帯にわたり、ブラックバーン、バーンレイおよびプレストンはその中心地である。

◇——一九二七年英國の綿布輸出高は一億一千萬磅で仕向先は印度を第一とし支那これに次ぐ、しかしこの輸出高もその前年に比して六百萬磅、前々年から見れば實に四千萬磅以上の減少で、明かに新業衰頹の傾向を語るもの、その理由たるや日本、印度内地、さては伊太利等海外諸國に發達せる新進綿業の競争、打續く動亂による支那の需要不振その他、數へ來れば二三にして盡せぬが。

◇——何れにせよ、これによつて當面の痛手を受けるランカシアでは、紡績業者や機械業者が調査會を造つたり、委員會を設けたりして、この綿業行詰りの打開策如何を今だに（一九二八年四月）小田原評定を續けてゐるがそのひねり出した名案といふのが、不引合な事業の整理はまだよいとして、標準勞銀の二割五分引下げ、一週四十八時間を五十二時間十五分へ労働時間の延長なき、時代はなれのした迷案では、義理にだつて英國綿業の將來を祝福する譯には參らぬ次第。

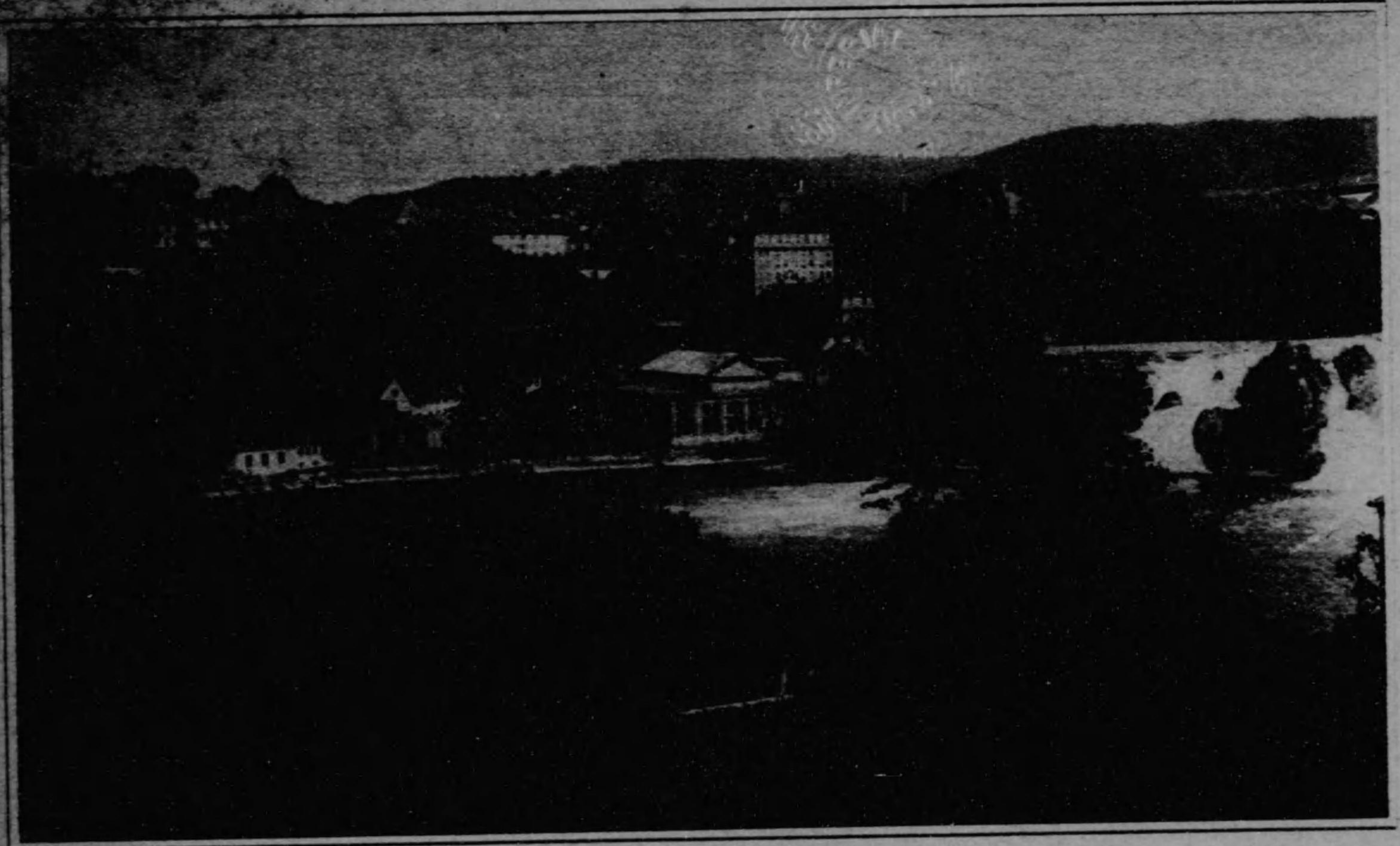
◇——寫眞はプレストンの綿布工場におけるモダンガールの作業振り、使用せる最新式ジャッカード紋織機はフック八百を有しこんな複雑な意匠でも自由自在に織り出すといふ。



(25) スイスのアルミニウム工場

◇——アルミニウムは器具および合金として日常生活にも漸次重要さを加へつゝあるが、たゞ需給量の關係から殆んど世界的に價格の協定が行はれて他の卑金屬の様に市場が廣くない、現今本邦には全く生産がなく盡く輸入に仰いでゐる、産地としては米國、加奈陀、スイス、ドイツ等であるが我國に輸入せらるゝ年額約四千二百屯の中半額以上はスイスから來る。

◇——寫眞はスイスにおいて殆んど獨占的地位を有するノイハウゼン・アルミニウム會社のチツピス工場



(26) **ローヌ化学工業**

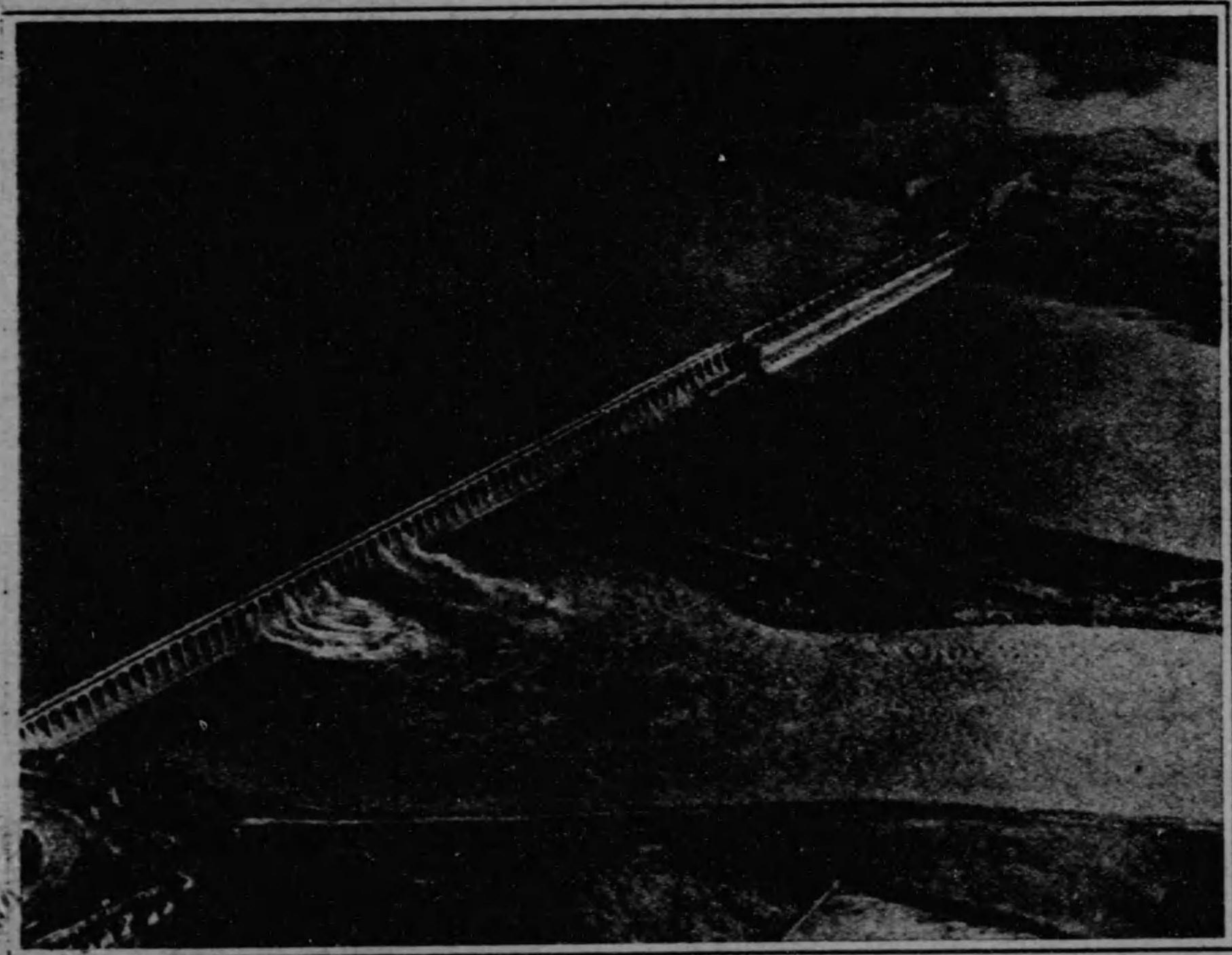
◇——歐洲大戰はドイツに限るニ相場が極つてゐた化学工業を各國に移し植えた、尤も戦後はまた元の在阿彌に歸つてゐる國々もあるが、お隣りのフランスでは、戦争中急速の進歩を見せた化学工業は今日に至るまでなほ比較的堅實な發展を續けてゐる。殊にロース化学工業會社（ソシエテ・シミツク・デ・ジュージン・デュ・ロース）の製品たる醫藥、工業藥品、香料等の如き共は、既に世界的聲價を博し、品質價格に優にドイツ品に對抗するこゝが出来てゐるこゝいふ。

◇——寫眞は同會社のサン・フォンス工場



(27) ウイルソン・ダム

- ◇ 米政府が、アラバマ州のテネシー河に大規模のダム(堰)を造つて発電設備をなし、これによつて空中窒素の固定工業を起すべく計畫したのは、まだ歐洲大戦中のことであつたが、最近この設備が漸く完成して、いよいよ作業開始の段取となつた、工事費總額一億五千萬磅だといふ。
- ◇ 空中窒素固定工業ほど調法なものはない。平時に於ては肥料(硫酸アンモニア)を造り、戦時には同一設備で硝酸を造り更に弾薬に變へる。この「石二島」の効能あるによつて窒素工業は近代工業中の人氣者、我も我もと各國及び窒素工業の育成に血眼だ、殊に電力過剰に悩んでゐる様な國にとつては、この工業の發達は正に一種の廢物利用法として盛んに研究利用されんとしてゐる。
- ◇ 前記テネシー河マツスル・シヨールスのウイルソン・ダムによる發電力は十萬馬力、その窒素固定能力は年餘四萬屯(硫安として計算すれば約二十萬屯)、米國現在の窒素分年産額を十萬屯(硫安にして五十萬屯)と見れば、その増加率は二割五分に當る。
- ◇ しかしながらこゝに問題となるのはマツスル・シヨールスにおけるこの窒素固定の新設備が、古い石灰窒素法によつてゐることだ。御承知の通り窒素固定の方法には、アーク法があり、石灰窒素法があり、更にアンモニア合成法がある。しかるにマツスル・シヨールスでは、シヤン化カルシウム形において窒素を採取し、これを改めて硫安に再製する方法をとつた、従つて合成法などに比して原價も高くつく道理で、マツスル・シヨールスの設備は今日では既に時代遅れだと、米國の専門家さへ正直に白状してゐる。
- ◇ だが彼等は口を揃へて次の如き自惜みをつけ加へることを恐れない、いはく「假令この窒素計畫が失敗であつたにせよ、ウイルソン・ダム自身の價値には毫も相聞せぬ、それは増満水期の水量調節によつて、テネシー河の航行を容易たらしめ、且つその水を防止する」と。
- ◇ 写真はウイルソン・ダム



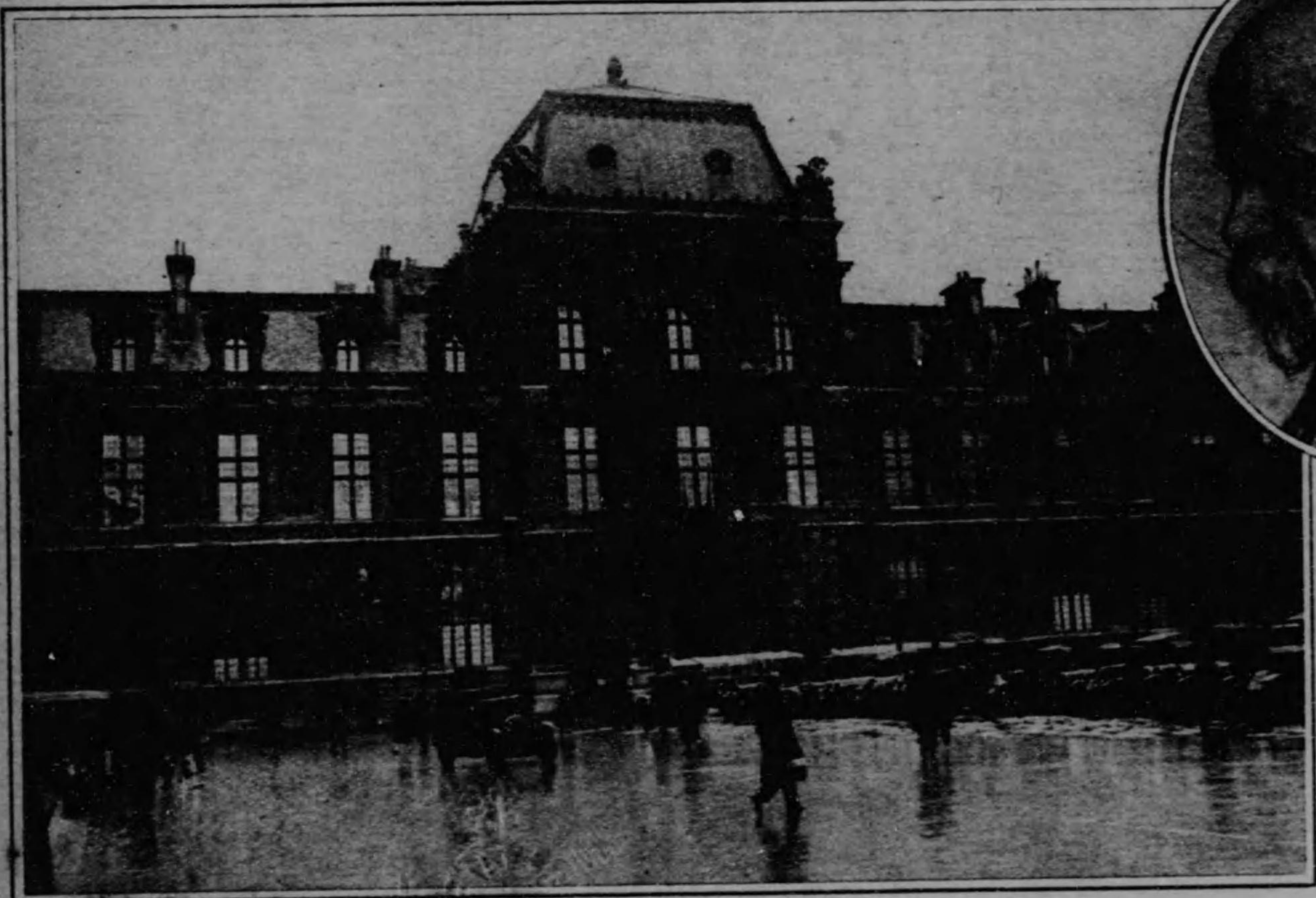
(28) フランスの財政

◇—フランスほど勝者の悲哀を痛切に感じた國はない。たゞき潰されたドイツの財界がドーズ案に救はれて、露面の難問を解決し回復に精進しつつあるにひきかへ、勝者たるが故にフランスは、石に嚙りついても自力で整理を行はねばならぬ。ポアンカレを推して舉國一致内閣を組織せしめたものは實に「フランスは破産するぞ」の叫びであつた。

◇—一九一四年に三百四十億フラン（十三億磅）であつたフランス國債は戰費の負擔と爲蓄の低落の爲に一九一九年には一翻千四百七十億フラン（五十八億磅）の巨額に達し、戦後も一九二二年の三千百七十億フラン（百二十億磅）一九二六年の五千六十二億フラン（六割は内債、四割は外債）と騰上りに停止する所を知らぬ状態で、その利拂だけでも如何に國民の重荷となつてゐるかは想像に餘りある。従つて豫算もまた漸次膨脹し、戦時中は例外としても一九二六年度の豫算總額は一九二二年に比してさへ丁度二倍の歳入約三百七十五億フラン、歳出約三百七十三億フランで、しかも歳入の八割までは租稅收入であり歳出の六割が大務省支出であるといへば租稅過重の苦痛と利拂の困難を思ふに十分ではないか。

◇—たゞしかし幸にしてフランスはこの難局に處するに足る巨人を持ち合せてゐた。首相ポアンカレその人である。佛國民は一九二六年七月以來、異常の熱心さを以て彼に對する絶大の信任を續け、しかしてこの信任は決して裏切られはしなかつた。彼ポアンカレによつてとにかくフランスは安定した、フランスは破産せずすんだ、財政の均衡も漸次回復するやうだ、窮すれば道通す、フランスは仕合せ者である。

◇—寫眞は重荷を負ふフランス大務省と首相ポアンカレ氏

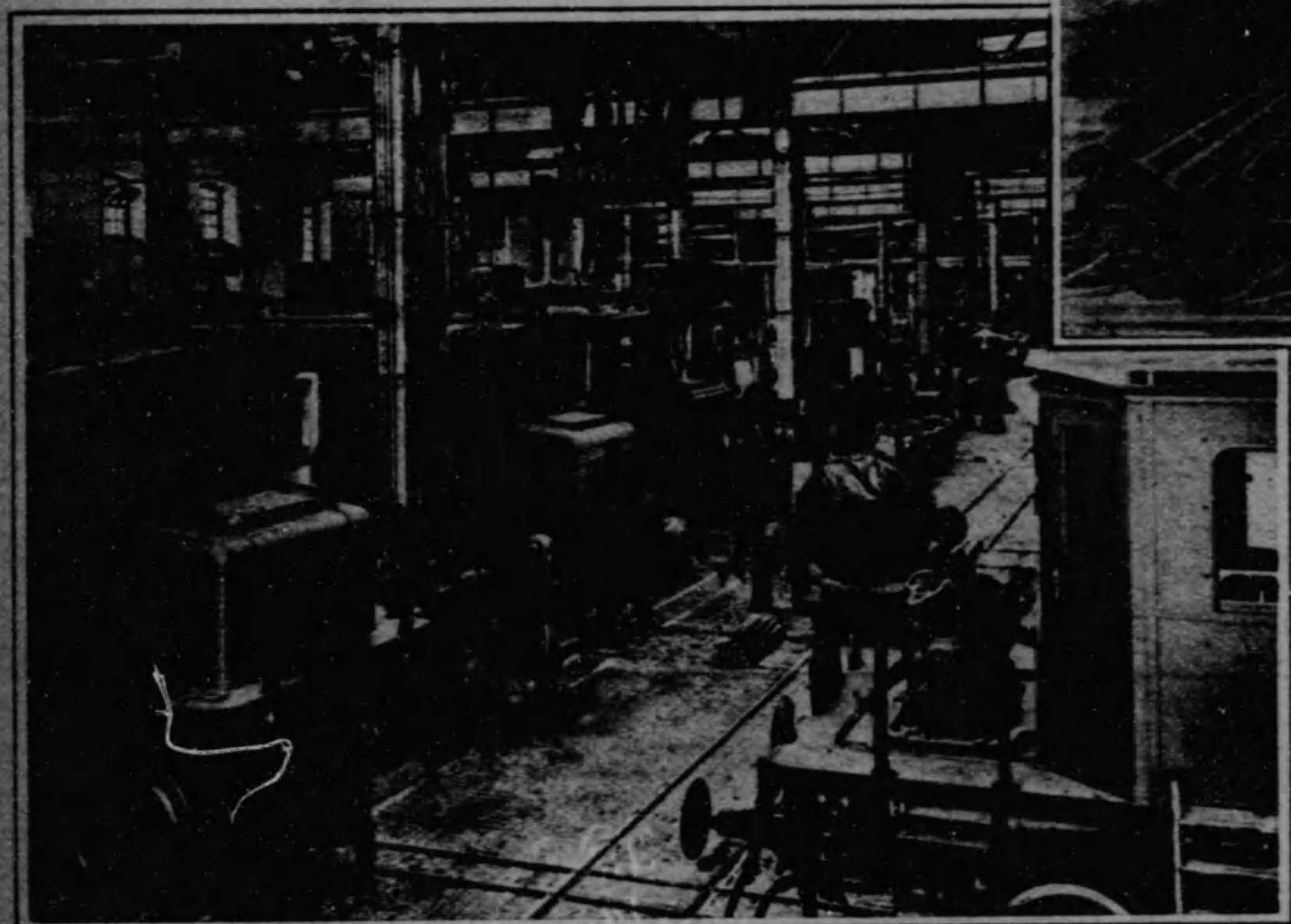
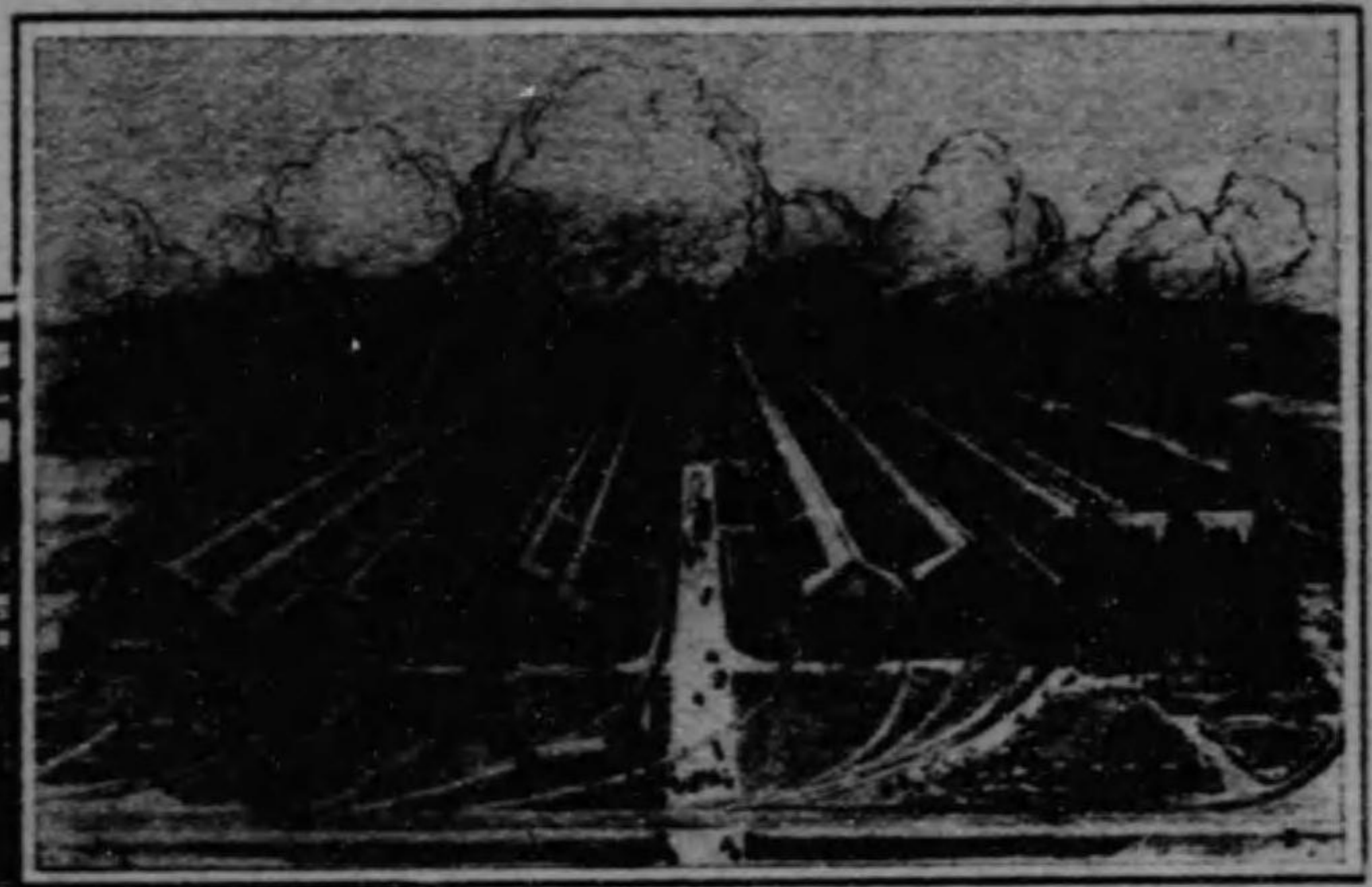


(29) 電力時代

◇——石炭の壽命には限りがある、坑は深くなり採掘費は遞増する、石油全盛の終焉も時期の問題である、少くも時代の有するポシビリテイの範圍において永久變らざる動力の根源は水力であり、その變形たる電力である、我國なごも水電力はその總量こそ米國あたりには比較にもならぬが、柄相應に豊富であり有望であるといふ。

◇——しかるにも拘らずこの國は、電力の高價さにおいて世界に尤たるものであり、電力の高値はこれを動力とするあらゆる工業に作用してその競争力を弱めること大である、我國における殆んごすべての發電所がその機械設備を英、米、瑞西等の外國品に仰がねばならず、従つてある期間外國技師も要るし、機械の維持修繕も長く外國人の御世話になつてゐる事實は、おそらくは電力高價の一理由に相違ない、少し大きくいへば電機工業は間接にそれが造り出す動力を通じて、直接にはそれ自身一の重要な工業として一國全工業の進退を支配するものであること考へて來るご、諸外國にけおる新業の發達ご盛況は衷心羨望に堪へぬ。

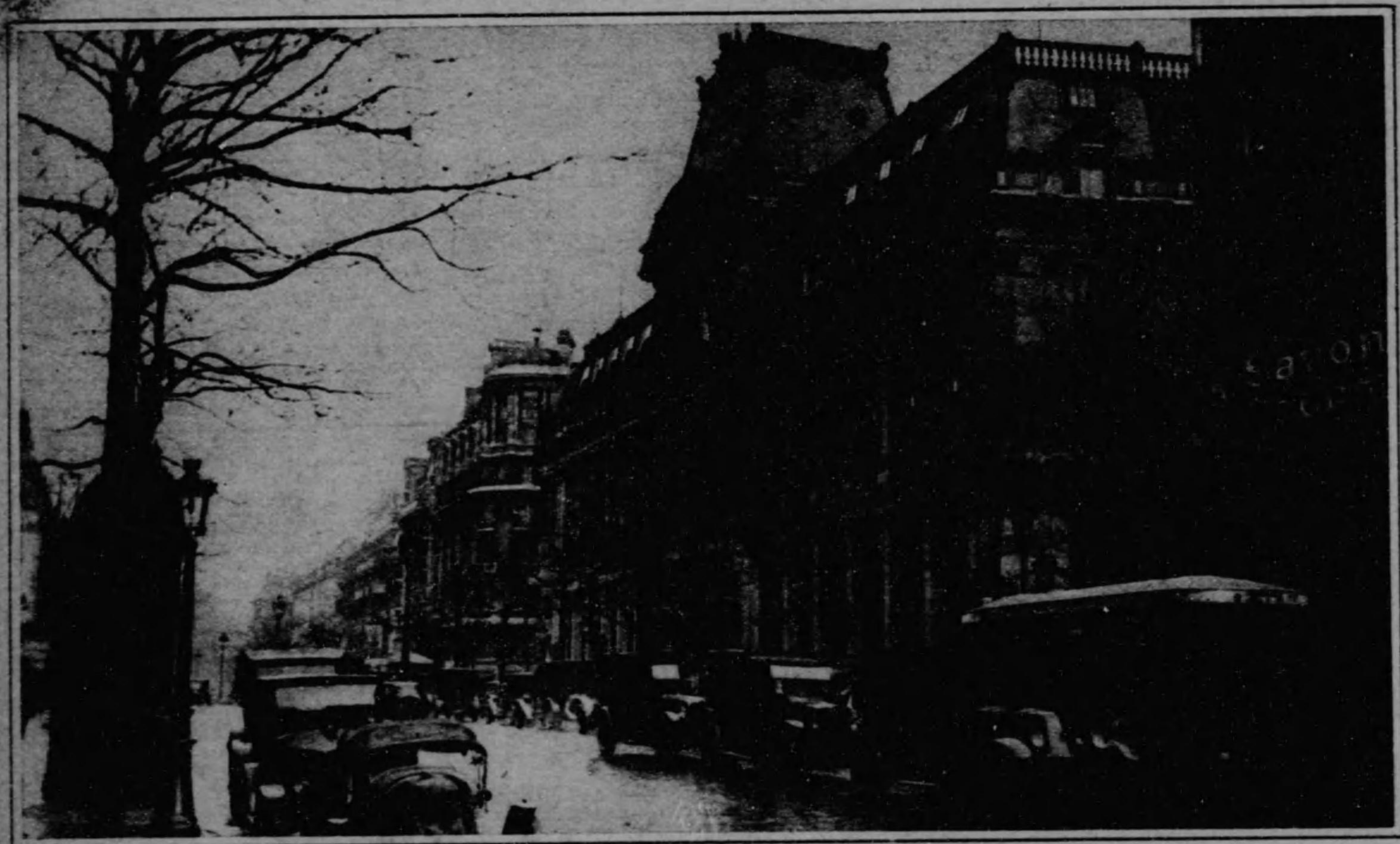
◇——寫眞はスイス、バーデンのブラウン・ボウエリ
(上)ご英國トラフオード・パークのメトロポリタン・ヴァイツカース
電機設備
(下)の兩電氣會社工場



(30) ル・クレデイ・リヨネ

◇——ル・クレデイ・リヨネは預金銀行とし
てはフランスで一ミいつてニミ下らぬ大銀
行家である、一八六三年の設立で當初は地
方的な工業金融を主たる業務とし、會社設
立等に關與して漸く盛大に赴いたが一八八
二年の恐慌に際會して、工業界の沈衰に共
に大打撃を受けて信用地に墜ち預金の半額
を取付けられて以來、事業方面に關係する
危険を悟つて、全然預金本位の方針を確立
したため行運も急激に回復伸展し、その後
同種銀行經營の模範となつてゐる、現在の
資本金は二億五千萬フラン、フランス國內
は勿論國際支店もほゞ世界各地に行きわた
つてゐる。

◇——寫眞はリヨンのル・クレデイ・リヨネ



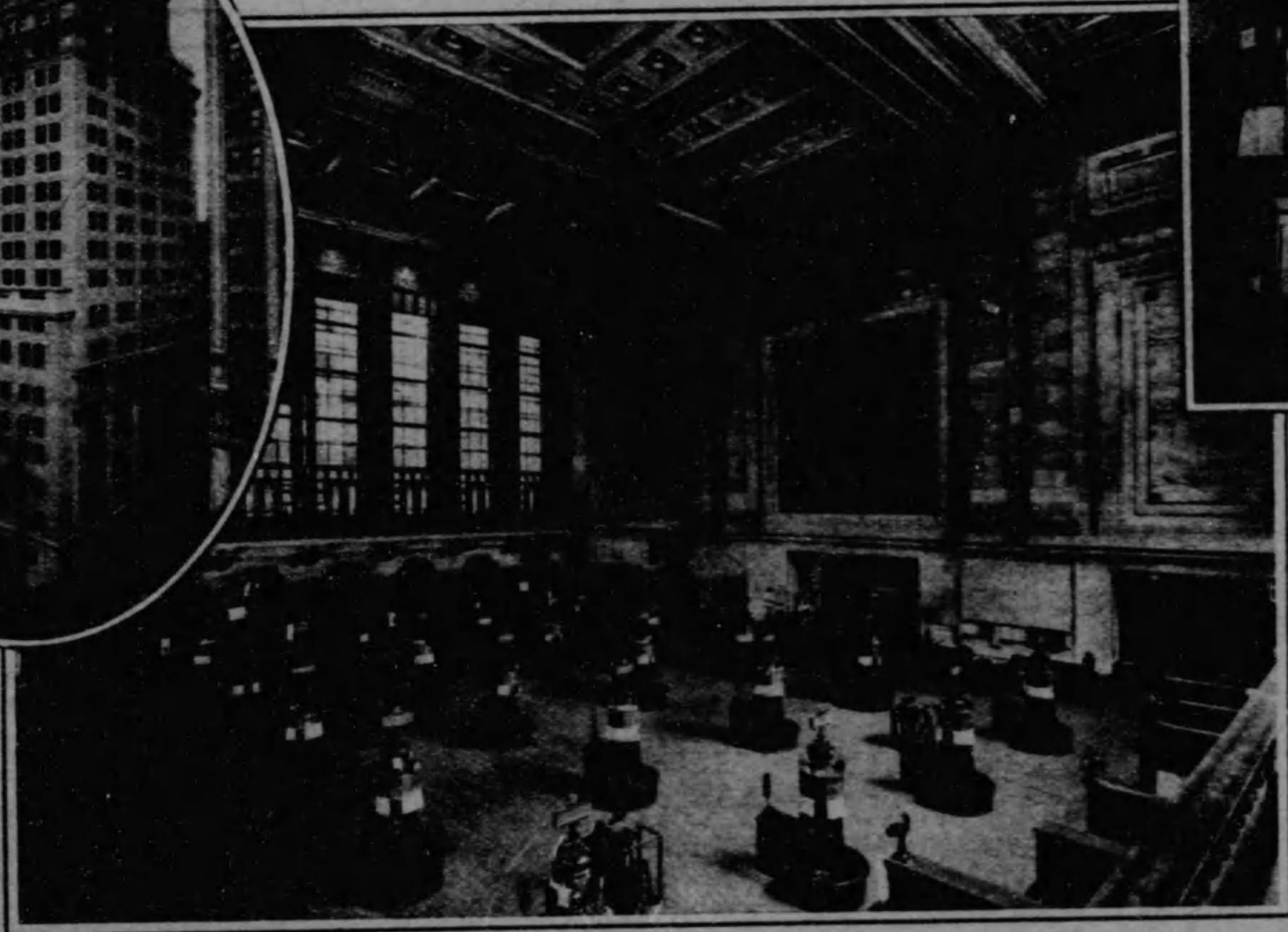
(a) 紐育株式取引所

◇—黄金のうなるウォール街もその昔荒峯たる新開地であつた時代がある。ニューヨーク株式取引所の創立はそのころ即ち一七九二年だといはれてゐるが創立といつても當時野外の市場で肉類や奴隷の賣買をしてゐた三十四人の仲買人が口銭の最低額を定めるために團結したのが縁で、その後二十五年経つて今のウォール街四十番の邊にあつた珈琲店の二階を借りて集合したのがその産地ださうだ。

◇—かくさ、やかに集立したニューヨーク取引所も今では會員の数が千百名、従来の建物は工費三百萬弗といふ堂々たるギリシア建築であるが、最近これも手狭だといふので更に七百五十弗を投じて隣りに二十二階の建増をやつた程の發展振りで、その會員の權利が十萬弗以上を稱へてゐる、一九二七年一月における上場の株式及び債券の銘柄数は國內政府物七六、同會社物二、一七七、外國政府物一三五同民間物一一三である。

◇—取引は午前十時から午後三時までのザラ場（場節を分たず立會を繼續するもの）で廣い床上に各株別のスタンドが並列しこれに下つてゐる表示機に相場が刻々に電氣仕掛で表はれる、時間になるミ千百名の會員中毎日半數位がこのスタンドをめぐるつて賣つた買つたに狂奔するが、從來一日の出來高株式百八十萬乃至二百萬株、債券千萬乃至千二百萬弗位であつたが、一九二八年三月の市場狂奔以來、株式は四百萬株に上るこも珍しくなく、債券も千五百萬弗平均になつてゐる。賣買單位は株式百株、債券千弗、決済は翌日午後二時十五分限りである。

◇—寫眞は紐育株式取引所の建物（左上）とその立會場（下）（小さく並んで見えるものは表示機のスタンド即ち右上圖）

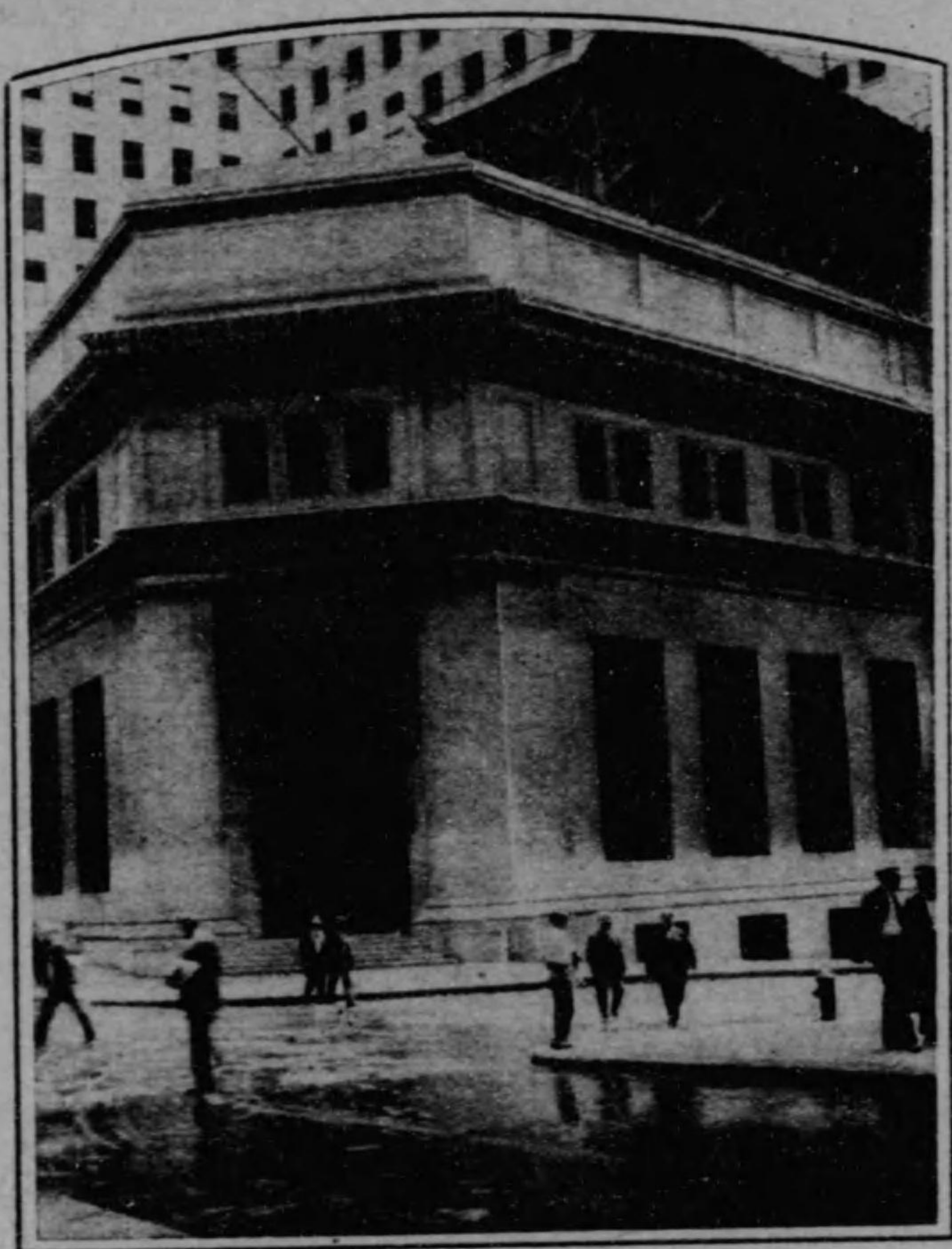


(32) モルガン商會

◇—ウォール街の一隅、証券取引所の筋向に、林立せる大層高樓に挟まれて、これはまた小ぼけな「交番」みたよな建物があるがこれこそは全世界の金融界に君臨するモルガン商會である。曹佛戦争の終りのころセマンの戦に大敗の憂目を見た佛國臨時政府を相手に、二億五千萬フランの公債を引受けてその大膽な道口に世間を驚かせ、一舉に五百萬鎊を備込んだ初代モルガン、一九〇〇年全米鐵鋼生産高の七割を代表する諸會社を糾合してユイ・エス・スチール會社を起し財界の「ジュピター」と崇められた二代モルガン、更にこれをつく富主ジエイ・ピー・モルガンは、「唐樓で實業家と書く」日本流の三代目とは大違ひで大戦を機として聯合國の金融代理を一手に引受け、名實共に財界の王たるモルガン商會の地位を確立した傑物である。

◇—モルガン商會は富主モルガン外十一名の組合組織で考課状を發表する譯でなし内情は全く分らないが、一九二七年第二期(同年六月末で終つた三ヶ月間)の證券引受額が二億一千餘萬鎊で、ブレイア、ハルセー・ステュアート、クーン・ロップ等金融界の巨頭達に比しても依然第一位を占め斯界の「法王」の名に背かない、實に日本は國辱公債、横濱市債などで毎度モルガンの世話になつた、今後も始終世話になるだらうが、同商會の大番頭ラモント君は非常に日本に好意を持つてゐるさうだから借金暮しの日本には好都合だといふ、が併し「七つ屋ではめられて」喜ぶ都々逸ばりの借金政策などは有難くない。

◇—寫眞はモルガン商會。

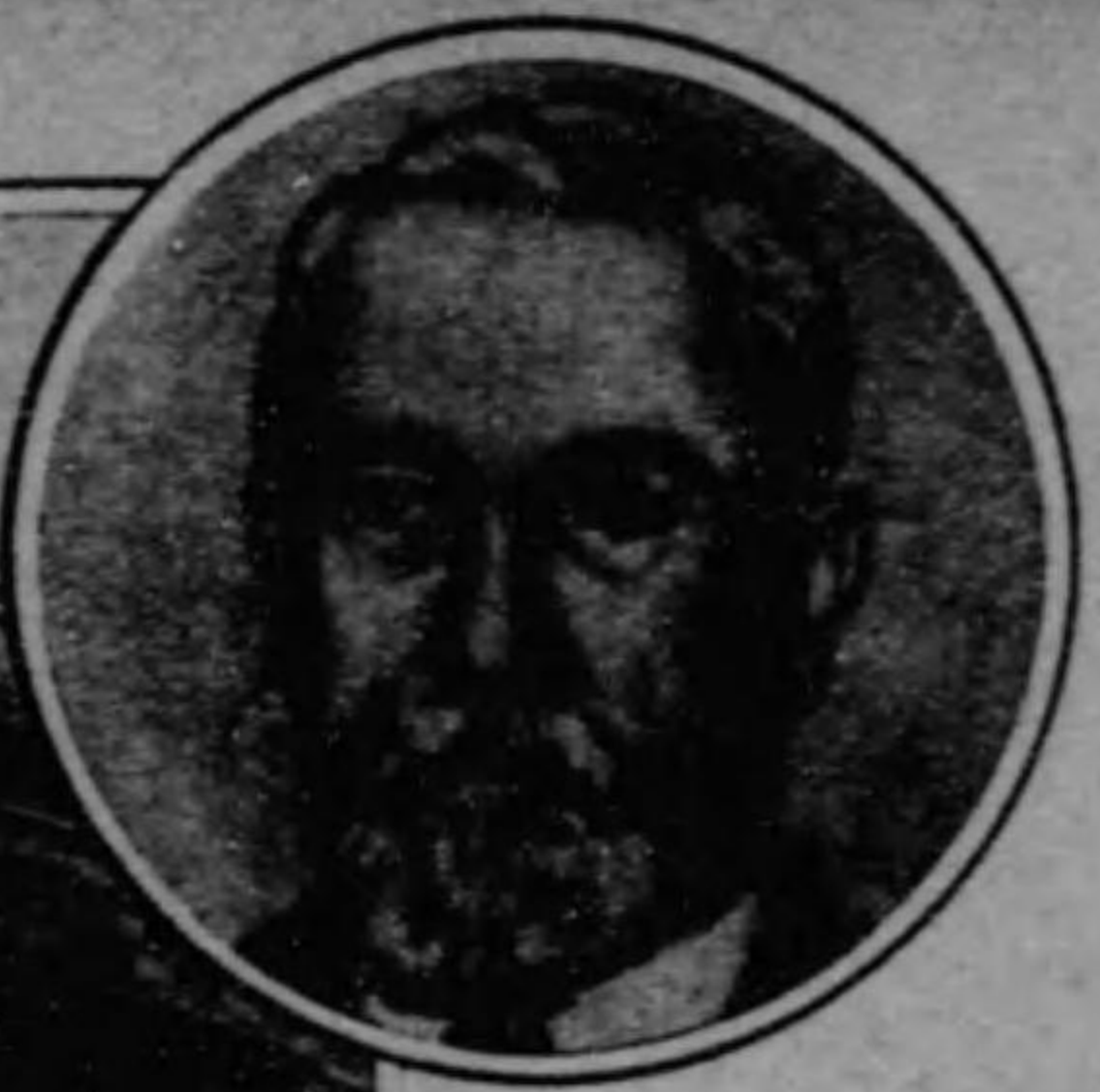


(33) パリ商業會議所

◇——英米のそれと違ひ佛蘭西の商業會議所は半官的のものでその組織事務等は一八九八年の商業會議所法によつて規定され、かつ少くも一州に一個の會議所の設立を要するこゝち、なつてゐる、一方に商工業者の利益を代表し兼ねて政府の諮問機關たるこゝち諸國の制度と變りはないが、何處かの國の商業會議所の様には主張の徹底効果の如何なき始めから問題にせず大小事件片づけしから建議陳情と騒ぎまはるかさうかは聞きもらした。

◇——現在フランスには總數百四十三の會議所がありマルセイユの會議所の如きは千四百年代から存在し世界最古のものに信ぜられてゐる、パリの商業會議所は一六〇七年ヘンリー四世の時代に商業局の名で設立せられ重要な公共機關として市政に關與し商業、海運等の爭議の裁決にも當つたといふ、春風秋雨三百餘年その間の功績の程は知らぬが、現在は議員が四十人、セーヌ州の知事を顧問としブルス街頭に聳えてゐる。

◇——寫眞はパリ商業會議所之會頭ケムフ氏



(34) 紐育の貯蓄銀行

◇—四分の利息で小金を貯蓄銀行に預けておく人はアメリカでは慾の皮の薄い、ごちらかごいへば時勢を解せぬ連中に見られてゐる、五百六十三萬つた金を擱んだら先づ六分見當に廻るボンドを買ふのが戦後民衆の大流行である、だから下宿屋の婆さんでも床屋の親方でもごこの社債の昨日の相場はかうで何公債は何分の一ポイント下落したごいふ位な事は昨日ルースが何本本塁打をかつ飛ばしチャイアンプが何點勝越したごいふ好きな野球のスコアと一緒にチャンミ暗んじてゐる。

◇—それ程ボンド熱横溢で猫も杓子も有金をこの方面に投資してゐるのだが、それでゐて押されるはずの貯蓄銀行の預金がこれまた殖える一方、一九二六年度全米の貯蓄銀行一五五二四行の預金総額は九十五億九千九百萬弗を突破したのだからエライものだ、紐育市のみでも六十七の貯蓄銀行があるが一九二七年一月一日におけるその預金が総額二十九億四千八百萬弗、一年前に較べて一億弗以上の増加であつた、これ等の数字を我國全國貯蓄銀行預金総額十億六千四百萬圓（昭和元年十二月末現在）と比較すればその桁外れの相違に驚く外はない。

◇—紐育の貯蓄銀行中主なるものはイミグラント・インダストリアル（口座數二十萬預金二億八千六百萬弗）、パツリ（口座數二十一萬預金二億六千八百萬弗）ウイリアムスバード（口座數十三萬預金一億六千六百萬弗）で、普通これをピツグ・スリーミ稱してゐる。

◇—寫眞はチンエバース街のイミグラント・インダストリアル貯蓄銀行



◇ 小児遊本の口眞似ではないが世に燐寸ほど重寶で廉價なものはない。そして便利であるだけまた廉價であるだけ今日では燐寸の使用は寧ろ濫費と思はれるまでに一般的となりかつは卑近となり過ぎて、却つて看過せられてゐることであるが、發明以來それが近代人のいはゆる文化生活に寄與した所は決して尠少でないはずである。併し我々にとつてもつと利害あり興味のあるとは現在燐寸工業が殆んど全世界にわたつて同一資本系統に屬する生産機關によつて半獨占的支配を受けつゝあり、しかもその世界的燐寸トラストの中心勢力といふのが國際經濟界では比較的影のふすい瑞典であるといふことだ。

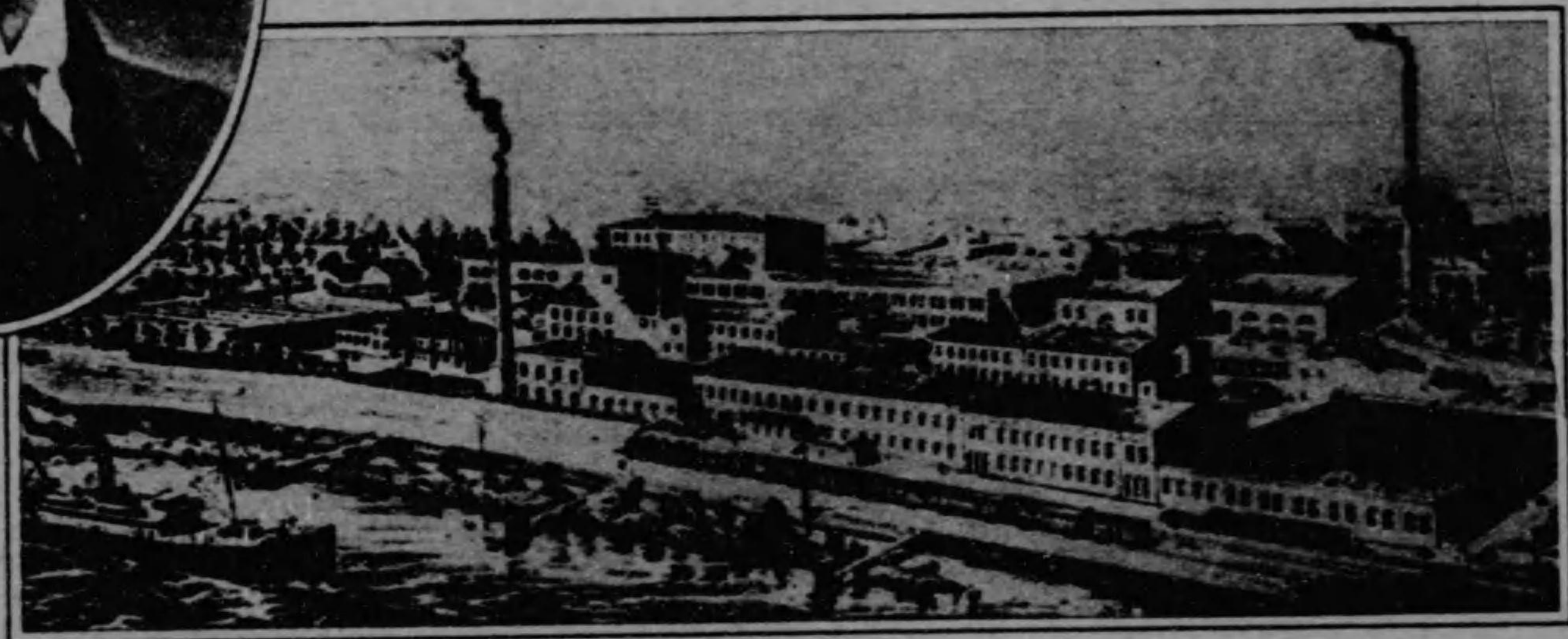
◇ 瑞典が世界燐寸市場に於て今日の如き壓倒的勢力をもち得た理由は、第一に瑞典が總面積の五十六パーセントといふ廣大な森林を有し、燐寸の主要原料たる軸木供給の豊富などであり、第二に經營者の才能と努力の結果であり、更に第三として國內の生活程度が一般に高く従つて労働者の勞銀が高いので、労働が原價の主要部分である燐寸工業では生産費減少の策として技術の進歩、販賣機關の整備に精進したとである、これはさもあるべき當然の成行であるが、低廉な勞銀を以て外國の競争に對する唯一の紡染と考へてゐるその連中にこの理窟は判るまい。

◇ 燐寸と瑞典との深い縁の結ばれは昨日今日のとはなく、古く行はれた硫黄燐寸、次いで黄燐燐寸全盛の時代から十九世紀中葉の何とかして黄燐を使用しない研究の時代を経て、今日我々が有する安全燐寸を完成したのは瑞典ローヤルアカデミーのバツシュ教授で、その製造は同國エンケピングで、ルンドストレム兄弟の手によつて一八四四年に開始せられた、現在全世界の燐寸工業界に君臨する瑞典燐寸トラストのスタートはこの時に切られたのである、その後このエンケピング燐寸會社の盛況はやがてこれにならつた群小會社の發生を見たが何れも物にならず、たゞデホルム燐寸のみが一八六八年以來エンケピングに對して劇烈な競争を續けた結果一九一七年に到つてお定りの合同といふことになり、スウェンスカ燐寸會社を中心とする瑞典燐寸トラストの陣容漸く成つた。

◇ これらの燐寸會社をして國內の競争をやめて一竟外國侵略の方針を決せしめた直接の動機が日本燐寸の東洋市場獨占であるといふから面白い。印度、支那を始め極東市場は久しくスエーデン燐寸の獨壇場であり好華客であつたが、今世紀の始め以來日本燐寸は漸次これ等の市場に進出し、殊に歐洲大戦中は印度以東に瑞典燐寸の影を見ざるまでになつた、こゝにおいて瑞典燐寸トラストは一九二三年先づロツクフェラー財團に屬する米國燐寸を征服しインターナショナル・マッチ・コーポレイション(國際燐寸組合)を作つて當然興るべき競争者を押へ北歐、中歐、南米、英國及びその屬領における絶對優越を確保しておいてさて最後の目標たる日本燐寸の征服にかゝつたものだ。

◇ その結果公益社、小林燐寸、日本燐寸等の諸會社が相次いで強力な資本の前に膝を屈し、やがては一九二七年秋の前記三會社と東洋燐寸との合同から、大同燐寸の創立となり、極東市場もスエーデン燐寸王國の一版圖となり終つたことは人の知る通りである。相手が世界總人口の三分の一は毎日我がトラストの燐寸を使ふと稱する豪の者だけにそれも仕方があるまいが、孤城落日の哀れは深い。

◇ 寫眞はスウェンスカ燐寸總務クロイゲル氏と同社エンケピング工場



◇ 前世紀の終りにおける米國鐵業界は數個の大製鐵會社が諸所に鼎立して互ひに錐を削つたものだ、しかし現在あれほどの獨裁振りをさせてゐる米國財界も當時はどちらかといへばなほ幼年期を脱せないのに、殆んど周期的な世界的不況や恐慌には用捨なく見舞はれるし、驚くべく急速な製鐵法の進歩は目まぐるしいばかりに各種設備の改造を要求するし、かたぐい製鐵會社は利益は減少する金融は硬塞するで、自由競争のどよめきは我首を縮めるものといふ經濟法則に引つかかり、

◇ 更に同一工場において鑛石から鐵鑛、鐵鑛から鋼への全工程を作業することの技術的不利益も加つて、彼我ともに八方塞りの苦痛を存分に體驗した。かゝる状態の下に見出し得る唯一の活路は——素人でも答へ得る、いはく新業の大合同、この常道を通じて生れたのが即ちユー・エス・スチール・ステイツ・スチール・コーポレイション(合衆國製鐵組合)略してユー・エス・スチールである。

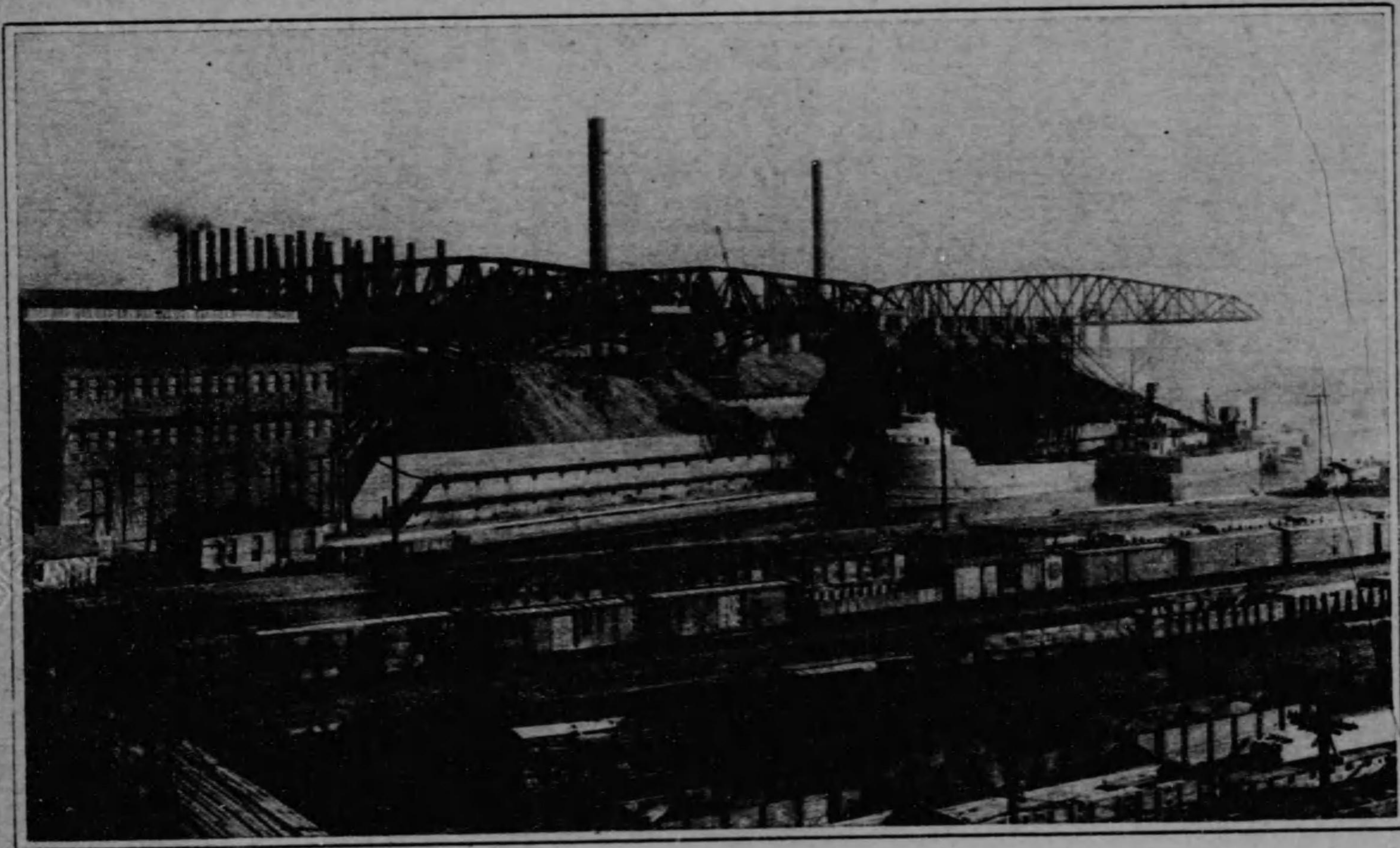
◇ 一九〇一年當時フエデラル・スチールの社長で最近(一九二七年九月)死んだゲイリー氏を経営の首腦に押し立て、先代モルガンがその後押しとして金融方面を引受け、その他幾多の有力者を連れてユー・エス・スチールの最高機關を造つたものだ、そしていはゆる三大要綱(一)需要者に對しては出來得る限り多量に且つ正當の價格を以て供給する(二)競争者に對しては飽くまで力強き競争を行ふ(三)勞働者に對しては經營の許す限り高率の賃金を支給することを定めた。

◇ 米國政府は一九一一年獨占と價格釣上の故を以てユー・エス・スチールの解散を要求し結局裁判所及び大審院の審理に移されたが消費者も競争者も口を揃へて同社の正當を立證したといふので政府の敗訴に歸したことも多量にある、使用人の賃金は一日平均五兩八八仙に上り、學校ありクラブあり教會あり、その他勞働者福利施設何一つとして具備せざるなしといふ。

◇ 設立當初の資本として七分配當の優先株が五億一千萬兩、普通株五億八百萬兩五分利社債が三億三百萬兩、その他社債及び附屬會社の資本等八千萬兩であつた。現在においては普通株は元通りだが優先株は三億六千萬兩に減じ、資本外債も五億九百萬兩と發表してゐる、尤も全負債を勘定すると十三億七千七百萬兩になるがこれを代表する證券の市場價格は十七億七千八百萬兩と稱せられ、總資産は二十四億四千萬兩とあるから、その株式が米國における上場花形株として國內にてもはやさるゝのみならず米國財界の反射鏡として全世界の經濟界に跳梁するのも宜なる哉である。

◇ ユー・エス・スチール設立當時における生産能力は鐵鑛が七百四十萬トン、鑛型鋼九百七十萬トン、製鋼七百九十萬トンであつたが、一九二五年には鐵鑛千八百九十萬トン、鑛型鋼二千二百七十萬トン、製鋼一千六百二十萬トンで、その生産は全米鐵産額の四割を占め、直系會社二十七、傍系會社百六十五、所有鐵道二千八百マイル、運搬船數百隻、使用人員二十五萬人に及ぶと誇つてゐる。

◇ 寫眞はユー・エス・スチールのイリノイ工場



(37) ロンドンの羅賣所

◆ 羅賣は和蘭などで随分古くから盛んに行はれたもので、特にその方法が羅手の方から段々と値を呼び下げて行くのでこれを和蘭羅賣法と稱せられるほどだが、今日羅賣が最も盛んに且つ流行言葉で所謂民衆的となつてゐるのは世界諸都市中ロンドンに及ぶものはない、市内各所に幾十の有名なオークション・ルーム(羅賣所)があつてそこへ行けば年中あらゆる種類の品物―主として中古品―を手に入れことが出来るがその羅賣所がまたそれ／＼専門とするところを有してゐるから面白い。

◆ キングストリートの聖ジエイムス劇場に向ひ合つてタリステイ羅賣所がある、ジエイムス・クリステイといふ人が一七六六年に創めたもので繪畫、家具、寶石類等何でも取扱つてはゐるが特に繪畫の羅賣所としてロンドン第一の名がある、毎日午後一時カツキリに槌を握つた羅手が一段高い壇上に立上る、その下に記帳係りの事務員が、賣りに出す品物の検査説明役たる助手と並んでをさまる、場内はと見れば男といはず女といはずあらゆる種類のお客さんがギタツリとつめ込んで、その内には批評家もゐる鑑賞家もゐる、美術館や博物館の所員もゐれば熱心な骨董蒐集家もゐる、之等の連中を前にして泥みなくドシドシ賣買を進めて行く羅手の冷静さ、よく徹る節面白いその聲等凄麗な見ものであるが、

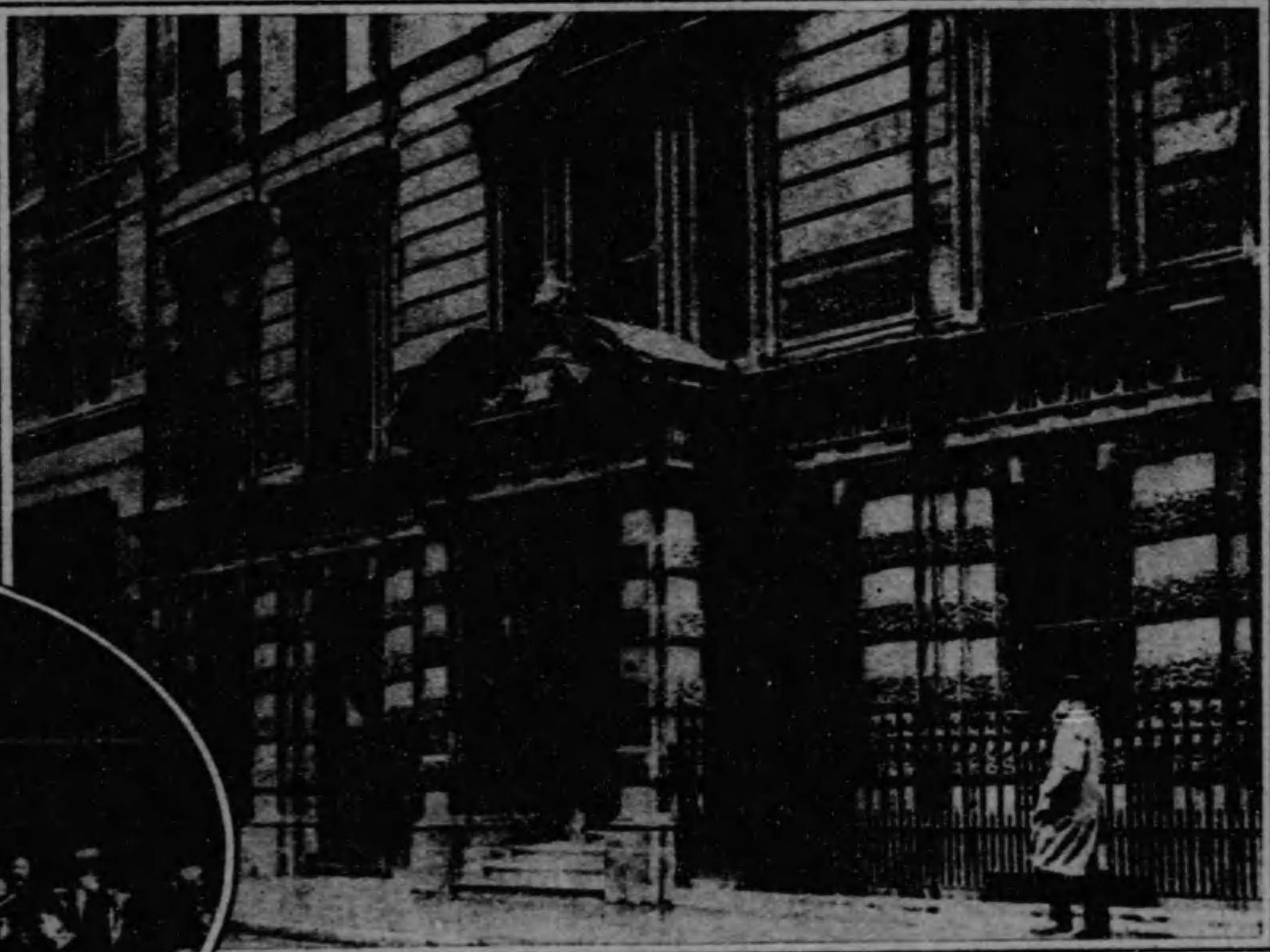
◆ 殊に驚くのは隅から隅まで行きわたるその眼の力である、客の一寸した動作や身振りの意味を實に巧みに讀み取つて「エー百ギニー、エー百ギニー」と代言する、そしてダルトン場内を見通すと「サーも十ギニー、二十一、五十一、七十一、二百、二百ギニー」と進めて行く鮮かなものだ、客の方ではこれを追ふて「追ふ」といふより羅手の聲につられて廻つて値を上げて行く、特に目立つた相手でも出て来れば半ば聲地になつて羅上げるのはどの國でも見得る情景である、やがて「もうありませんか」とそこで槌がバタンと鳴つて一商賣済む譯だ、緊張して来ると盛んな拍手が起ることもある。

◆ ボンド街のソーザビーは本専門の發賣所として世界的に有名で多くの稀覯本がその手を通つて世に出たものだ、何々文庫と名のつくやうな大きなものになるとこの羅賣所の板の間で何千ポンドの金高が投げ合ひ投げ返し盛んに羅賣される、そして結局は勝負が決まる譯だがその光景は「劇的シーン」と呼ぶに相違ないものだ。

◆ コヴェント・ガーデンのスタヴンス羅賣所などでは之は又方面が變つて家庭用車務所用の器具類が大部分を占めてゐる、従つて婦人のお客が半数以上である、服オーバコート、敷布、卓布、靴その他ありとあるものが集まつてゐるが、こま／＼したもののだけに羅手の聲はタリステイなどにも勝つて見栄がする、買手の顔など分るはずがないから「ソラ黒い着物の奥さんだよ」「あの藍の方の旦那だ」と羅手が記帳係に教へてやるがこれで間違つたことがないさうだ。

◆ しかしウエスト・エンドあたりの土地建物、老舗などの不動産羅賣になると現物を自ら見ての上でないだけに槌の音もたすそれほどの騒ぎもなく興奮もなく静かに商賣が行はれるといふ。

◆ 寫眞はキング・ストリートのタリステイ羅賣所(上)とその内部(下)



(38) 日本を養ふ街

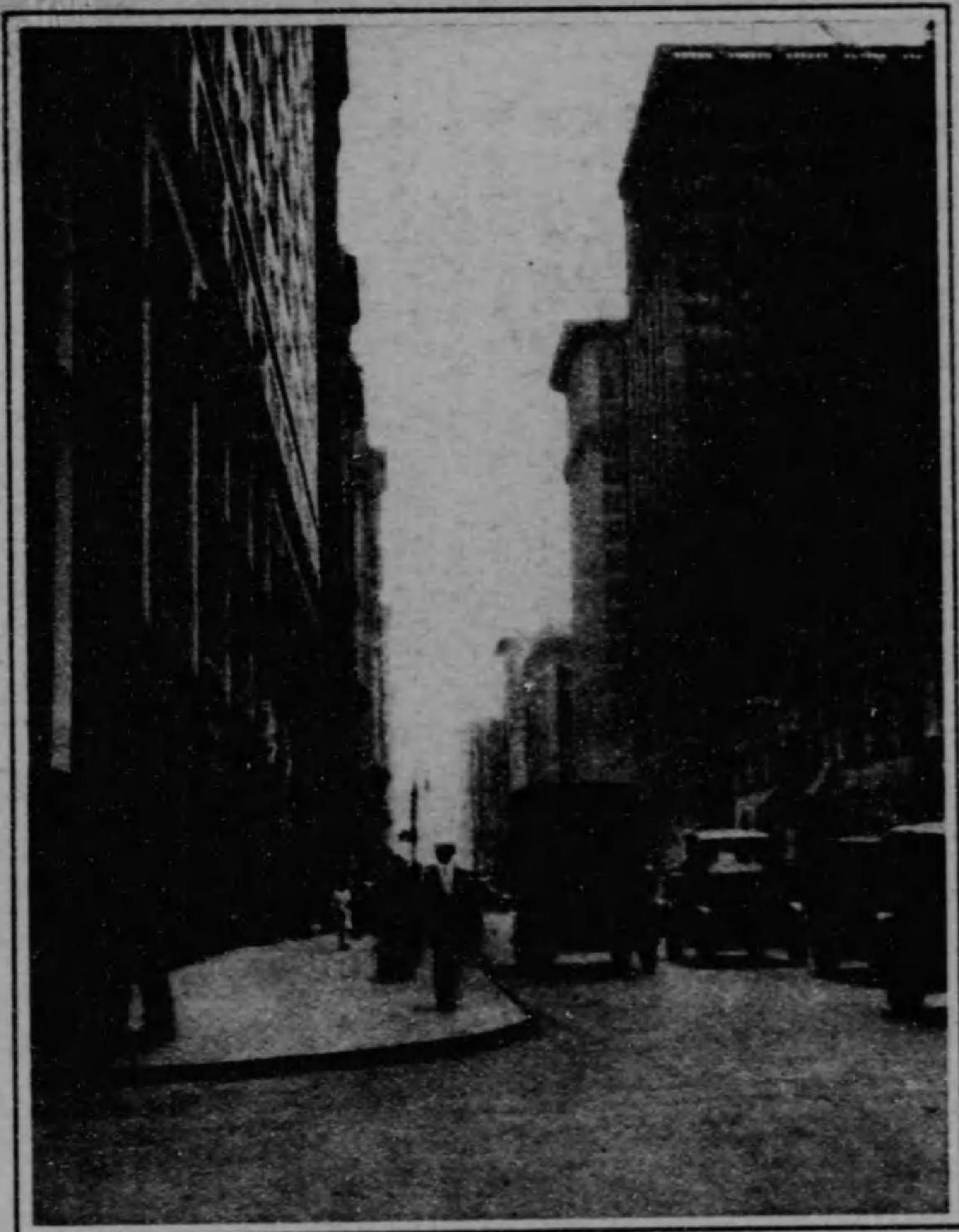
◇—そんな街があるのかと思ふに思ふ人、憤慨する人もあらうが、日本の生絲をアメリカが買はなくなつたら日本は忽ちパツタリ行詰る。アメリカが生絲を買つてくれるので日本が貧乏世帯の辻褄を合はせてゆけるのだから、アメリカにおける生絲取引の中心、ニューヨークの第四街はかうも呼べやう。ニューヨークには日本の御得意様の絹織物製造業者が三百五十軒ほどあるが、その殆ど全部がこの第四街に——もつとも少し許り隣通りのマヂソン街にも陣取つてゐるが——店を出してゐる。アメリカ絹業協會もここにあればアメリカ第一流の絹業會社チニーヤスキナアの出店もあり、原名、日米生絲などいふ日本側の店も出張つてゐる、東二十六丁目から三十二丁目までの第四街は全く軒並に絹業者の店だらけ、この街と横濱神戸間の電報で日米の生糸商賣が毎日行はれる。

◇—何しろこゝ數年ばかりしく好景氣で黒ン坊の女中君までが「お買ぐるみ」で、女は絹で體を包むのを昨今では生存の條件と心得てゐる。毛織物は全くすたれて嚴冬でも薄い絹の單衣の上に皮外装といふ體裁、羅紗がから見送られた御蔭でイギリス邊りは大打撃だけれども日本の爲にはこの寶澤風が至極結構、アメリカの一ヶ月の平均生絲消費高は一九二五年度が四一、七七九俵一九二六年度は四一、七七七俵だつたが、一九二七年は平均四五、九四三俵になつた。この八割が日本物で、本年四月までの十二ヶ月間日本からアメリカに輸出した生絲は五十萬六千六百六十五俵である。

◇—この日本生絲がどういふ風に使はれるかといふと、六割が廣幅物になり四割が靴下手袋類になる。ところで絹の靴下といふやつがジャズ音楽をさへ凌ぐ大流行大人氣、従つて靴下製造工場は殖えてゆく事これまた夥しくそれに品質さへよければ金はいくらでも出すと製造業者もエライ鼻息で一本線で靴下の織れるやうな生絲がないかなんて注文して来る。でダブル・エクストラのその又上のトリプル・エクストラなんていふ種々最優品が出て來るといふわけ。

◇—アメリカにはピリオン・ラダー・インダストリーといふ大工業が約十五ばかりあるが、絹業もその中の一つである。一番大きな絹織物會社は廣巾物ではコネチカット州サウス・マンチエスタアのチニーブラザアス(資本七百俵)とマサチユセツ州のスキナア會社(職工三千人、機械二千五百台)靴下類ではベンシルヴァニア州のバクタシア會社(資本一千萬俵、職工二千八百五十人)などであるが、一九二〇年には全米の絹業工場二、五二七であつたのが二九二七年には三、四〇四に増加してゐる。

◇—寫眞はニューヨークの生絲街フォース・アヴェニユ



(39) 通用せぬ國庫券

◇—支那武漢政府(後に南京政府と合併)は、一九二七年四月十七日臨時經濟委員會の決議に本づき、現銀集中命令を發し、支那銀行に對し兌換を停止せしめ、現銀を所持するものはこれを新たに出來た中央銀行のほかに中国、交通の二銀行紙幣と兌換せしめ、市場における一切の現銀流通を禁止した。かくて中央銀行が巨額の不換紙幣を濫發したことはいはずもなである。

◇—勿論條例には前記三銀行券の收受を拒絶したり、硬貨を買収したり、紙幣を打歩をつけたりすることを禁止し、嚴罰を以て違反者を威嚇してゐるが、實際には商人等は品物の値上によつて巧みに紙幣割引の目的を達したと、同地方の物價が忽ち三五兩の奔騰を告げ、物によつては十兩以上も高くなつた事實に徴して明瞭である。それでも兵隊だけは銃剣を突つけてこの暴落した紙幣を額面通り強制通用させたものだ。だがそんなところが永く續くはずがない、商人が品物を隠して賣らないに極つてゐるから。

◇—それはとに角紙幣が下落すれば隨つて増發が必要となり、相場はますます暴落する、かくて武漢政府の紙幣が往日のルーブルとなりマークとなるのは餘りに見易い運命であつた。それでも政府は苦し紛れに六分利の國庫券を出して増發紙幣の回收をはかつたものだ。しかしどうせ償還どころか利子さへ貰へぬ國庫券だ。六分だらうが六割だらうが同じこと、出すが早いかこれまた償還たる運命、結局利息付の不換紙幣が一つ増發されたと同じことになつたのが落ちで、八月頃になると全く市場通用不可能に陥つてしまつた。そして民國三年には百四十八からあつた漢口の錢莊もその頃は殆ど全滅して、例の條例發布後に出來た小資本の紙幣だけの錢莊が五つだけ残つてゐたがそれも今はどうなつてゐるか。

◇—寫眞は(中上)武漢政府の國庫券(右)中央銀行小額紙幣(左)九江で發行した銅元紙幣(中下)中央銀行一圓券



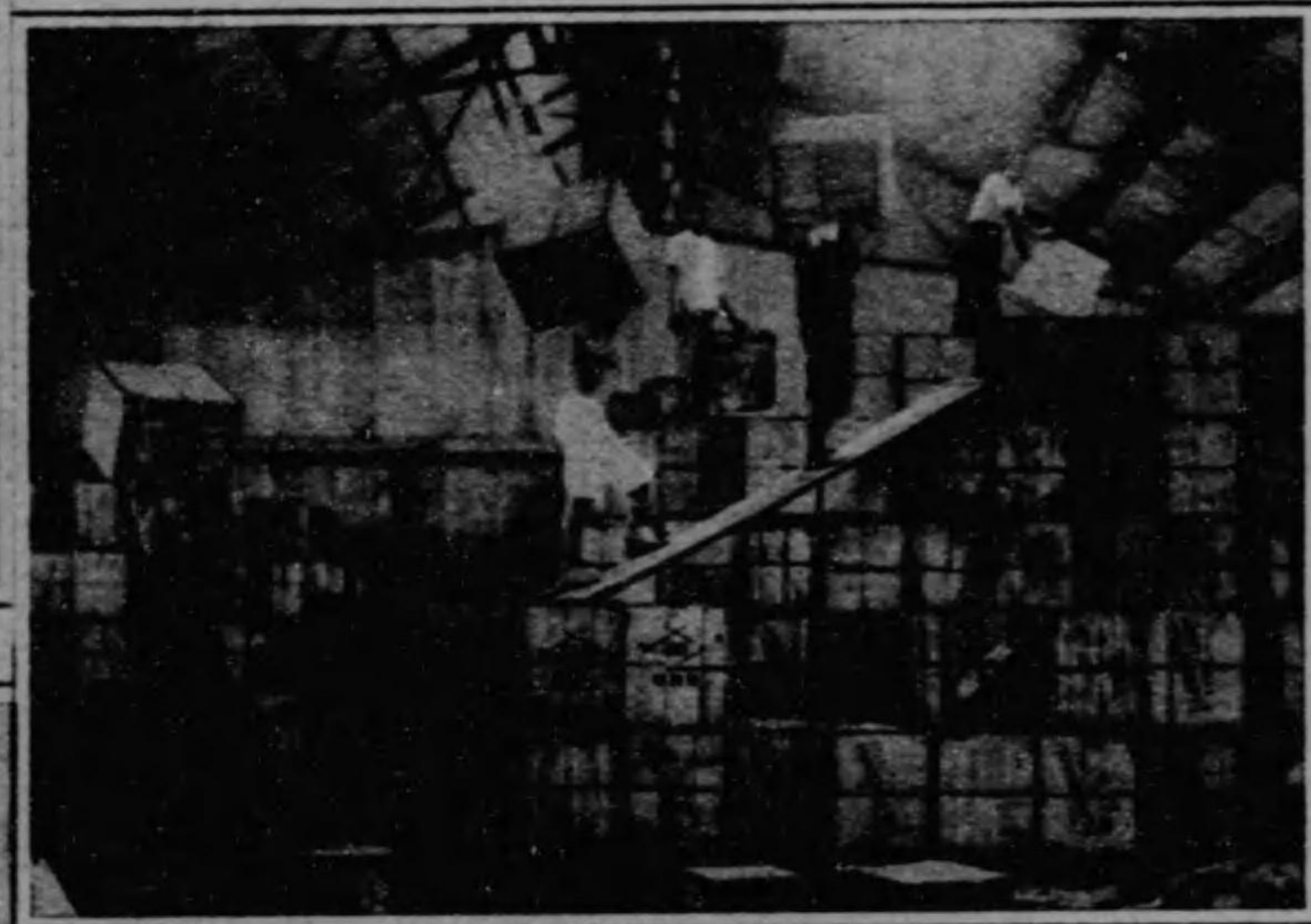
(40) ゴムの需給

◇——新嘉坡は世界最大のゴム積出地である、一九二七年度におけるゴムの世界総産額は六十一萬四千屯、その主要産地は英領馬來の二十九萬七千屯、蘭領東印度の二十萬八千屯でその他は見るに足らない、併し蘭領印度産のゴムも大部分は一度新嘉坡に荷入れして改めて各地へ向けて積出されるのでゴム供給の鍵は英國政府が握るとになる。

◇——ゴム相場の高低は本國からの投資家や事業家のみならず直接産地土人の生活を支配するので、英國政府は一九二三年以來所謂スチヴンソン法を制定して英領産ゴムの積出を生産額の六割程度に制限し、以てゴム相場の維持につとめたが、五年後の今日に到つて漸く、かゝる方法が競争者たる蘭領印度の生産増加を促すのみで、馬來ゴムにまつては有害無益の愚策なる所以を悟つた見え、一九二八年十月限りこの制限法は撤廢されることになつてゐる。

◇——續つてゴム消費の方はいへば、消費總額五十八萬一千屯(一九二七年度)の中六割以上(三十七萬一千屯)は米國一國の消費で、その主なる需要は自動車及びタイヤ工業である、消費の次位は英國だが、その量は桁違ひの四萬五千屯に過ぎず、日本は一萬九千屯であつた。

◇——寫眞は生ゴム製造(上)及び積上げ(中)と貯積み(下)
(シンガポール)



(41) ボールチック取引所

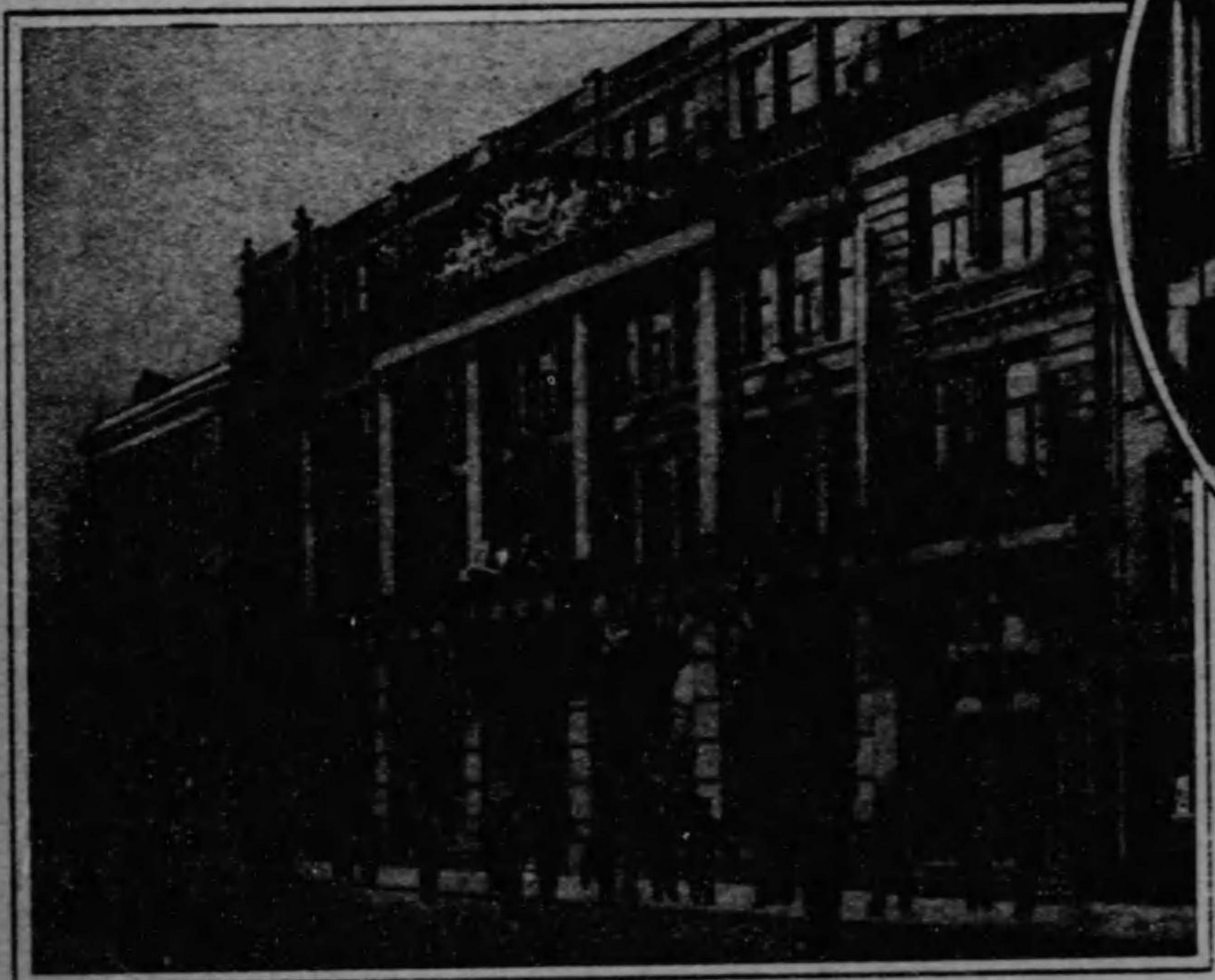
◇—山の幸でも野生のものミ畑のものミでは粘りが違ふ。まして人の世の制度や機關では、「出来たもの」ミ「造つたもの」ミ、その基礎の常固さにおいて、その機能の圓滿さにおいて、お月様ミスツボンほごの差異がある。わがボールチック・エクスチエインチは、總じて「出来たもの」の多い英國でも經濟的機關としては、ロイド組合なき、天にまづ典型的な方で、

◇—千七百年代の始めロンドンにスレツドニードル街の片隅に、北歐貿易關係者を常連ミして、さ、やかな店を張つてゐた一珈琲屋の昔から、外國人を含む二千六百名の取引員を擁し、主要上場物たる穀類の出来高だけでも一日二十五萬噸、二百五十萬磅に上る今日のボールチック商品海運取引所に生長するまで、悠々二百年、その間の流移轉變だけ簡單に書いても一冊の書物になる。

◇—そんなとはさうでもない、が、ミに角今のボールチック取引所は、「ボールチック」の名こそ保つてはゐるが、取扱ふ商品の量や範圍は昔のバルチック貿易品に比すべくもなく、穀類、獸脂、植物油、油種、木材等、その産地關係も全世界に及び、

◇—殊にこの取引所の「海運部」は元のロンドン海運取引所の合併されたもので、扱ふミころは船舶の賣買、チャーター、その他海運に關するあらゆる取引にわたり、少くも今日大洋を航行する船舶の船主にして、ボールチック取引所海運部にその代理者を有しないものはないミまでいはれてゐる。

◇—寫眞はボールチック取引所の内部ミその建物の入口——
(ロンドン、センメリー街)



(42) クーリン・ロープ商会

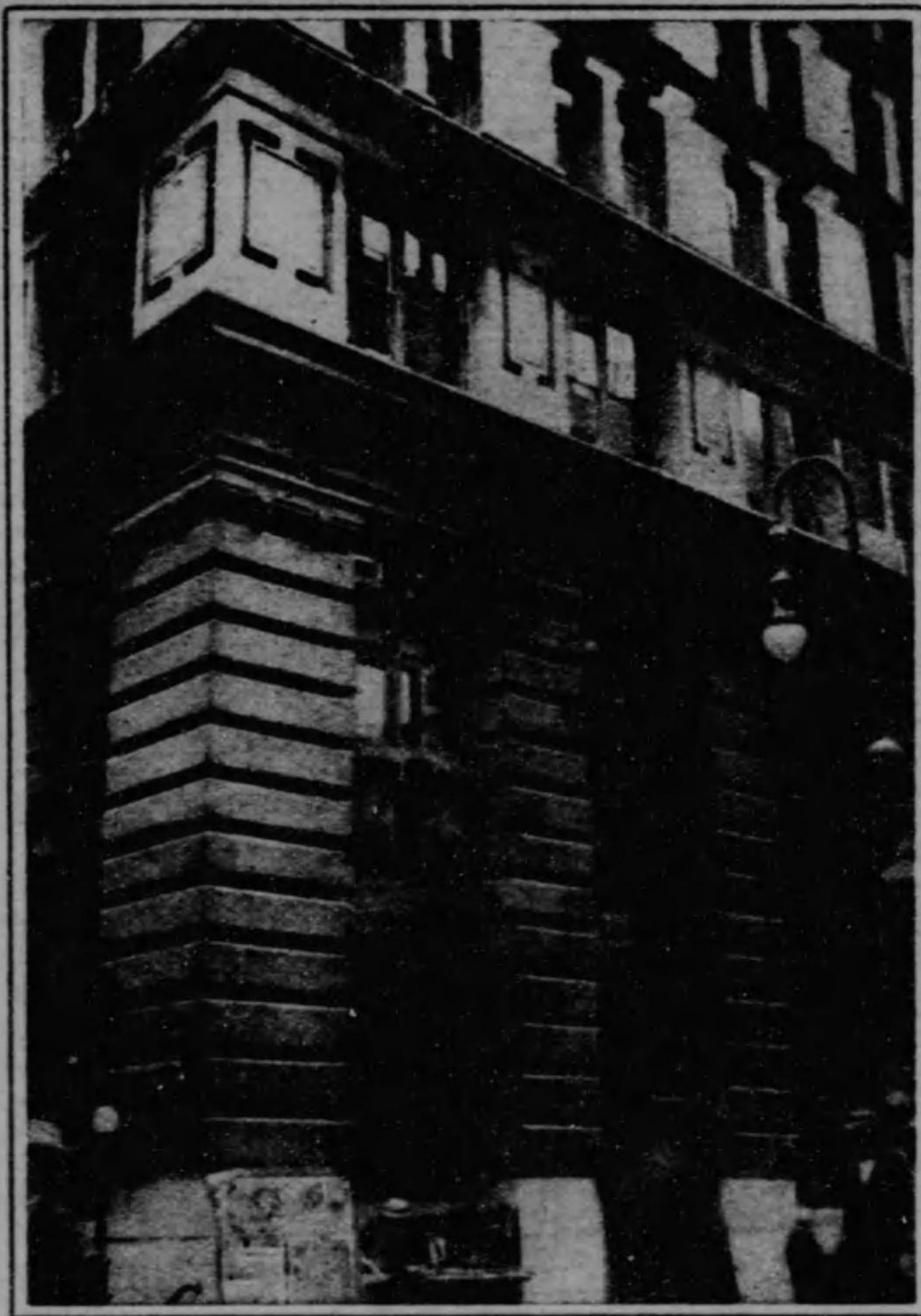
◇—盛育を雨へ疾風する急行地下鐵をウォール街で降り、人波に揉まれつゝ地の底から地上へ這ひ出して蘇生の思ひをすると、目の前にビルを縦にしたやうな殺風景な二十二階の建物が突立つてゐる。丁度ウィリアム街とペイン街の角、これが日露戦争中日本のため一肌脱いで軍資金調達を引受けた有名なクーリン・ロープ商会で米國財界ではモルガンと對抗して火花を散らしてゐる新太系の大資本である。

◇—日本最初の借金大使高橋是清老とクーリン・ロープ商会の先代ジェイコブ・シフとの奇しき因縁、そのシフが軍資金調達の功により勲二等に叙せられ明治三十九年日本に來た時は明治天皇が特にこの金融業者を御宴に御召しになつた。さういふ日本との古い密接な關係は餘りによく知られてゐることだが、殊に外債貸出といふものゝ殆ど無かつたウォール街に最初の日本外債を紹介したのがクーリン・ロープ商会だつたことは特筆に値ひしやう。復興公債にせよ横濱市債にせよクーリン・ロープが矢張り關係してゐる。

◇—クーリン・ロープが現在まで供給した資本はイヴニング・ポスト紙によると總額百億と見積られてゐる。がウォール街を歴してゐたこの老師の勢力も、生憎ドイツ系であつたため世界大戦を機として聯合國の金融を引受けたモルガン商会に凌駕されて了つた形だけれど、米國投資市場におけるその地位は矢張り大したもの、一にモルガン、二にクーリン・ロープで、この兩大團の取組はいつも見ものだ。この専門は鐵道金融だが、目星しい内外公債、市債、社債には大抵關係してゐる。一九二七年上半期だけでも二億五千萬からの新資本を供給した。

◇—この商会はたつた四人の組合組織すなはちモーチマア・シフ、オットカーリン、フエリックス・ワーバアグ、ゼローム・ハノーアの四人がパートナーである。モーチマア・シフは故ゴジブエー・シフの後継者、これを援けるワーバアグはシフの親戚でウイリソン大統領當時、聯邦準備局顧問をつとめたポール・ワーバアグの兄弟またハノーアは組合員として一番新しい働き盛りである。カーリンはクーリン・ロープの大黒柱で世に知られた財界の元老、學識経験に富み一言一句が傾聴されるが、米國ではむしろ音楽家の數世主としてよりよく知られてゐる。猶太人であるせいか非常に音楽好き、メトロポリタン歌劇場の最高顧問兼取締役といつた役をつとめ、この歌劇場の抬舞台に上る音楽家は必ず一度はカーリンの前で試験されるほどの位無名の天才がかりしてカーリンに見出されて幸運をつかんだかれない。

◇—寫眞はクーリン・ロープ商会



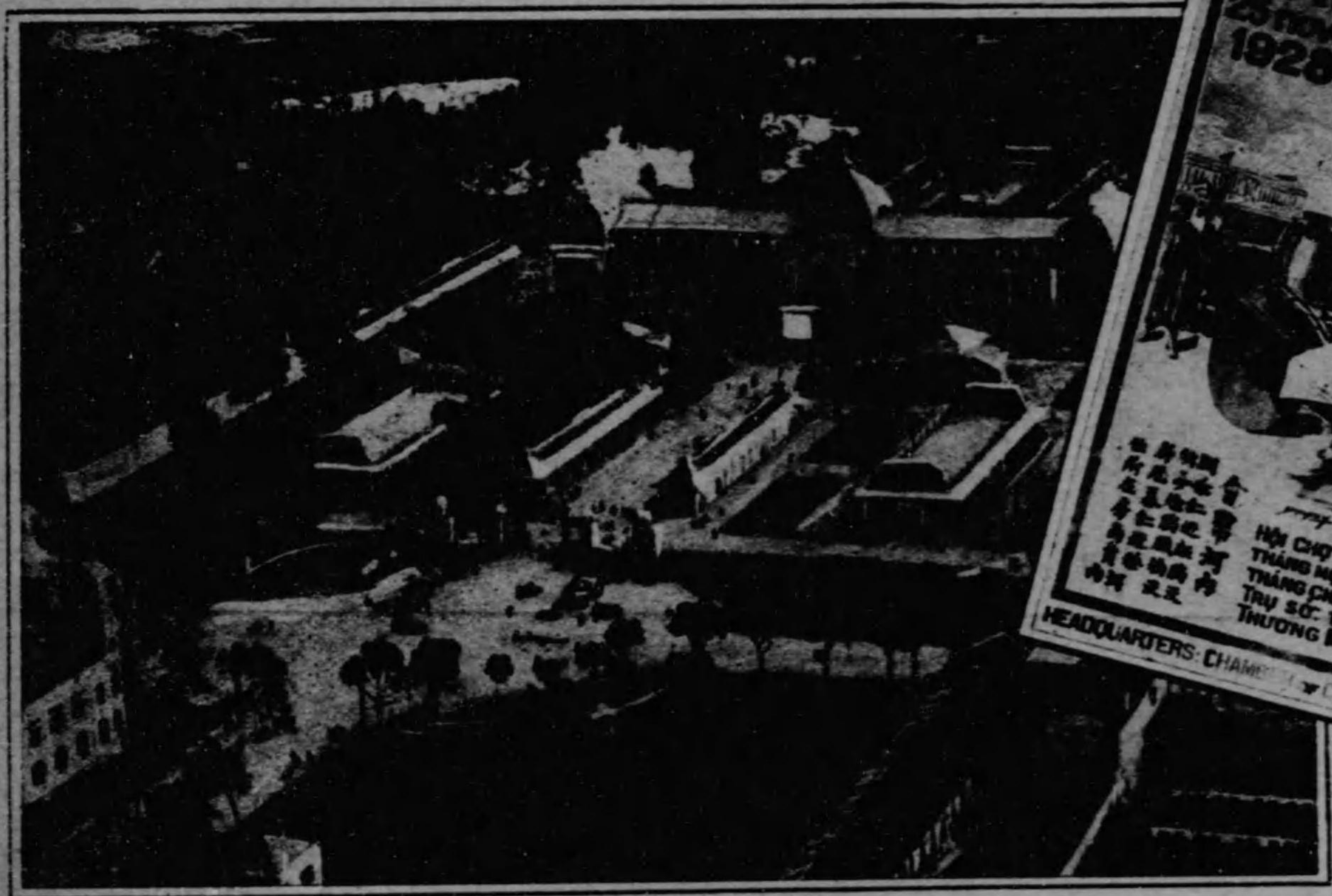
(43) ハノイの見本市

◆ 佛領印度支那のハノイでは、一九一八年以來、殆んど毎年の様に商品見本市を開いて、内外商取引の紹介、内地經濟の開發に勉めてゐるが、その第九回の見本市が、本一九二八年十一月二十五日から約半ヶ月、同地商業會議所の主催で花々しく開會されやうにしてゐる。

◆ 前同即ち第八回の見本市（一九二六年）は入場者數約八萬三千人、その期間中に行はれた商取引の總額二十二萬二千ドル（約百八萬圓）で、わが國からの出品も五千八百ドルあまり（二萬八千圓）の取引高があつたといふ。

◆ 尤もこれ等入場者數にせよ、商取引高にせよ、その前同一九二五年の市に比するに大分劣つてゐたさうだ。併し一九二六年度はトンキン地方が大洪水の爲めに荒らされた擧句で、地方土人の懐具合も大分淋しかつた筈だから、同年度の市の成績が上らなかつたのも、無理もない次第といふべく、そこで今年にはウンミ奪發して前回の不成績を挽回するのだと、彼地では今官民協力、見本市の準備に大業である。

◆ 寫眞は第八回ハノイ見本市の宣傳ポスター



(41) 映畫王國の宮殿

◇—米國の自動車工業が世界自動車工業の八割、電話業も同じくその六割三分を占めてゐることはよく知れたつてゐるが、全世界の活動寫眞事業の八割を獨占する米國映畫事業の經濟的重要さに至つてはヤゝもすれば看過される嫌ひがないでもない。スツカリ市場を占領されて了つたこのころになつて如何に各國が騒ぎ出したところで結局後の祭り、地球は既に米國製フィルムでぐる／＼巻きに巻きしめられてゐる有様で、なか／＼この騒ぎを脱し得る日は來まい。イギリスは盛んに米書排斥を策してゐる、瀋洲は米書に重税を課する、オーストリーあたりでさへ外國映畫(即ち米書)廿本につき必ず國産映畫一本を上映する事なんていふ法律まで拵へてゐる、ドイツもこの手で米書輸入を企てたが偉大なオルマイテイ・ダラアの前にも足も出さず、第一の活動會社ウファが四百萬冊で米國獨にいはゞ抵當に取られた形となつてケリ、日本だつて御同様、我々の小遣錢の幾パーセントが米書にさらはれてゆく。

◇—活動寫眞を見にゆく米國人延人員は一週間に一億三千萬人(この木戸總額一九二五年には七億冊だつた)、活動寫眞は今ではパンや煙草やチューイングガム同様米國人の必需品で、米國の大産業中これ位急激な大發展をとげたものはない、一九二五年度の輸出米書三億一千萬冊、投資總額十五億冊、廣告宣傳費六千七百萬冊だつたが、こんな數字はモウ古いので、最近の統計は發表されないが映畫事業投資額はこのころでは二十五億冊に達するとさへいはれてゐる。何しろ全世界相手だから大變裝に金をつぎ込んで思ひ切つたことをやる、一本の映畫製作費だつて大したもの、未だに日本では封切されぬがナヴァロとマツカボイ共演の「ベン・ハー」なんかは製作費四百五十萬ドルといふ大したものである。

◇—映畫事業の急激な發展を示すのがニューヨークに新しく出來た二つの活動寫眞館パラマウントとロキシ、前者は工費八百萬ドル、後者は千萬ドル、何れもあの莊麗な映畫の殿堂で殊にロキシは六千二百人を容るゝ世界第一の劇場だ、パラマウント座だつて帝廟を五つ集めた位はあらう、この巨殿のやうな大建築を起して世人を驚かしたパラマウント社長ゾーカア君が十五六年前までは名も知られぬ一貧乏移民だつたんだから、米國映畫界のズバ抜けた飛躍ぶりも察がつく。

◇—寫眞はパラマウント劇場



(5) 『ロシア電氣共和国』

◇「社会主義への大道はロシアの工業化であり、ロシアの工業化の根柢は電化である。ロシア農業国がロシア電氣共和国になる時、その時こそ眞實の社会主義国が出来上るんだ。これがソヴィエト・ロシアの標榜であつて、電化がいかに重要な緊急問題となつてゐるかと思せられやう、何事もまづ、電化、電化である。」

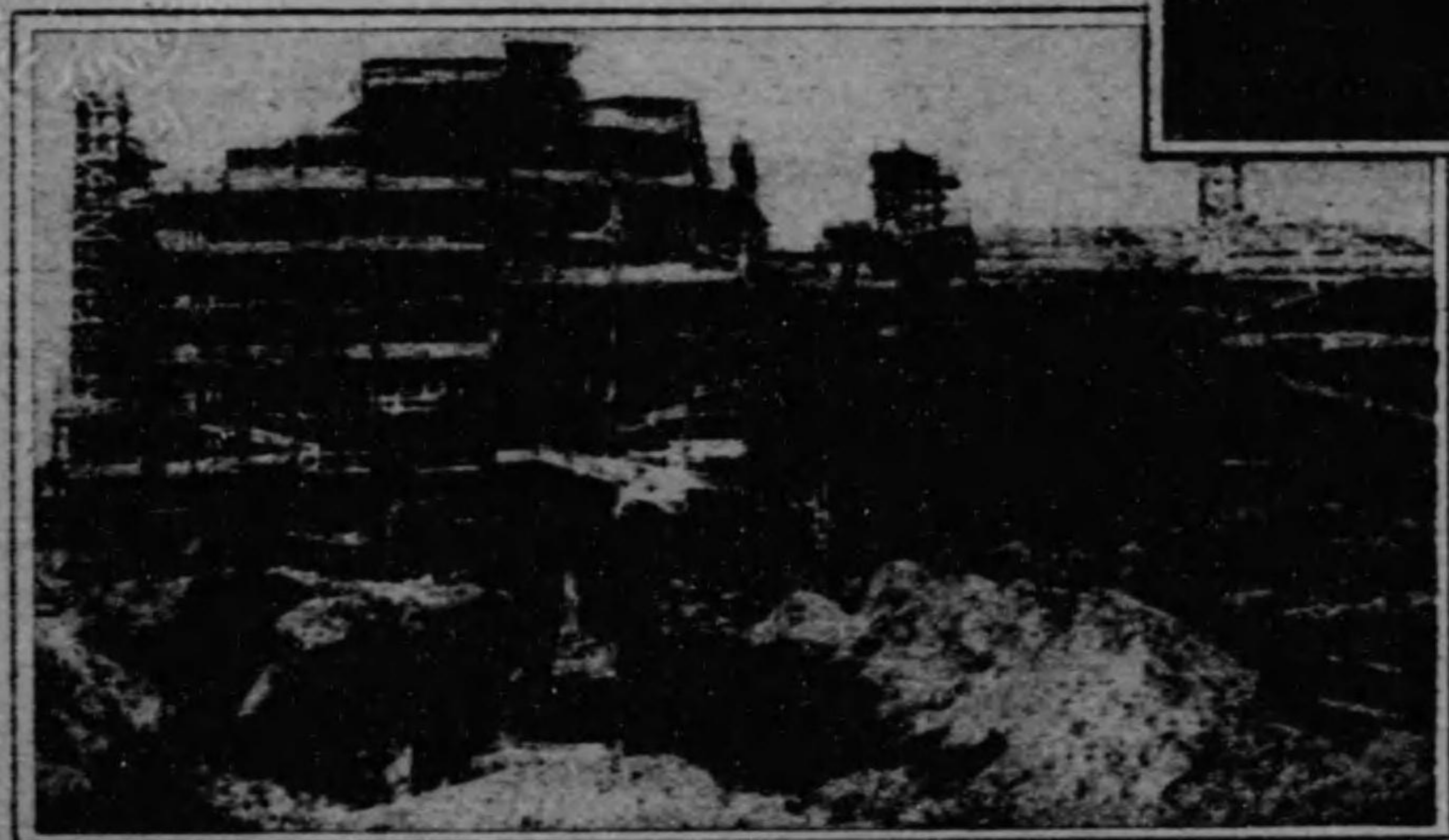
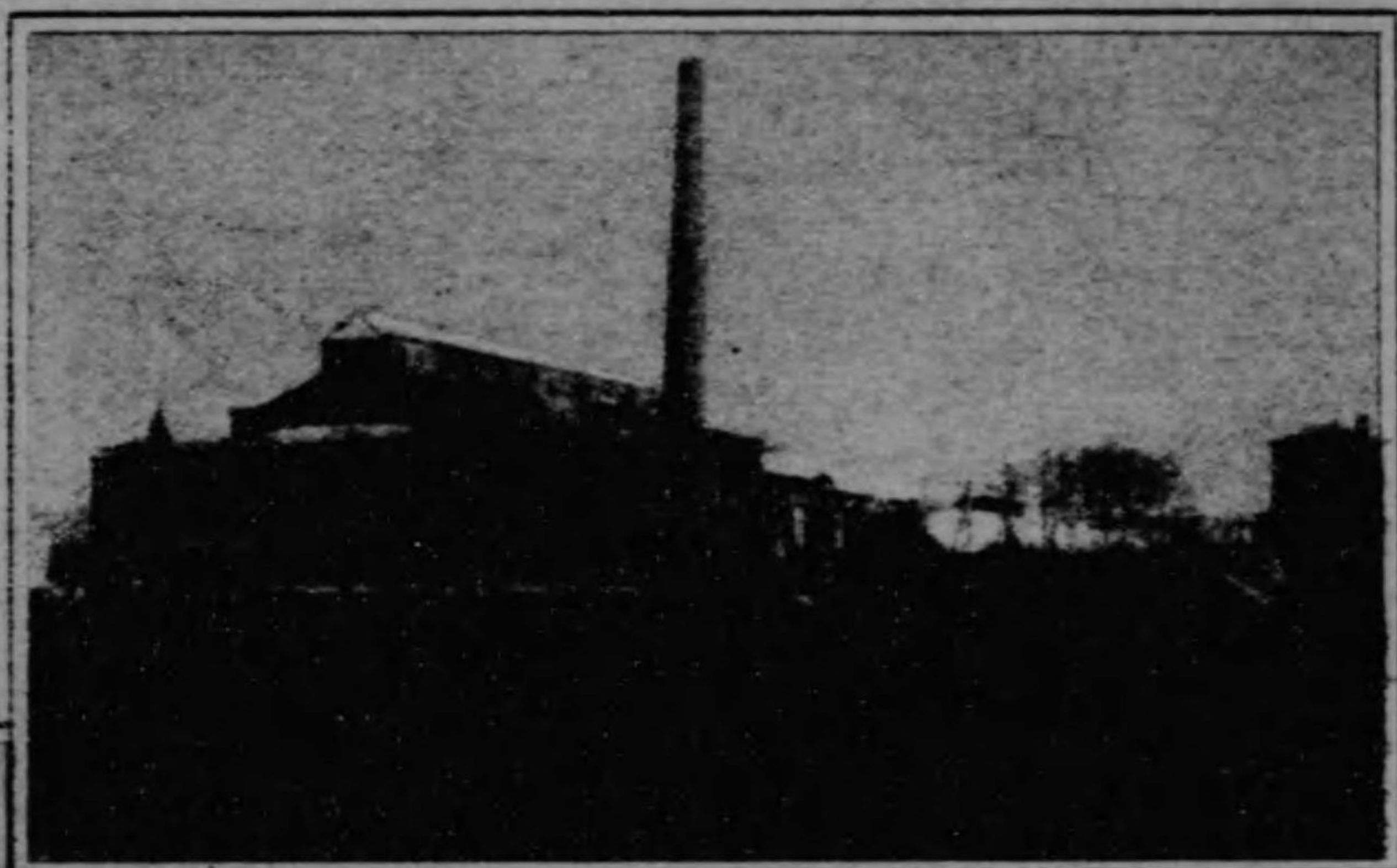
◇そこで一九二〇年にその道の學者専門家を組織したロシア電化委員会が組織され、工業に遅れた膨大なロシア國內に、十年を一期とするいはゆる「電化十年計畫」なるものが作成された。三十ヶ所に強力なる發電所（その中の十ヶ所は水力）を新設し、十年後には百五十萬キワットの電力を得やうといふので、苦しい財政をきりつめ、その建設費に十二億ルーブルの巨費を計上したのである。

◇そして各發電所を統一し、電力の中央集中を圖つて、あの膨大なロシアの隅から隅まで、ランプだけしか灯火といふものを知らぬ百姓の陋小屋までを電線で完全につなぎ合はさうといふのだ。

◇一九二〇年度におけるロシアの發電所は六百ヶ所、四十二萬キワットに過ぎなかつたが、一九二二年度には一萬キワット、一三年には一萬二千キワット、二四年には一萬六千キワットと逐年増加し、二六年には一躍して十四萬六千キワット、二七年には更に二十五萬キワットの増加を示した。

◇殊にロシアが自慢してゐるのは、今日問題となつてゐる原動力としての泥炭の使用で、ロシアの大産業地帯たるモスクワ、レーニングラード、ウラル等には無盡蔵といつてよいほど泥炭があるので、水力、褐炭のほかはこの泥炭を用ひて効果を擧げてゐる。たゞ南滿及コーカサスだけは豊富な石炭、無煙炭、石油を燃料としてゐる。

◇寫眞はウラル山中のキゼル發電所の一部（上）とシヤトウル發電所の建設中の光景（下）

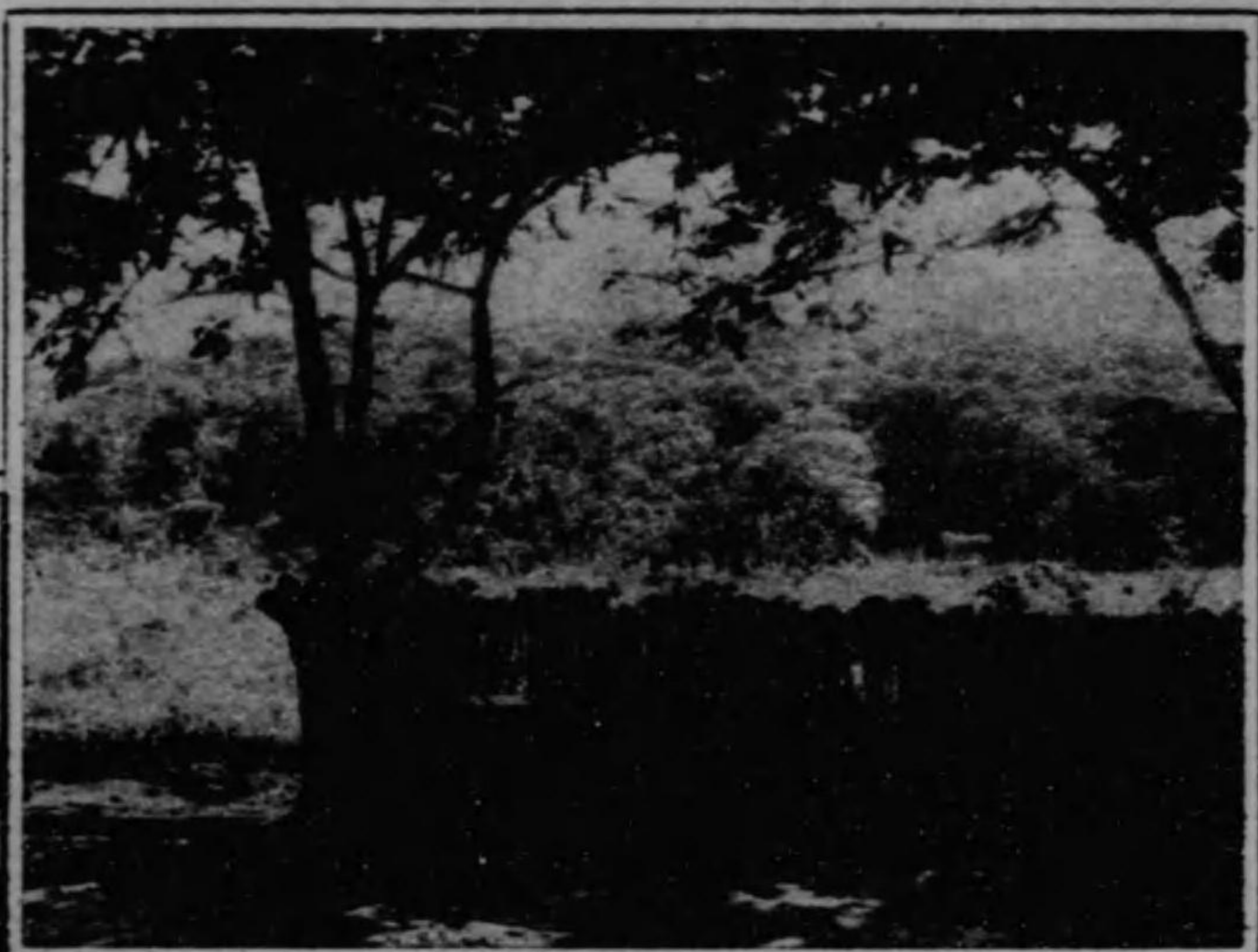


(46) 日綿と東アフリカ

◇——歐洲大戰後における英帝國の經濟政策中最も注目すべきもの、一は優良棉花の自給政策である。彼英帝國は右手に劍を棄つるに共に左手に鐵を取つて起つた。その廣大なる海外領土にわたつて棉花の試植を行ひ、その結果最理想地として東アフリカのウガンダ、タンガニカ及スーダン三地方が擧げられ、以來銳意眞劍の努力は酬られてウガンダにおいては既に年額二十萬俵の優良棉を産してゐる。タンガニカは少しく遅れて近ごろ漸く棉作經營の緒に就いたところであるが、將來はウガンダ以上に有望視されてゐる

◇——吾國の棉花會社、すなはち日綿、東棉、江商の三社は早く社員をウガンダに派し、同市場においては英國につぐ大手筋としてウガンダ棉の買付に従事してゐるが、殊に日綿ではこれら東アフリカ地方への永久的投資に着目し、一九二六年七月、タンガニカ領のミケシに棉花工場三千餘英丁のゴム園を買取し、つゞいて十月、ウガンダ國アソガ地方の六ヶ所に棉花工場を獲得、心身強健の社員がこれら東アフリカ奥にたむろして全棉産地にわたり土人農家から直接實棉の買付けに活動し、わが海外發展のために氣を吐いてゐる。

◇——寫眞はタンガニカ委任統治地ミケシ地方に於る日本棉花のゴム園(上)ミ同地方に於る日本棉花の繰綿工場(下)



(47) ベル・システム

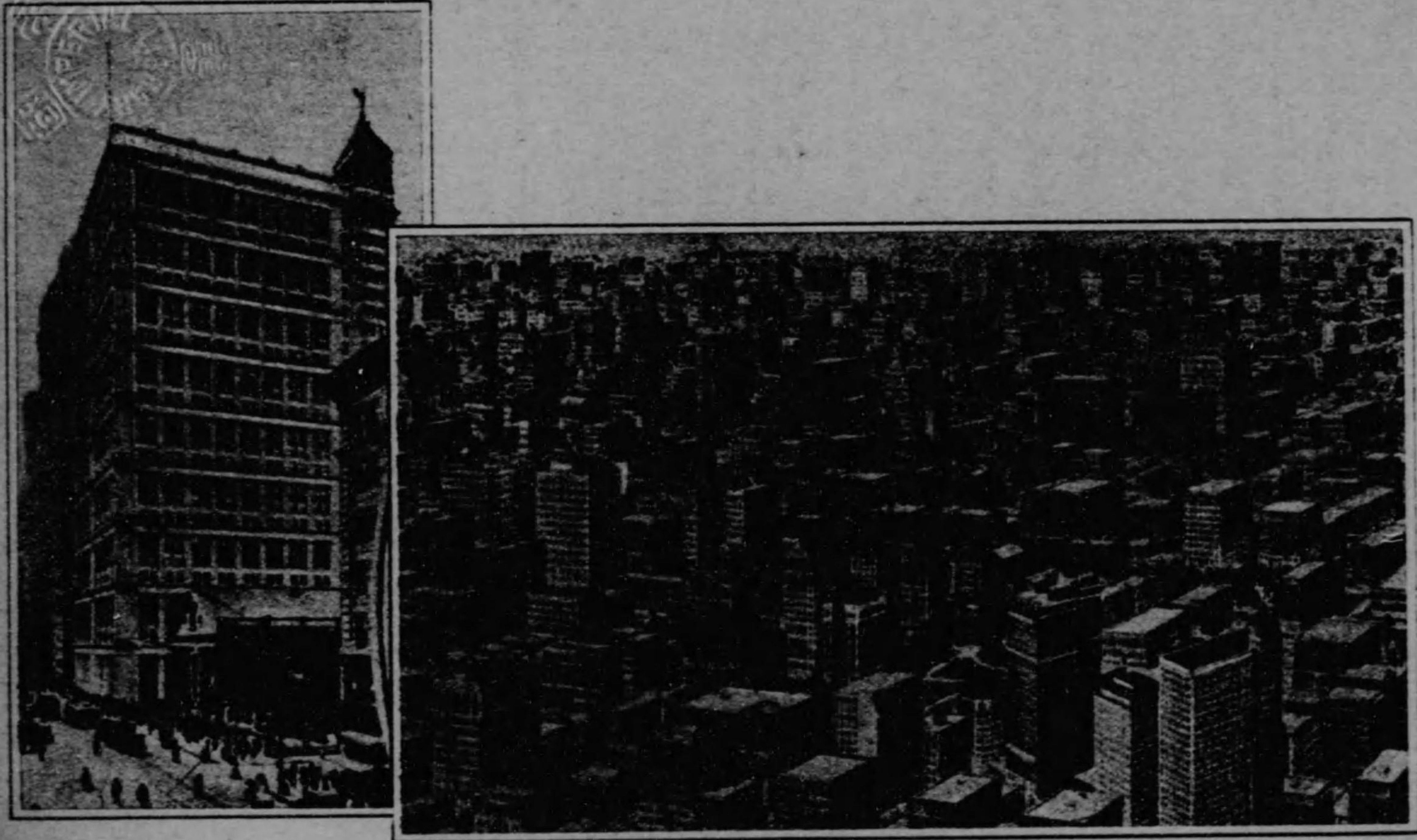
◇——一八七六年三月グラハム・ベルが電話機を發明して、ボストン市エキゼター・ブレイスに在つた實驗室で初めての通話に成功するや、地元ボストンにベル電話會社が創立され、ベルが得た二十年間の特許を利用して電線の架設、交換局の建設維持など電話事業を獨占したが、

◇——越えて一八七九年ボストン、紐育間に始めて市外電話の架設を見るに及び、新たにアメリカ電話電信會社が出来て市外電話事業を主宰すると共に、ベル電話會社の市内電話事業に對しても資金の供給、技術的統制を行ふこととなり、更にこれ等會社御用の電話機その他電話用品の一手製造を引受けたウェスターン電氣會社を加へて、こゝにはゆるベル・システムの骨組が出来上つた。

◇——一八九五年ベルの特許期限が切れ、ベル・システムの獨占權も從つて消滅してからは、システム以外の會社（普通インデペンデント派と呼ばれる）が各地に起り、特に自動交換機の採用等ではベルに劣らぬ成績を挙げてるものもあるといふが、大體においてなほ對抗的勢力を得るに至らず、まだ米國の電話事業界はベル・システムの獨占場である。

◇——就中一億四千萬磅の資本を擁するウェスターン電氣會社はホーニー、カーニーの兩大工場、全國三十四の支店における従業員總數四萬五千、一年の賣上高二億六千萬ドル（一九二六年度）といふ天晴ベル・システムの花形役員である。

◇——写真は紐育のアメリカ電話電信會社本部（左）と、ベル・システムに關する建物の中その五分の一を撮影し集合したもの（右）



(48) キュバと砂糖

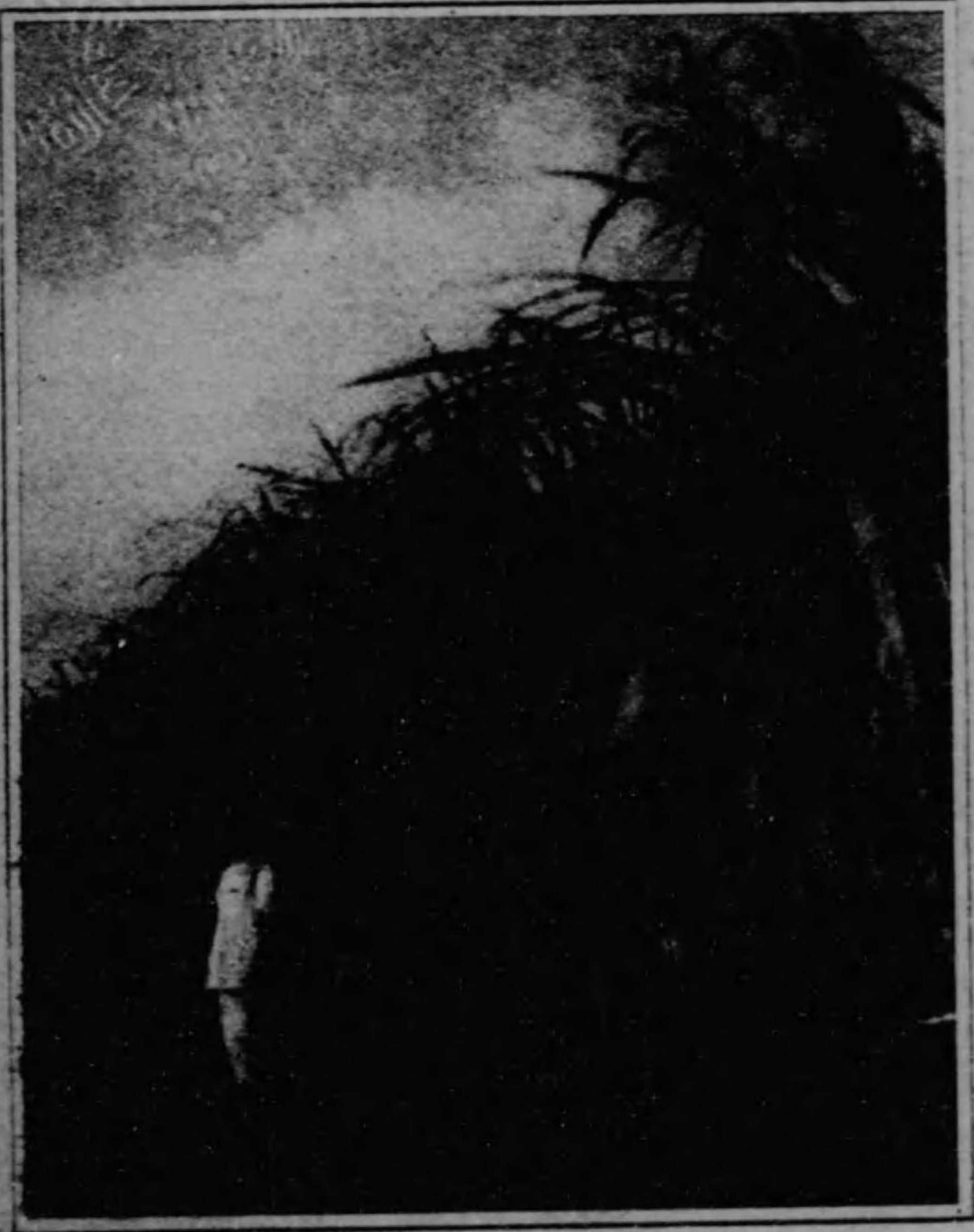
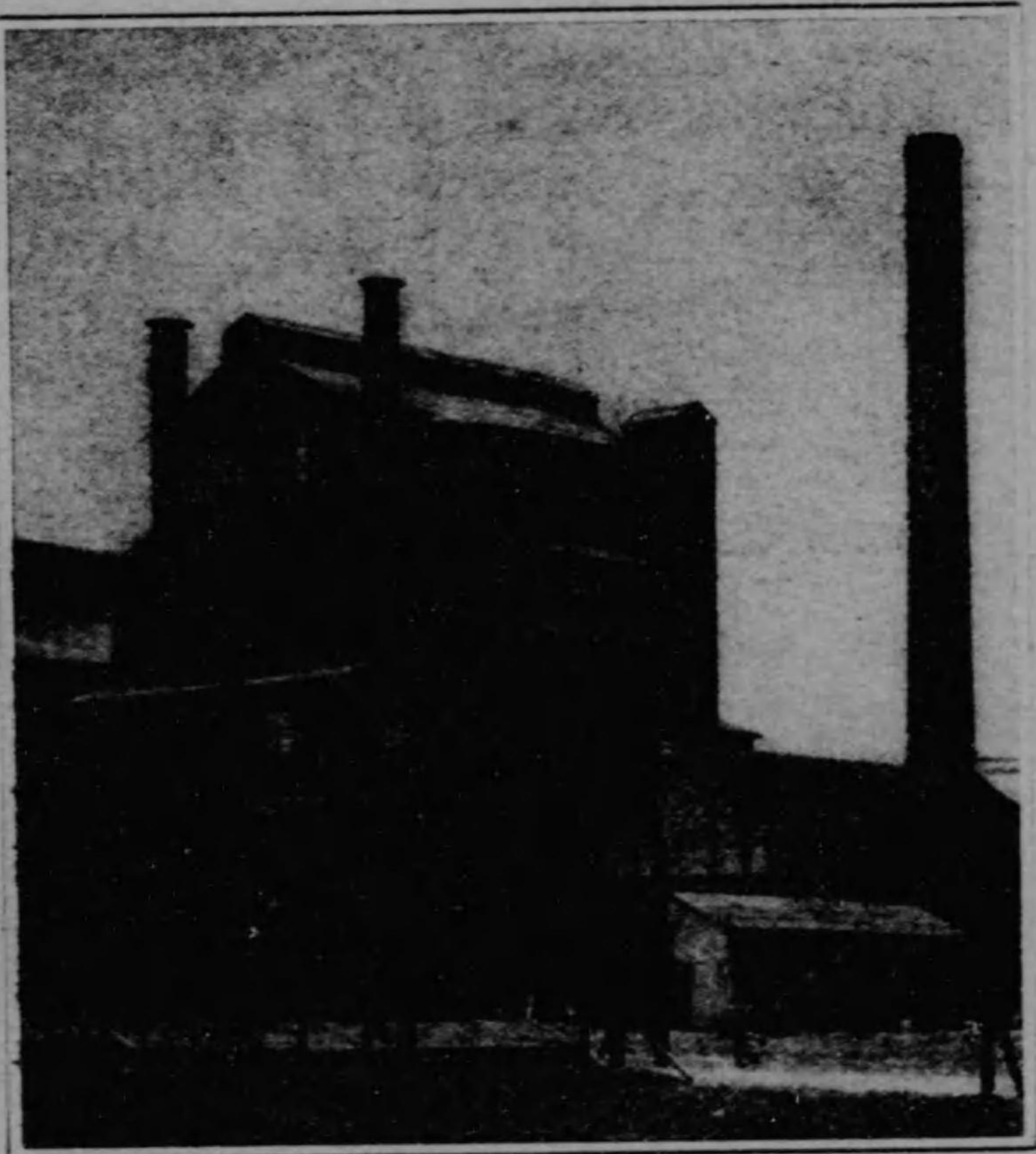
◇—メキシコ海外の島共和国、面積四萬四千方哩に過ぎぬキュバでも、天
奥の豊饒に恵まれては遙かぬ存在の意義がある。パナマをこの島國キュバ
の首都と知らぬ人はあつても、煙草ハバナの名は古くから葉巻の王、殆ん
どその代名詞となつて、芳香煙の薫るところ、曾く全世界に喧傳され
たものだが、

◇—今のキュバは砂糖のキュバである。一九二六—二七年度における甘蔗
糖の世界總生産額は千六百萬屯、キュバの産糖四百五十萬屯はその四分の一
以上に當る。しかもこの四百五十萬屯は、辛くも大統領令で押へつけられ
た強制的生産制限の結果で、若しも自由な生産が許されるなら五百萬屯は
おろか六百萬屯でも出来兼ねまいといふ。

◇—だがさう無暗に作られると免れないのが供給超過、置いてお定まりの
糖價低落に見舞はれると、第一に困るのが砂糖畑の投資家や砂糖工場（右）の資
本主で、しかもこれ等資本家の大部分が、今をときめくヤンキー君と來てゐ
るので始末が悪い。「泣く子と資本家」こそは二十世紀に通ずる好傳言、そ
れやこれやで一九二六年、キュバ産糖の四百五十萬屯制限が大統領マカド
の名を以て強制され、内地栽培者の反對に拘らず今年はこれを更に四百萬
屯に引下げてしまつた。

◇—顧る一八九八年、漸く專政國西班牙の覇權を脱した島キュバは、獨立
自由三十年にして再び萬國の金權に屈服し去るのではないか、何ほ砂糖
の國チヤとてさう甘く見て貰ふまいと、時には嘆阿も切らる必要かあらうと
他人ごとながら拳を握るものもある。

◇—寫眞はキュバの精糖工場（右）と甘蔗畑（左）



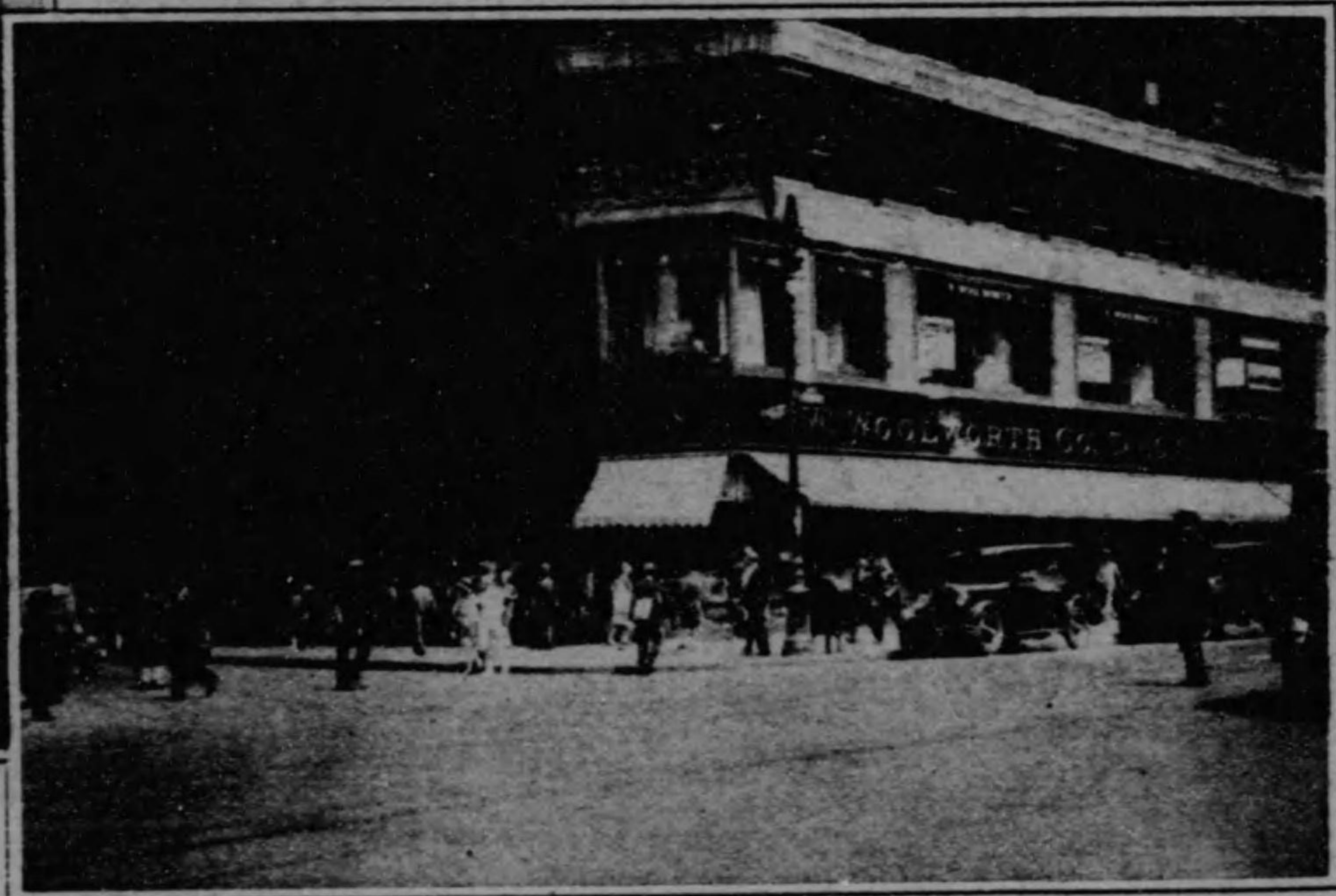
(49) ウールウオース均一店

◇—米國では中産階級の新婚夫婦は連鎖店の親玉ウールウオースカクレンチ均一店へ出掛けて肌、小鉢、ナイフ、フォークは申すにおよぼず五セント、十セント均一の世帯道具を買集める。まさか風呂桶やピアノは十セントでは賣つてゐないが、人間生活に必要な日用品はまづ大抵揃つてゐる。嫁入娘の娘ア子は、ダイヤや真珠——勿論ニセ物だがホン物に見えない事もない——の腕輪や首飾りをこゝで求め、會社員は靴下からネクタイ、さてはラヂオの様なものまでここで買込む、どうしてこんなに安いのかと買ひに来る客の方が首を傾げる、大資本を動かした大賈の同一商品を直接生産者から買取り、これを全國に鎮のやうに繁つて散在する自分の店で販賣するチェーン・ストア制度の普及は、どれくらゐ一般人の家計上の負擔を軽くし、彼等の日常生活に貢獻してゐるか判らない。

◇—一九二七年度の全米三十の主要連鎖店売上總額は十九億磅であつた、その中には仕入原價で賣つた額、原價以下で賣つた額も相當にあるといふので、連鎖店が故意に生産費以下で商品を買取る事はいけないなどと、聯邦通商委員あたりでは問題にしてゐるが、流石に損をする時はしても抜け目なく大儲けもしてゐる。

◇—米國一を誇るウールウオースの一九二七年における売上高は二億七千二百萬磅、純益は三千萬磅に上らうといふ。米國とカナダに設置した連鎖店が總計千四百八十、英、佛、獨三國へも手を延ばしてゐる。近くはキューバにも店を出した、が零細な五仙、十仙の商品を運べて細かい客を相手にしてゐながらこれだけの商賣をするには、やつぱり米國ほどのところはあるまいと思はれる。

◇—寫者はウールウオースビルディング(左)とその最下部(右)



(50) 來朝したラモント氏

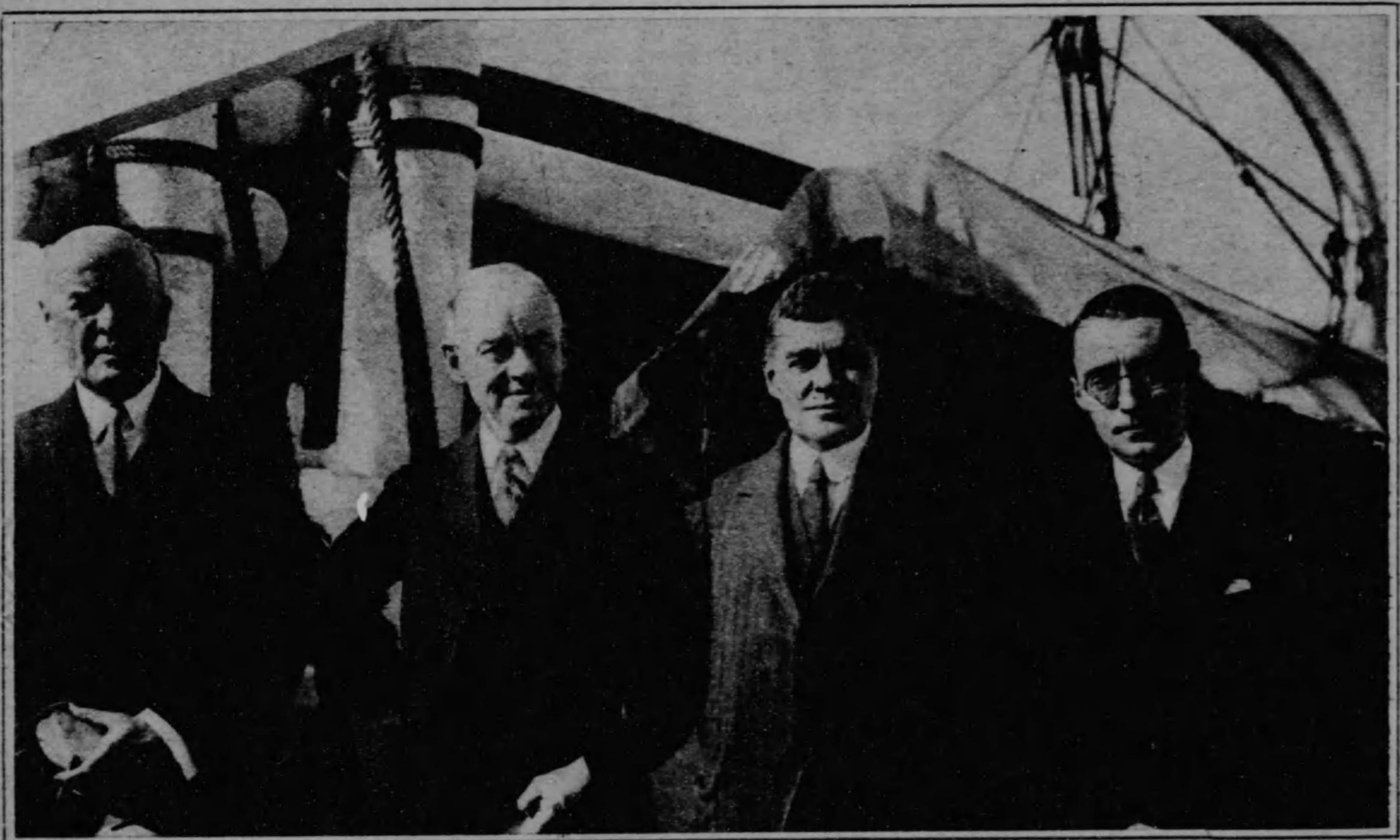
◇—モルガン商會を紹介した序でに(三三回)、その大番頭ラモント氏のこともつけ加へておいたが金の光か身の徳かこの大人氣者、一九二七年十月午に引かれて善光寺ならぬ秋晴れの日本に押し渡つた。この米國財界の大立物の來朝は時節柄多大の興味を以て迎へられ、渡日の目的について種々の臆測が行はれたが、氏が日本訪問を思ひ立つた動機は牛の投目の善賢吾氏が前年ラモント氏に會つた時、一度日本の經濟力の實際を見てくれといつたにはじまつたので、善賢の意圖は世界の金融士モルガンの大番頭たるラモント氏の鋭い眼で、日本の實力を知つて貰ひそれを世界に吹聴して驚かしたいのだといふ。

◇—そこでラモント自身は何らの目的使命もないといつてゐるが、實は日本國から大きな使命を背負はせてゐるわけである、けだしラモント氏は世界各國の理財家、海山千年の財界の猛者連を相手に手廣い金融をやつてゐてもかつて敵を作つたことのない圓滑脱線り、それにどんな問題が出て来てもピタとさせぬ圓太さとならゆる事件を片づ端から小氣味よく裁斷する明敏さを有つてゐる、しかも大の日本熱狂で大正十三年の日本外債引受などには親身に骨を折つてくれたものだ。

◇—かくも親日家であり卓越した金融家であるラモント氏に日本の實力を理解して貰ふことはひとり善賢のみの願ひではない、横濱市債を引受けるときなど善賢が着いてから四十八時間できめてしまつたといふ話がある。

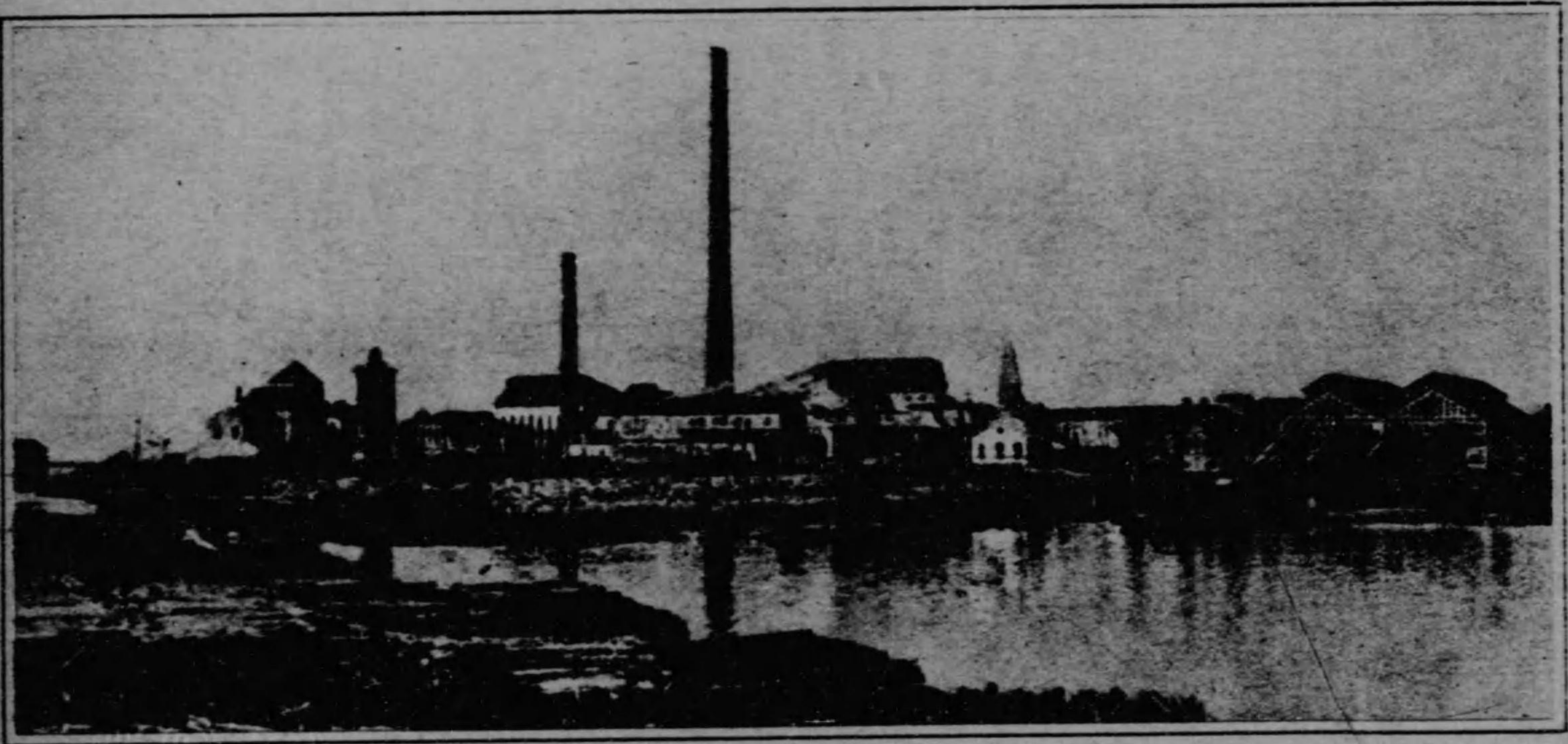
◇—そのラモント氏は一八七〇年ニューヨークのタレイブラフクに生れ、ハーバート大學を出てから暫くニューヨークトリビュン記者をやり後イダニングポストの社主として働いてゐたのをモルガンの前大番頭デビソン氏が見出してパンカース、トラストを振り出しにファスト、ナショナルバンクの副社長を経て一九一一年遂にモルガン商會に引入れた、商會内ではデビソン氏が内務大臣ならラモント氏は外務大臣といふ格で世界大戦中聯合國の金融及び物資供給を殆どこの一手に引受けてゐたが、パリ講和會議に際してはデレグー・ト・メンバリーの顧問として又國際經濟界の立役者として畫策大いに努めた、そしてデビソンなき後は殆ど一人でモルガンを背負つてゐる、日本訪問は二度目で先に一九二〇年對支四國借款團會議のとき以來である。

◇—寫眞左より—イーガン氏、ラモント氏、法律顧問スミス氏、秘書サンダース氏、一九二七年十月三日横濱にて寫す



(51) ウデホルム会社

- ◇ 北歐唯一の工業國スエーデン、鐵も出れば石炭も出る、國土の半を覆ふ千古不知斧鑿の森林を背景に、製材、ペルプ、製紙などの諸工場が、盡くることなき國富の還元に、不斷の黒煙を息吐く。
- ◇ そのスエーデンでウデホルムといへば製鐵、製材、製ペルプと主要工業を一手に握つて、二百五十年の歴史と最新の設備を誇る同國一の大會社。
- ◇ フイリツプスタットはスエーデン最古且つ最大の鐵礦區であるが、早く一六六〇—七〇年といふころに、この地方の探製はすでに特許によつて占有し盡され、かつ鐵工所の新設まで禁止せられてゐたので、わがウデホルム鐵工所は一六六八年、フイリツプスタットからは原礦は一切買はない、木炭の供給さへも受けぬといふ條件の下に、この鐵礦區の二十五哩外に漸く設立のお許が出たものである。
- ◇ 工業は始めたものゝ苦難のウデホルム、右鐵礦區以外の遠近をあさつて少しづつ、の原礦を求めたり、運送道路や木炭製造のために廣漠の林野を購入したりして、とにかく經營を續けてゐたが、一八五〇年に至つて製鐵に關する小喧しい特許や禁止が撤廢されると、ウデホルムも漸く息をつき、それからは敢らばつた工場を集中する、鐵道を敷く、他の工場を買収するといつた調子で、トン／＼拍子に膨張して、
- ◇ 殊に面白いのは昔買った五十二萬英畝にわたる森林が、木材としても勿論だが、製紙や人絹原料の木材、ペルプとして芽をふき出し、今では製鐵と相重んでウデホルムの主要事業の一つ、またこれだけ廣い土地のことゝて瀧もあれば川もある、一九二六年の自家發電機が一億八千萬馬力、そのうち七千二百萬馬力が備用、五千四百萬馬力が電動力及び燈火、電熱、二千萬馬力が蒸氣力へ、一千萬馬力が電解用等々々と、ウデホルムの絶對的強味である。
- ◇ 百餘はシエガールにおける同會社の木工、製材、ペルプの工場



(52) ノルウエーの漁業

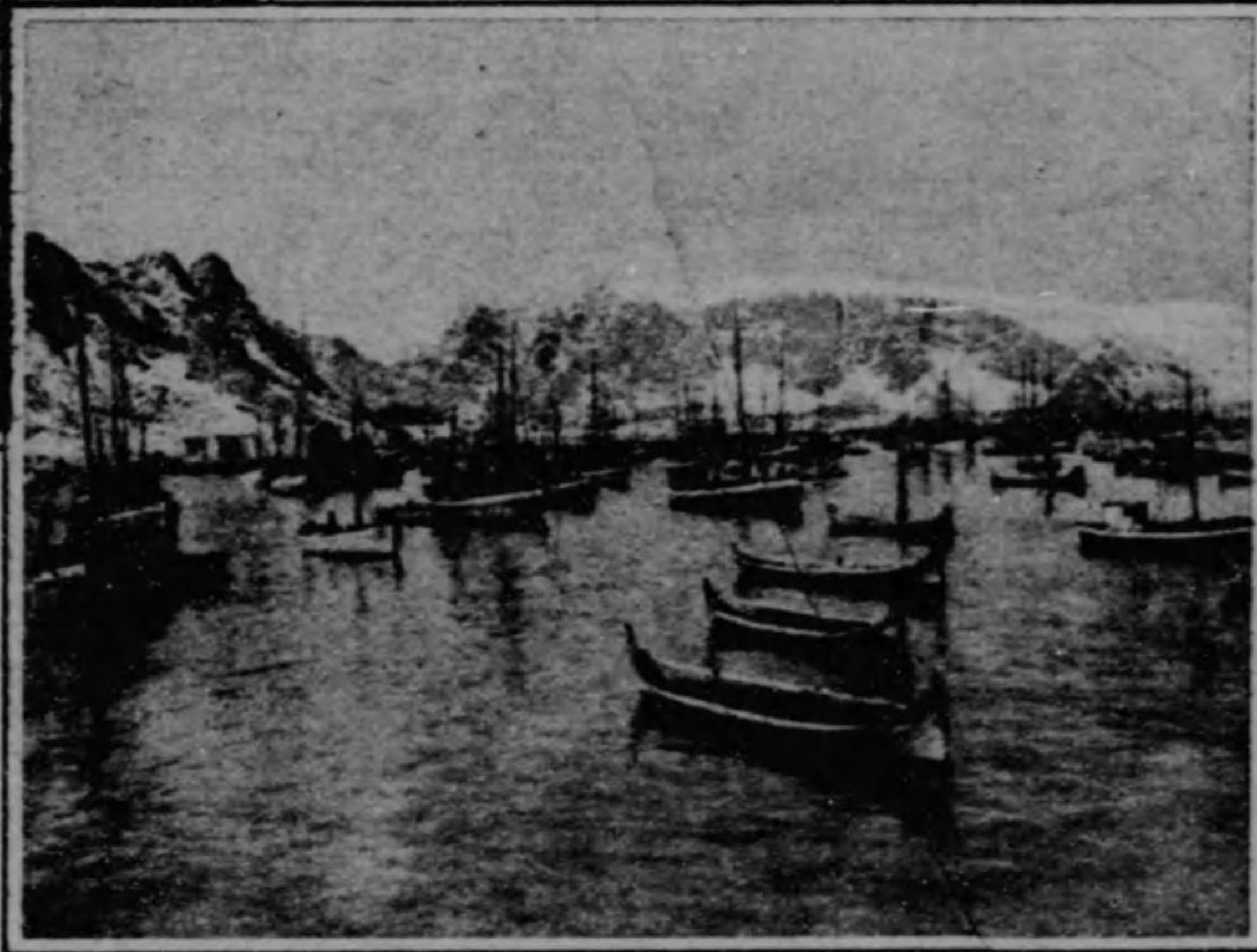
◇—スエーデンのウデホルム(五一回)を紹介したついで、お隣りのノルウエーまで足をのぼすと、こゝ氷河の國、フイヨルドの國、更に我等がノルウエーは世界有数の漁業國で、鱈に蟹に鯖、それから曹通プリスリンドと呼ばれる鱈に似た小魚の類、ノルウエーの地位が地位だけに、日本などに較べて魚の種類こそ少いが、

◇—北海およびその北部、ノルウエー海からアイスランドのあたりにかけては無比の好漁場、漁獲物の一部は羅語になつて、手近な英、佛、獨はいふに及ばず、カナダや米國、エジプト邊から遠く濠洲、南阿まで海越え山越えて貧富とりくの食糧を賑はす。

◇—この漁業従つてまた羅語工業の中心が北にベルゲン、南にスタヴァンガー、極北の町々に眞白い冬が立ち、やがてクリスマスも過ぎゆくと鱈漁の季節になる、まづ始めが冬鱈、それに續いて春鱈、一九二六年の鱈漁獲高はメテ百三十萬ヘクトリツトル、

◇—鱈漁も時季は大體同じころ、冬から春へかけて約八千九百萬尾、それから鯖の六千トン、いはく何、いはく何と述べたてると限りがないが、とにかくこれらの漁獲物が或は干物となり、燻製となり、鹽物となる、一九二六年における鱈油の輸出だけでも六千屯、更に同年度の魚鱈詰の輸出を見れば三萬七千屯、五千一百萬クローンとある、さても盛んなる海の幸。

◇—寫眞は北ノルウエーの漁港(下)と羅語工場(上)



(53) 大西洋四日航路

◇「時は金なり」などときいた風なことを諷かいひ出したかは知らないが、兎にも角にも事實は正に金や時間が仇の世の中、リンドバーグが三十二時間で大西洋を横断する時代に、汽船だからとて同じ距離を六日も七日もかゝつてよい理窟はないと、そこは人の鼻を明かすことの好きな米國のこと。

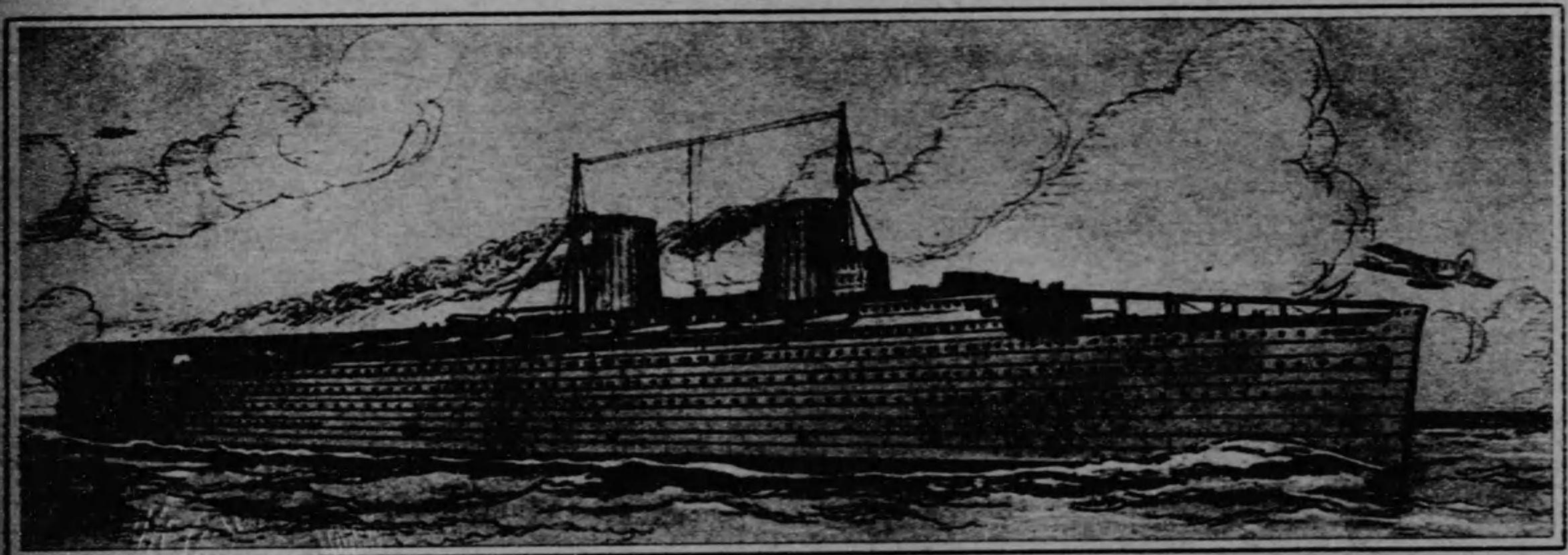
◇—アメリカ・ブラウン・ボヴェリ電氣會社の造船部長ローレンス・ウィルダー君が資本金五千萬の船會社を起し、三萬五千屯の客船六艘でもつて大西洋を四日で突つ走らうといふ計畫をたてた。

◇—尤もこの計畫が船會社に提出されたのが本年（一九二八年）一月のことだからまだ海のものとも山のものとも判らぬ譯だが、とまれこの巨額のプランといふのが、屯数は前にもいつた三萬五千屯、速力三十三節—全速三十五節、輸送能力旅客八百人と貨物千トン、二十四機の飛行機を備へて陸上との連絡に便する、それから多量の郵便物、この建造費一億につき二千百萬ドル也。

◇—六隻では一億二千六百萬、その四分の三の九千四百五十萬は政府保證で低利の金が借りたい、船體保險は九百萬に限りそれ以上の損害は前記の借金と導引を願ふ、他船に比し速力も早いし航海度數も多いのだから、郵便補助金を海山百ひたい等々々、船會社に對する發起人の注文は随分強いのいゝものだが

◇—一口緩急の囀にはこれだけの船が悉く飛行母艦に早變り、各百の船隻を格殺して、一踏大洋へと駈道は通つてゐるので、噴嘩に便利なパンのし棒、相手は金に苦勞のない米國政府だ、要外容易くオライと来て、近々中に大西洋が、も一周り狭くなるかも知れない。

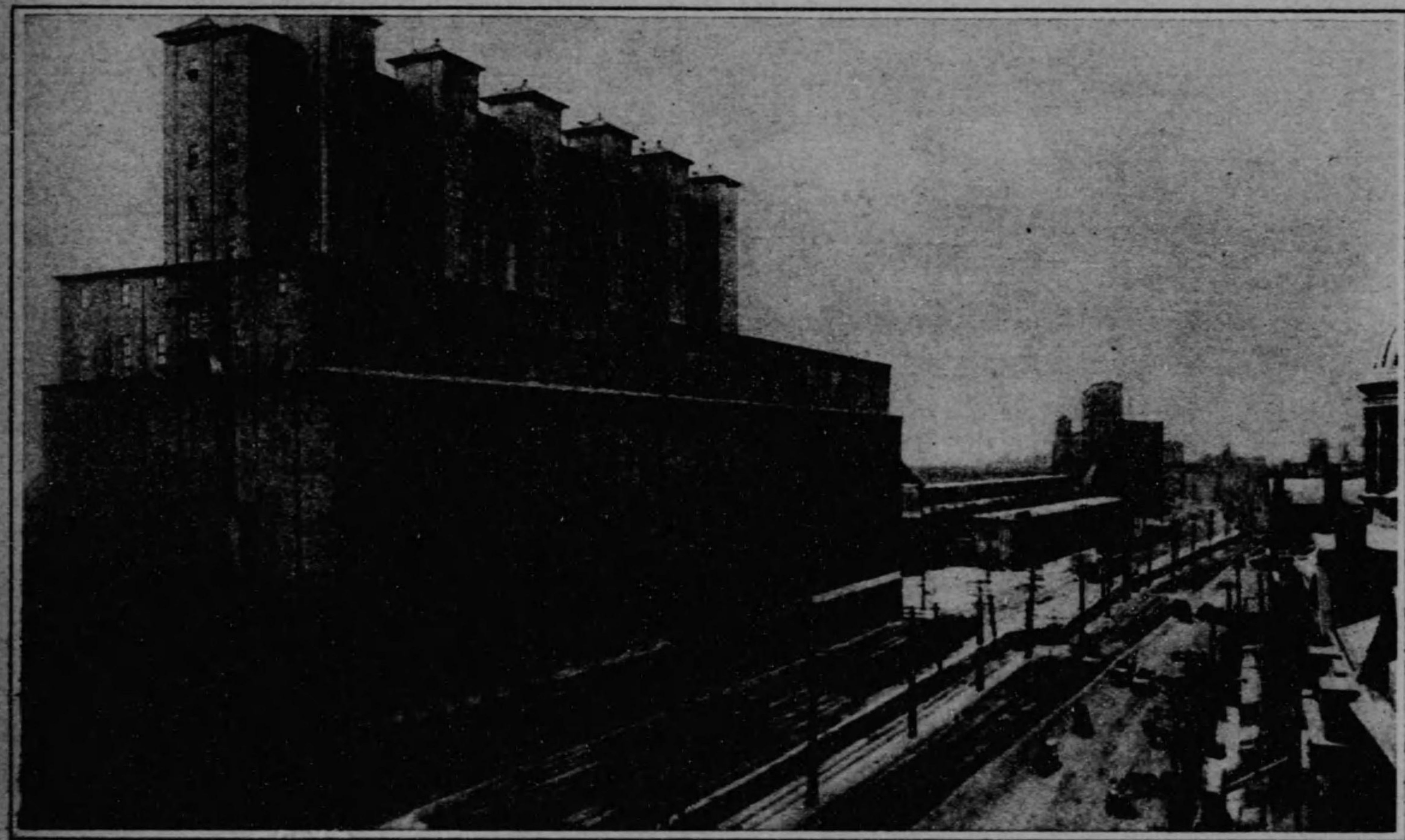
◇—寫眞は大西洋四日横断船の建造圖



(54) 加奈陀の穀物倉庫

◇——主食物としての小麦はその集散量にせよ、相場の動きにせよ、米なき、違つて全く世界的で且つ大量であるから、これが貯蔵の機關もまた従つて一層重要な意義をもつてゐる。小麦の貯蔵はすべて「バラ」であつて、歐米の小麦産地又はその集散地には百五十屯乃至九百屯を容る、大小倉庫が隨所にあり、農業經濟上十分の機能を發揮してゐる。

◇——寫眞は加奈陀モントリオルの穀物倉庫農地から運びこまれる小麦は、階下の土間よりエレヴェーターの仕掛で最上階に酌み上げられ、精清機によつて塵芥を除去した後、品質別に區別貯蔵される。



(55) ハバナの海壁工事

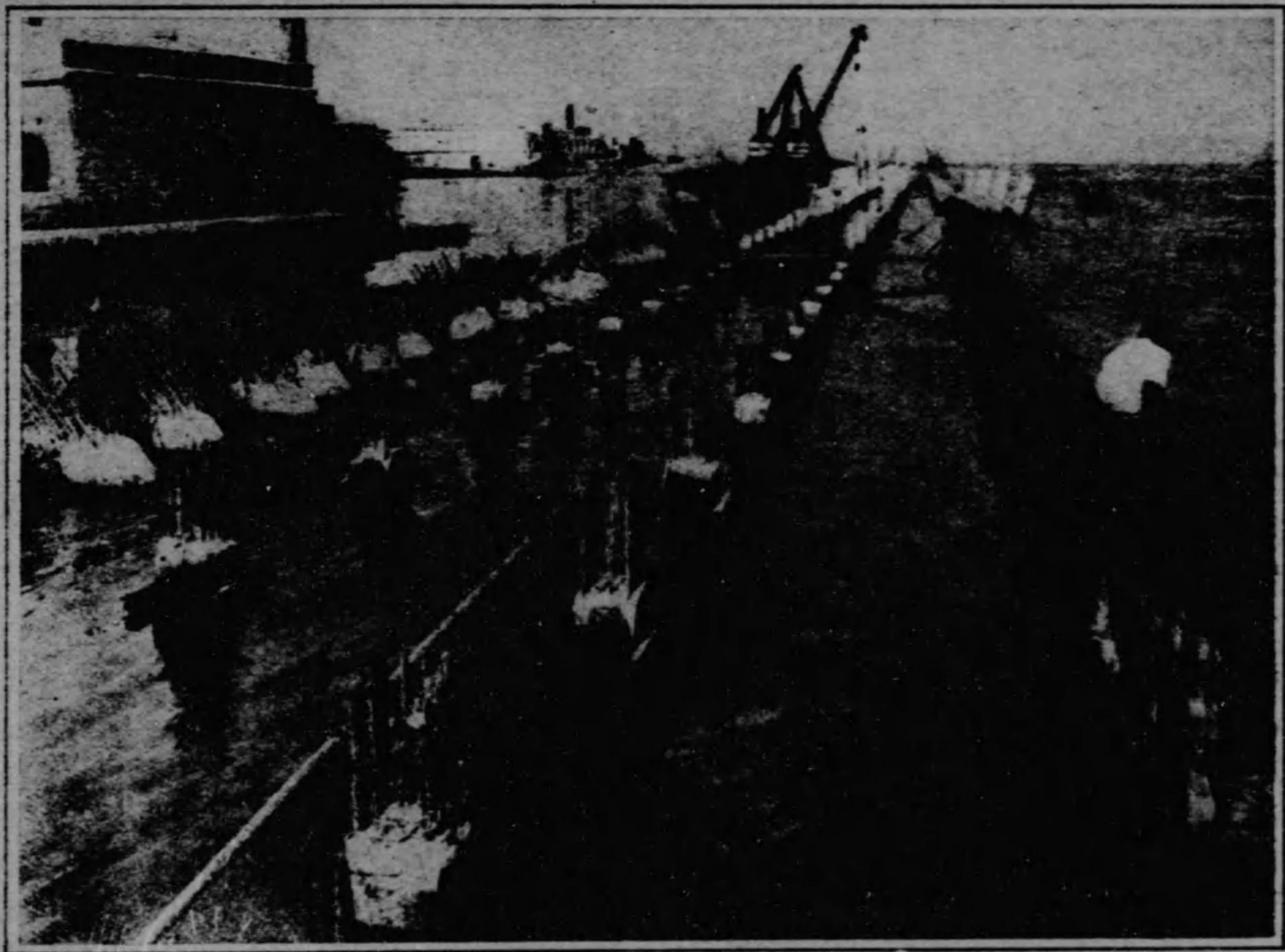
◇ 販路の擴張も工程の進歩もこれからだといふ新興工業はいざ知らず、消費の節制や敷積もほど一定し、生産上の技術も大凡の限度に達してゐる獨工業にとつて、不斷の伸張力に對する有効なる血路となり得るものは、常時不忘の用途の發見、新利用の發見である。

◇ 海水に對するコンクリートの耐久力、殊に鐵筋の場合における海水の滲透性は、その耐久力に至大の關係あるものとして、熱心に試驗され研究されたものだ。その結果鐵筋がコンクリートの外面から五寸以上内部にある場合には大體海水の滲透を免れ得るといふ事實を明かにしたのである。

◇ そこで海壁又は岸壁の築造にコンクリートを使用することが漸次一般的になつて來た。その實例の二三を挙げればオランダのロッテルダム、ベルギーのアントワープ、フランスのマルセイユ等の諸港の、岸壁船渠等は何れも鐵筋コンクリートのプロッタ又は鋼を使用したもので、我國においても神戸横濱港の擴張工事、下關及び長崎港の岸壁工事等も皆この例に屬する。

◇ 自其は夙馬ハバナ港の海壁工事で、最も製造された鐵筋コンクリートの壁板、中空プロッタ、杭等、その材料の總量約三萬立方米といふ大工事である。これだけの既成コンクリート塊を造るとはそれ自身既にかなりの大事業で、第一にセメント、砂、鐵筋その他材料の搬入設備、第二に廣大な製造の場所、それも長さ三十四米もあるコンクリートの一枚壁を造るので、地盤の弱い所では固る、更に出来上つたもの、運搬にも大掛りな道具立てが必要である。

◇ かくて、もしもこの既成コンクリートの使用かもつと一般的になり、その需要が更に急激的となれば、セメント工業、鐵工業以外に、新たに獨立したこれ等諸工業の合成工業が成立するわけで、こゝに吾々は産業の分化と結合に關する一好例證を發見することとなるであらう。



(56) フォード自動車

◇—米國における自動車登録總数は約二千三百十二萬台(一九二七年調査、内トラクタ二百八十九萬台)と一口にいつてしまへば曲もないが、殆んど各戸毎に自動車一台を具へてゐる割合になると聞けば一寸羨ましい氣にもならう。で自動車の最近世界年産額を四百五十萬台と見て、米國は實にその八十パーセントを占め、昨一九二七年中の製造高は三百五十萬台に上つてゐるが、それでは製造能力の六割に過ぎぬといふのだから、聊か呆れざるを得ない。

◇—かくして米國製自動車は、今や全く世界の山河を車輪にかけて横行してゐる次第だが、就中自覺しいものはゆる緒安品「フォード」の隆盛振りで、洋の東西を問はず、およそ自動車の影を見る所そこに必ず「フォード」があり、自動車といへば先づ「フォード」を思ひ出すほどの盛勢さ、それにつけて自動車王「ヘンリー・フォード」の名も普く世間に知れわたつてゐる。

◇—勿論、彼のその盛名の後には、過去六十年にわたる不斷の苦心と營々の努力とがひそんでゐるのであるが、とに角「フォード」自動車の一ヶ年の製造高百四十四萬台、賣上額七億五千萬(一九二六年度)の仕事には他人事ながら胸がすく。

◇—尤も最近米國のみならず、一般自動車界が安物の「フォード」にあいて、漸次高級車に移る氣運を生じたのは是非ない次第で、茲にはこの機を掴んだ勃興ゼネラル・モーターズの發展振りが、今やその學を傳へ、と見たヘンリー・フォードは、遂にその一貫せる「フォード」型專攻の方針の變更を決し、一九二七年五月、漸然その工場作業を中止して高級「新製フォード」の完成に専心したが、爾來新製品の製造を開始した十二月まで、前後六ヶ月間の休業で、フォード會社一九二七年度の成績は四千二百萬の損失に終つたとはさすがにフォード、よくもこれだけ思ひ切つたものだ。

◇—眞實は三十五年前始めて製造した古自動車を眺むるヘンリー・フォードとその息、後方にあるは工場創始以來千五百萬台目といふ雄起の車



(57) アレクサンドリア棉花取引所

◇——ナイルの岸邊に真白い棉の實がこぼれる、遠く悠々の流れに沿うて興亡五千年の跡を埋め、古代諸王が榮華の夢を飾る。

◇——埃及棉花は品質の點では世界一、カイロを中にしてそれより上流に出来るのがアシユムニー、毛足はや、短いがそれでも六十番手の原料棉で、ずつミ下流のデルタ地方に産するのは毛足の長いサケラリデイス、八十番手以上の最良品である。

◇——かくて入り入れる埃及棉は年額約百萬依で英國へ四十二萬依、米國へ十五萬、伊太利へ十四萬、佛蘭西へ十三萬、日本へも四五萬依に、殆んその全部が輸出され盡くす關係上、アレクサンドリアはこの埃及棉の大集散地であり、従つてその棉花取引所は全埃及棉花取引の中心機關である。

◇——ここに集る人々は、輸出業者に銀行家、一般棉花商は申すに及ばず、いはゆる投機筋の大物が、毎日午前十時から午後一時まで、一カンター(九九・〇五封度)を標準に、何千タラー(弗)賣つた買つたミ狂奔するその姿を

◇——かつて大金字塔建設の忍苦を映した同じナイルの河みづが映して流れてゐるミいふ。

◇——寫眞はアレクサンドリア棉花取引所



(58) シカゴの屠場

◇—シカゴに有名な屠場がある、シカゴを訪ふて屠場を見ぬものは佛作つて何とやらで、旅行家の名折れとされるほどの名物。酒と女とホールドアップ、暗黒の名に負ふシカゴの街に、屠場の名物とはうつりがいゝなど、文句はさて置いて、

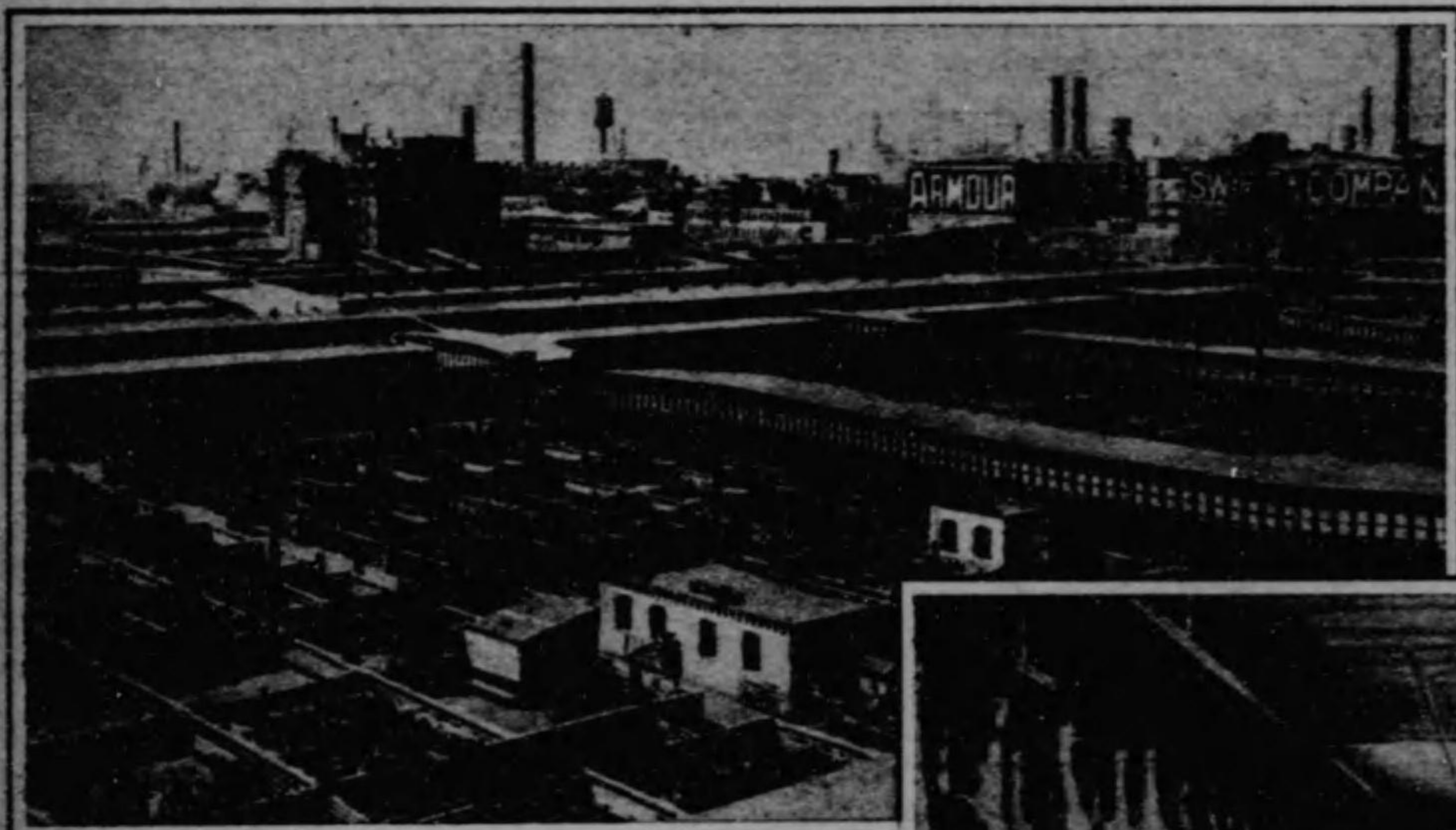
◇—この屠場の規模は、ダダツ廣い家畜市場から、程遠からぬ規模かの工場まで五百エーカー、まづザット我が二百町歩に、使用人数約五萬、チト古いが一九二五年の記録によると、その一年間にこの屠場に引張り込まれた牛の数が三百萬頭、猪が八十四萬、豚が八百萬、それから羊が四百萬、一日平均にしてどのくらゐになるか、年々増すとも減りはすまい。

◇—屠場の模様やら肉類處理の工程やは、どうせ見たまゝ聞いたまゝであらざるがなの贅言と省略するが、とにかくこれらの備むべき家畜運搬かトボくと工場の上階へ登つてゆき、屠殺者の一層に倒れてから漸次下階へと繰返る間に、

◇—骨は骨、皮は皮、角や爪と分解され、肉のみは更に幾日かを冷蔵庫に過ごし、さてその上で、牛肉のまゝ市中や地方へ送り出すものは、構内へ引き込まれた特別列車へ積み込むし、罐詰その他へ加工するものはそれぞれの下階で加工する——

◇—その一絲亂れぬ働きは、實に現代大工業組織の粹であり、薄氣味悪き俸觀である。

◇—寫眞はシカゴ屠場の家畜市場(上)と冷蔵庫、下つてゐるのは皮を剥いだ牛(下)



(5) シンガト・ミシン

◇一七九〇年、トマス・セントなる人が英國で特許を受けたといふ縫機、一八三〇年佛人テモニエもこの種の縫機を發明したといはれ、更にウオルター・ハントも一八三四年ごろニューヨークで作つたことがあるといふ。殊にテモニエなどは、自分達の仕事を奪はれると憤つた仕立職人に襲はれて、折角の縫機をたゞき取られたと氣の毒な前縁をとどめてゐるのみで、不完全ではあつたが兎に角今日實用されてゐるいはゆる「ミシン」の原型を完成したのは米人エリヤス・ヘー、一八四六年のことである。

◇アイザック・シンガーが縫育で縫機の製造販賣を始めたのは、この發明後いくばくもない一八五〇年であつたが、その後絶えずこれに改良を加へられ、漸次その重寶さが世に認めらるゝに従つて、先づ衣服製造用としてあらゆる家庭を征服し、やがて皮革縫製その他工業用としてもズン／＼販路を擴張していつた。

◇現在のシンガト・スライイング・マシソ會社、シンガト一族の個人會社で、資本金も幾億か、かつて發表されたこともないが、ミシン會社として世界一はまづ狂はぬところ、米、英、獨、加亞訖には數個の工場、世界各地に八千五百の分店と、十五萬人の使用人。それにシンガト・ミシンは決して卸賣代理店を設けない、「賣品は直接に顧客へ」といふのがこの社のモットーで、二千六百種のシンガト・ミシンに類へないものは石と金「なんかんと、へらず口をたゞきながら年に三百萬台の製品を捌いてゐる。

◇寫眞は縫育ブロードウェイのシンガト・ビルヂングと一八五一年ころのミシン



(60) アラスカの金山

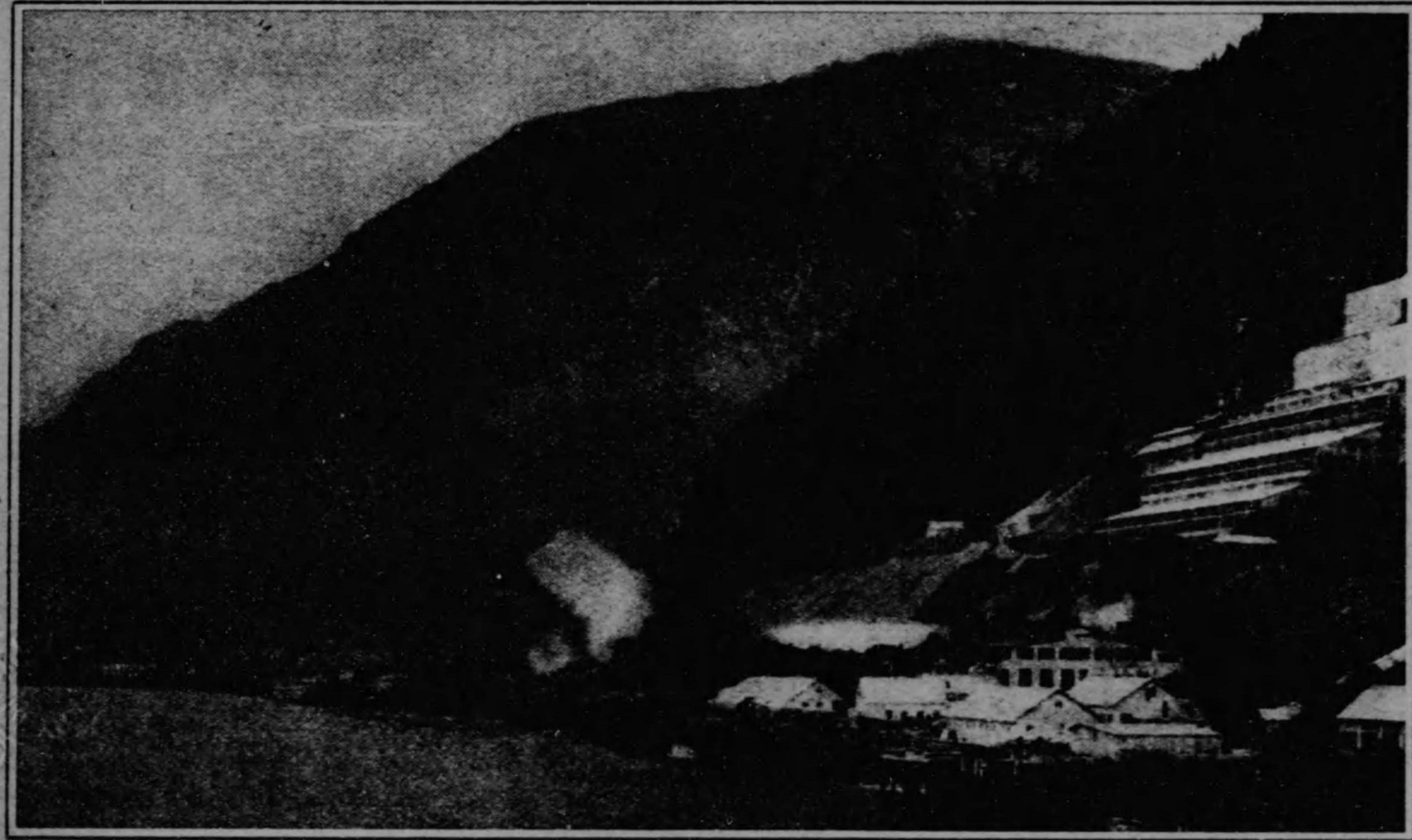
◇—こゝは米大陸の北端、黄金の國アラスカである。一七四一年ロシア政府の命を受けた一ディン人の発見にかゝる。それを一八六七年ロシアから合衆國に譲渡されたのは先刻御承知。身代金は七百二十萬兩であつた。

◇—アラスカに黄金が湧くといふ事實は古くから知られてゐたが、その頃までは金山といつてもトンドゥエル金坑位のもの、一九〇六年に発見されたインノコ金山や、〇二年発見のフェアバンクス地方は勿論、一八九六年のクロンダイクを中心とするユークン盆地一帯、一八九八年のノートン海峡附近等有名な金産地の発見は、殆んどすべて米國領有後のことで、偏にその「掘手架式」熱心と努力による。

◇—買収費の七百二十萬兩は別として、今日まで米國がアラスカに注ぎ込んだ金は實に大枚二億兩、内約七千萬兩は鐵道建設費であるといふがその結果は、發見後二百年にして住むところの白人僅かに三萬、而も肝腎の米國移民はスカンヂナビヤ方面からの移民数を越えず、金着板の金産額にしてからが、年額約四十萬オンス八百萬兩見當、アラスカのあらゆる物産を合してもアイオア一州の農産物に及ばぬと。

◇—世智辛い當世に、俄ら米國でも二億の大金蜂狂には注ぎ込まぬ、いはずと知れた「えび鯛」算用、だがサウは國屋で卸さぬとなると、米國たるもの體でも一考を要す。時なる哉、本年（一九二八年）三月の交、カナダのブリテイッシュ・コロンビヤ州議會が、同國政府に對して米國からアラスカを買取れといふ大變な建議を提出したと傳へられたが、何しろ問題が困難だ、さう簡單にはネ。

◇—寫眞はアラスカ最古のトレッドウェル金山



(61) プラハの日本市

◆ 本年（一九二八年）三月ごろ、ライプチヒの國際見本市で日本品の評判がよいといふニュースがはいつて氣をよくしてゐる矢先、今度はお隣のチェッコ・スロヴァキアの首府プラハから、同じやうな見本市への出品動議が来た。

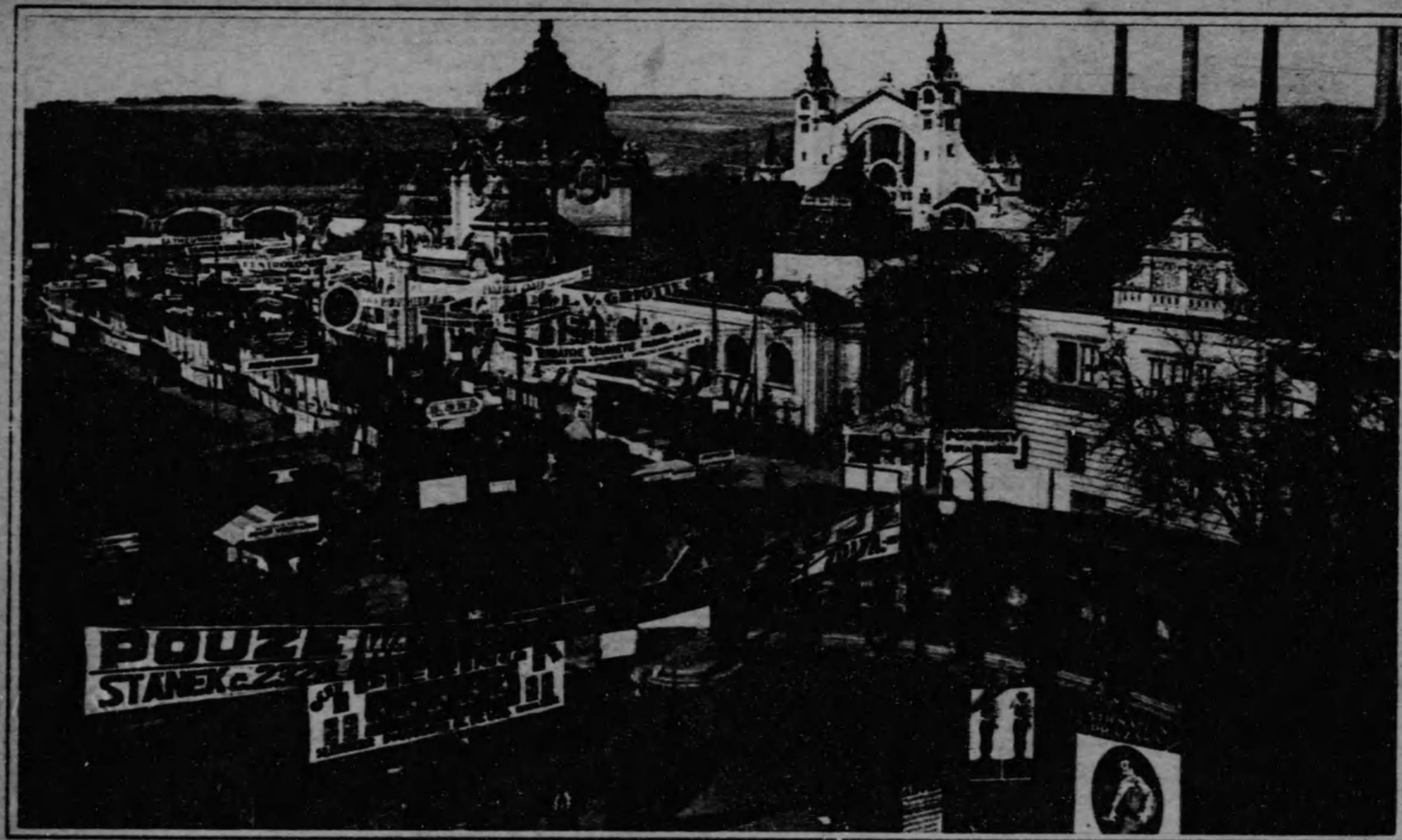
◆ 中欧の新興國チェッコ・スロヴァキア——など、いつても大戦以前の地理を習つた方々には、「フン、あれかと背ける人はちよつと少いかも知れぬ、道理やこの國は、歐洲大戦中當時の聯合國が、歐陸博覧の目でまさ散らした民族自決の好調を纏んで、それを機會に跳ね上つた瀧の大魚。占むる地域はボヘミア、モラヴィア、南シレジア、スロヴァキアなど、人口千二百餘萬、面積五萬方マイルの共和國である。

◆ 産物としてはまづあらゆる種類の礦物——石炭、鐵、グラファイト、それに木材、皮革、亞麻等々、貿易總額が三千三百萬タラウン（一九二七年度）で、その内輸出が二百萬ばかり。

◆ さてプラハの見本市だが、春秋二回定期に開かれるもので、昨一九二七年秋の市には、出品人數二千五百人、建築、機械、電機、木工、織、小間物、皮革その他ありとある西工品を網羅し、米國などはその一角に堂々の巨費を費つて、例の世界一の巨博に遜なかないといふ。

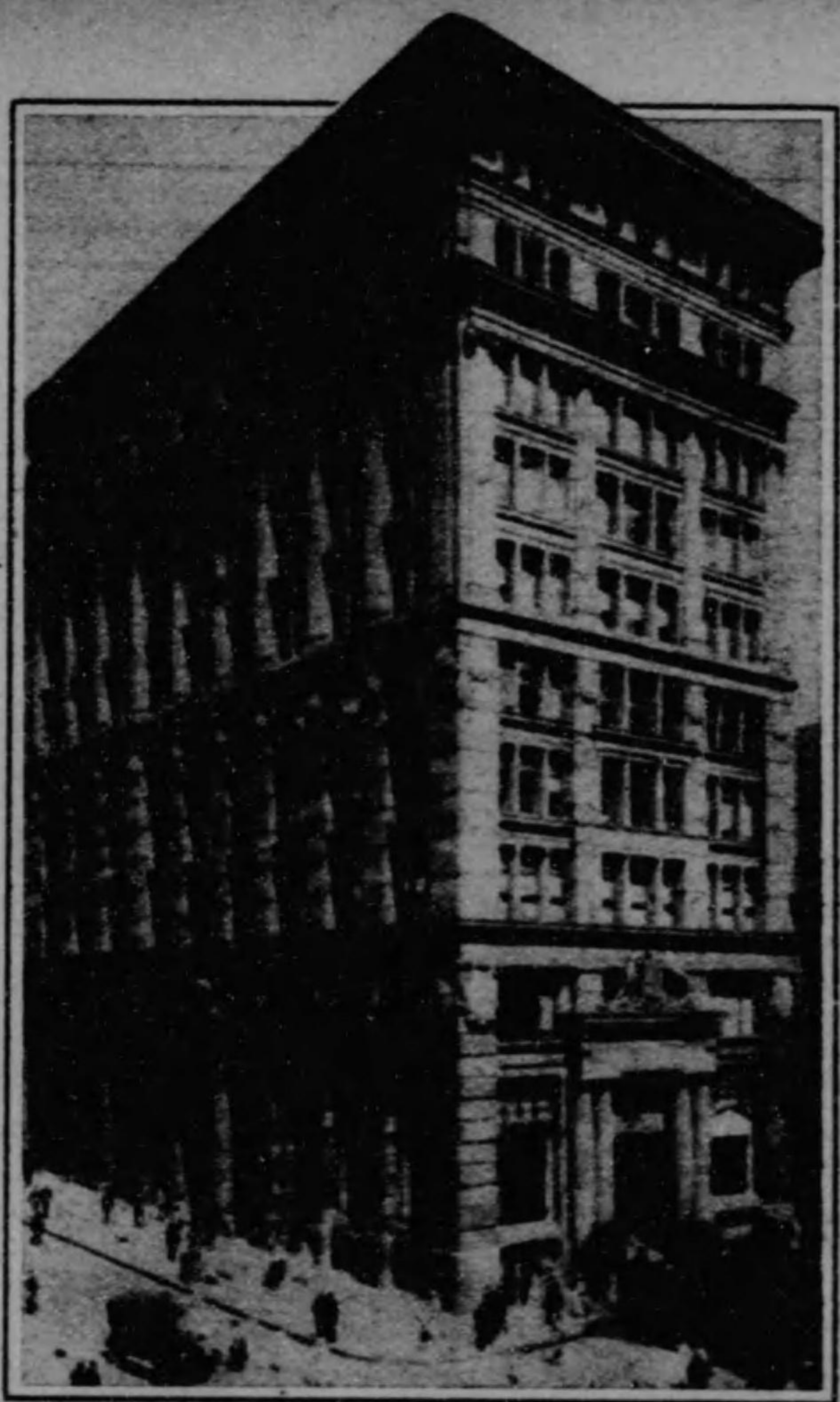
◆ 今秋までにはすばらしく大きな常設陳列場を造るさうだが、萬事官博の世の中、我が輸出商なども精々これらの機關を利用して日本商品の眞價を中欧市場に徹底させて賣ひたい。

◆ 写真はプラハの見本市



(62) 濠洲聯邦銀行

- ◇ 濠洲の中央銀行コモンウェルス・バンク、諸國の中央銀行が多く株式組織である當世に、これはまた純然たる政府手製の銀行で、一九一一年十二月特別法によつてシドニーに設立され、最初の資本金一百万ポンド、政府は公債を發行してこれに貢いだ。
- ◇ 設立當時の政府の考へでは直ぐにも兌換券を發行させ、政府の機關銀行として國立銀行の眞面目を發揮せしめるわけであつたが、百万ポンドの資本で中央銀行の店は張れぬ、ともすれば市中銀行に押され勝ちと相見え、るので、政府もちよいと首をかしげてゐるうちに、
- ◇ 恰も歐洲大戰の勃發に當り、金融組織の變革は好ましくない時勢となつたので、政府はコモンウェルス銀行に譲るべかりし發券權を従前通りその手に保有して自ら戰時金融の衝に當つたが、
- ◇ 戰雲迫まつて二年、一九二〇年になると、もう良いころとコモンウェルス銀行條例の改正成り、行内に發券局を設けて政府の發券權を受託し、こゝにわがコモンウェルス・バンクは漸く名實共に、中央銀行の器用を具へて濠洲銀行界の玉座についた。
- ◇ さてからなると問題は資本金、いくら何でも百萬ポンドぢややりきれぬ、そこで一九二四年の議會ではまた條例の再改正、まづ留保利益金の中から四百萬ポンドを削して之を資金にあて、なほ今後六百萬ポンドの増資公債の發行を認めてくれたが、その後増資もせず、今だに資本金は四百萬ポンド、一九二七年度の利益金は營業部で三十二萬三千ポンド、發券部で五十三萬五千ポンド、利益率は二割以上であるが、さてこの利益金の處分方法如何にと見るに、
- ◇ 營業部利益は行内積立金と國債償却基金へ半額つつ、發券部利益は四分の三が國庫へ、四分の一は銀行の「地方貸出資金」へと、それ／＼片がついてゆく。
- ◇ 寫眞はコモンウェルス銀行のシドニー本店



(63) イーストマン・コダック

◇「コダック」といふ言葉は、今日では「手携り写真機」といふ様な意味の普通名詞として広く用ひられてゐるが、元來は一八八八年、イーストマンがその發明にかゝる小形写真機につけた商標の名である。

◇写真の種板として現在の乾板が發明されたのは一八七八年で、それ以前の写真撮影には色々厄介な道具立が必要で、中々素人の手などには合はなかつたものだ。

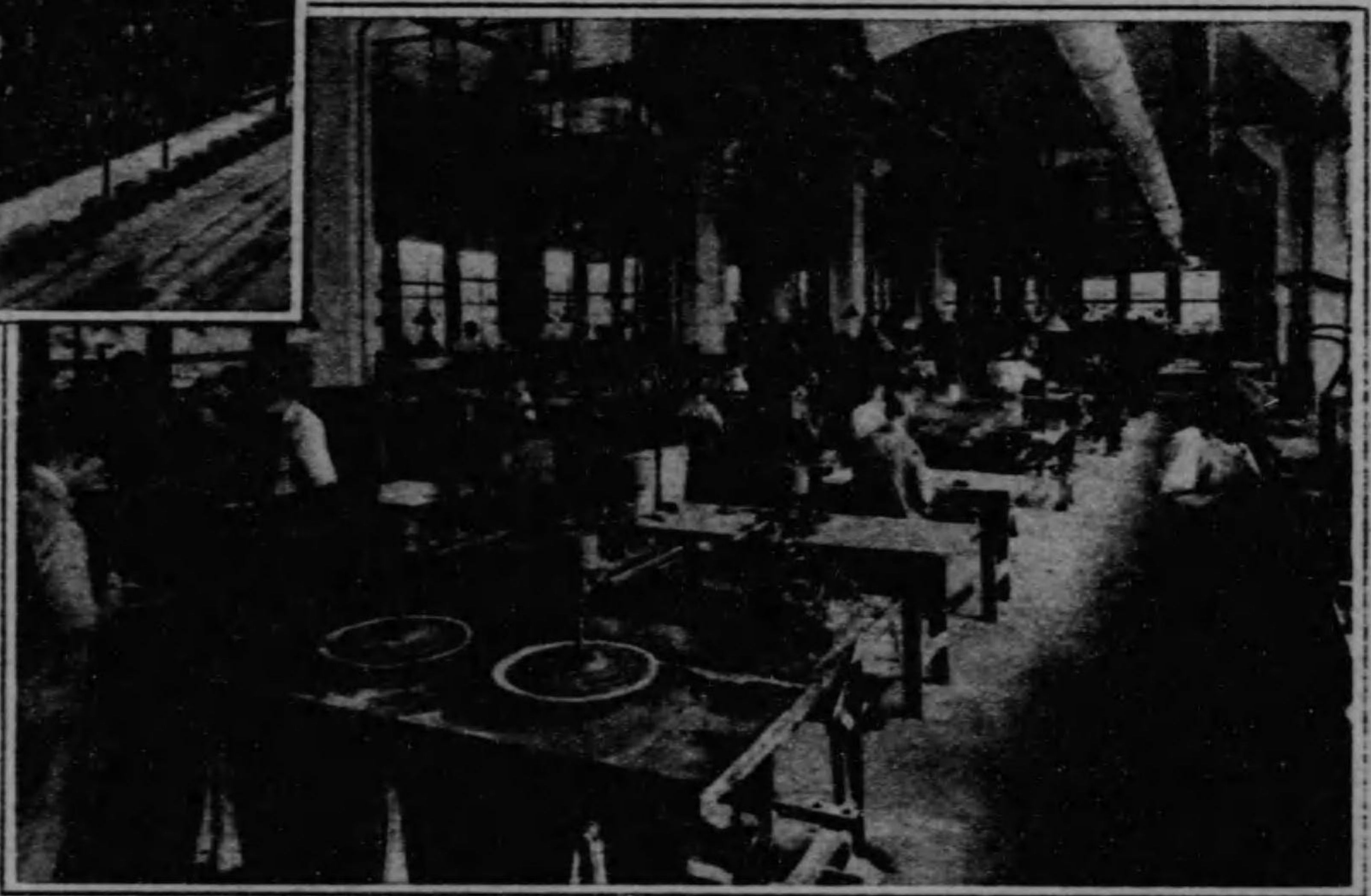
◇そのころ米國ロチェスターに一人の若い銀行員があり、写真が好きで、素人相應にその研究にも頭を突込んでゐたが、この新しい乾板に目をつけ一八八一年「イーストマン乾板會社」を設立した、これが今日イーストマンといへば知らぬ人なき写真王國の發端である。

◇しかし乾板が出來てから写真術はやゝ簡單にはなつたが、硝子を用ひるので、非常に重いと壊れ易い缺點があつた。然るに彼イーストマンの願念は写真の趣味をもつと一般化し、素人にまでもその技を行わたらせるにあつた、彼は研究大いにつとめ、先づ種板の硝子に代ふるに紙を用ひてフィルムを造ることを考へ、一八八八年このフィルムを應用してはゆる「コダック」を創製したが、更に翌一八八九年に至り現在の様なニトロセルロースのフィルムの發明を完成してこゝに写真界は全く新しい時代に入り、「硝子押す」ことが殆んど写真撮影の全部であるまでに簡易となり輕便となつた。

◇それかあらぬか、今や写真趣味は世界の隅々までも普及し、金はかゝるが上品な趣味深い道楽として猶も硝子も写真機のもち方を知らぬものはない、かくしてイーストマンは首尾よくその願望を遂げた譯だが、それと共に彼の事業も著しく發展し、五十年前小さな店の一室に生れたイーストマン・カンパニーは今や世界各地に幾多の支店販賣店を有し、英國、カナダ、ハンガリー、亞洲等にもそれと獨立の工場を設くるの盛況にあるが、

◇中にも誕生地たるニューヨーク州ロチェスターの工場地帯はコダック・パークと呼ばれ、總敷地四百エーカー、その従業員七千人に及び、製品はフィルム、写真用紙、乾板、写真機、写真用薬品等写真用具なら何でも備座れ、殊にさまざまの、活動写真用のフィルムで、年産額十八萬マイル、そのために費す棉花が約五百萬ポンド、感光薬品としての銀の消費は米國造幣局が鑄貨に用ひる銀の一割強だといふ。

◇写真はイーストマン・コダック・カンパニー本社(上)とレンズ製造作業(下)



(64) カナダ・サン生命

◇—つい先ごろ(一九二八年三月)墜死した後藤(勇吉)飛行士の保険金問題(保険契約が未完成だったといふ)で、一切の理窟や法律論を抜きにして、取敢へず用慰金一萬圓を贈つて大きいところを見せたカナダ・サン生命(サン・ライフ・インシユアランス・カンパニー・オヴ・カナダ)。

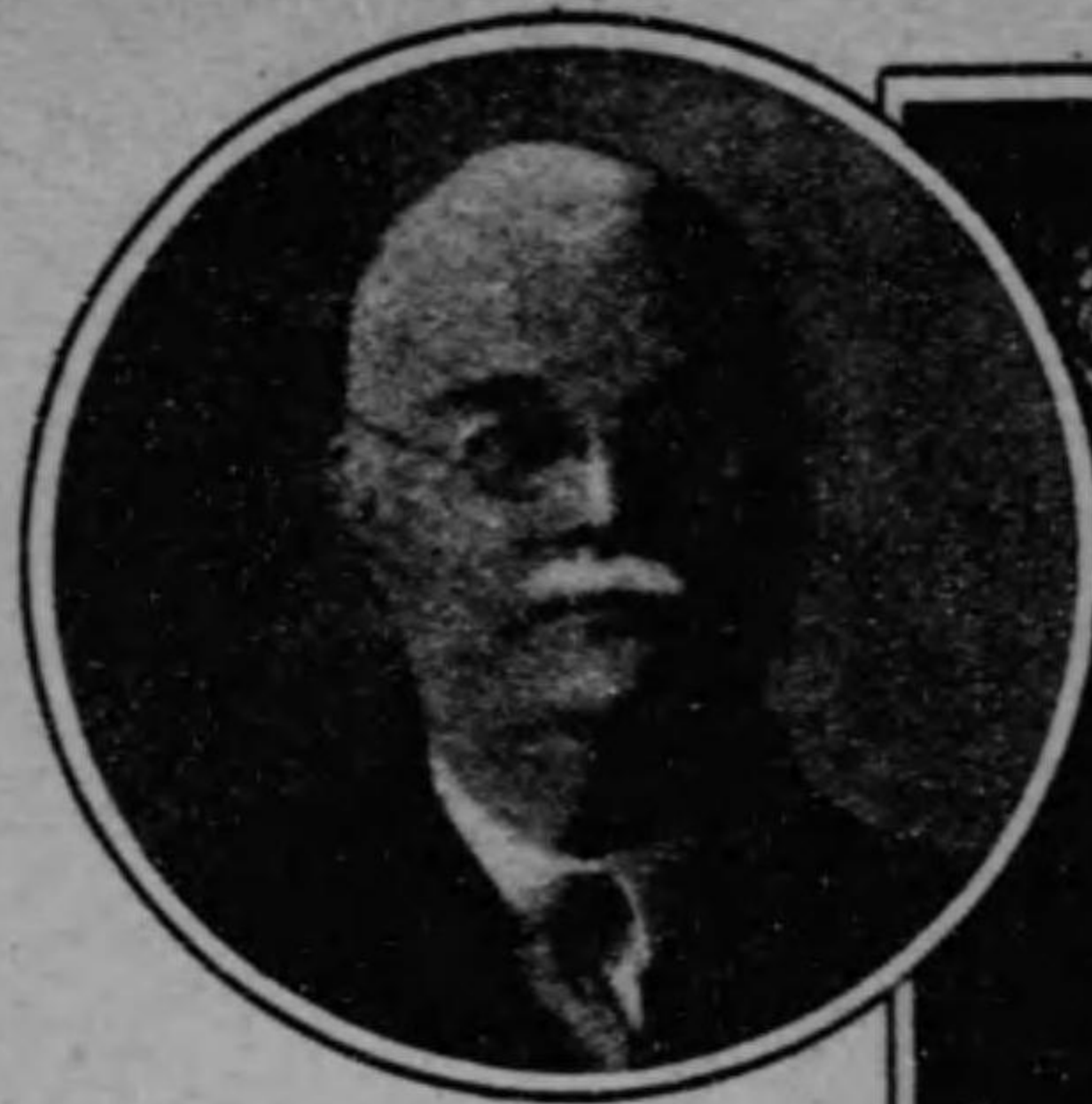
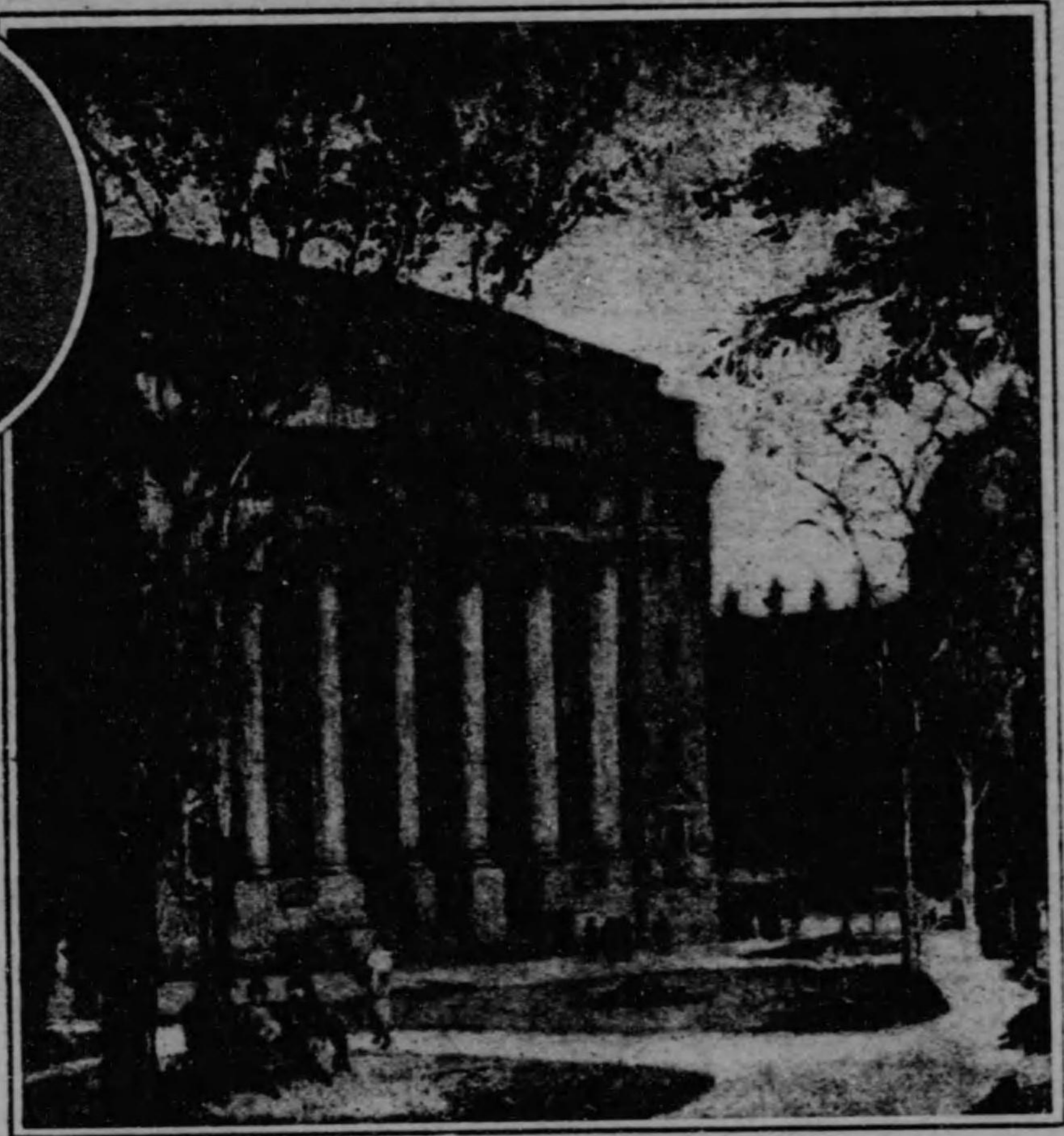
◇—その素性を調べて見ると、一八六五年カナダ議會の協賛を経た特別法によりモントリオールに設立されたもの、發起人は同市の有力實業家連で當初の資本金は百萬鎊、後になつて増資はしたが、それでもやつと二百萬鎊、ロハで配當を受ける株主数は最小限度に止めておいて、それ以上は相互組織で加入者配當主義により伸びるだけ伸びやうといふ剛巧な寸法、

◇—その試みが國屋に當り、日を追ひ年を遂うての發展振り、その營業區域といへば文字通りの全世界で、今や地元のカナダは申すに及ばず、英本國に乗り出しても、これと太刀打の出来る會社はたんとない。

◇—昨一九二七年度の同社記録によれば、保険契約高實數三億五百七十五萬鎊、利益金約八百萬鎊で、積立金その他を差引き、三百五十萬鎊が加入者配當金として分配され、株主配當はこれが二十分の一に過ぎない。

◇—一八七〇乃至八〇年、頃一ヶ年の契約二百萬鎊を超えなかつた時代から契約増加四千七百餘萬鎊(昨年度)に及ぶ今日のカナダ・サンへの育ての親といふのが、現社長トーマス・バセット・マコーレーの先代ロバートソン・マコーレーで、英國史を書いて有名なマコーレーの従兄弟だか何だか、とにかく親類になるさうである

◇—寫眞はモントリオールのカナダ・サン生命本社と社長マコーレー氏



65 日支經濟斷交の産物

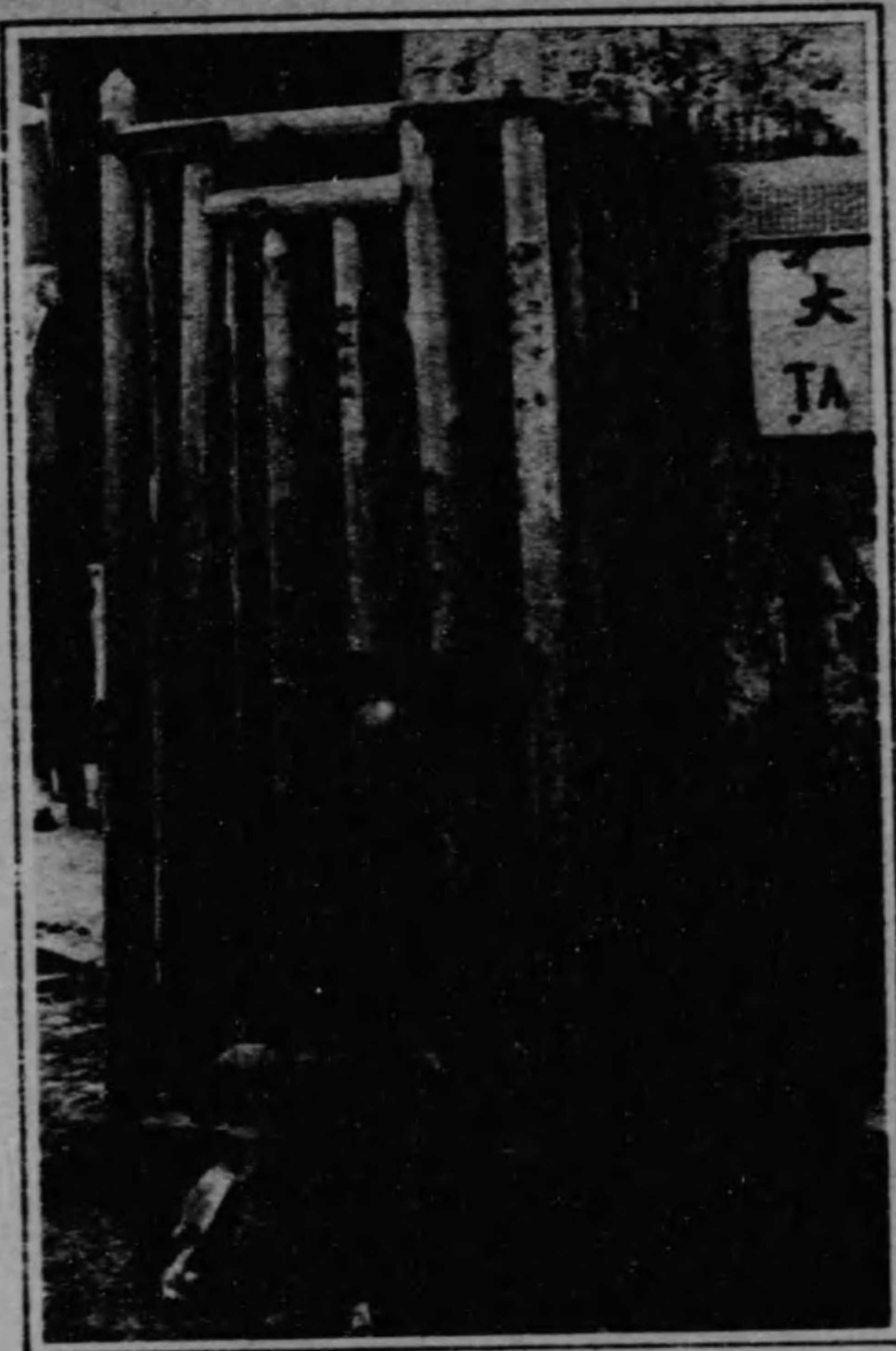
◇一九二七年六月、わが山東出兵に對する反對運動として起つた上海を中心とする長江一帯の日貨排斥、日支經濟斷交は、從來の例に見ゆる周到なる計畫の下に實行されたので、在留邦商等の罷起運動に拘らず、前後五ヶ月の長きにわたつて繼續した、尤もこの經濟斷交は兩國の經濟的立場からいへば國分無理があり、現に日本から輸入する石炭、新聞用紙、硝鹼、硫酸、硝石の如きは支那の工業を維持し、戰爭を繼續する上にも缺くべからざる關係にあるので、

◇これ等の商材に對する日本側の報復については國民軍政府も非常に神經を備ましてゐた模様である、實をいへば經濟斷交が支那の經濟的自殺行爲であることぐらゐは支那側自身が十分承知の上のことなのだ、何といつても當時の國民軍にとつて差當り一番必要なものは軍費であつたから、この日支經濟斷交の取締を嚴重にして、その違反者に對する罰金や沒收金の收入を對ふに至つたことも、彼等にとつては懸念な窮餘の一策であつたのだ。

◇南京政府が、成立以來ありとある種類の不當課税をやつて誅求止るところを知らざりし事實に徴しても、如何にこの新政府が財政的に苦しい立場にあつたかがわかる筈である、殊に上記の罰金、沒收等による金額が五百萬兩に達すれば經濟斷行を打切ると傳へられた如き、ます／＼日貨排斥と財政難の相対矛盾から來た窮狀を裏書するものゝやうに思はれる、

◇しかもこの不合理な經濟斷交がとも角にもキ／＼久しく行はれたゆゑのものには、要するに監（違反者を監禁する）の威嚇とビストルの支配とに歸すべきであつて、監を避けビストルを免れんとするところに、實は豊富な收入の源泉に横はつてゐる譯で、そこがまた政府のつけ目でもあるがいつもダシに使はれる日本の經濟界こそよい面の皮である。

◇寫眞は商人達を震ひ上げつゝあるその態



(66) ユ社の三頭政治

◇—ユー・エス・スチール・コーポレイション(三六回)の紹介中に、重役会長としてのイー・エッチ・デイリーの名を挙げておいたが、一九二七年九月、彼デイリーの訃報一度傳はるや、この折紙附の奇才を襲いで、蓋が世界的巨天會社統制の最高地位を占めるかは、米國財界はもろろん世界の人も異常の興味を以て眺めたところである。

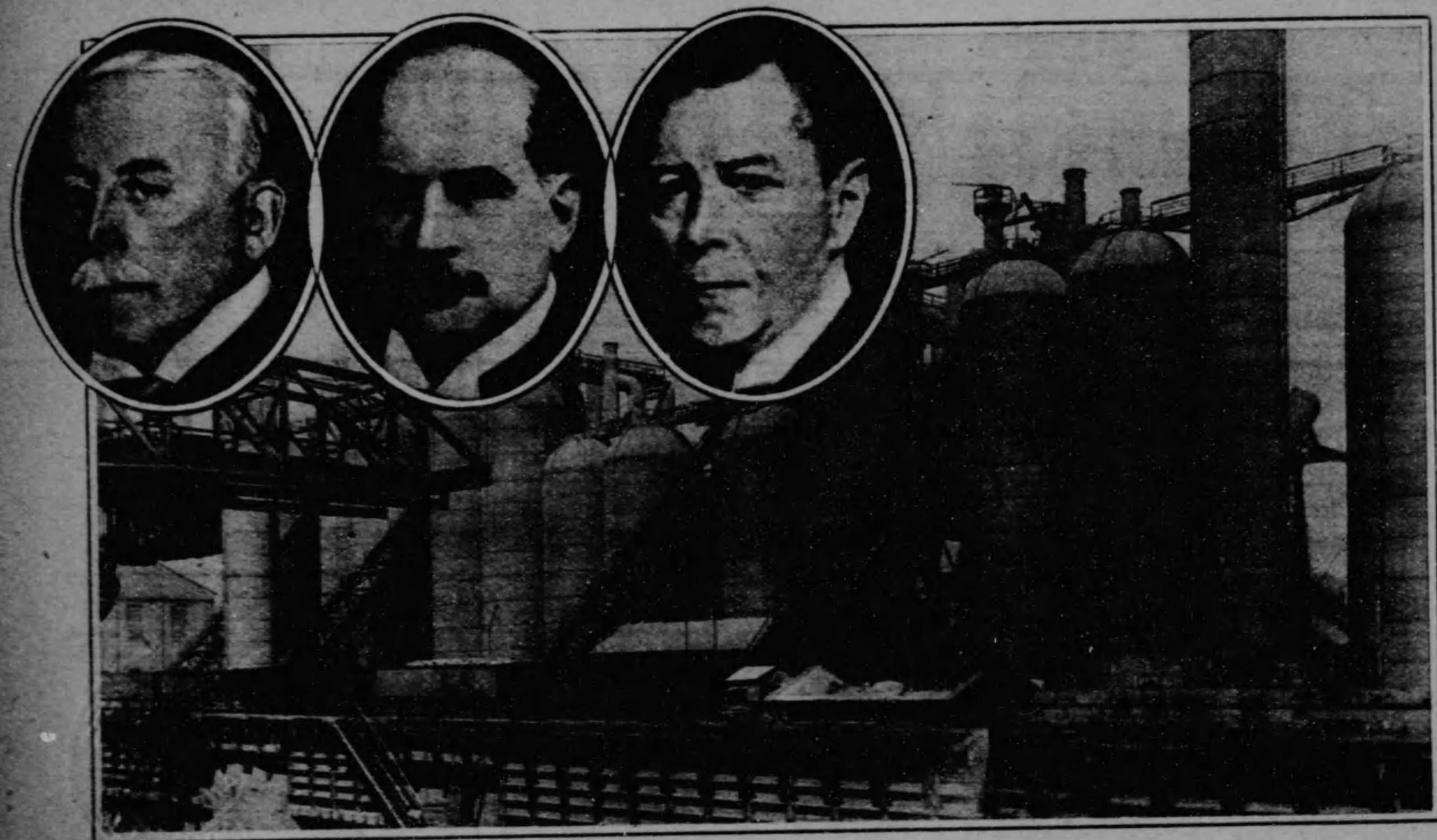
◇—それだけにこの會長後任者の物色は流石多士頭々を誇る米國でも、餘程困難だつたと見え、長らくそのまゝとなつてゐたが、結局デイリー程の切れ者は遂に見付からぬか、年改まつた二八年の始め頃漸く以前デイリーが一人で引受けてゐた會長の仕事を三分し、これを三人で分擔することになつてケリがついた、しかもこの一人一人がすでに米國實業界における超群級の連中だから地下のデイリーも定めし數苦天を蒙り得まい。

◇—さてその御歴々の關係は、重役會長として人も知るジエイ・ビー・モルガン、金融委員會長としてエム・シー・テイラー、そして社長はそのまゝジエイ・エイ・フアーレル、但しモルガンは重役會長として名は列ねたが事業の實際に當ることなく、従前通り口袋役に終始することと思はれる。

◇—そもく今日のユー・エス・スチールの如き巨天複雑な事業組織の、しかも實際の仕事を一で切りまはすことは、既に望む方が無理だといふことは何人も諾するところ、あとに坐つた三人の不名誉などではサテくない、殊にこの事業は一九〇一年の創立時代からモルガンのユー・エス・スチールともいふべきもので、それに今更らしく表面に名を出すことは決して彼の本意であるまい、がそこにはまたそれだけの理由もあらう。

◇—何はともあれ、あれほどのユー・エス・スチールも最近下り坂とはいはぬまでも、引合も減少し、利益率も思はしくない季があるとか、一つ三頭政治の御手前を拜見したいものである。

◇—寫眞右よりテイラー、モルガン、フアーレル。



(67) インド帝國銀行

◇—十七世紀の初頭、東印度會社の設立を以て始つた英國の印度經營事業が、二世紀を経た一八三四年、時のベンガル總督ウィリアム・ベントン・クーパーの印度總督就任で一段落をつけて以來、更に一世紀、
◇—印度は今でこそ純然たる農業國であり、従つてまたは従順なる英帝國の一員に相違ないが、しかもランカシアの好むと好まざるとに拘らず、印度内地の紡績業は年々ともに隆盛に赴くのが實狀であり、やがて印度といども近世經濟の修羅場に入るとの止むなしとすれば、今にしてこれを統制し管理すべき整然たる金融組織を作り上げておかねばといふので、昨年の夏、

◇—印度政府は従来の機關銀行たる印度帝國銀行（インペリアル・バンク・オヴ・インディア）とは別に、新たに機關銀行を設立してこれに當らしむべき法律案を、印度議會に提出したが、帝國銀行擁護や、新銀行の組織、主幹者選任の方法その他の難問題でひつかかり、とうとうものにならなかつた。

◇—印度帝國銀行は一九二〇年ボンベイ、ベンガル、マドラスの各プレジデンシー銀行（州銀行ともいふべきもの）を併せて出来たもので、資本金一億二千二百五十萬ルーピー（半圓拂込）、

◇—當時政府との約束といふのが、「銀行の民衆化」の目的で向ふ五年間に百個の支店を増設するといふ順を振つたものだったが、一九二六年一月までにその約束も果たし、今では支店數百六十五、發券權こそないが、政府の機關銀行として、また大印度の中央銀行として後進さゝれぬだけの機能を設けてゐる。

◇—尤も計畫されてゐる準備銀行が實現すれば、帝國銀行もやゝ勝手に違つて来るだらうが、その後、罷まざる政府側の努力に拘らず、同法案の通過はまづ覺束ないといふから、當分は帝國銀行萬歳である。

◇—寫眞はカルカッタの印度帝國銀行



(68) ナイヤガラ発電所

◇—日夜萬丈の水煙にむせびながらエリー湖からオンタリオ湖へ、絶えざる落下を圖くる名瀑布ナイヤガラ、みものとしてのナイヤガラは知られ過ぎるほど知られてゐるが、我等のナイヤガラは萬雷の轟きや、滔々たる奔流や、湧き立つ水沫の作り出す美しい虹など、單に「天下の壯觀」として語らるゝナイヤガラではなく、

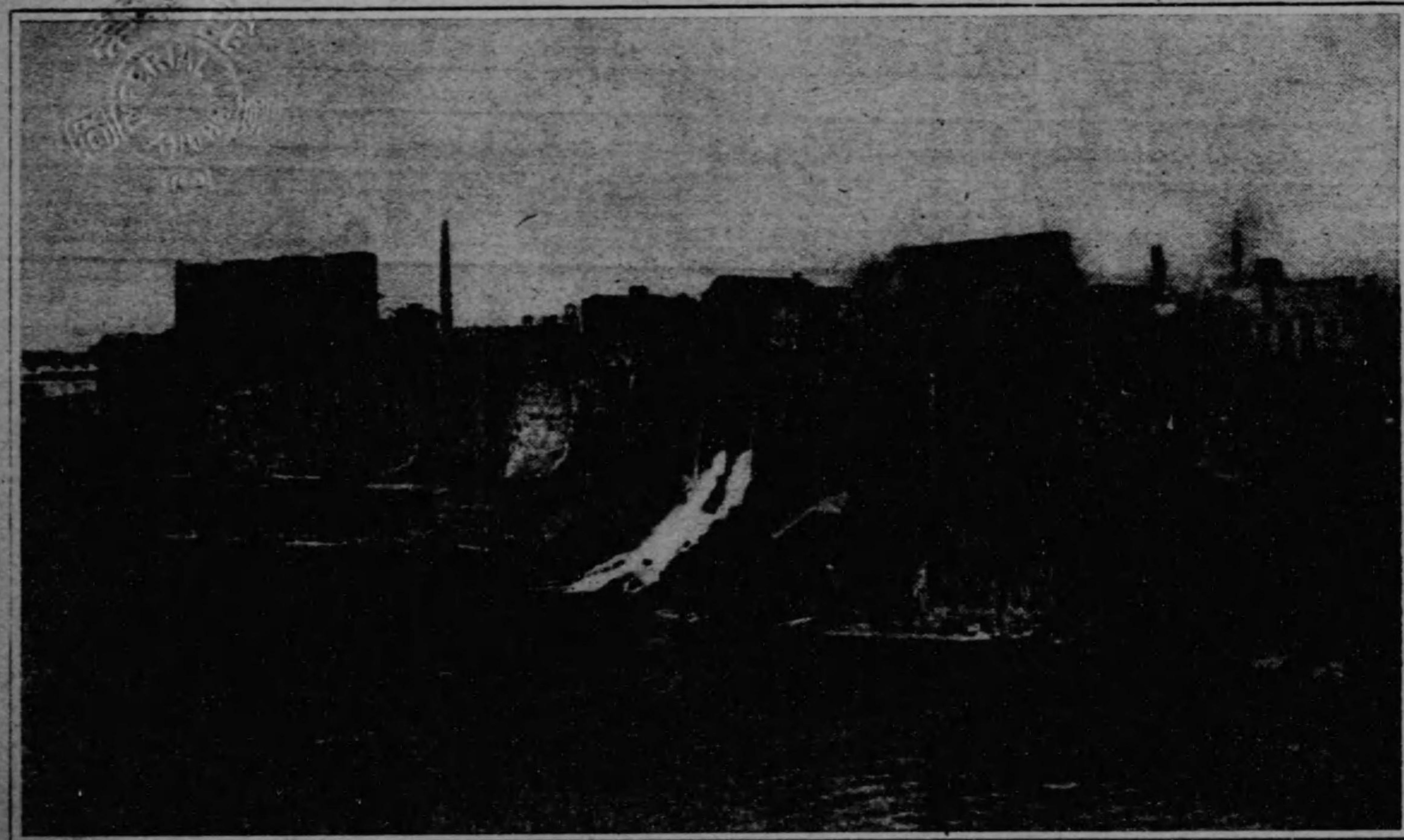
◇—百六十呎の落差と一秒平均二十二萬立方呎の水量とに、五百萬馬力の動力を含むといふ偉大なる力の供給者ナイヤガラである。

◇—この水力は随分古くから、製材その他の小工業に利用されてゐたと傳はつてゐるが、それが電力となつて現はれたのは一八八一年で、ナイヤガラ瀑布水力會社(ナイヤガラ・フォールズ・ハイドロリック・パワー・カンパニー)とかいふのが「水面水路」によつて水流を誘導し、初めて發電したものだといふ。

◇—からなると米國側からもカナダ側からも、我も我もと發電會社の設立を思ひ立ち、お定りの観願で、赤い目を釣り合つたものであるが、何んぼ世界一の大觀だとしてさう無暗に水を引いてゆかれては折角の美觀が台なしになる、といふので一九〇六年米國ではバートン・アクトなる法律を以て一秒間一萬五千六百立方呎以上の水をナイヤガラから失敬すること罷りならぬと規定した。

◇—これが一九二二年まで續いて来たが、やがて對岸のカナダ側とも相談して、ナイヤガラからとる總水量を一秒五萬六千立方呎に限ることとし以來三萬六千立方呎をカナダへ、残り二萬立方呎を米國へと仲良く兩方に分けてゐる。

◇—寫眞は今のハイドロリック・パワー會社のナイヤガラ發電所



(69) 資本主義とホテル

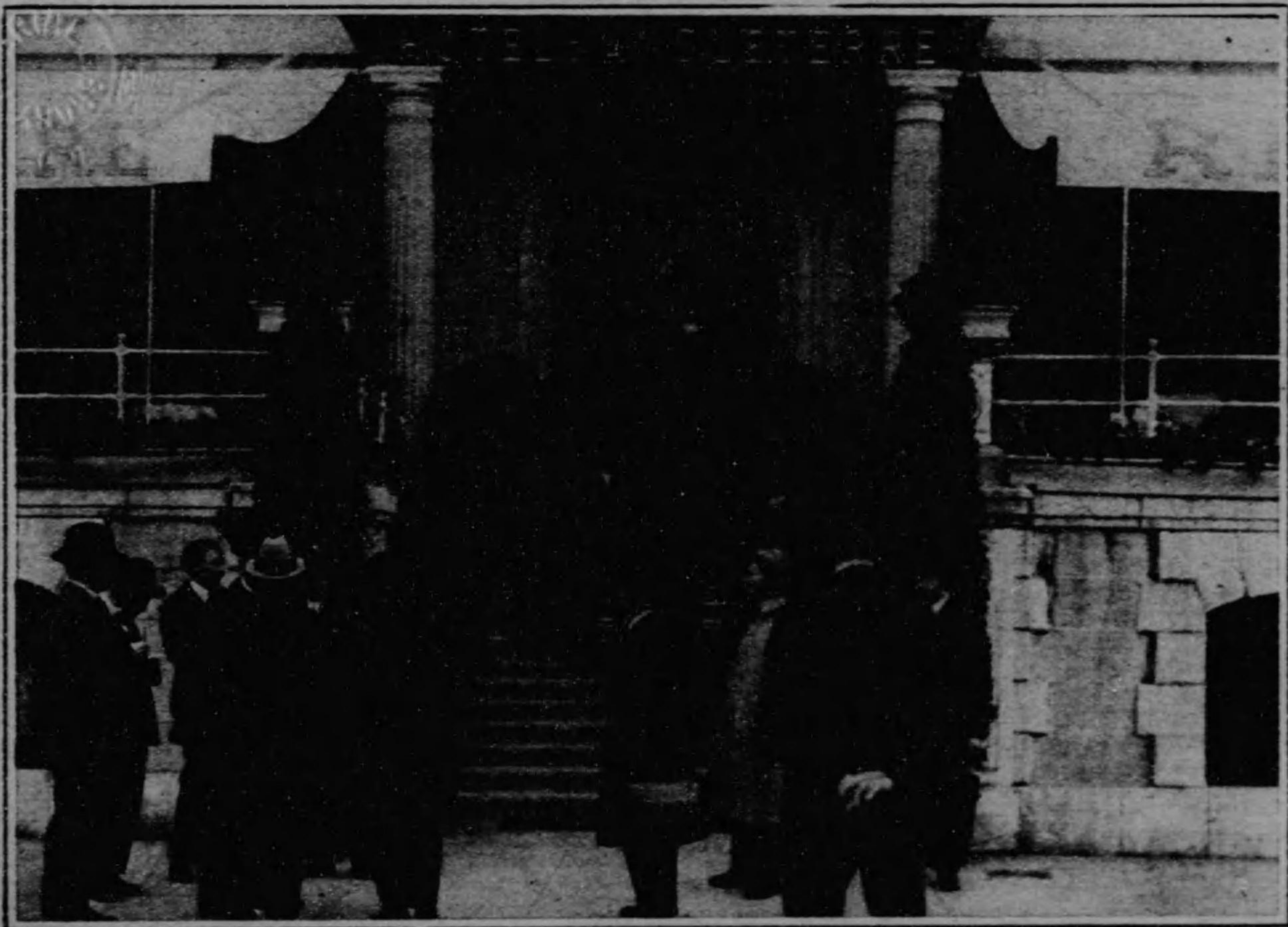
◇一九二七年五月、ジュネーヴで開かれた国際経済會議は、労働ロシアの代表が参加したことだけでも、可成り意義の多いものとされた。首席代表で農業經濟の大家オシンスキー氏は、工業國に對する農業國、大國に對する小國、資本家に對する労働者の立場から、ルシユール氏の歐洲關稅同盟論に反對し、またジュネーヴの國際經濟事務局案に對しても、第二インターナショナルの手先だとこつびどくコキ下ろしてゐる。

財政通のソコルニコフ氏は「カルテルこそ戰爭の誘因」と断言し、レブセ氏も各國はロシアを手本として勞賃を上げろと見解を切るなど、

◇あらゆる機會に、いろいろの問題で茶々を入れたり、會議の大立物を野次つたり、資本主義國代表連のとり濟ましたお上品さとお世辭で叱飛ばせんとした會議の雰圍氣に時ならぬ波紋を投げた。と思ふ間もなく會議の終るころには今までの強硬な態度をがらりと變へ、アツサリ妥協してニコ／＼と引上げてしまつた。煙にまかれた世界の人々はロシアが何の目的でこの會議に参加したのだらうといふかつた。

◇一人はやはり赤化宣傳に來たのだといへば、他の人はいや借金の湖踏みだともいふ。そしてこれを機會に通商提携の色氣を見せに來たと見るのが最も一般に行はれた觀測であつた。當時ロシア代表連は對者國の質問に對して答へてゐる。俺達は資本主義經濟の存在を否定しはしないそれは丁度ジュネーヴのホテルに泊つても助定だけは異議なく濟ますやうに。

◇寫眞はジュネーヴのホテルに到着したロシア代表一行、砲を持つてるのが首席代表のオシンスキー氏。



(70) ワナメーカー百貨店

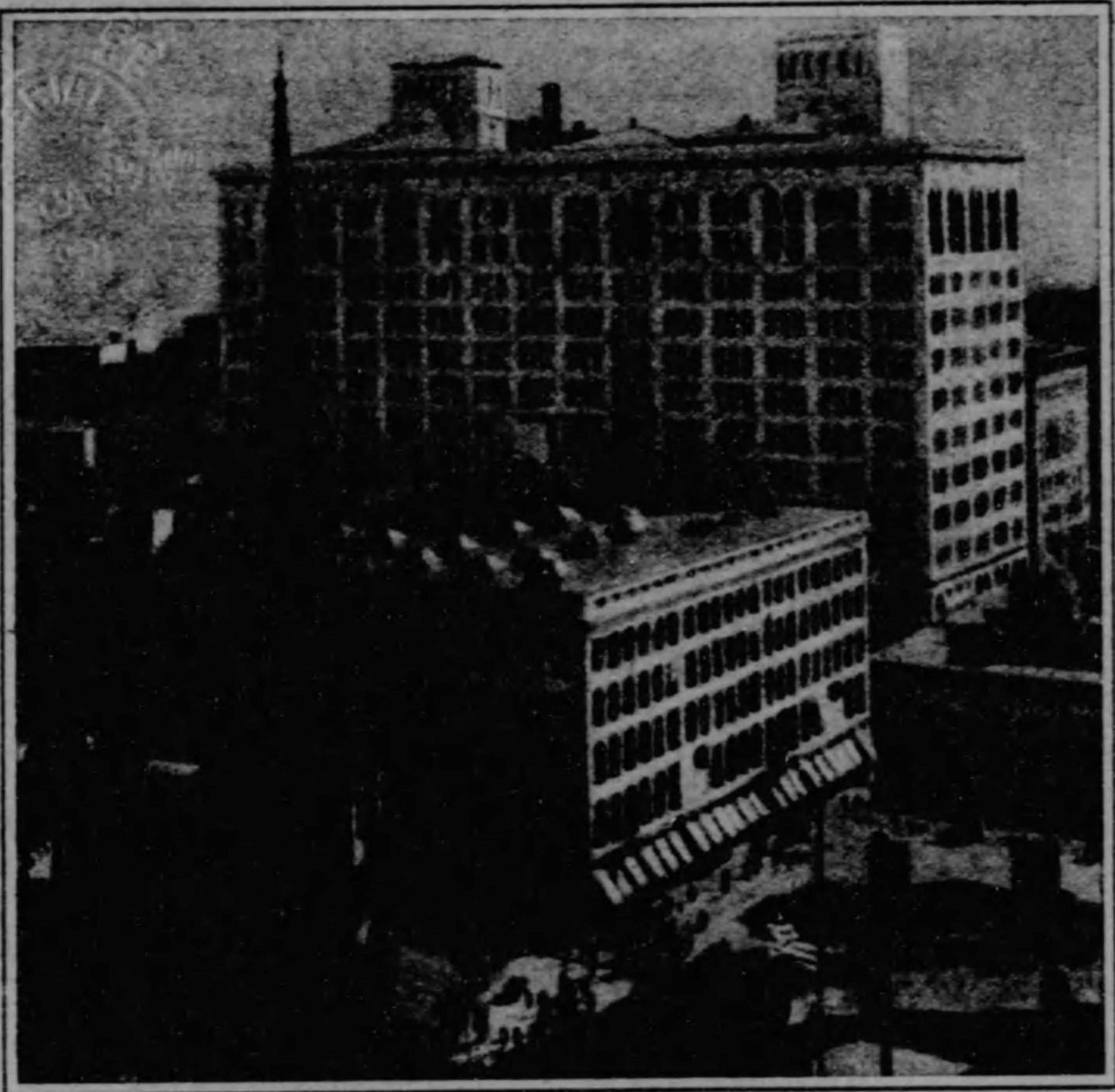
◇一八六一年八月八日、朝六時三十分に、ジョン・ワナメーカーと相棒のナサン・ブラウンがファイラデルフィアのマクネイル・ビルディングの一室に、始めて「オーク・ホール」といふ洋服店を開いた、そしてその日の商賣を終へた二青年が金函に見出した全収入は二十四万六千七百七十七セントであつたといふ。

◇このさうやかな小賣店が、七十年といふさして長からの歳月の間に、如何にして米國一の大白賣店、一萬五千人の店員と、一億四千萬ドルの商賣と、無数の顧客を有する今日のワナメーカーに成り上つたかは、それぞれ興味を有する人々の自由な探案にまかすとして、

◇前米國大統領タフトをしていはしむれば「ワナメーカー氏が商店經營の鐵則として創造した▲正札制度▲顧客に對して品質そのまゝの的確な見せ方▲不満足の商品に對する代金返却の方法▲買物品の無料配達及び距離によりては最低の配達費制度▲費用の節約と能率の増進をはかるための各種商業の集中と共同、すべてこれらの創案と才能とは世界にその比を見ない」さうである。(一九一一年ワナメーカー商店五十年祭での演説)

◇我々は多分タフトのいふところを信じて大丈夫だらう、そしてまたこの創始者ジョン・ワナメーカーの子として早くから父を助け、父なきあとは、更に各事業に關係して敏腕の名を得たロドマン・ワナメーカーも決して不肖の子でなかつたと考へても間違ひないであらう。このロドマンも一九二八年三月九日六十二歳で死んだ。

◇寫眞はワナメーカー・ニューヨーク店—兩建築とも



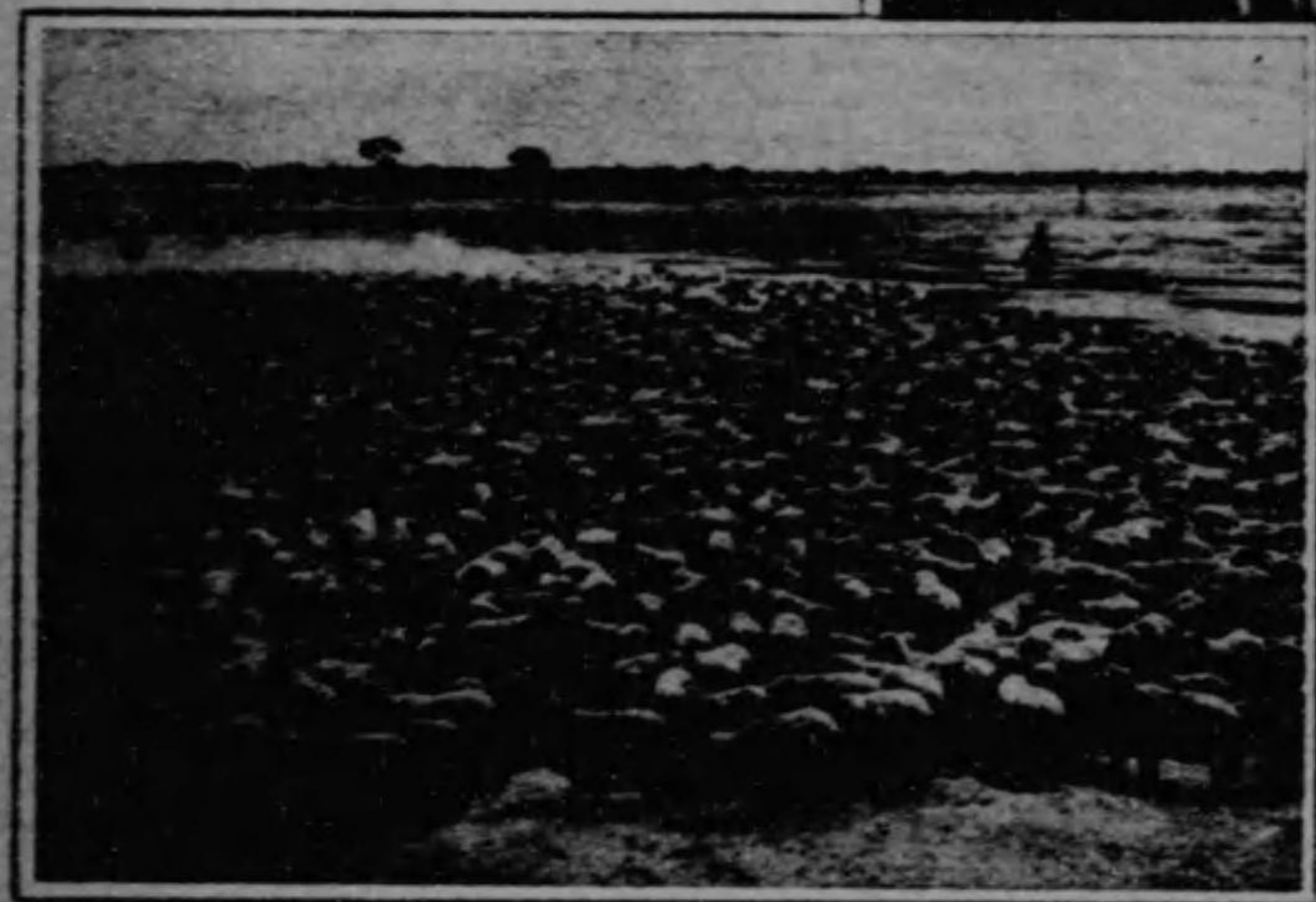
(71) 濠洲と羊毛

◇—大尉のウォーターハウスといふ男が、一七八九年濠洲政府から種羊買入の命を受けて南隣のケイプタウンへ渡つて来た。歴とした軍人の身で羊の買付とは情ないと、先生大分こぼしたさうだが、とに角ゴールドとかいふ徳家さんから買取つた二十九頭のメリノ羊を引率して目出たく濠洲に歸つた。尤も濠洲に入つた最初の羊といふのはこれに先立つ一年、一七八八年に矢張りケイプから来た同地の在來種だといふことだが、少くとも濠洲をして今日世界唯一の羊毛國たらしめたものは、この二十幾頭のメリノ羊、殊にマクアアサリなる人の手に渡つた八頭であるといふ。

◇—その後幾多先覺者達の努力によつて、濠洲の地味と氣候が綿羊の飼育に適することが證明せられ、羊種の改良も進めば頭數も殖えた。一七九二年の百五頭から九九年の二千四百餘頭、一八四二年には六百餘萬頭となり、續えて一九〇九年には九千二百萬頭、一九二六年の調査によれば約九千五百萬頭と、元よりその間には濠洲長を經驗しながらも絶えず増殖を續けてゐる。

◇—一九二六年七月から二七年六月に至る最近羊毛年度において濠洲市場で買付けられた羊毛總額は二百四十五萬俵、約七億五千萬封度、この價格賣に五千五百五十萬磅、これだけの羊毛賣行のお得意先はどこかと思へば、何といつても先づ總元の本國に指を廻す。お次が佛蘭西、日本、米國、五月總計數字は省くとしても、この順序に大體同違ひはなく、これ等輸入國民の身體と、濠洲人のふところとを、共にホッカリ養つてゐる。

◇—百頭はニュー・サウス・ウェールズにおける羊毛刈取場(上)と綿羊の群(下)



スエズ運河

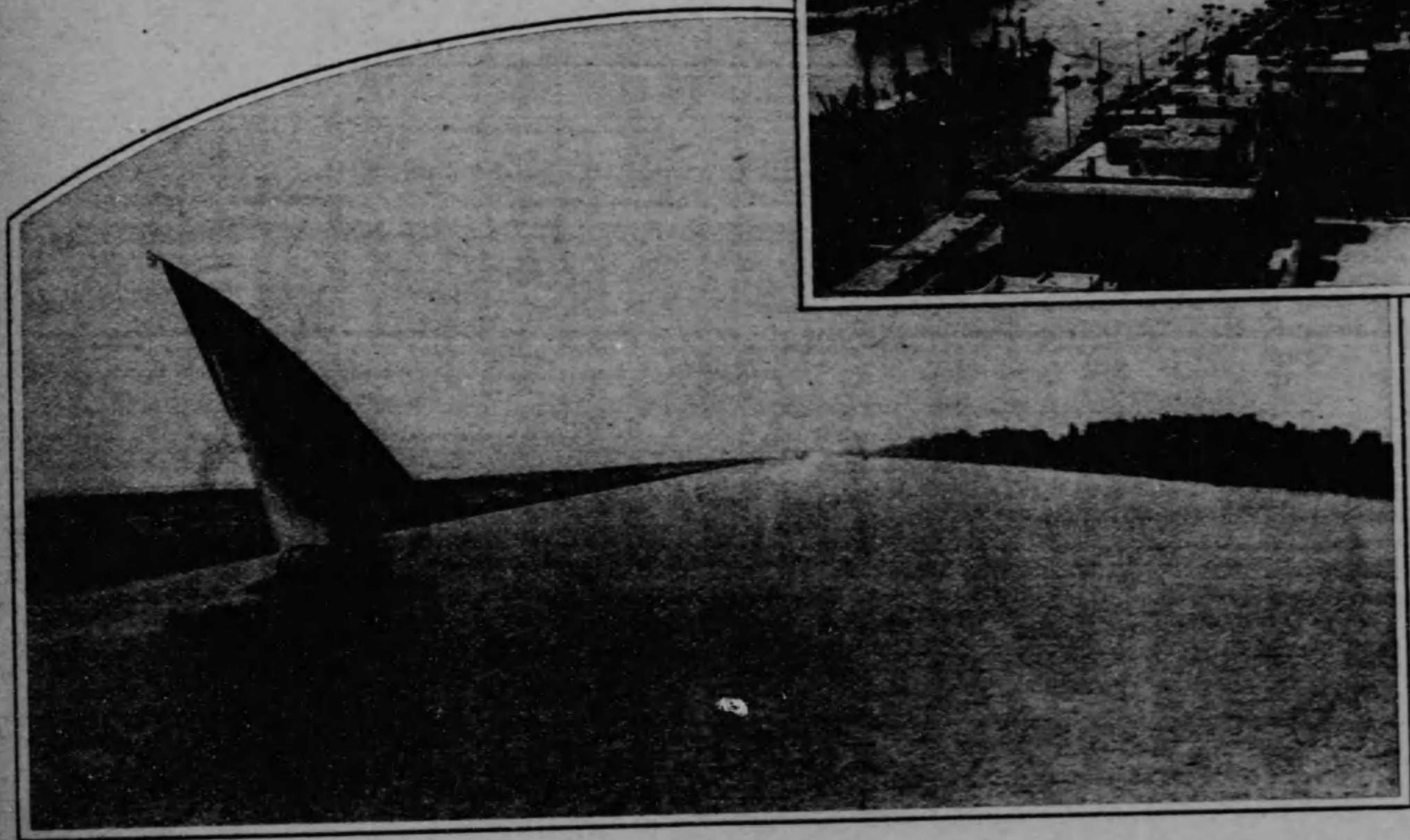
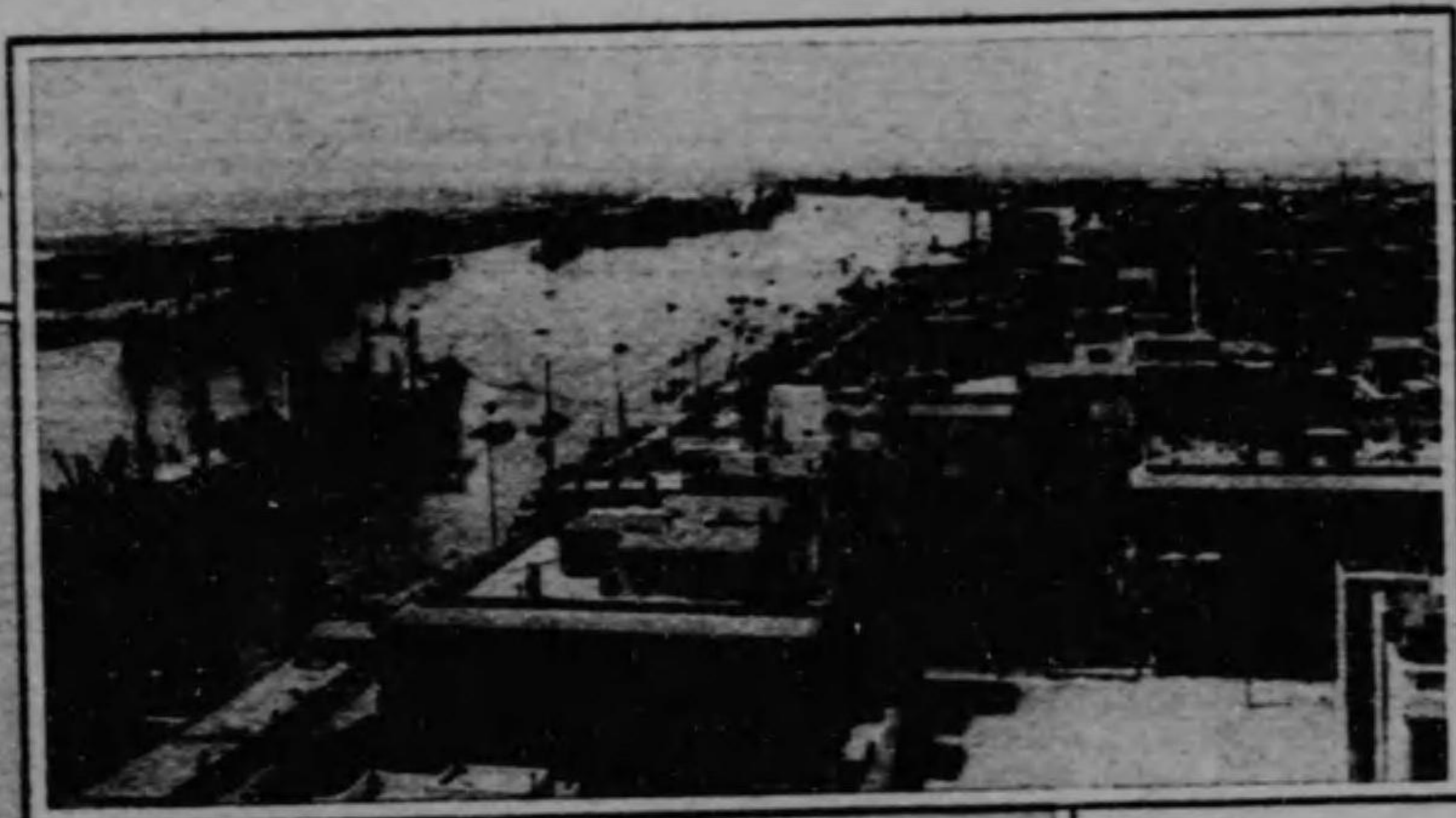
◇—スエズ運河の世界交通経済上における重要さを今更らしく喋々するほどのもの好きではない。ナポレオン一世が既に一七九八年ごろその開鑿を企てたことや、この計畫も地中海と紅海との水面差が三十フィートもあるといふ測量技師の誤算のため中止されたことや、一八五六年、佛人レセツプスの設計が國際委員會に採用され、同年工事に着手してから、一八六九年十一月、運河の完成を見て開通のはこびに至るまで、前後十四ヶ年にわたつて關係者達が経験した物狂はしいほどの苦勞や。

◇—それからまた地中海岸のポートサイドから紅海岸のスエズまで、四つの湖を連ねた總延長八七哩の間を、現在の如く幅員二二三呎乃至二六二呎、深さ三六呎と、如何なる巨船の通過にも不足しないだけの規模に仕上げた數次の擴張工事のことや、或はこの偉大なる國際的公共事業の主體たるスエズ・キヤナル・カンパニー（スエズ運河會社）の實權が、如何にして英國の手に移つたかといふことなど、スエズ運河の名と共に廣く世間に傳はつてゐる周知の事實についてタド／＼しい筆を費すこともやめやう、是非お知らせたい若干の數字記録を除いては。

◇—運河會社當局の發表によれば昨一九二七年中のスエズ運河通過船舶數は五千五百四十五隻、このトン數合計二千八百九十六萬トンで、過去の最高記録たる一九二五年の二千六百七十六萬トンを越ゆること二百二十萬トン、この船舶の國籍別は英國船の五七パーセントが第一で、オランダ、ドイツ、フランス、イタリーの順序でこれに次ぐ、しかしてこれだけの船舶によつて輸送された貨物の總量は實に二千九百五十萬トン（乗客數は三十四萬人）で、これまた一九二五年のレコードに比して四百萬トンの増加だといふ。

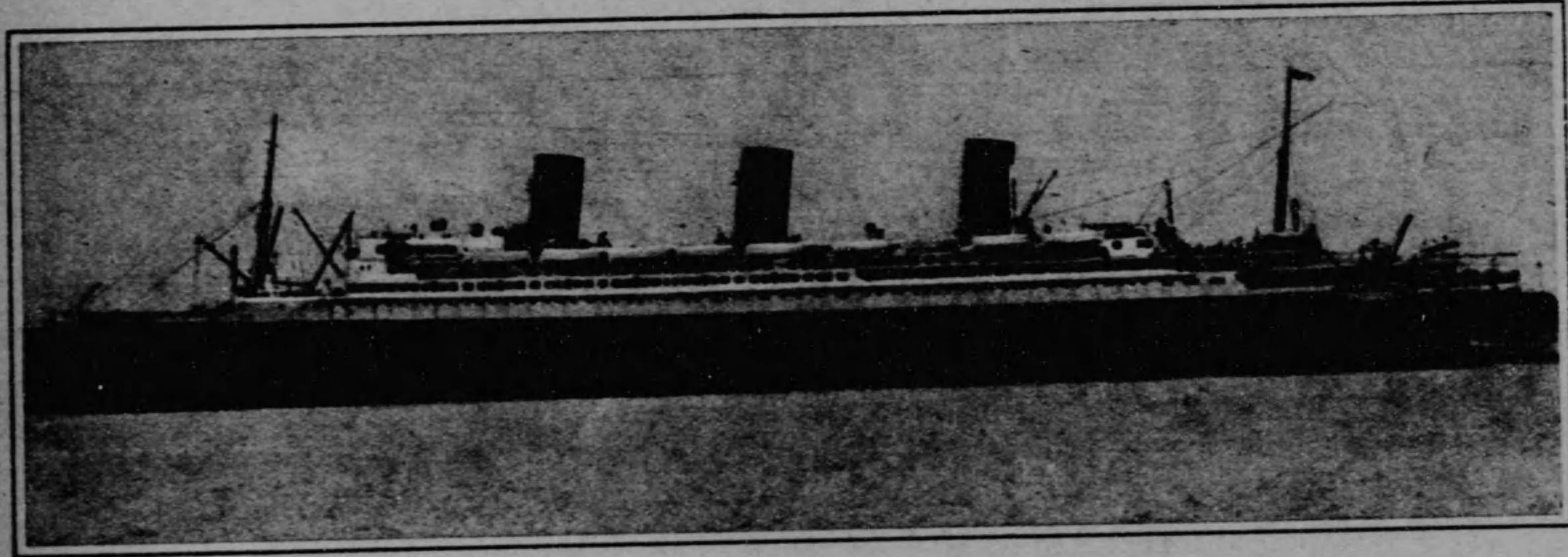
◇—これ等の數字によつて示される最近における運河利用の漸増傾向は、一方には國際貿易範圍の擴大、その數額増大によるいはゆる「世界經濟發展の一面を語ると同時に、またスエズ運河自身の價値を測が上にも重からしむるものでなければならぬ。

◇—寫眞はスエズ運河とポートサイド港



(73) イル・ド・フランス

- ◇—イル・ド・フランスは、アーヴル港に根據をおくコンパニー・ゼネラル・トランザトランチック社が大西洋航路に配するため、一九二四年十月から、二七年六月まで約三十一ヶ月を費して建造した世界的最優秀客船である。
- ◇—尤も單に噸數からいへば、同船の四萬三千五百噸に對して、五萬九千九百餘噸の「レヴィヤザン」、五萬六千餘噸の「マヂェスチック」、その他「ベレンガリヤ」、「アキタニヤ」など、上には上の巨船があるが、その設備の完全さに至つては「わだつみの末遠くして、行く船の數を知らずといへども、これに過ぐるものなしとかや」
- ◇—何しろ工藝、美術、この方面には御自慢のフランスが腕によりをかけただけあつて、船室の構造、裝飾すべて善つくし美つくして、旅客の贊心を満足せしむるに固執するところがない。
- ◇—かくて昨一九二七年六月、イル・ド・フランスがアーヴル、ニューヨーク間に就航するや、北大西洋船客同盟の各社は、同船の優秀設備による旅客吸力に一大脅威を感じ、遂に各社船を船型、船齡、速力などに應じて一般的に運賃の引下を行ふに至り、おかげで久し振りに「大西洋上運賃競争の風雲」を思はせたものである。
- ◇—しかしコンパニー・ゼネラルではイル・ド・フランスの絶対優越を信じて相手にせず、同盟船も結局は運賃引下の負擔に堪へなかつたので、キがて有耶無耶のうちに歩み寄つて結局元の箱におさまつたが、さりとて器鼠よしのイル・ド・フランスは、トンダ罪作りをしたものだ。
- ◇—寫眞はイル・ド・フランス



(74) ナショナル・シチー銀行

◇—従来世界の三大銀行といへば英國のミッドランド銀行、ロイド銀行、パー
クレーズ銀行と相属がきまつてゐたが、大戦を境として世界金融の中心がロン
ドンからニューヨークへと移りつゝある今日、前記の諸銀行が世界最大の地位
を米國の銀行へ譲らなければならなくなつたのも蓋し止むを得ぬ勢であらう。

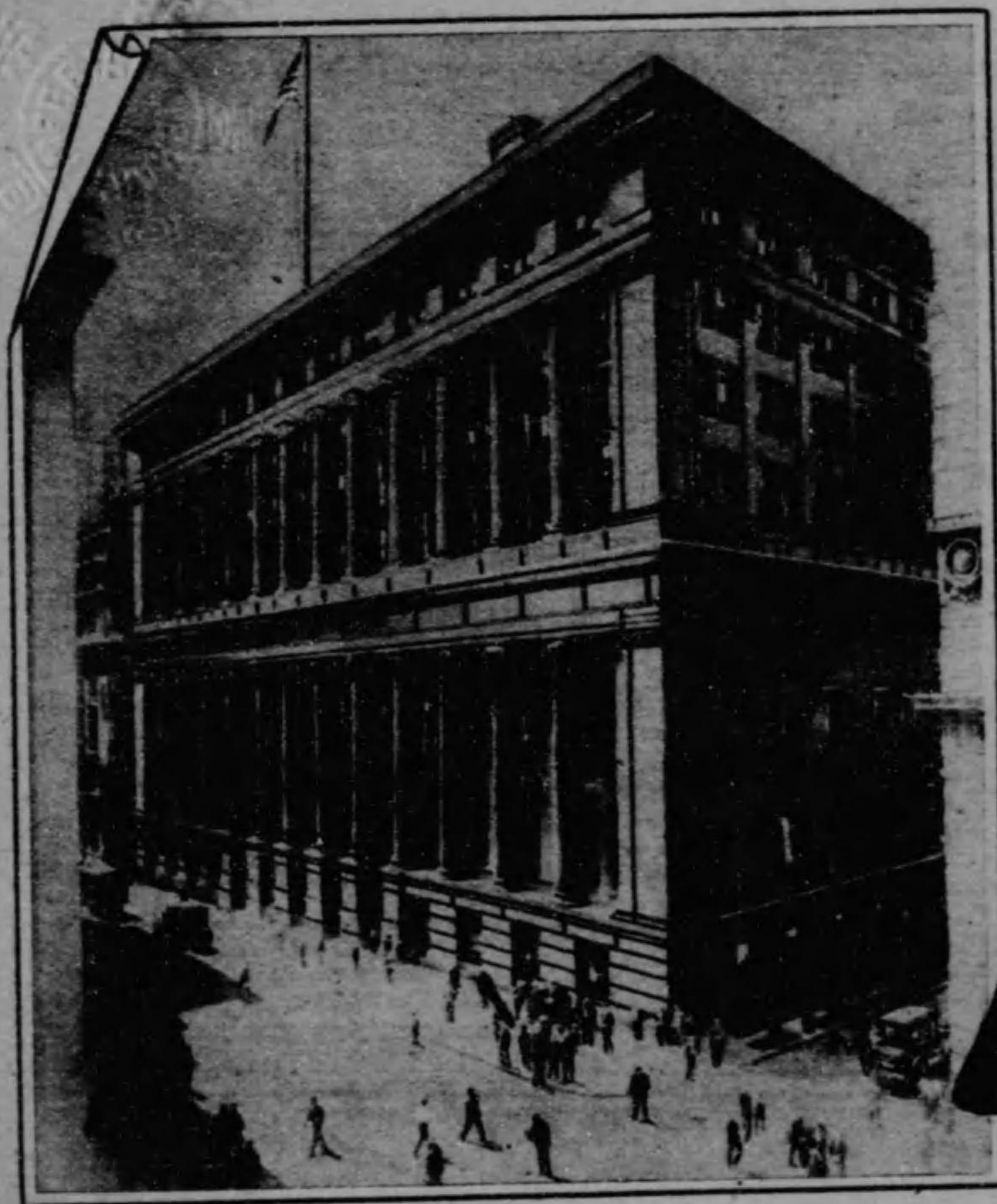
◇—ニューヨークのナショナル・シチー銀行は、アメリカが英國の覇権を脱し
て自由獨立の宿望を達したその年(一八二二年)に、拂込資本金、タツタ八十萬
磅(現在の拂込資本金七千五百萬磅、一九二八年五月には九千萬磅へ増資)を
擁して産聲をあげたもので、今では遂に大好きな世界一の稱を勝ち得た大銀行
も、當時は舊オランダ人の農作地にあつて小さな二階を間借し、出納係はこの

二階に居住する事を條件として年俸二千五百ドルで我優させられた。

◇—しかしステイルマン、ヴァンダーリップ、二代目ステイルマンなど歴代頭
取にその人を得て、シチー銀行は漸次順調なる發展を續けて来たが、現在の如
き圖抜けた發展をとげたのは現頭取ミツチエル君がこの重職についてからのこ
とだ、ミツチエル君が、離婚騒ぎから社會への體面上引退した二代目ステイル
マンの後を継ぎ頭取になつた一九二一年には、シチー銀行の預金は五億六千七
百萬磅、株の市價は三百ドル、内外支店四十八であつたが、今日では預金はそ
の二倍を超え、(一九二七年十二月末において十二億七千五百萬ドル)株も六百
ドル以上を唱へ、支店は實に百以上、しかも世界各地にゆきわたつてゐる。

◇—これだけの變化がタツタ六年間に起つたのだから、シチー銀行の發展振り
は、記録といふものゝあはたどしく次から次へと破られて行く米國でさへ空前
である、そしてミツチエル君はまだ五十前の生氣溢れる働き盛りである、以
てその非凡の才なることが察しられやう、なほミツチエル君の功績であり、且
つシチー銀行をして今日の大をなさしめた一要素は、從來丸持と大會社だけを
相手にする殿様銀行として知られてゐたシチー銀行が、ミツチエル君時代にな
つて僅か數ドルの預金者に対してすら門戸を開放するまでに民衆的となつて來
たことだ、たゞ時々よけいなおアヨツカイをして國貨市場に手を出したりす
るので、さらだに腰の弱い國債が盛んに上下動を始めて、よく隣邦官民の肝
を冷すには閉口する。

◇—寫眞はナショナル・シチー銀行とミツチエル氏



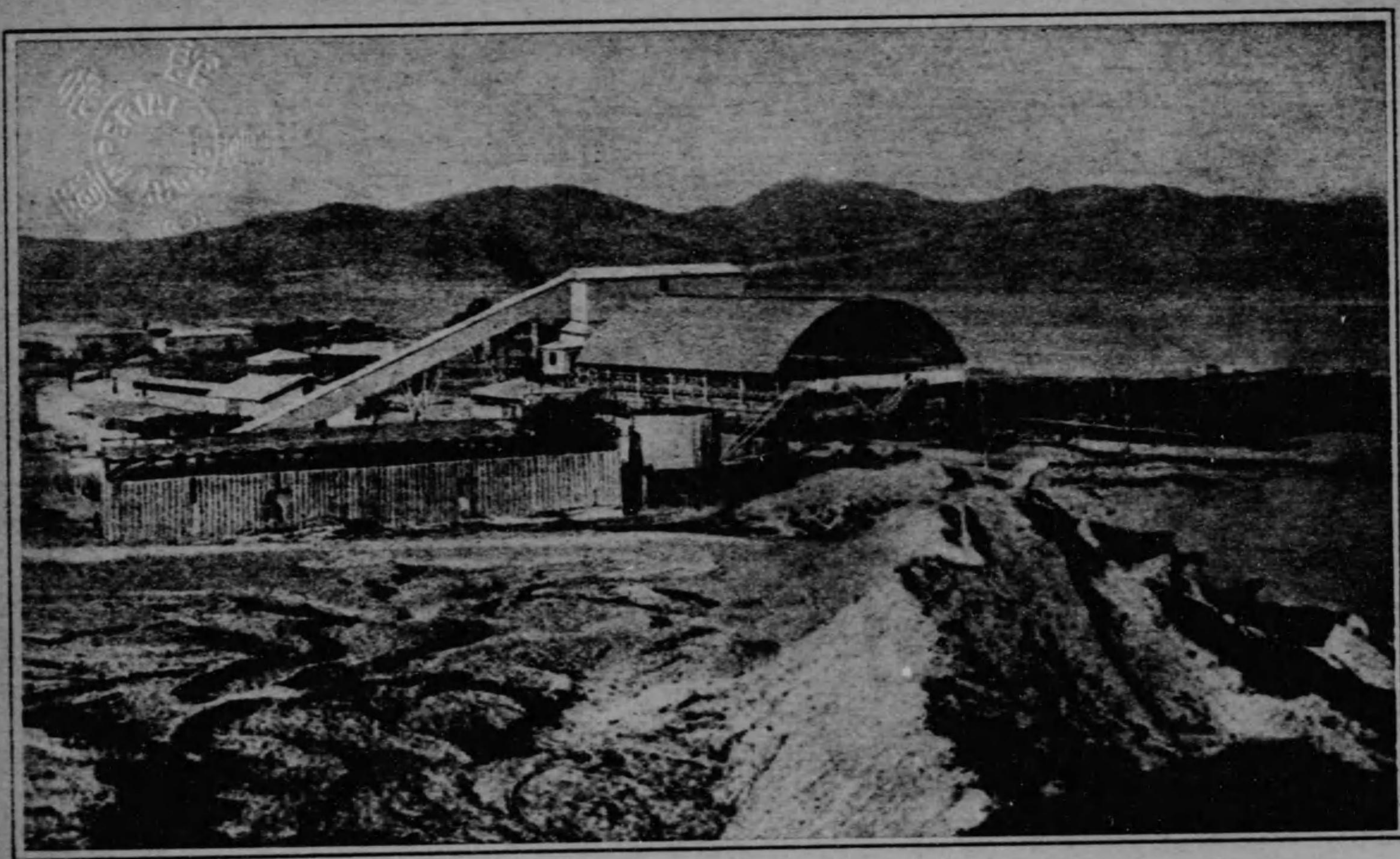
(75) 智利と硝石

◇——智利硝石の産地は南緯十九度半から二十六度といふ智利でも最北邊、東アンデス山麓より西太平洋岸にわたる山間一帯で、一般に硝荒蕪、當時物資は勿論飲料水にさへ事缺く僻地にて、硝石の発見される前世紀の末ごろまでは人煙不見の荒野であつたが、今や全世界を通じての硝鹼皆達供給一手引受所、硝石坑と鐵道と精製工場と勞働者併せて五六萬、彼等をめぐる數十萬の人々、いはゆる「硝石地方」はあらゆる近世的文化施設を備へて遺憾なき工業都市に組立てられた。

◇——だが硝石に養はれるのはこの地方二十幾萬の住人のみではない、年産二百萬屯の智利硝石は、肥料として全世界に配分され、土地を肥し作物を育み、やがては無數の人々を養つてゆく。尤も他面火薬の主要原料である智利硝石は時に幾百萬の貴重な人命を破壊し去つた哀しむべき記録もないではないが。

◇——智利における発見以來の硝石總生産額累計は、約八千萬屯と計算され世界の硝石消費高を年二百五十萬屯と見込んでも、なほ少くも今後百年間の供給に耐へるこいふ。が併し空中窒素の經濟的採取が漸次具體化しつつある今日、硝石に對する智利の獨占的地位がさう長く搖がぬことは果して何人が保證し得やう。

◇——寫眞は智利の硝石精製工場



(76) **ブラナー・モンド會社**

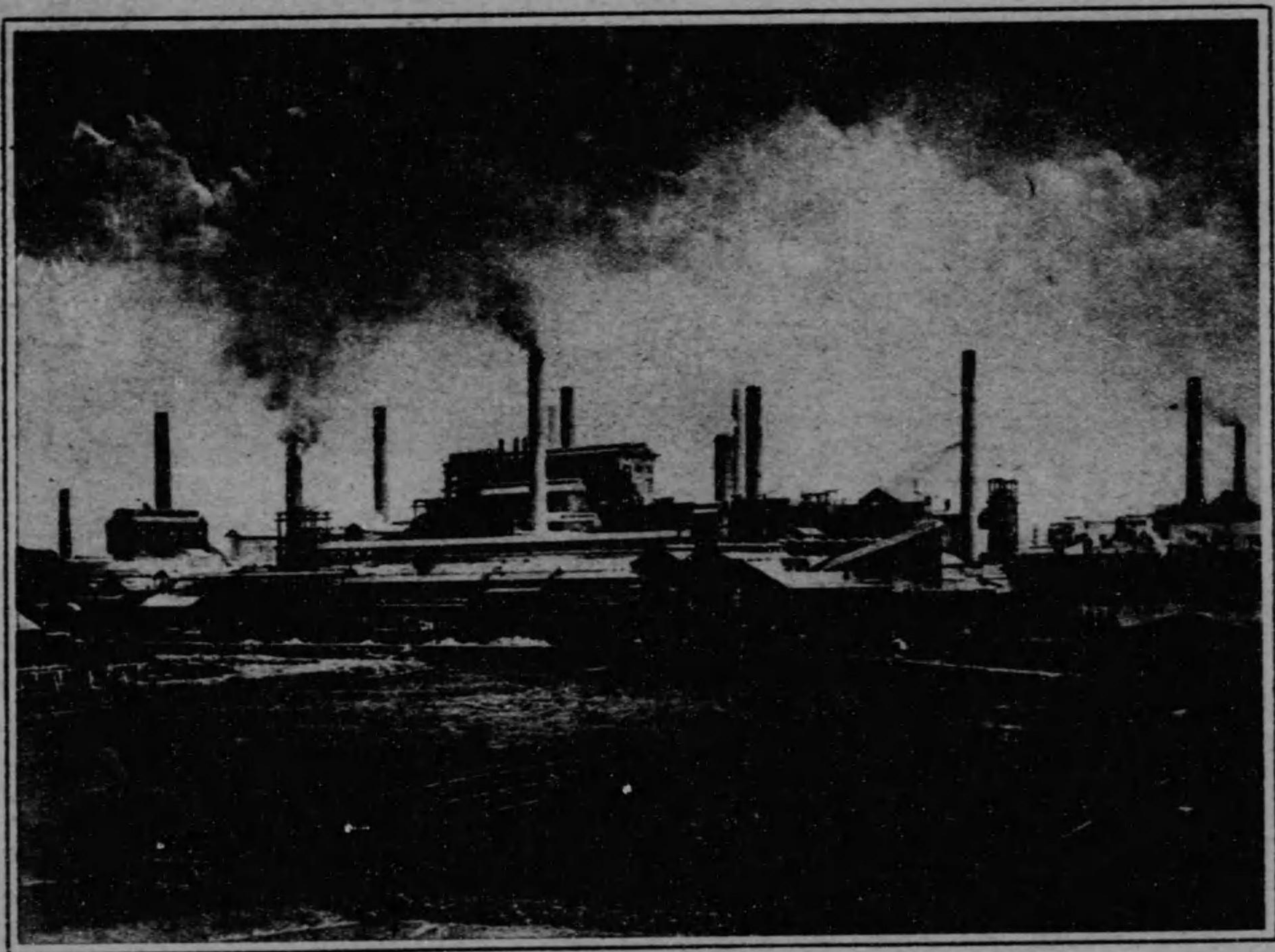
◇ 今日のブラナー・モンドは既に完全な獨立會社ではない、一九二七年の英國化學工業界の大合同以來、インベリアル・ケミカル・インダストリーズ(帝國化學工業會社)の一細胞となつてしまつた。が併しブラナー・モンドがこの七千五百萬磅の資本金を擁する新巨大會社の柱石であり、盟主であることは、その社長サー・アルフレッド・モンドが、成立と同時にこの新會社の社長に推された事實が最も雄辯に物語る所であり、従つてブラナー・モンド五十年の歴史は、ブリテイッシュ・ダイスタフ・コーポレイション、ノーベル・インダストリーズ、ユニナイテッド・アルカリ諸會社以下、大小四十會社のそれと相合し、新たにインベリアル・ケミカルの組織要素として、これと共に不斷の發展を續ける譯である。

◇ 又例によつて昔話し。一八七二年、當時英國の大化學工業會社ルプランに工場事務長たつたジョージ・トムリンソン・ブラナーが、同じく技師長のルー・ドヴィヒ・モンドと組合つて、チエシヤイヤーのウイニングトンへ獨立の會社工場を起した、チエシヤイヤーの地下三百尺乃至五百尺位に夥しい岩層層があつて、これが地下水の浸入を受けて「飽和鹹水」になる、それをポンプで汲み上げれば、原料食鹽が二三シリングで得られるとかで、その上炭田は近し、石灰石も豊富で運輸の便も悪くはない。

◇ この地の利に人の和を併せ得たブラナー・モンドが、一八七五年、曹達灰二千四百屯の初製造から、一九二六年、百二十萬屯の曹達灰及び曹達製品の生産に至る半世紀を通じての經營方針は、徹底的積極策の一語につきる。案案はじめあらゆる無機化學工業にも手を擴げた、その間内外の市場において幾何の競争會社をたゞきつぷしたことからう。或るものは遂に潰滅し去り、或るものは降を軍門に乞ふた。一八九〇年には本家筋のルプランでさへ、ブラナー・モンドの壓迫に堪えかね、反對會社を創合して、ユニナイテッド・アルカリ會社を設立し、しかもその主力を曹達灰より、硫、鹽酸、麵粉等に轉ずるの餘儀なきに至つた程である。尤も今では當時の吳越相共に、インベリアル・ケミカルとの平和な一員であるが。

◇ 主として硝子原料として本邦曹達灰の消費量は年額約十二三萬屯、進歩する進歩するといひながら、今だに國內生産が消費の一割内外に過ぎぬわが工業界のことだから、今後も充分、或はなほ永くブラナー・モンド改めインベリアル・ケミカルの御厄介になることであらう。

◇ 写真にインベリアル・ケミカル・インダストリーズ會社(元ブラナー・モンド)のウイニングトン工場



(77) ソヴィエツト農村

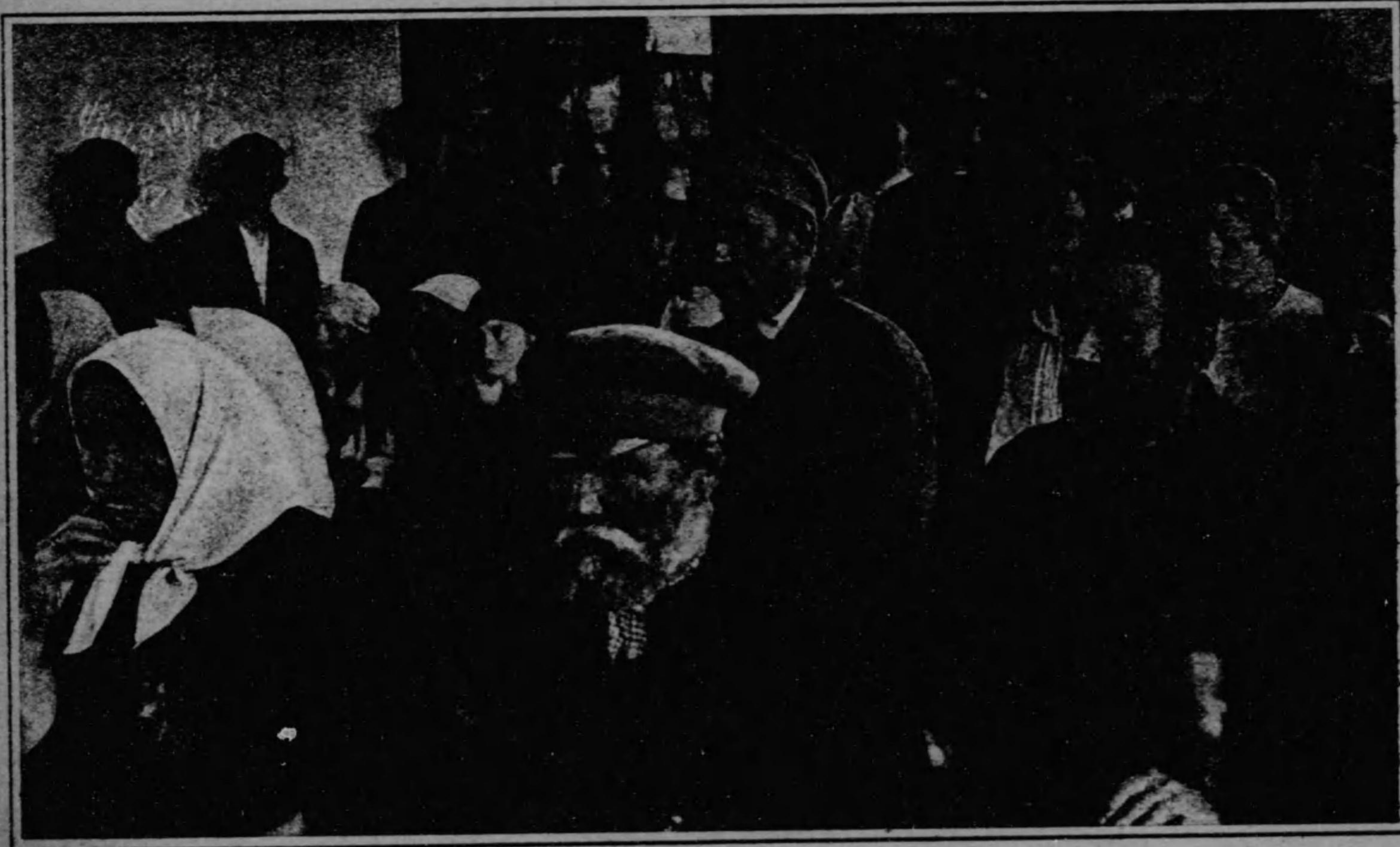
◇——新興ロシアでは今、しきりに「ロシアの工業化」が叫ばれてゐる、いかにドンバスの石炭、バクトの石油、世界の四分の一にわたる大森林を蔵してゐるやうにも、ロシアの興隆は少なくとも當分は一にかゝつて農村にある。

◇——「ムジーク(百姓)のロシア」をいふニツク・ネームがいかに嫌ひでも、一億二千萬テシャチンの廣大なる耕地面積を有し、その收穫高百五十億五千八百萬ルーブル、内四億一千四百萬ルーブルの農産物輸出(一九二七年度)たるロシアにまつてはムジーク様々であらねばならぬ。

◇——穀物を輸出して機械類を仕入れるこゝこで、ロシアにまつて興隆の最善唯一の道であるこゝは誰しも考へてゐるこゝのだが、工業品の製造はロシアではさうも高價につく、それに穀物の価格は戦前の二分の一に下落して、工業品と農作物の價の開きは恰かも鉄の兩刃の如く、所謂鉄型經濟恐慌は依然こゝとして續き、今年に入つて農民は穀物の賣惜しみをやり始めて、買付の成績も甚だ上つてゐない。

◇——こゝもするこゝ先走つて「工業化」を夢見る新興ロシアに依然たる百姓ロシア、こゝに矛盾があり、悩みがある。

◇——寫眞は村ソヴィエト(會議)の光景



(78) ゼネラル・モーターズ

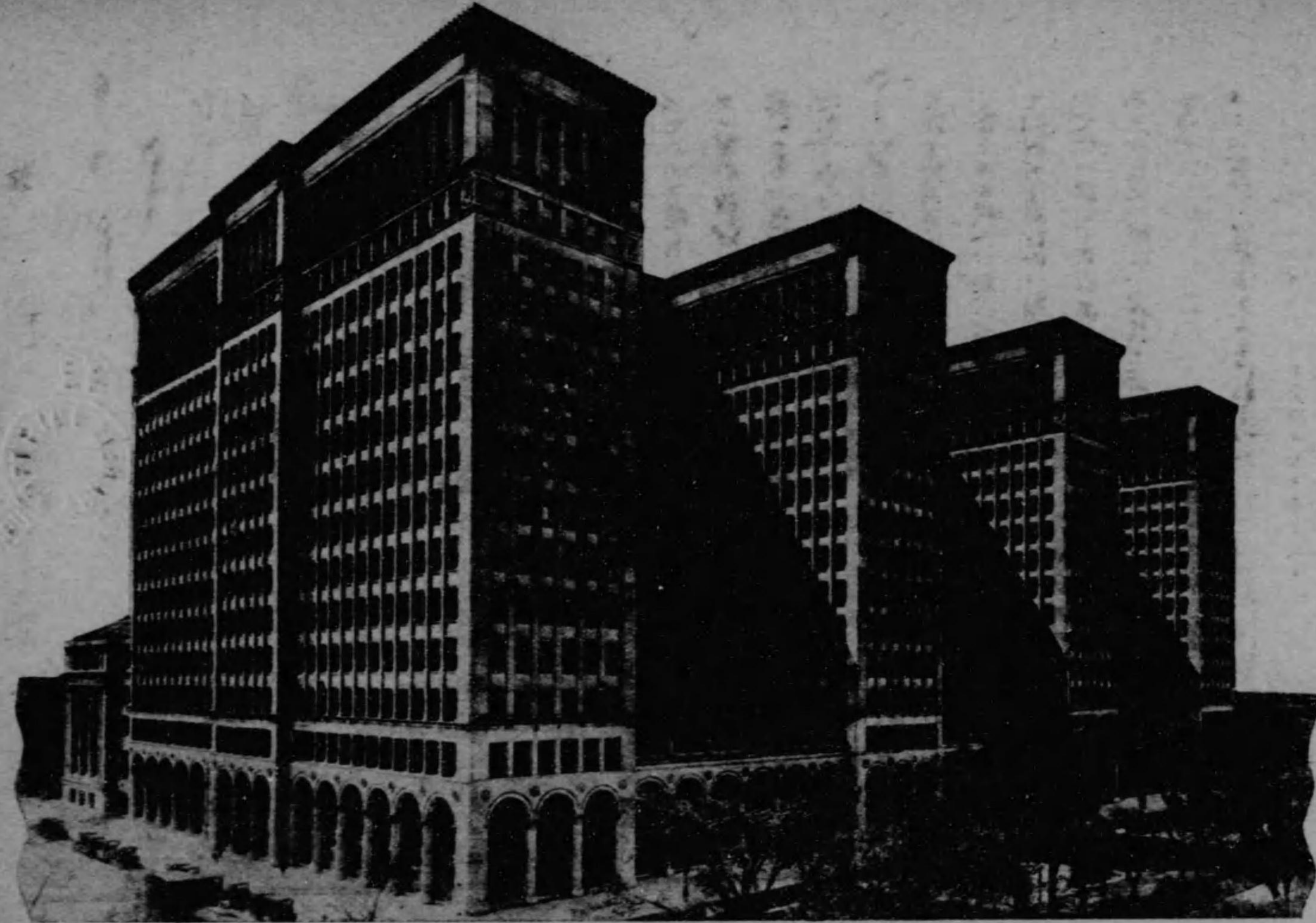
◇—米國自動車の歴史は一八九〇年以來僅か四十年にみたぬが、フォードの「安からう悪からう」政策は一般米國民の所得の増大、流行の月曜販賣法の利用と相まつて、少くとも米國では自動車は既に一部富豪の獨占物ではなくて、完全に民衆のものとなつた。

◇—どこかの様な貧乏國ではバスの隔つこにもとこまるか、假令フランスに返つても精々國タク級の連中が、日曜には家族同乗の自用车で郊外ドライブとシヤレこむのが今日の米國である。かくて自動車熱が漸次進行すると「フォード」では駄目だと生意氣をいひ出す。さてこそゼネラル・モーターズあたりの高級車に羽が生える結果となる。

◇—ゼネラル・モーターズは例のモルガンがデュ・ポンと共同でやつてゐるもので、數個の自動車會社及び附屬品製造會社の一大聯合である。従つてその製品もフォードのフォード型専門と異り、オーケランド、カデラック等の高級車から、フォードと似たりよつたりのシボレーに至るまで多種にあり、吾國は更に自動車以外の製氷機や冷蔵庫の製造にまで手を延ばしてゐる。

◇—同社一九二六年度の自動車製造高は百二十一萬六千台で、フォードの百四十四萬台に及ばなかつたが、賣上高は後者の七億五千萬ドルに對して十億ドルを唱へ、翌二七年度にはフォードの作業中止（五六回暴風）に乘じて約百五十萬台の自動車を市場に送り出した。その結果一九二六年度にあつては一億七千六百萬ドルであつた利益金が、二七年一月より九月に至る九ヶ月間で既に一億九千三百萬ドルに達したといふので、これにはさすがの米人も驚いたと見え、ニューヨーク株式市場におけるゼネラル・モーターズ株は一度に五ドルもはね上つたと當時の諸新聞は報じてゐた。

◇—吾國はデトロイトのゼネラル・モーターズ・ビルディング



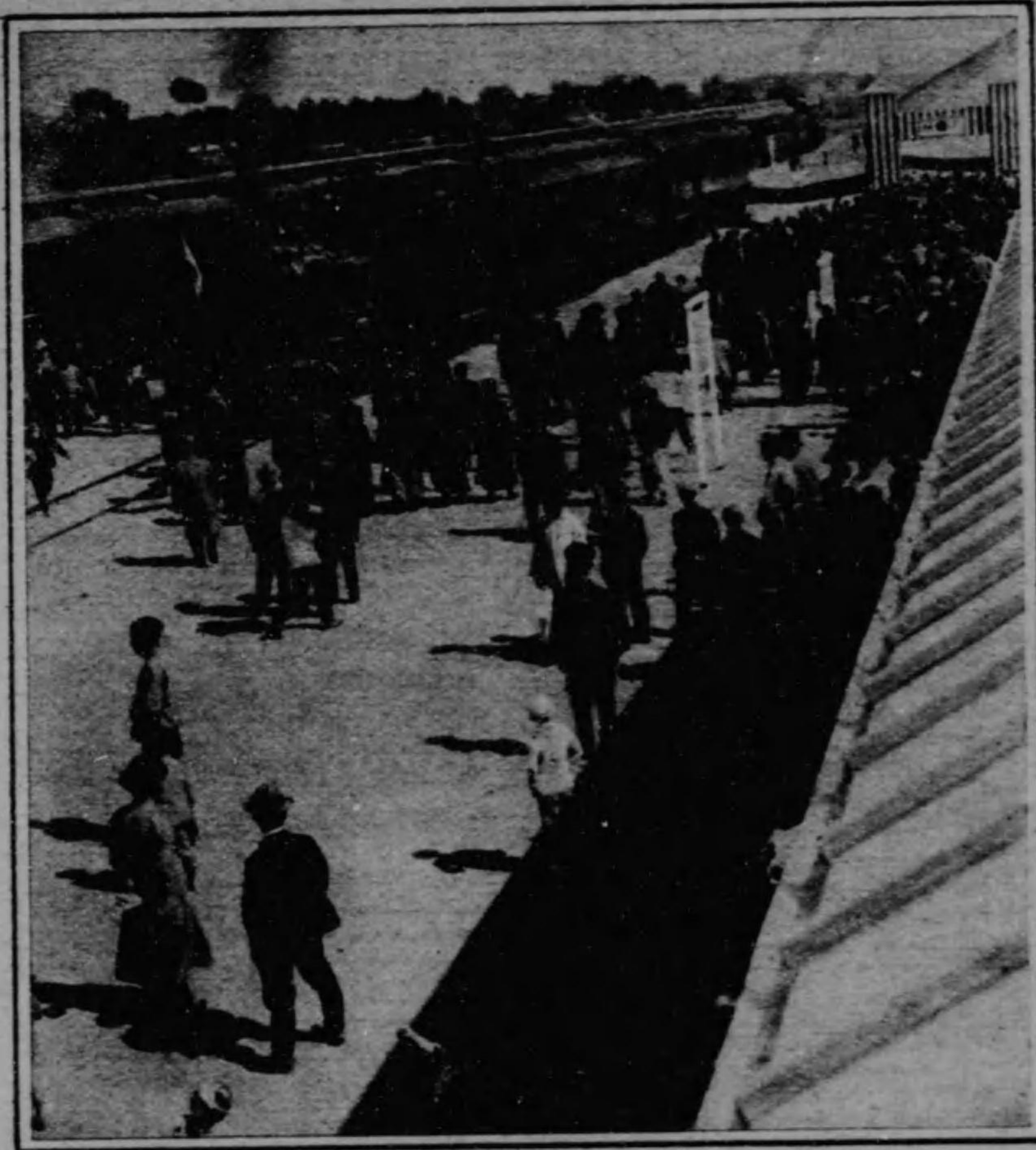
(79) 金福鐵路公司

◆——金福鐵路公司は大正十四年十一月、日支合辦で設立された鐵道會社で、その經營線は滿鐵線金州驛を起點とし、關東州を横斷して、支那本領ミ境を接する城子驛に至る六十三哩である。滿鐵同様軌幅四呎八吋の廣軌式で、工費三百七十萬圓を以て大正十五年四月に起工し、昭和二年九月竣工、十月一日より運轉營業を開始したが、同月四日には社長門野重九郎氏來滿の上、州内官民數百名を鏡子窩驛に招待して盛大な開通式を擧げた。

◆——尤もまだ創業早々のこゝこ、て貨車や機關車は滿鐵から貸して貰つて一時を凌いでゐる有様だが、列車は滿鐵線の大連驛より直通、しかも既に一日三往復を運轉してゐる。これで従來馬賊の代名詞みたやうに考へられてゐた鏡子窩も、馬賊の代りに鹽や大豆の物産が出廻る様になるだらうし、州内産業も新鐵道の便で今後大いに發展するこゝこ、日支人共にその開通を祝福してゐる。

◆——その上更に東に延びて滿鮮國境の安東に達した頃には安東、大連間は滿鐵線に比して十時間近くも短縮されるので産業交通上の利益はいふまでもないが、現在では夜でないに來ない内地の新聞が朝讀める様になるこゝこ、殖民地らしい喜びに今からその實現が待ち望まれてゐる。

◆——寫眞は開通式當日の鏡子窩驛



(80) ボズナニの歳の市

◇——ベテルスブルグがレーニングラードと變り、クリスチヤニアがオスロと呼ばれ、コンスタンチノールブルグがスタンプルと改まる。歐洲戰前にドイツ領だつた東プロシアの首府ポーゼン市もポーランド領となつて以來ボズナニと改稱された。——そこで大きな歳の市が開かれる。

◇——ロシアのニジニヤドイツのライプチヒヤ、フランスのリヨンに立つ市場は蓋しも知つてゐる古典的なもの。戰後にはこれと同じ趣向のものをライオン河畔のケルン市がやる。マインの岸のフランクフルト市がやる。東ドイツのケーニヒスベルグ市がやる。オーストリーのウィーン市がやる。チエツコスロヴァキアのブラチグ市がやる(六一回参照)

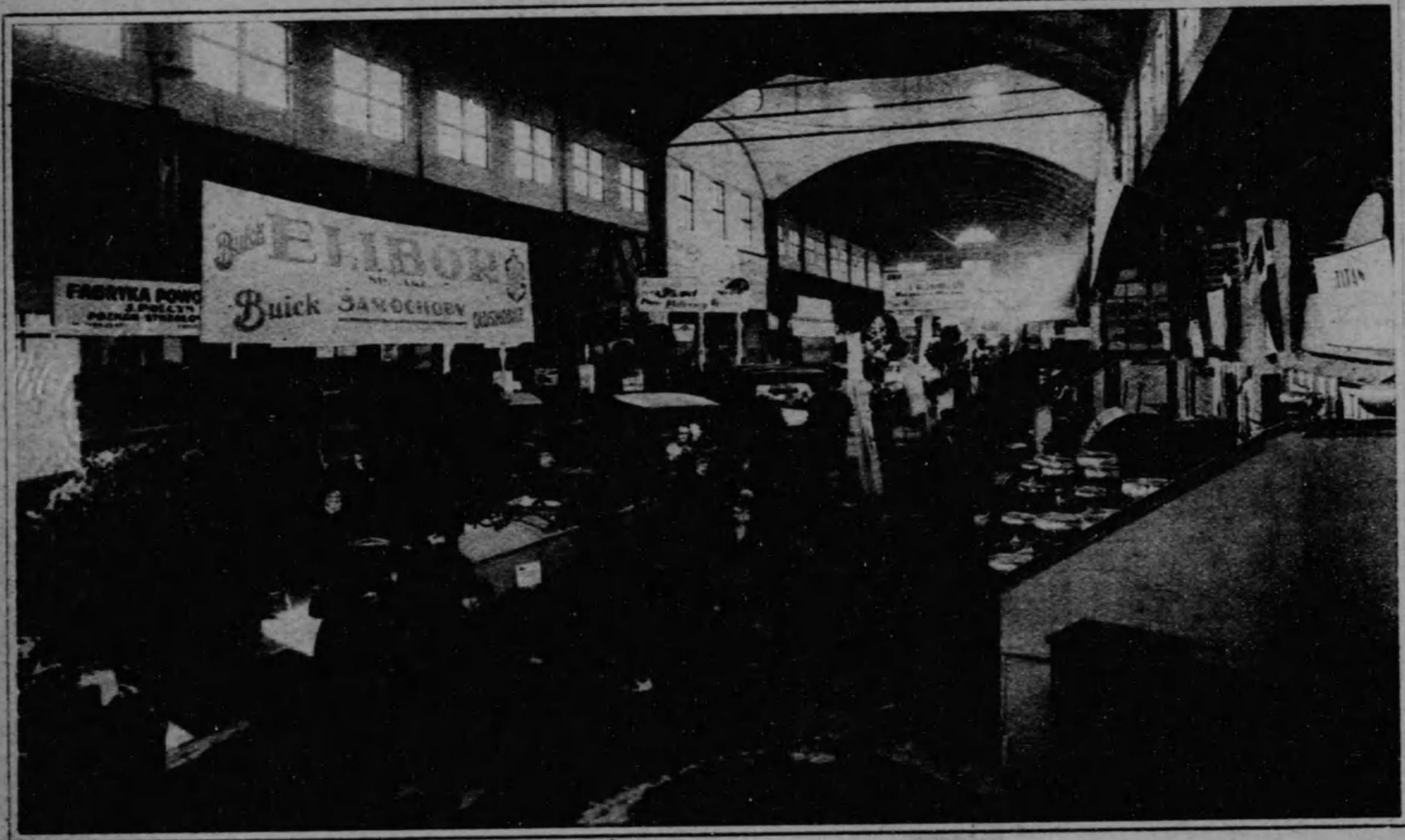
◇——これを見てゐた新隣邦のポーランドがドイツ人に断つて必要上からも黙つて見てゐるはずがない。早速ワルシャワと、それからこのボズナニに競争的に歳の市を開いたのだ。

◇——が、どうせポーランドの田舎の歳の市だ、そこらの無日の夜店に毛の生えたぐらゐのもの、などと思つてゐると見當違ひ、永久的建築の立派な市場館の中に、ぎつちり並べられた紡織品、家具類、建築材料、さては足車な農業機械、モーター、自動車、飛行機等、現代工業の粋を集めた品物のたくひ数々。

◇——そこらにないともいへない「ポーランドにも自動車が出るか」など、尋ねる人は「日本に電車があるか」と尋ねられて憤慨する資格のない人々で、自動車だつて飛行機だつて、買物の點ではどこにも負けない、その上新興國の意氣が加はつて仲々立派なものが出る。

◇——尤もこの歳の市なるものは商賣氣半分に宣傳氣半分、少し自分を世間に廣告しやうと思ふ新都會などが、このごろ用ひる流行の方法で、ボズナニの歳の市もこの例にもれず、まへからその用意とあつて市の統計を配る、物産紹介の小冊子を送る、色彩の鮮かなピラヤポスターを世界各國の大都會へまき散らす、萬里の外にあつてボズナニの歳の市が見られるのも、宣傳の世の中に生れ合せたればこそである。

◇——写真はボズナニの歳の市



(81) サザムプトンの埠頭

◇——ロンドンから船車連絡列車で二時間足らず、マヂエスチックやアキタニアの五萬屯級が横付けになるのがこの埠頭である。いは、英國の表立關、市街地は港からや、離れてる港の町も思へぬほご落付きがある、人口八萬。

◇——この船車連絡は旅客の荷物に一切引換券や預り證を出さない。汽車が着いたら、旅客はプラットホームへ夏の蟻道のやうに積下ろされた荷物の中から、勝手に自分のを擇り出して赤帽に渡すのだが、曾て間違の起つたことがないといふ。だがサザムプトンのこの埠頭も早晚不必要になるに最近の一英紙がいふ。蓋しアメリカからドシ／＼大西洋横断飛行が行はれるやうになるからださうだが、さしてさう簡單に行くかな？

◇——寫眞はサザムプトン埠頭



(82) 合衆國分析局

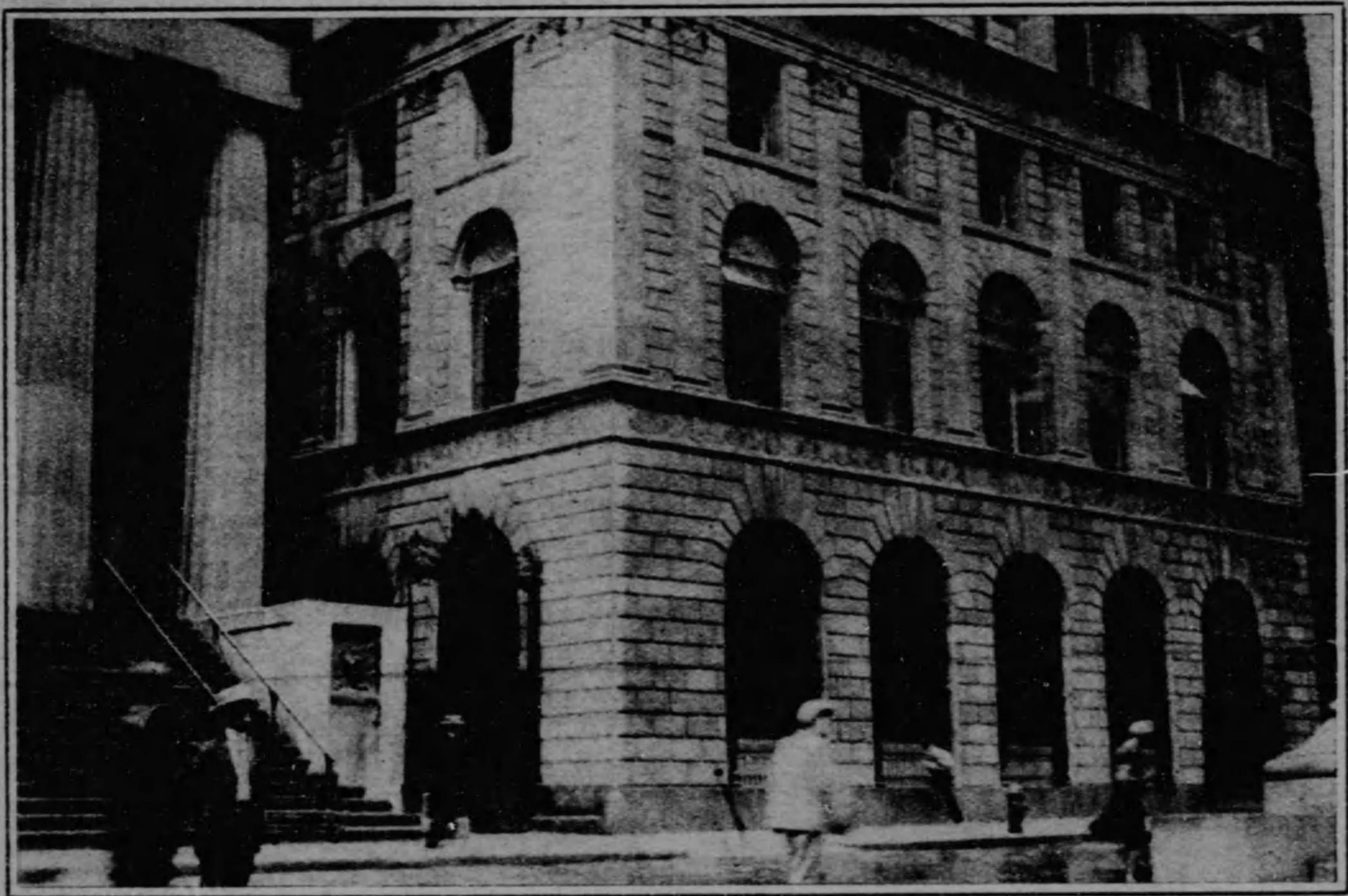
◇——最近の發表(一九二八年三月末現在)によるミ米國の金保有高は約四十三億ドルで世界總額の半ばを占め、その内約二十億ドルに相當する金は紐育の合衆國分析局に保管されてゐるこいふ。

◇——ウォール、ナッサウ兩街の交叉點、元合衆國支金庫であつたドーリック式御影石建築を存負うて、ガウン姿のワシントンが立つてゐるが、この大偉人の銅像を横目に見てお隣りのウォール街三十番に、終日「弗」の追跡に狂奔する人々を冷然と見送つてゐるがこの「世界の金庫」合衆國分析局である。

◇——その所謂「唸る黄金」の貯藏所は地下約七十尺に及ぶ地下室で、かつこれが上下五階に分れてゐるこいふのだから、つまり五層樓のオフィスがそのまゝ、地下に埋没してゐるも同然で一階より三階までは各階一億五千萬弗づ、第四、第五兩階は五億弗づ、の金塊收容力があるさうだ、一杯つめても二十億弗にはちみ足らぬ様だが、そこには何かのカラクリもあらう。

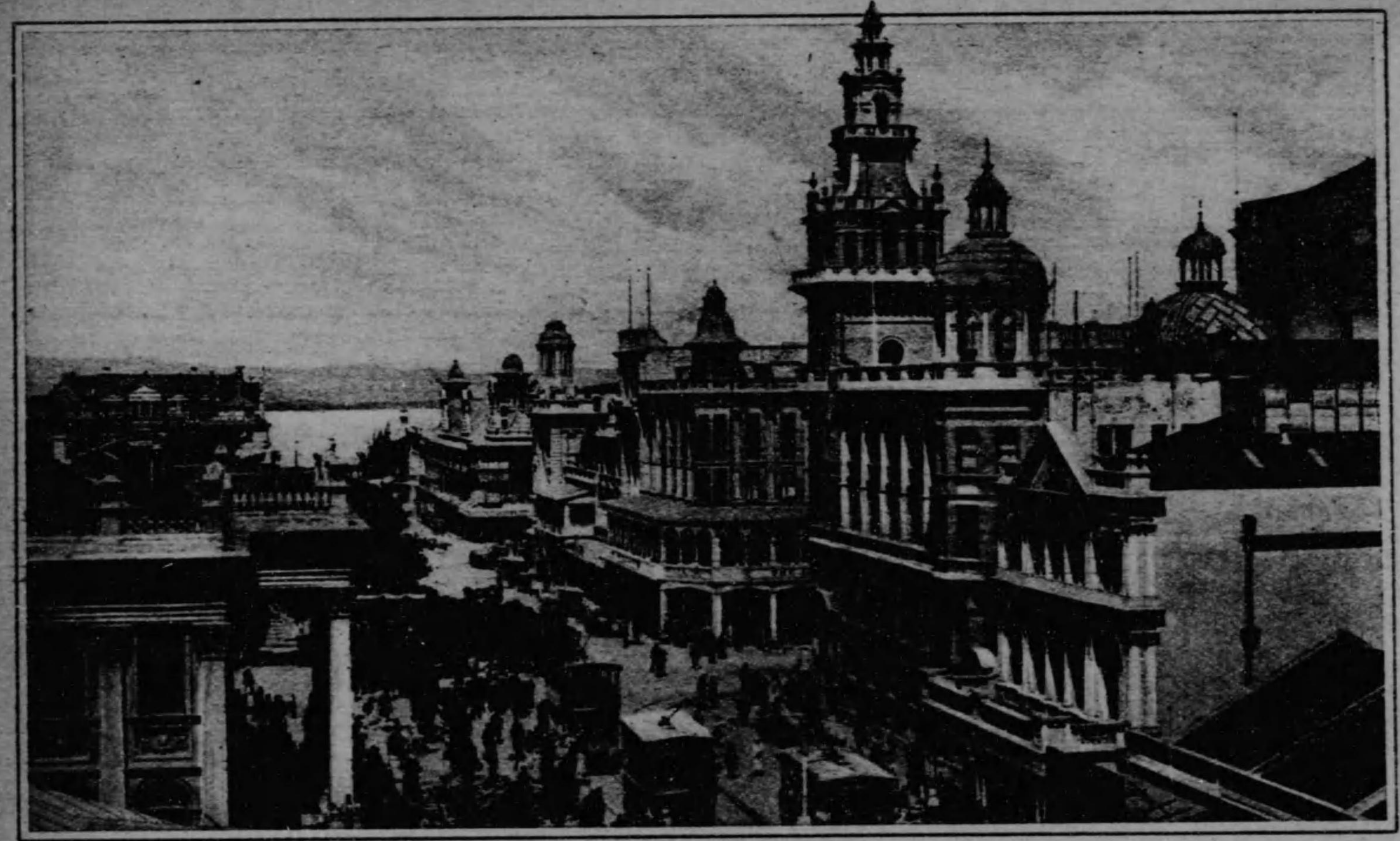
◇——その筋のいふ所によるミ、一フィート四インチ半立方の金塊が百萬弗になるのださうだが、分析局貯藏の金塊は長さ六インチ六分の五、巾三インチ八分の三、厚さ一インチ四分の三の延べ版で一枚八千弗こいふこゝになつてゐて、今は寶石商や貴金屬業者へは金一オンス二十六弗六十七仙の割で月平均四百萬弗づ、こゝから金塊を拂下げてゐる。

◇——寫眞は合衆國分析局



(83) ダーバン・エピソード

- ◇ 一九二八年一月十三日といへばついでこの間のこと、東アフリカきつての商港ダーバンの、あまり客種もどうかと思はれる二流カフェエの裏下りをブラリといつて来た一人の男があつたと思ひたまへ。
- ◇ カフェエの女将さん「ヤア入らつしやい」で、よく見るとこれは珍しい東夷日本人「貴食を食はせろ」とおつしやる。
- ◇ それを見つけた娘のモガがいふことに「お母さん、あれ日本人でせう日本人ならアジア人でせう、アジア人だしたら……」さうだ、アジア人には一夜の宿、一食の悪みはおろか舞辻さへウツカリひつかけられぬが東阿、南阿のしきたりだ、そこで女将さん「料理はもうお仕舞です」と来た。
- ◇ ムツとした件の日本人、それではお茶とパンを買ひたいといふ、さすがにパンがないとはいへないので不精無精に出したものを、それへ手もつけず前にすえたまゝ小一時間も黙つて坐り込まれて見ると、無いといつた料理を他の客に出す譯にもゆかず、困つたのは女将さん、それにこのアジア人の出かけの文句が気になる、「あれはお前さんの娘かい、以後もつと慎むがよからうぜ、ダーバンではマランホテルだらうが、ロイヤルホテルだらうが、今では決して日本人を差別待遇はしないからね」。
- ◇ その日の新聞に「日本人船長に對して無禮を働いた小カフェエ」といふ記事が出た。日本人がアジア人である以上カフェエの扱ひ方は仕方がないとする當然論や、それは怪しからぬといふ憤慨論が相繼いで集つた、やがてその日本人船長の聲明書まで發表される騒ぎになつたが、さてそこで……
- ◇ あれが日本の大阪商船會社が二年前から開始したアメリカ航路カナダ丸の船長で、東南阿の人種的偏見除去に苦心した森野衛氏だつたのか、濟まぬことをしたと、かの女将さん、思つたかどうか。
- ◇ 写真はダーバンの街



(84) コントアール・デスコント銀行

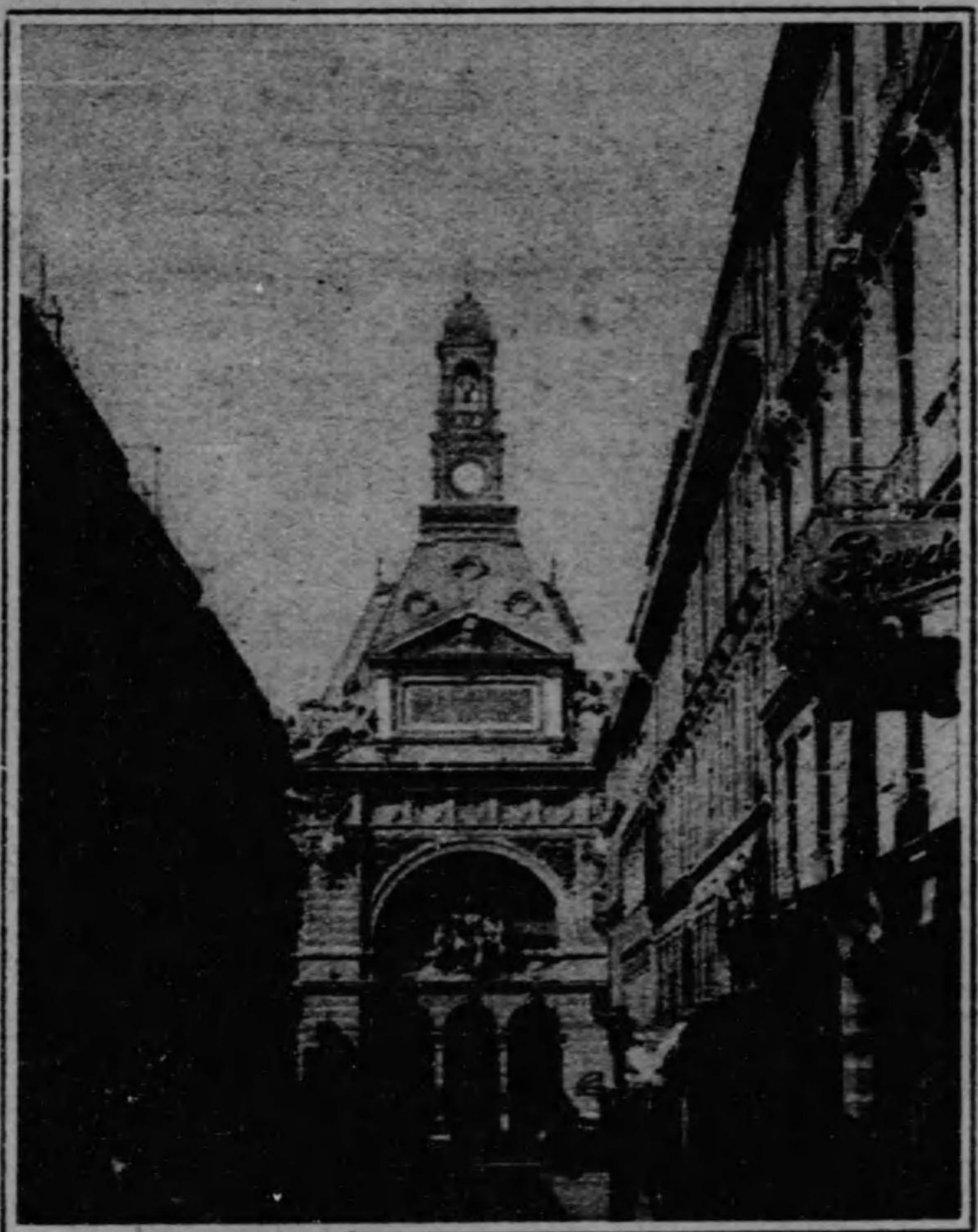
◇—コントアール・デスコント銀行は佛國內有数の預金銀行で、設立されたのは一八四八年、時あたかも第二次革命の直後で、巴里におけるあらゆる金融機關は屏息し盡して利用する方法なく、何によつてその財政を支へて行くかは、基礎なほ薄弱な革命政府にとつて死活の問題であつた、中央銀行としての佛國內銀行はあるが鼻息が馬鹿に荒く、後年實佛戰爭後成立した新政府の貸上命令に對して、總裁キュウイーが「佛國內銀行は政府の奴隷に非ず」と叫んだ勇氣と精神とは當時からもつてゐたと見えて、到底革命政府の手に負えず、結局政府の手で新たに銀行を設立し、之によつて財政上の危機を辛くも脱し得たのがこのコントアール・ナシヨナル・デスコント・ド・パリである。

◇—最初の資本金は二千萬フランで大部分は政府とパリ市が保證し、一般から募集したのはその三分の一に過ぎなかつたが、一八五四年政府筋との關係を断つて純然たる株式組織となり、主として當時大流行となつてゐた鐵道建設の金融方面に活動し、一八七三年と一八八二年兩度の恐慌も不思議に無傷で押し通した。

◇—所が内面的にはこの時既にヒビがはいつてゐたのか、一金物會社の隆盛が動機で、遂にボロを出すに至り、さしづめフランスにおける台灣銀行といふ格で、一億四千萬フランの台灣鐵道ならぬコントアール鐵道をフランス銀行始めパリの大銀行に仰いだ、それも瞬く間に取付けられて止むなく店を閉ぢてしまつた、しかし當時のフランス人は、金融恐慌時分の日本人より氣が短かつたと見えて、一週間も経つときれいに整理が出来、改めて資本金四千萬フラン半額拂込の新銀行が同じ名稱で更生した。

◇—それ以來經營宜しきを得て發展順る順調に、一九一九年には總行のナシヨナル・バンク・オヴ・コンマース、ボストンのフアリスト・ナシヨナル・バンクと共に佛米銀行を設立し、祖國復興のために寄與する所甚だ多い。一九二六年末における預金額は三十九億五千萬フラン、同年度の純益四億一千萬フラン、配當は一割四分といふ成績である。

◇—寫眞はコントアール・デスコント銀行



(85) マガチ曹達湖

◇—アフリカ大陸の東部、近ころ日本でも時々口にされるやうになつて来た所、東部に、英國ケニヤ植民地がある。このケニヤ植民地の南境、タンガニカ湖に近いマガチと名付くる湖こそは、實に正銘まがひなき、うつし世の不忠誠である。

◇—人々は長さ十二哩、幅三哩、面積三十平方哩にわたるこの湖が、ピンク、青及び白に一面着色されてゐるのを見る。湖水全量が天然曹達の結晶に蔽はれてゐるからだ。このマガチ湖の天然曹達産量は、約二億屯と推算されてゐるが、一度これを採掘すれば、直に水がその空間に流れ込んで、いつの間にか又元通り結晶するといふのだから、これこそ文字通り汲めども盡きぬ曹達の泉なのである。

◇—如何なる作用で湖水が曹達に結晶するかは化学的説明は、こゝでは御免蒙るが、現在この曹達の業が英國のブラナー・モンド(最近大合併の結果インペリアル・ケミカル・インダストリーズとなる、七六回参照)に握られてゐることは、日本でも皆知られてゐる。もつとも、表面には天然曹達マガチ會社の名において經營されてゐるが、先年この兩社が世界市場で激しい競争をやつた後、マガチ社が破綻に瀕するに至つて、ブラナー・モンド社がこのマガチ社を買収し、その實権を握つてしまつた。しかし何分にも土地が僻地にあるので、設備や運輸に制限せられ、只今のところこの曹達の採掘量は一ヶ月四千屯を限度とするらしい。

◇—それにしても、曹達はあらゆる化学工業に缺くことのできない原料である。各國ともに曹達工業には心を砕いてゐる有様で、我國でも歐洲大戦中一時目鼻がつかけたが、戦後多くの化学工業會社が没落の悲運に陥み、今では日本曹達工業と旭硝子の二社が、外國品、殊にこのマガチの天然曹達の競争に對して孤軍を守つてゐるといふ形である。かくてマガチ曹達の我國へ輸入される量は可成りの多額に上り、最近においては一年に四萬屯近く、金額にして十六、七萬圓(百六、七十萬圓)に上り、マガチ全産額(五萬屯内外)の約八割を占めてゐる。つまり日本はマガチ曹達の最もよいお得意様といふわけ。大阪商船會社が東阿定期航路を營んでゐるのも、主としてこのマガチの曹達とウガンダの棉があるためである。

◇—写真はマガチ湖と湖畔の曹達採掘工場

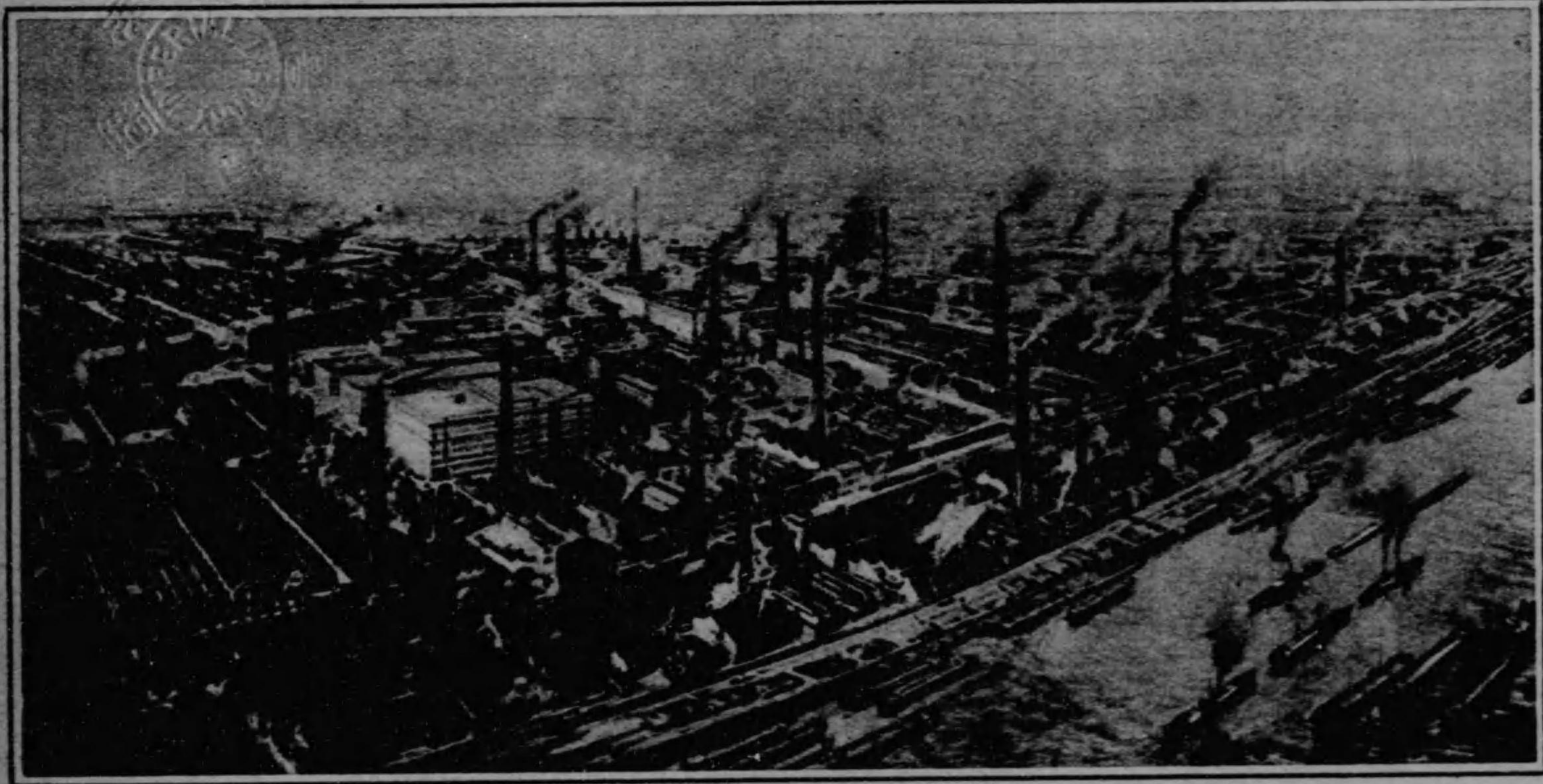


(86) 獨逸の窒素工業

◇——最近肥料年度中（一九二六年七月—二七年六月）、獨逸における窒素肥料の總産額は、含有純窒素分を計算して約五十八萬六千屯で、世界窒素産額の四割三分に當るが、その内四十一萬五千屯、石灰窒素七萬屯、硝酸石灰六萬屯、硝酸普達硫安が一萬五千屯、その他約二萬屯となつてゐる。硫安の含有窒素は二十パーセントであるから、硫安總量は二百萬屯以上となる譯、この三割近くが海外へ輸出されるが、日本へ來るのは二十萬屯内外である。

◇——これ等窒素肥料の販賣は各窒素會社の組織する窒素シンヂケートの獨占になつてゐて、我が肥料市場なごもその氣まぐれな賣値政策には大分弱つてゐる。本邦でも政友會政府は昭和二年四月組閣以來、肥料政策の確立には大分力腐を入れ、肥料調査會あたりでさうから原案をひねくり廻して、一時は今にも肥料管理を始めさうな聲息であつたが、その後久しく音沙汰がない、何ごいつても肥料政策の根本は如何にして我が肥料工業を獨立せしむるかにある、專賣か管理かなごは要するに枝葉の問題だ、幾らふん張つても自給自足が出来ず、獨逸肥料なごに牛耳られてゐる現状では、彼に比して原價の點で競争が出来やうが出来まいがそんなとは問題にならぬ、現に我國産硫安も獨逸につれて百二三十圓を唱へてゐるが原價は話にならぬほご安くなつてゐるごいふ、第一ハーバー法の特許を握りながら、自ら製造するでもなく獨逸から輸入して特許料を食つてゐる様な不心得者のある我が肥料界である。

◇——寫眞は獨逸最大の窒素工業會社バイテイツシュ・アニリン・ソーダ會社のルードウイグスハーフェン工場



(四) シカゴの勸工場

◇—勸工場などいふ言葉はすつかり世間から忘れられてしまつたらしく久しく打聴えて耳にしないが、ひと頃は随分方々にもて囃されたもので、まづ今日の公設市場から、幾分台所臭味を抜き去つたものと思へば大體間違ひない。

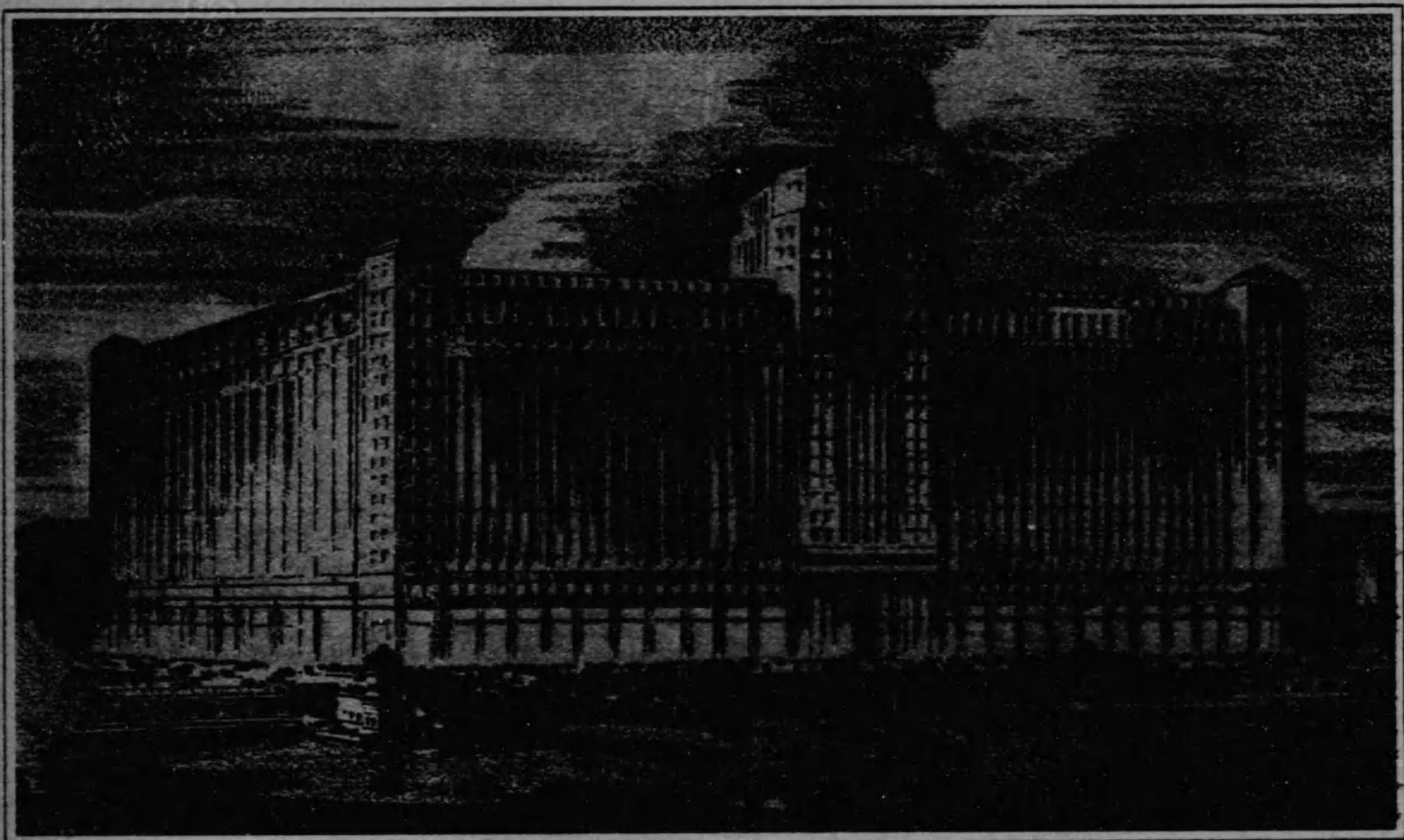
◇—その勸工場がシカゴに出来るといふ、しかも素晴らしい大きな規模で、たゞ以前の勸工場に少しく趣きの變つてゐるのは、出品陳列人は主に製造業者または卸賣業者、輸入商等でお客は小賣商人だといふ點にある。

◇—尤もまだ出来上つた譯ではなく、こやがて下車に着手するはずといふのだからあまり具體的には説明出来ないが、一應その計畫を紹介すれば、

◇—敷地は元のシカゴ・エンド・ノースウエスターン鐵道の停車場で、正面はシカゴ川に面する五七七呎、後はキンジー街に面する七二四呎、左側がウエルズ街で三二四呎、右側のフランクリン街に面する方は斜になつてゐて、ちよつと計算が面倒だが、とにかくこれだけの敷地の上に十八階乃至二十三階の建物をしやうといふのだから、床面積は四百萬平方呎に達する。その工費は三千萬物の見積りださうな。

◇—シカゴ・エンド・ノースウエスターン鐵道はこの建物内に停車場を造つて貨物の出入に便するといふし、お客たる小賣商人の利便のためにはあらゆる設備を備へるといふので、マリーシャル・フィールド百貨店の卸賣製造部の如きは、既に店借の申込をしたさうだから、落成の頃には世界中の國々から千種萬様の大小商品がこの大勸工場の各階に充ち満つるであらうとは、發起人の宣傳そのまゝである。

◇—寫真はシカゴ勸工場(マーチヤンダイズ・マート)の豫想圖



(88) ドレスデン銀行

◇ 近江銀行といつても近江になければならぬ譯ではない、現に昭和二年の恐慌前までその本店は大阪は淡路町に、堂々の店舗を張つてゐたものだ、だからドレスデン銀行だつて必ずしもドレスデンにある必要はあ
るまい。

◇ ドレスデン銀行は一八七二年に産聲を擧げた一所は正にドレデン市、しかるに一八八一年ベルリンに支店を設けて仕事を始めて見ると、すべて商賣は協同次第、萬事此處の方が好都合、それぢや一層のこと、ベルリンを本店にせやうぢやないかといふこになり、移轉の年月は聞きも
らしたが、兎に角今ではベルリンが總本店、さてこそドレスデン銀行必
ずしもドレスデンに在らざるゆゑである。

◇ その後確かな證據はないが、業務は暇々乎として發展してゐたに違
ひない、といふのは、一九一四年大戦開始以來戦時戦後を通じて、ドイ
ツ銀行界には合同や買収が盛んに行はれたが、その氣運に乗じたドレス
デン銀行、買収したのがライン・ウエストフアリア割引會社、メルキツシ
エ銀行、デーベルナール銀行、デュイスブルグのヒルガー商店など、それか
ら更にドイツ南米銀行の設立に参じたり、ドイツ東洋銀行に出資したり。

◇ 一九二三年末における資本金が當時の金にして九億七千五百萬マル
ク、素晴らしい巨資だと驚いてゐるうち、翌年になつてドイツ財界一齊
に從來の紙幣マルクから新しく出たライヒスマルクに乗替へた結果、こ
の資本金も一朝にして七千八百萬マルクとドカ落ちしたが、これは要す
るに數字の問題、一九二六年九月、一億マルクへの増資を決して、新株を
發つて見ると、忽ちにして二割のプレミアムがついたといふから、まだ
そこらのフラノ、銀行とは譯が違ふ。

◇ 写真はドレスデン銀行本店

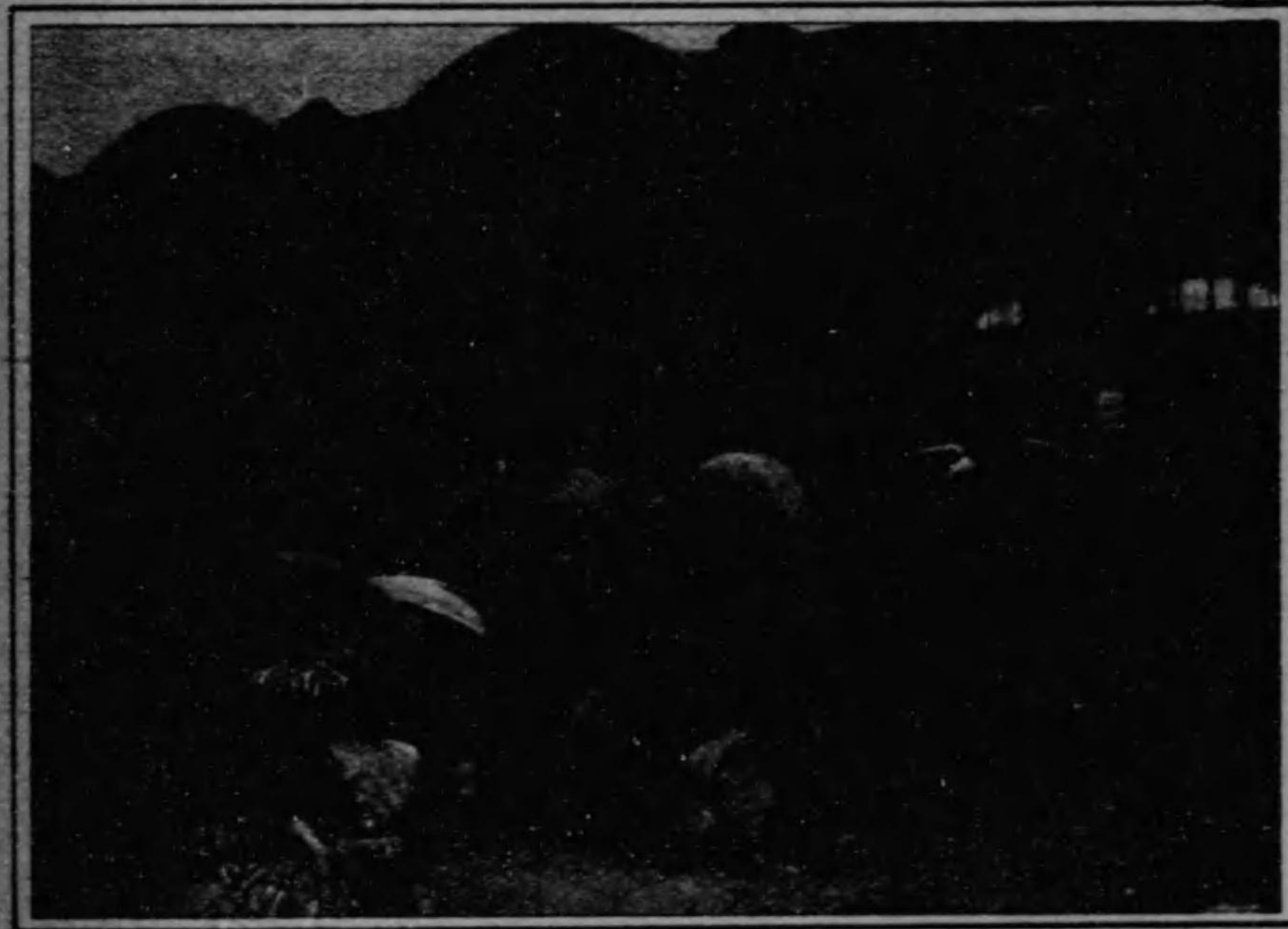


(89) 山東苦力の滿洲移住

◇——山東苦力の滿洲移住は年々増加の勢を示しつゝ、あるが、特に最近においては單なる出稼ぎでなく、永く安住の地を求むべく關を出づるものが多くなつた、而してこの移民の激増は將來の南北滿洲に向つて幾多の社會問題、經濟問題の謎を投げかけつゝ、ある。絶間なき軍閥の内亂騒ぎ、其當然の結果たる苛斂誅求！、極度に搾取されて住むに所なく食ふに食なき山東直隸の民草が、如何に戦禍に泣き兵火に怯えてゐるかを思へ。

◇——郷土を追はれて滿洲へ滿洲へ一家を擧げて千里の道を通るもの（多くは徒歩で、或るものは汽船の甲板に臥し、最上のものゝ雖も無蓋列車の乗客に過ぎない）唯生きんがための最後の手段なのだ、何ぞ悲壯な移住ではないか。政府の補助金を戴いて出かけるごごやらのブラジル移住なご、は話が違ふ。たゞ問題は百萬からのこれ等の移住民を受け入れた北滿の未開地が將來どうなるかといふことである。この人口増加のために北滿の原野が漸次開發されて行くとしたら或は喜ぶべき現象かも知れない、だがあの通り政治關係の複雑した滿蒙のごごだけに將來種々の社會問題、政治問題を惹起すべき可能性十分で、その前途には幾多の暗影が横はつてゐるごごは争はれぬ事實であらう。

◇——寫眞は乳飲兒や幼兒をつれて移住する山東苦力の家族



(90) 借金で港の装飾

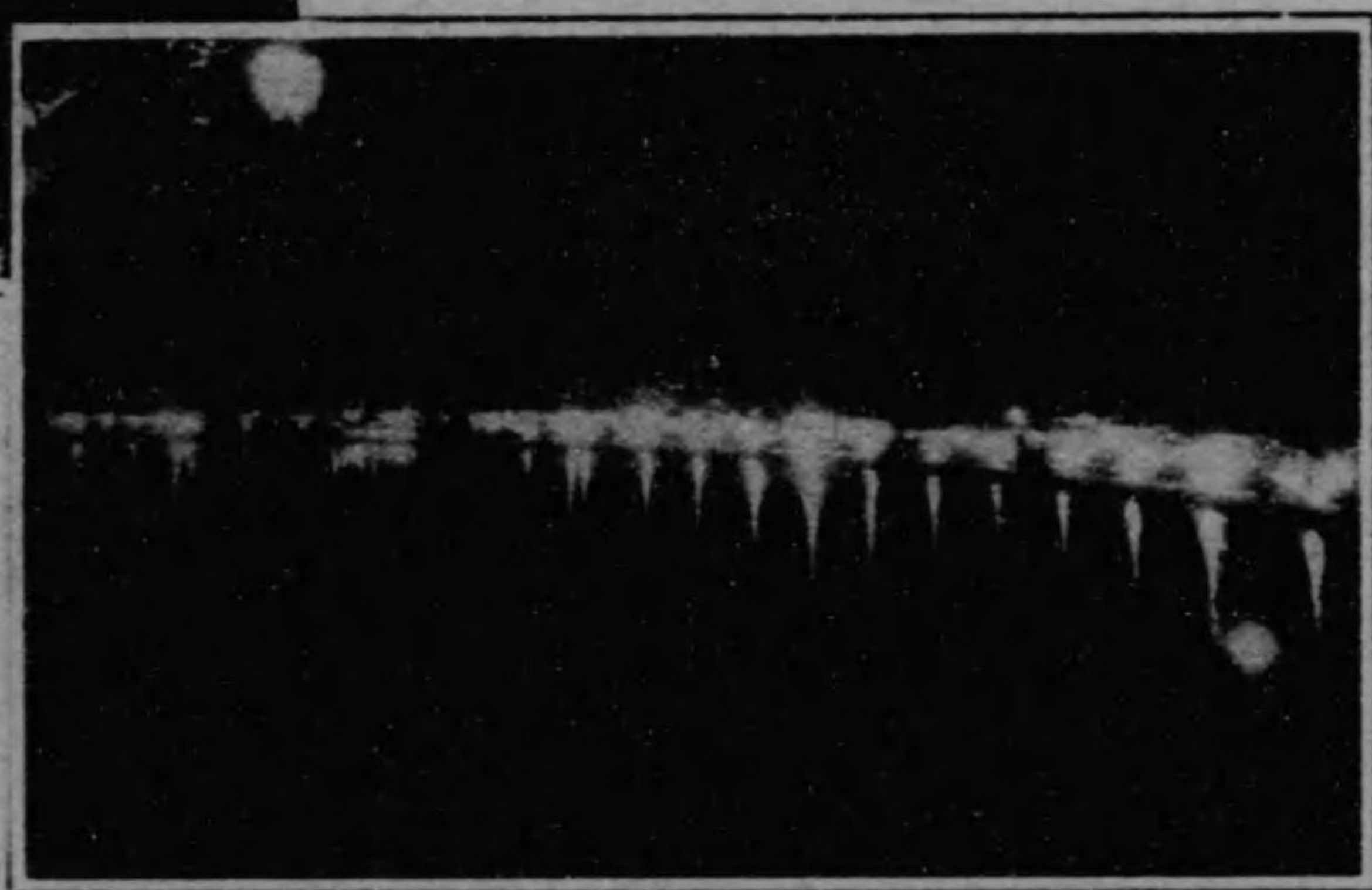
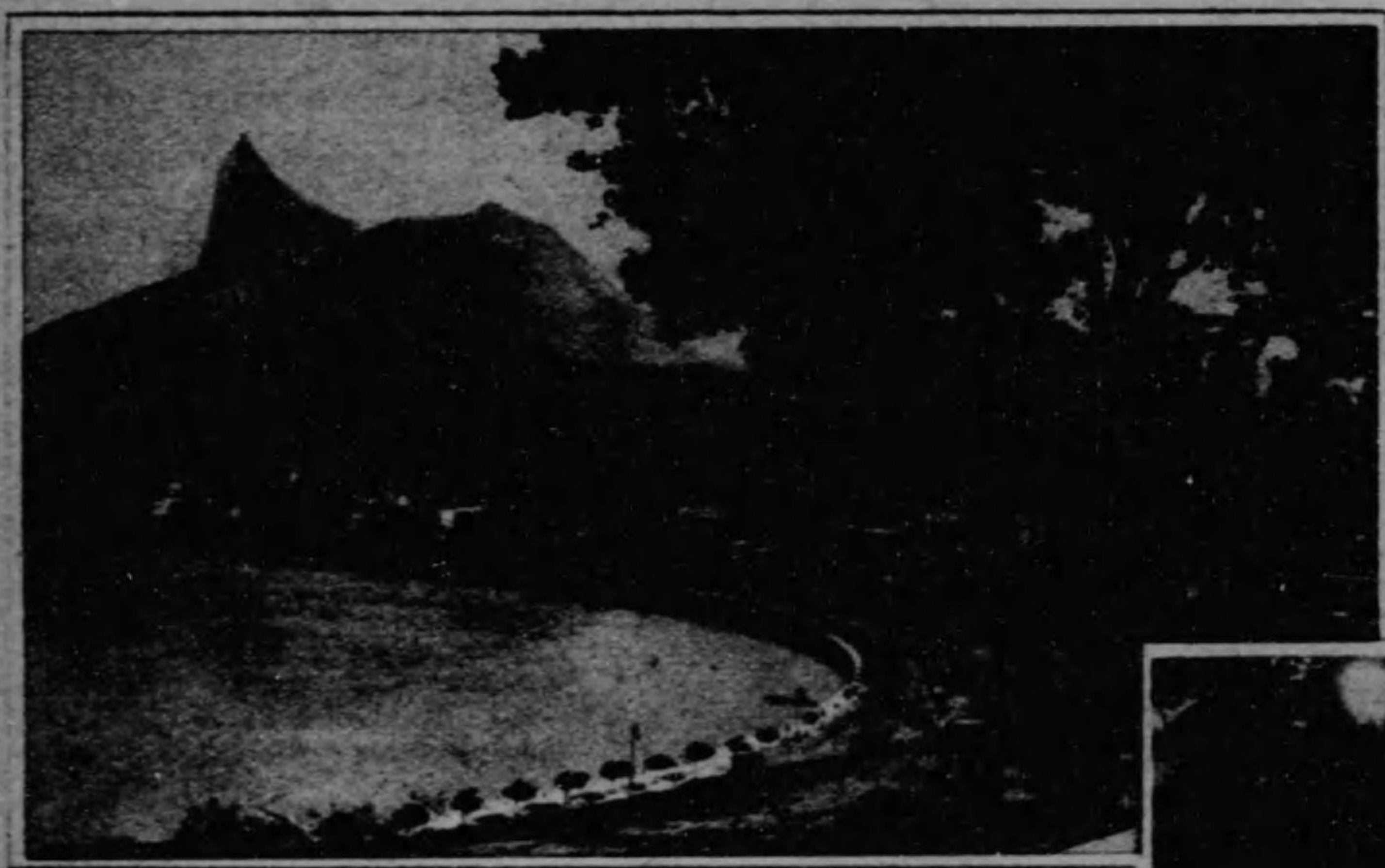
◇——香港、シドニー並んで世界三大美港と稱せらる、南米ブラジルの首都リオ・デ・ジャネイロ、緑滴たる森ミ山ミを背景に、長汀曲浦を抱き込んで、新文化の粋を集めた街々のたゞずまる、海濱に沿ふ垣々の既道は他所で二ヶ月の自動車タイヤの壽命を二倍足らずに延べるこいふ。

◇——南米はダラシのない新家庭である、立派だけは立派だが裏へまわるミカラ見ばえがしない、ブラジルにしてもリオ・デ・ジャネイロその他二三都市こそ近代的美觀を誇つてゐるが、足一步これを出れば、たゞ荒々たる大草原、そのくせにまた無暗に見榮を張りたがる、しかもそれが殆んど例外なしに借金してのいは、虚榮だから恐れ入る。

◇——その一例が寫真に見る様なりオ・デ・ジャネイロ港の夜の飾りであるが、この電燈料が一ヶ月邦貨十數萬圓、しかもこれに點燈してゐる電燈會社が英國の資本によつて經營されてゐるのだから、月十數萬圓は結局英國へミ大西洋を横ぎる譯、かくしてブラジルは貿易では連年出超の地位にありながら、その國際貸借は借金が殖える一方だ。

◇——だが何ミいつても南米は未來の國である、珈琲が出来、肉類が出る、小麥もこれる、棉も有望だ、借金をしても返すめがある、何を見返りに借金するか分らぬ様な借金をしてゐる國さへ東の方にはある時勢ではないか。

◇——寫真はリオ・デ・ジャネイロ港(上) ミその夜景(下)



90) カープ・マーケット

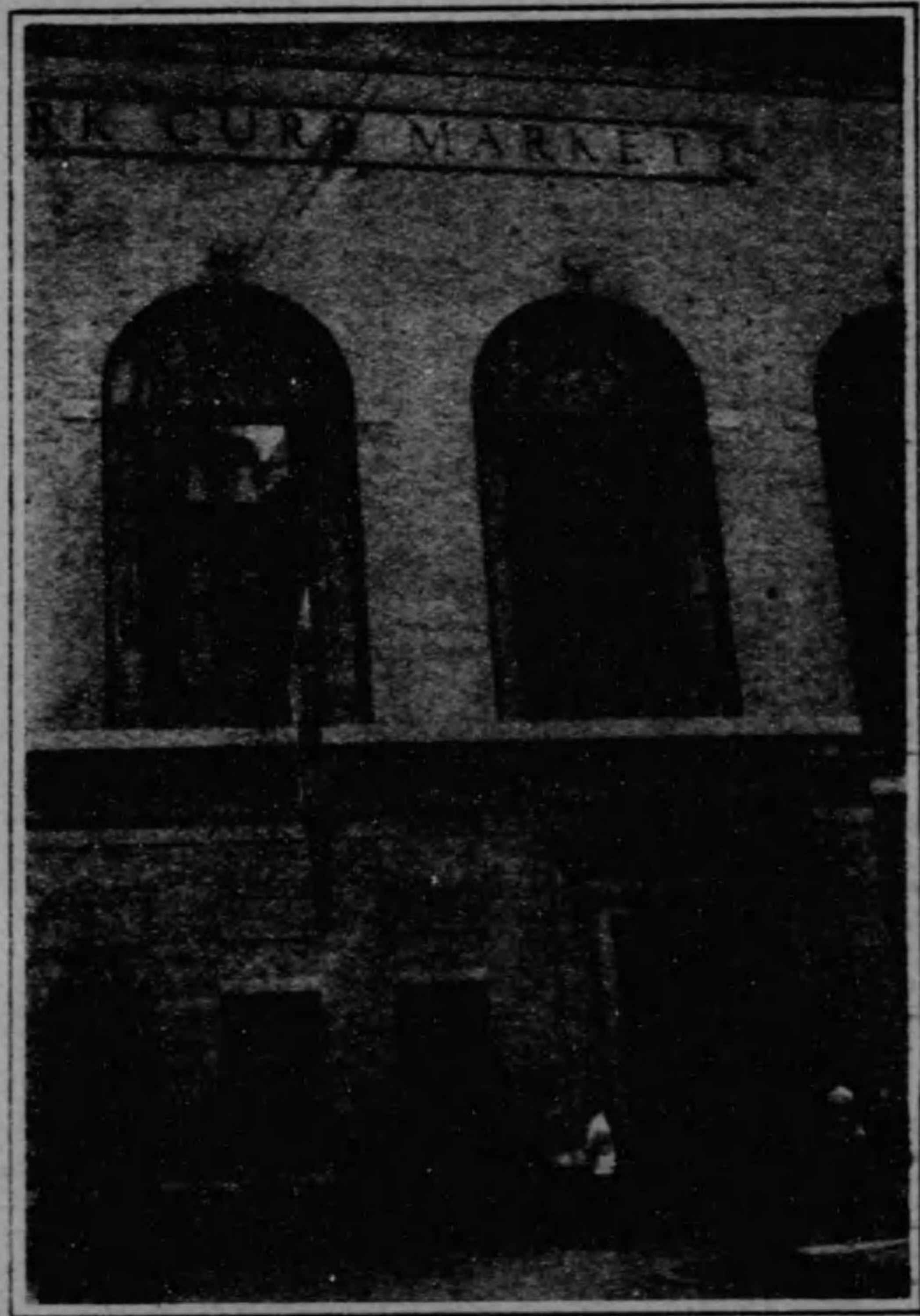
◇—証券には正式の証券株式取引所以外にカープ・マーケットと稱するものがある、これはやはり一種の取引所であるが、取引所といつても数年前まではウォール街と交差するブロード街の青天井の下に行はれた街頭市場でその取引は朝八時に始まつて夜六時まで、暗くなつて振る手も相手の顔も分らなくなると、ファイブ・アヴェニュー・ホテルの廊下に移つた。

◇—この街頭仲買人の一團が一九一一年にカープ・マーケット協會を組織しウォール街にほど遠からぬトリニティプレイスに工費三百萬圓の規模を新築し、一九二二年戶外からそこへ引越した、それ以来赤いキャップや青い中折を被つた血闘の手合が、雲霧の如く街頭に集まつて三買四賣の手を振る証券名物の、あの珍しい光景がなくなつた譯である、現在ウォール街に時めく金融業者や仲買の中にも、昔この街頭市場で幸運のタチを引き當てた連中が多い、二代目モルガンがインタリナショナル・マーカンタイル・マリオン株で巨萬の富をせしめたのも此處だ、その他数多く、野心に燃えた人々の夢が一夜にしてこゝ街頭マーケットで實現せられたものである。

◇—取引所で建つ相場の動きを賭けて、場外で單なる売買を行ふことはどここの國でも御法度で、我國でもその取締には儘分手こずつてゐるが、カープ・マーケットは正式の取引所でこそなけれ、そんなものとは筋合が違ふ。第一カープ・マーケットでは証券株式取引所に上場されてゐる證券は一切取扱はぬ、寧ろこゝでは各種の株式なり債券に、十分の酒が付き、眞打となつて正式取引所の檯舞台に上るまでの前座をつとめさせることにその重要な機能がある、ユー・エス・スチール、ゼネラル・モーターズ、ディエボン、インタリナショナル・マーカンタイル、さてはアナコンダなど、今を時めく一連株も初めはこのカープ・マーケットで揉みに揉まれた末、証券取引に拾ひ上げられたものだ。

◇—カープ・マーケット最近一年の取引株數一億二千五百萬株、債券出來高五億五千萬圓、上場銘柄は一九二七年三月の調べによると工業株七二九個業株一四九、石油株一二七、國內債二二五、外債七八で種利株も盛んに取引されるが、取引方法は証券株式取引所と大同小異である。

◇—寫眞はカープ・マーケットの建物



(92) ダリ・バンク

- ◇ ダリ・バンクはロシア語だが、譯して極東銀行といふ。ロシアの革命とともに自然消滅に歸した露文合辦の「露文銀行」の再現とも見るべきもので、その主目的も矢張りソヴィエト・ロシアと支那との經濟的結合の助長にあるが、更らに進んで滿洲と支那各地間の貿易金融にも參與すれば、蒙古と支那及び滿蒙と世界各地、殊に東洋諸國との連絡もとる。
- ◇ その本店がハルビンに始めて設立されたのは一九二三年七月で、次いで滿洲里、ハイラル、クルガン、上海、天津、北京及びわが神戸などに支店を設け、業務發展のテンポは實に目ざましいものがある。
- ◇ その金融上の活動として一九二四年度から二七年までに日本、中部支那、西歐などに向け一億二千萬圓からの匯票産物を輸出したといふし、またハルビン、フーチヤテンの主なる製油會社の七割五分及びその他製粉、製糖會社の大部分がダリ・バンクに資金を仰いでゐる。
- ◇ 貸借對照表を一覽すれば、一九二四年一月一日の資産總計二百五十萬圓が一九二八年一月一日には四千四百三十萬圓となり、營業總額は一九二四年度の四億八千二百四十萬圓から、一九二八年度には二十五億圓にと大發展してゐる。
- ◇ 一九二八年一月一日の資本金及び準備金は四百二十九萬圓、同行預金の主要部分を占むるものに東支鐵道の預金があることも記述しておく必要がある。尤も東支鐵道も近頃は、支那國の壓迫が甚しく、ダリ・バンクもそのトパツチで、大部迷惑も受けてゐるやうだが、この大きな得意を握まへてゐることは、何といつても同行最大の強味である。
- ◇ 写真ハハルビンのダリ・バンク本文と頭取ボリスキン氏

